

平成 3 1 年度
全国学力・学習状況調査
分析結果報告書



令和元年 1 1 月

千葉県総合教育センター

序

今年度も、関係者の皆様の御協力により、全国学力・学習状況調査を無事実施することができました。また、今回は、中学校英語「話すこと」調査が初めて試行され、その対応にも御尽力いただき、ありがとうございました。7月下旬、文部科学省の結果を踏まえ、本県は、「全ての教科において全国平均を下回っている状況である」、「中学校数学については、継続的に課題がみられる」といった総評を発表いたしました。各学校におかれましては、自校の結果をどのように受けとめられたでしょうか。

昨年11月、文部科学省は「Society 5.0に向けたリーディング・プロジェクト」の目標の一つとして、「語彙の理解、文章の構造的な把握、読解力、計算力や数学的な思考力など基盤的学力の定着を重視した新学習指導要領の確実な習得」を掲げ、今年度の全国学力・学習状況調査においても、それが反映された形で、出題方針の改訂がみられました。しかしながら、学校質問紙における調査結果の活用に関する項目において、本県の今年度の結果は、「小学校では、肯定的回答が全国を上回ったものの、中学校では昨年度を下回り、全国と比べても低い状況」と、依然として調査結果の活用が図られていない学校もあります。

この全国学力・学習状況調査は、学習指導要領で求められている力が児童生徒に身に付いているかどうか知ることができる調査です。したがって、調査の中で見出された課題をしっかりと分析することによって、児童生徒の根本的なつまずきがわかり、そこから教師の指導方法の弱点に立ち返ることができるのです。これこそがこの調査の真骨頂です。

そこで、まず、この報告書をご覧ください。今回の調査結果を詳細に分析し、児童生徒が今どのようなところで壁にぶつかっているのか、その全容を詳しく説明しております。また、併せて、分析ツールを使っただけならば、児童生徒一人一人の現状を掘り下げて理解することができ、授業改善に直接つながる具体的なアイデアやヒントも得られることと思います。

最後になりますが、各学校の学習指導における課題に改めて向き合い、児童生徒のつまずきの原因やその改善のための手立てを探るきっかけとして、この報告書を活用していただければ幸いです。これを大きな飛躍の第一歩としていただき、児童生徒の秘めたる力を引き出すための、授業改善、次年度の指導計画立案につなげていただけるものと信じております。

令和元年11月

千葉県総合教育センター所長 秋元 大輔

目 次

序

I 結果の概要	1
1 本年度の調査概要 及び 本県の課題	
2 教科区分別調査結果	
3 平成25年度からの本県の平均正答率（全国比）の推移	
4 教科に関する調査	
(1) 国語	
(2) 算数・数学	
(3) 英語	
5 質問紙調査の結果	
(1) 児童生徒質問紙調査	
(2) 学校質問紙調査	

II 結果の詳細	
1 教科に関する調査	1 1
(1) 小学校国語	
(2) 中学校国語	
(3) 小学校算数	
(4) 中学校数学	
(5) 中学校英語	
2 質問紙調査	5 3
(1) 児童生徒質問紙調査	
(2) 学校質問紙調査	
(3) トピックス	
家庭学習の充実に向けて	
部活動（中学校）の状況について	
外国に関する興味・関心等について	
主体的・対話的で深い学びの充実に向けて	
自己有用感・挑戦心に関する状況について	
指導改善サイクルの確立を目指して	
分析ツールを活用した指導改善	

□全国学力・学習状況調査を活用した指導改善サイクルのチェックシート例

III 結果の活用に向けて	
1 地域別の傾向	8 5
(1) 葛南地区	
(2) 東葛飾地区	
(3) 北総地区	
(4) 東上総地区	
(5) 南房総地区	
2 新しい「思考し、表現する力」を高める 実践モデルプログラム	1 0 1
3 「学力・学習状況」検証事業	
4 学力向上に役立つ情報	
IV 回答結果集計データ	1 0 9

I 結果の概要

1 本年度の調査概要 及び 本県の課題

各教科区分に共通する課題

記述式の正答率が低い

平成31年度全国学力・学習状況調査

(1) 調査実施日 平成31年4月18日(木)

(2) 本県の実施状況 公立小学校670校 公立中学校328校 合計998校
(千葉県を除く。義務教育学校・特別支援学校を含む。)

(3) 調査内容
ア教科 小学校 国語、算数
中学校 国語、数学、英語(「聞くこと・読むこと・書くこと」及び「話すこと」)
イ児童生徒質問紙、学校質問紙

	前回の課題	今年度の課題	詳細
小学校国語	◆書くこと ◆短答式 ◆記述式	◆話すこと・聞くこと ◆記述式	P 12~19
小学校算数	◆量と測定 ◆図形 ◆記述式	◆数と計算 ◆短答式 ◆記述式	P 28~35
児童質問紙	◆算数への関心等 ◆地域・社会への関心等 ◆学習習慣	◆地域や社会に関わる活動の状況等	P 60
小学校 学校質問紙	◆個に応じた指導 ◆算数科の指導方法 ◆学力向上に向けた取組・指導方法 ◆指導改善サイクルの確立	◆全国学力・学習状況調査等の活用	P 81~82

中学校国語	◆記述式	◆書くこと ◆記述式	P 20~27
中学校数学	◆数と式 ◆図形 ◆関数 ◆資料の活用 ◆記述式	◆数と式 ◆関数 ◆資料の活用 ◆短答式 ◆記述式	P 36~43
中学校英語		◆書くこと ◆短答式 ◆記述式	P 44~52
生徒質問紙	◆数学への関心等 ◆理科への関心等 ◆地域・社会への関心等 ◆学習習慣	◆国語への関心等 ◆英語の授業における活動の状況 ◆地域や社会に関わる活動の状況等	P 54 P 58~59 P 60
中学校 学校質問紙	◆個に応じた指導 ◆数学科の指導方法 ◆学力向上に向けた取組・指導方法 ◆家庭学習 ◆指導改善サイクルの確立	◆英語科の指導方法 ◆家庭学習 ◆全国学力・学習状況調査等の活用	P 67 P 70 P 81~82

*本冊子における千葉県（千葉市を除く）・全国の平均正答率及び平均正答数は、公立学校に在籍する児童生徒の数値である。

2 教科区分別調査結果

*数値は、千葉県（千葉市を除く）・全国ともに、公立学校の平均正答率（％）である。ただし、文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第1位まで、県平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示している。右の（ ）の数値は平均正答数である。

小学校	千葉県	全国
国語（14問）	63（8.8）	63.8（8.9）
算数（14問）	65（9.2）	66.6（9.3）

中学校	千葉県	全国
国語（10問）	72（7.2）	72.8（7.3）
数学（16問）	57（9.2）	59.8（9.6）
英語（21問）	55（11.6）	56.0（11.8）
英語「話すこと」(国公私)（5問）		30.8（1.5）

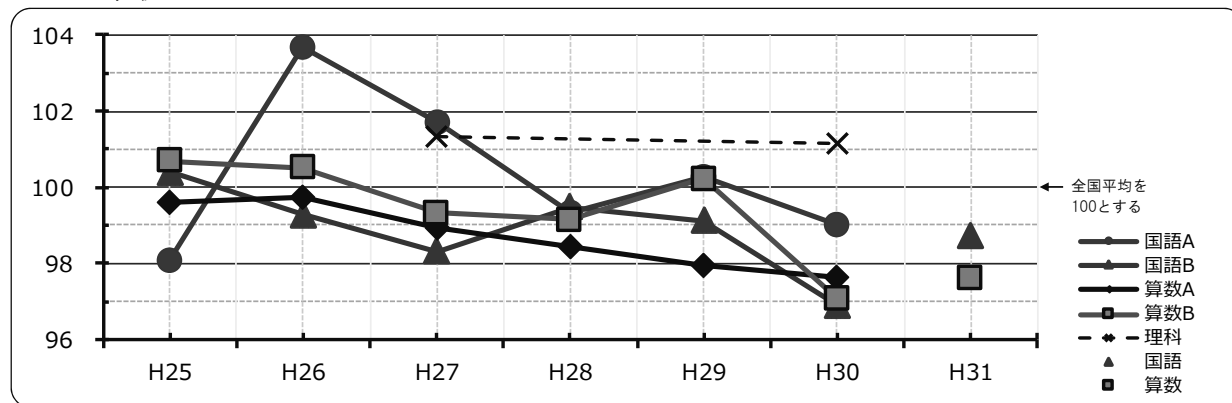
本県は、全ての教科において、平均正答率が全国に比べ低い状況である。中学校数学については、全国に比べ平均正答率が2.8ポイント低い状況である。

3 平成25年度からの本県の平均正答率（全国比）の推移

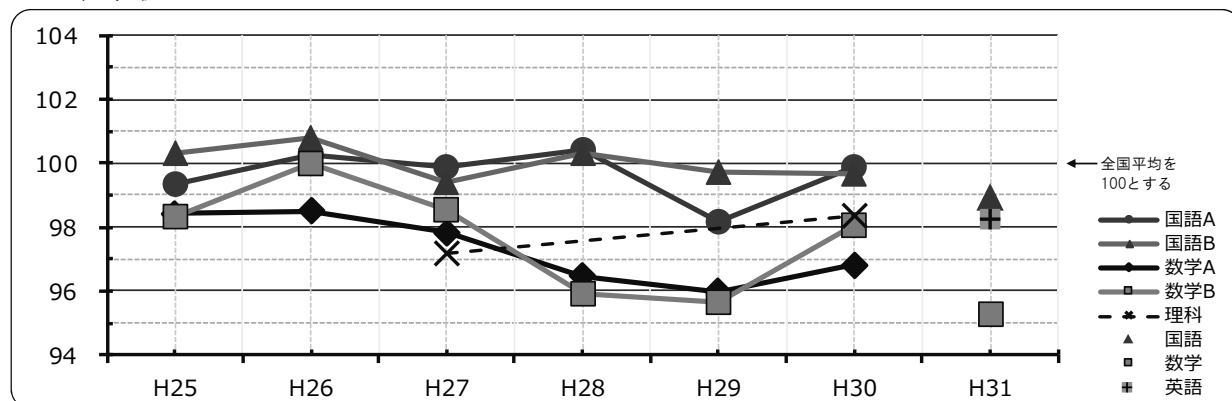
*全国（公立）を100として、千葉県（公立）の結果を相対的に表した数値をもとに記述した。

*平成31年度は、A問題とB問題を一体的に問う問題となり、A問題、B問題に分けずに実施されたため、線で結ばずに単独で表した。

< 小学校 >



< 中学校 >



※指数は、小数第1位までの平均正答率をもとに算出しているため、教科区分別調査結果を用いた値と一致しない場合がある。

4 教科に関する調査

(1) 国語

【小学校】

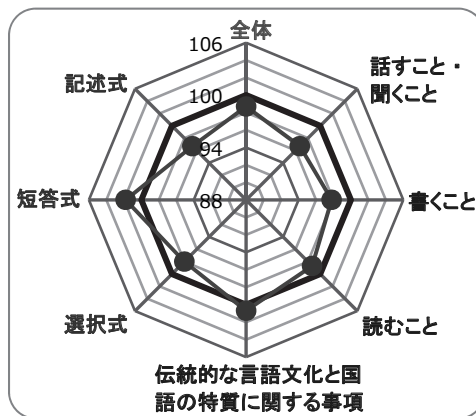
平均正答率は、全国に比べ 0.8 ポイント低い。領域別に見ると、全国を 100 とした時の指数に比べ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が低い。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は昨年度より 2.8 ポイント上昇した。問題形式別では、「選択式」「記述式」が低い状況であるが、「記述式」は昨年度より 5.7 ポイント上昇した。

正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、D層の割合が高くなっている。

① 学習指導要領の領域等、問題形式の状況

平均正答率 (%)

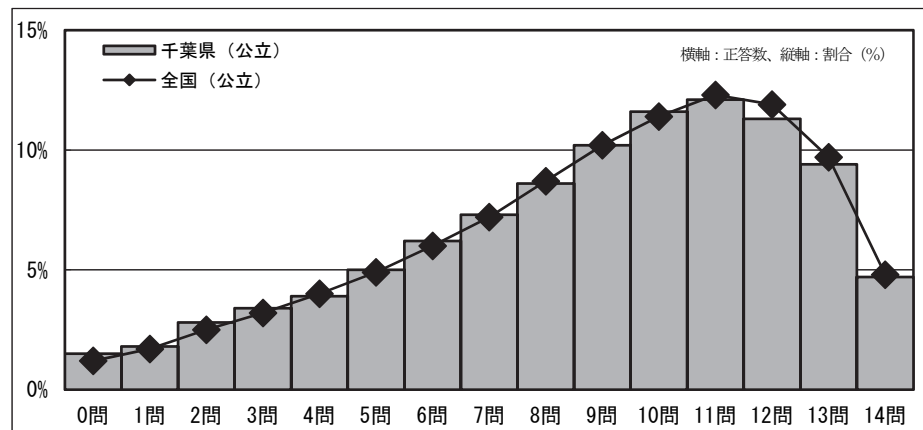
小学校	千葉県(公立)	全国(公立)
国語	63	63.8



	全体	98.7
領域等	話すこと・聞くこと	96.7
	書くこと	97.8
	読むこと	98.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	100.7
問題形式	選択式	98.0
	短答式	101.8
	記述式	96.7

※全国を 100 とした時の指数で表している。

② 正答数の分布



*「A～D層」について
・各層は全国（公立）の児童を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により 25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数が同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
・千葉県（指定都市を除く）の人数比率は、全国のA～D層を基準に示している。

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	8.8問 / 14問	63 %	9.0	3.5
全国(公立)	8.9問 / 14問	63.8 %	10.0	3.4

	*D層 0～6問	*C層 7～9問	*B層 10～11問	*A層 12～14問
千葉県(公立)	24.7 %	26.2 %	23.7 %	25.4 %
全国(公立)	23.5 %	26.2 %	23.8 %	26.5 %

【中学校】

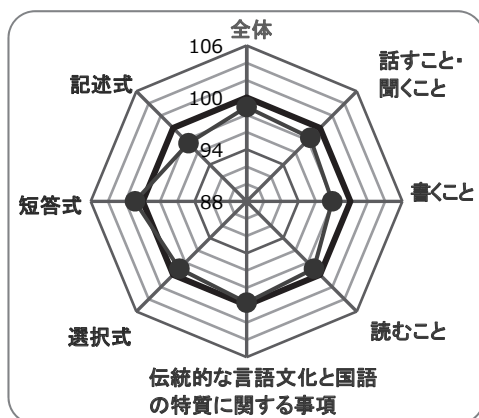
平均正答率は、全国に比べ 0.8 ポイント低い。領域別に見ると、全国を 100 とした時の指数に比べ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が低く、昨年度よりそれぞれ 1.0～1.5 ポイント低下した。問題形式別では、「選択式」「記述式」が低い。

正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、D層の割合が高くなっている。

① 学習指導要領の領域等、問題形式の状況

平均正答率 (%)

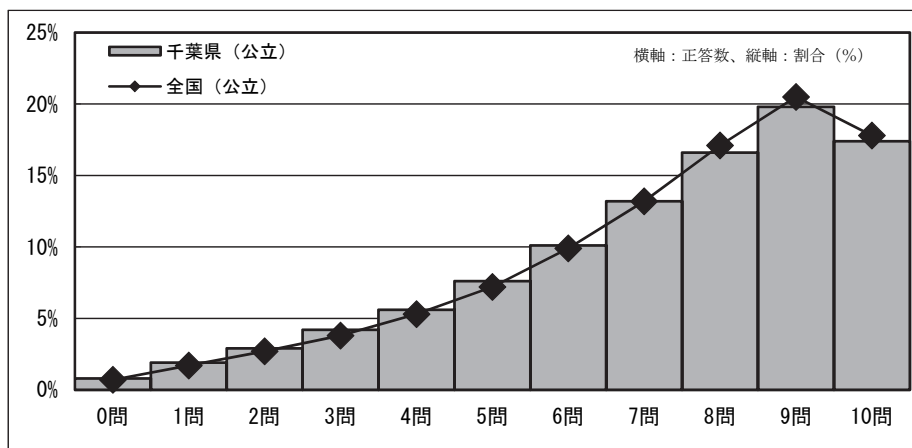
中学校	千葉県(公立)	全国(公立)
国語	72	72.8



領域等	全体	指数
話すこと・聞くこと	98.9	98.4
書くこと	97.9	99.0
読むこと	99.7	99.0
問題形式	選択式	100.9
	短答式	97.5
	記述式	

※全国を 100 とした時の指数で表している。

② 正答数の分布



※「A～D層」について
 ・各層は全国（公立）の生徒を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により 25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数が同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
 ・千葉県（指定都市を除く）の人数比率は、全国のA～D層を基準に示している。

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	7.2 問 / 10 問	72 %	8.0	2.4
全国(公立)	7.3 問 / 10 問	72.8 %	8.0	2.4

	*D層 0～5 問	*C層 6～7 問	*B層 8 問	*A層 9～10 問
千葉県(公立)	22.9 %	23.3 %	16.6 %	37.2 %
全国(公立)	21.4 %	23.1 %	17.1 %	38.4 %

(2) 算数・数学

【小学校】

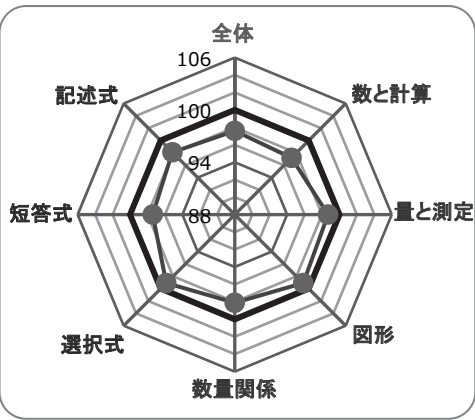
平均正答率は、全国に比べ 1.6 ポイント低い。領域別に見ると、全国を 100 とした時の指数に比べ、全ての領域で全国より低い。問題形式別では、「短答式」「記述式」が低い状況であるが、昨年度より「選択式」は 1.4 ポイント、「記述式」は 2.2 ポイント上昇した。

正答数の分布は、全国と比べ A 層・B 層の割合が低く、C 層・D 層の割合が高くなっている。

① 学習指導要領の領域、問題形式の状況

平均正答率 (%)

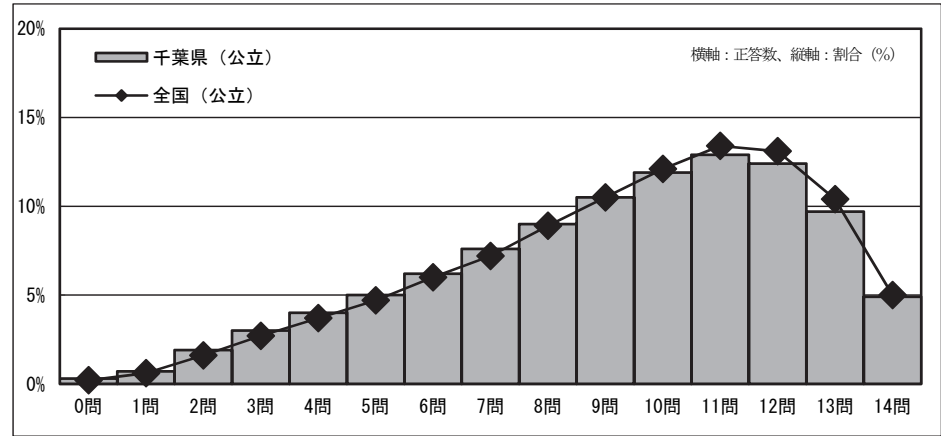
小学校	千葉県(公立)	全国(公立)
算数	65	66.6



領域	全体	97.6
	数と計算	97.2
	量と測定	98.7
	図形	99.1
問題形式	数量関係	98.1
	選択式	99.1
	短答式	97.4
	記述式	98.1

※全国を 100 とした時の指数で表している。

② 正答数の分布



※「A～D層」について

- 各層は全国（公立）の児童を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により 25%刻みで 4 つの層分けを行っている。上位から 1 番目を A 層、2 番目を B 層、3 番目を C 層、4 番目を D 層と呼称する。正答数と同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
- 千葉県（指定都市を除く）の人数比率は、全国の A～D 層を基準に示している。

	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		*D 層 0～6 問	*C 層 7～9 問	*B 層 10～11 問	*A 層 12～14 問
千葉県 (公立)	9.2 問 ／14 問	65 %	10.0	3.2	千葉県 (公立)	21.1 %	27.1 %	24.8 %	27.0 %
全 国 (公立)	9.3 問 ／14 問	66.6 %	10.0	3.1	全 国 (公立)	19.5 %	26.5 %	25.5 %	28.5 %

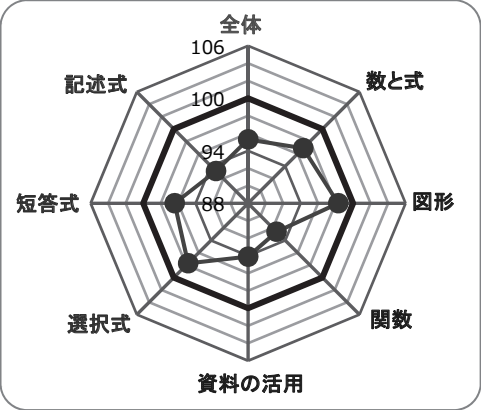
【中学校】

平均正答率は、全国に比べ、2.8ポイント低い。領域別に見ると、全国を100とした時の指数に比べ、全ての領域で全国より低く、「関数」「資料の活用」では、特に低い状況がみられる。問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」ともに全国より低い。「記述式」は6.8ポイント低くなっている。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、C層・D層の割合が高くなっている。

① 学習指導要領の領域、問題形式の状況

平均正答率（％）

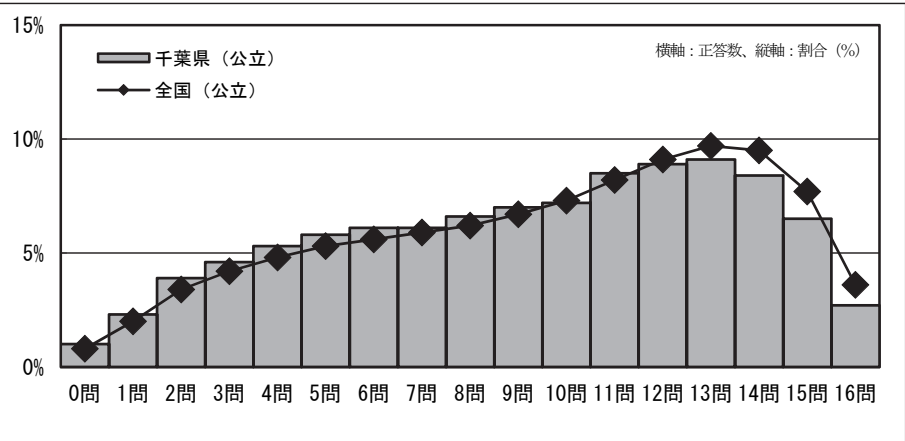
中学校	千葉県(公立)	全国(公立)
数学	57	59.8



	全体	95.3
領 域	数と式	96.9
	図形	98.3
	関数	92.6
	資料の活用	94.1
問題形式	選択式	97.7
	短答式	96.4
	記述式	93.2

※全国を100とした時の指数で表している。

② 正答数の分布



※「A～D層」について
・各層は全国（公立）の生徒を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数と同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
・千葉県（指定都市を除く）の人数比率は、全国のA～D層を基準に示している。

	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉県 (公立)	9.2問 ／16問	57 %	10.0	4.2
全 国 (公立)	9.6問 ／16問	59.8 %	10.0	4.2

	*D層 0～5問	*C層 6～9問	*B層 10～12問	*A層 13～16問
千葉県 (公立)	22.8 %	25.8 %	24.6 %	26.8 %
全 国 (公立)	20.6 %	24.3 %	24.6 %	30.6 %

(3) 英語

【中学校】

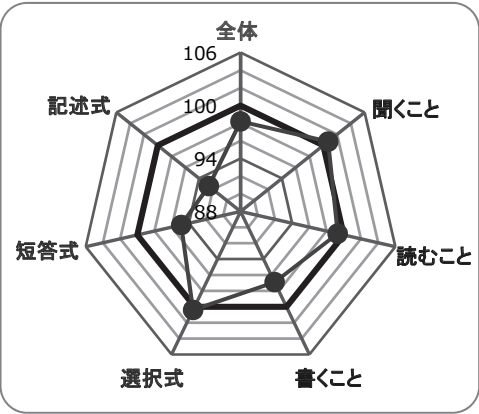
本県の平均正答率は、全国に比べ 1.0 ポイント低い。領域別に見ると、全国を 100 とした時の指数に比べ、「聞くこと」が 0.7 ポイント高く、「読むこと」は 0.7 ポイント、「書くこと」は 3.1 ポイント低い状況である。問題形式別では、全国に比べ、「選択式」が 0.4 ポイント高く、「短答式」は 5.1 ポイント、「記述式」は 7.4 ポイント低い状況である。

正答数の分布は、全国と比べ A 層の割合が低く、B～D 層の割合は全国とほぼ同じである。

① 学習指導要領の領域、問題形式の状況

平均正答率 (%)

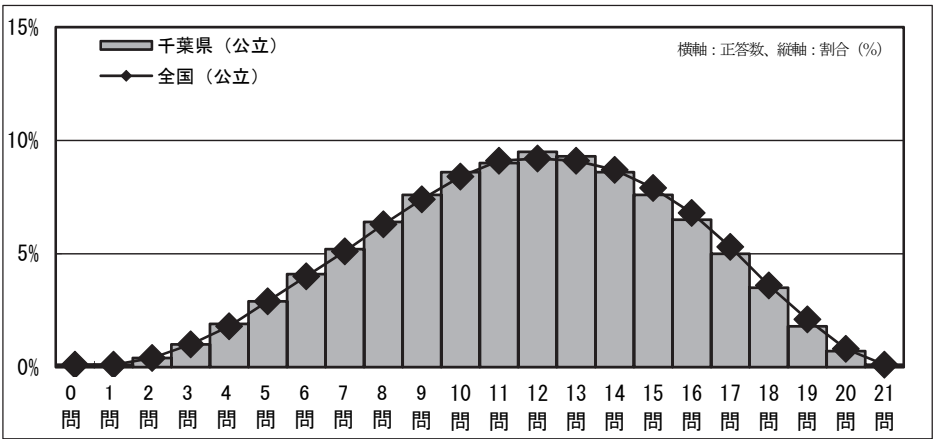
中学校	千葉県(公立)	全国(公立)
英語	55	56.0



領 域	全体	98.2
	聞くこと	100.7
	読むこと	99.3
	書くこと	96.9
問題形式	選択式	100.4
	短答式	94.9
	記述式	92.6

※全国を 100 とした時の指数で表している。

② 正答数の分布



※「A～D層」について
・各層は全国（公立）の生徒を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により 25%刻みで 4 つの層分けを行っている。上位から 1 番目を A 層、2 番目を B 層、3 番目を C 層、4 番目を D 層と呼称する。正答数と同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
・千葉県（指定都市を除く）の人数比率は、全国の A～D 層を基準に示している。

	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差	*D 層	*C 層	*B 層	*A 層
					0～8 問	9～11 問	12～14 問	15～21 問
千葉県 (公立)	11.6 問 ／21 問	55 %	12.0	3.9	22.1 %	25.2 %	27.4 %	25.3 %
全 国 (公立)	11.8 問 ／21 問	56.0 %	12.0	3.9	21.6 %	24.8 %	27.0 %	26.6 %

5 質問紙調査の結果

※チャート図は、千葉県の結果について、全国を母集団として標準化したものである。
内側の破線が全国平均を表している。
※◇は成果を、◆は課題を示している。

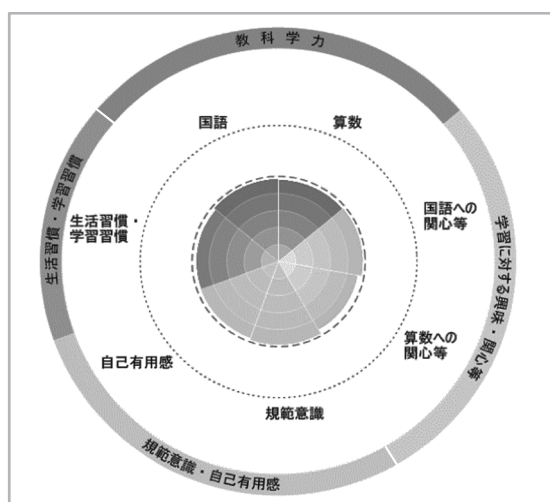
(1) 児童生徒質問紙調査

全体的に、児童生徒ともに、肯定的回答の割合は全国に比べてやや低い状況である。
領域別に見ると、生徒の「国語への関心等」、児童生徒の「算数・数学への関心等」は、全国に比べて低い状況である。「英語への関心等」は、全国に比べて高い状況である。

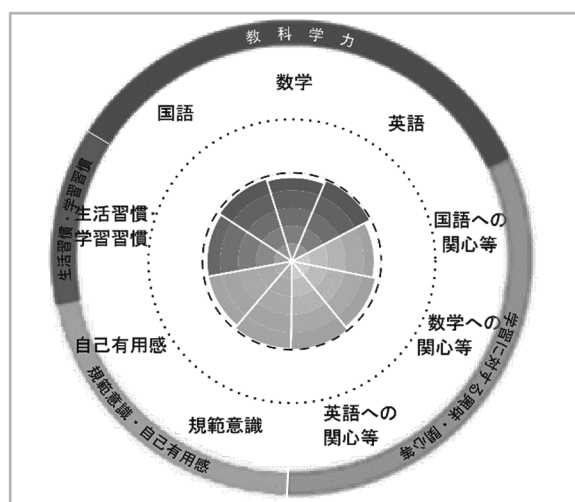
また、「規範意識」、「生活習慣・学習習慣」では、肯定的回答をした児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

〈児童生徒質問紙調査と教科の結果〉

【児童】



【生徒】



領域名		対応する質問番号	成果と課題
学習に対する興味・関心等	国語への関心等	児 37～40 生 40～43	◇「英語への関心等」は、全国に比べて高い。 ◆「算数・数学への関心等」は、児童生徒ともに全国に比べて低い。 ◆生徒の「国語への関心等」は、全国に比べて低い。
	算数・数学への関心等	児 46～49 生 49～52	
	英語への関心等	生 54～57	
規範意識・自己有用感	規範意識	13、15、16	◇児童生徒ともに「規範意識」は、全質問項目において、肯定的回答の割合は90%を超えている。 ◆生徒の「自己有用感」は、全国に比べて低い。
	自己有用感	5、6、8	
生活習慣・学習習慣		1～3、17	◇「朝食を食べている」、「毎日同じ時刻に起きている」児童生徒の割合は、90%以上である。 ◆児童生徒ともに「生活習慣」・「学習習慣」は、全国に比べて低い状況である。

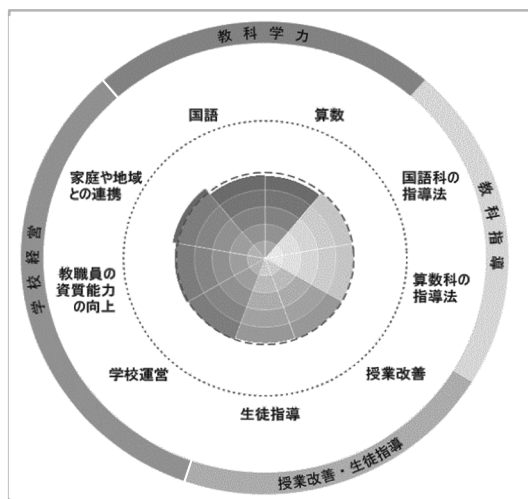
(2) 学校質問紙調査

全体的に、中学校の肯定的回答の割合は全国に比べて低い状況である。

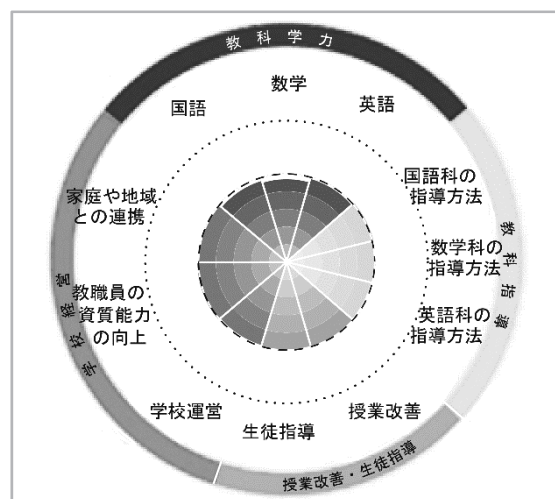
領域別に見ると、「国語科の指導方法」「算数・数学科の指導方法」は、小学校は全国に比べて低く、中学校は高い。「英語科の指導方法」は全国に比べて低い状況である。「教職員の資質能力の向上」は小中学校とも全国に比べて高く、「家庭や地域との連携」は、小学校が全国に比べて高く、取組に力を入れていることがうかがえる。

〈学校質問紙調査と教科の結果〉

【小学校】



【中学校】



領域名		対応する質問番号	成果と課題
教科指導	国語科の指導方法	小 39～44 中 40～45	◇国語の授業において、「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」小中学校の割合は全国に比べて高い。
	算数・数学科の指導方法	小 45～48 中 46～49	◆算数・数学の授業において、「発展的な学習の指導を行った」小学校の割合は全国に比べて低い。
	英語科の指導方法	中 50～58	◆英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、「生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする」、「その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする」言語活動を行った中学校の割合は、全国に比べて低い。
授業改善・生徒指導	授業改善	小 32、37、38 中 33、37、38	◇「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていく」割合は、中学校は全国に比べて高い。
	生徒指導	小 9、11～14 中 9、11～14	◆小中学校とも「生徒指導」に関する項目は、全国に比べて低い。
学校経営	学校運営	小 15～21 中 15～21	◇小中学校とも「講師を招聘した校内研修を行っている」割合は、全国に比べて高い。
	教職員の資質能力の向上	小 22～31 中 23～32	◇「職場見学や職場体験活動を行っている」小学校の割合は、全国に比べて著しく高い。
	家庭や地域との連携	小 54～58 中 68～72	◆「学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている」割合は、小中学校とも全国に比べて低い。

Ⅱ 結果の詳細

1 教科に関する調査

1 教科に関する調査

(1) 小学校国語

① 調査区分ごとに見た傾向

平均正答率

平均正答率は、全国に比べ 0.8 ポイント低い。

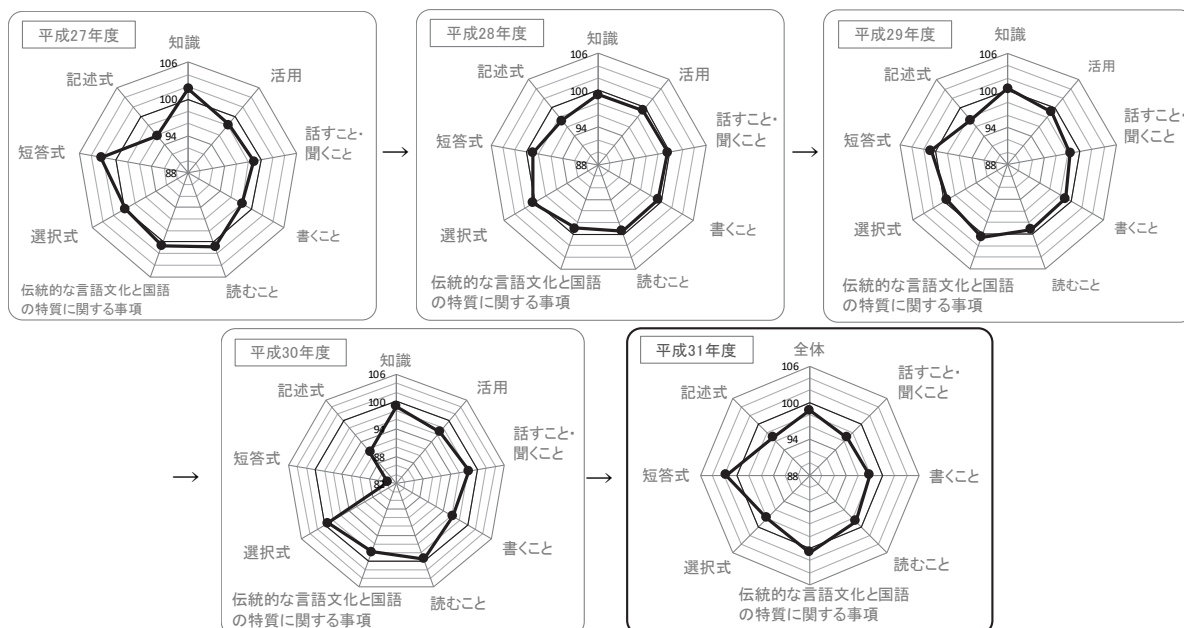
領域等

全国を 100 とした時の指数に比べ、「話すこと・聞くこと」は 3.3 ポイント低く、「書くこと」は 2.2 ポイント、「読むこと」は 1.3 ポイント低い。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は 0.7 ポイント高く、昨年度より 2.8 ポイント上昇した。

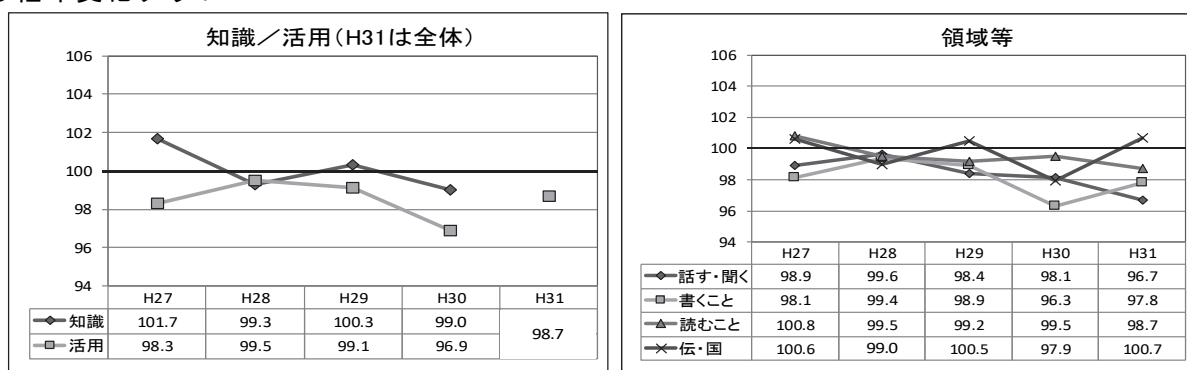
問題形式

指数では、「選択式」「記述式」が低い状況であるが、「記述式」は昨年度より 5.7 ポイント上昇した。

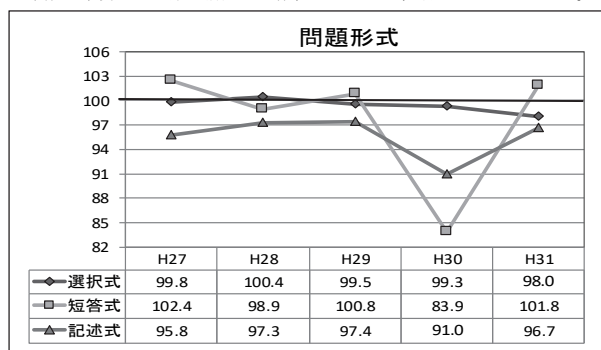
○チャートグラフ



○経年変化グラフ



※平成31年度より知識と活用が一体化されたため、独立して示している。



② 成果と課題

全体的な状況	成果	◇ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は指数で昨年度より 2.8 ポイント、「記述式」はより 5.7 ポイント上昇した。 ◇ 児童質問紙で、「国語の勉強は大切だ」「学習したことは将来役に立つ」と肯定的に回答した児童の割合は 9 割を超え、関心の高さを示している。
	課題	◆ 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く設問は、全国的に正答率が 5 割に満たない中で、さらに、本県は全国より低く、無解答率も全国より高い。昨年度に課題が見られた主語・述語の照応とあわせて、文の構成の理解は継続的課題である。 ◆ 目的に応じて話すことや聞くことに課題がある。

話すこと 聞くこと	◇ 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることについては、相当数の児童が理解できている【3一】。 ◆ 上記【3一】のように目的が明確に与えられていれば理解できるが、目的に応じて質問を工夫することは、課題である【3二】。自分はどのような情報を求めているのかを明確にし、あらかじめ用意した質問を予定した順序で聞くだけでなく、話の展開に沿って、目的に応じた質問ができるように指導することが大切である。
書くこと	◇ 図表やグラフなどを用いた目的を捉えることは、過去の同趣旨問題に比べておおむね理解できており、無解答率も非常に低い【1一】。 ◆ 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題がある【1二】。どのように書くと相手に伝わりやすいか、なぜその表現がふさわしいのかなど、適切な記述の仕方を考えるように習慣付けることが大切である。
読むこと	◇ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読むことができる【2一（1）】。何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかなど、目的を明確にして読むことや、目的に照らして、自分の考えと関係付けて読むことができるように指導することが大切である。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	◆ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。 ・「調査のたいしょう」【1四（1）ア】・「かんしんをもってもらいたい」【ウ】。 ◆ 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある【1四（2）】。一文の長さを意識して文を書くことや、自分が書いた文を読み返し、接続語を使って複数の文に分けて書き直したことで、伝えたいことがより明確になったという実感をもつことができるように指導することも大切である。
その他	◇ 児童質問紙において、【4 0】「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対する肯定的回答の割合は 9 割に達している。【4 1】「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しよう」とする態度（千葉 76.3%、全国 76.9%）に一層つながっていくことが望まれる。 ◆ 【4 4】「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つかったり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか」（千葉 68.2%、全国 71.4%）について、肯定的な回答の割合は全国に比べて低い。読むときの着眼点や接続語の機能、文章の構成などの指導を通して、【4 2】「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたり」（千葉 75.7%、全国 78.1%）する場面に生かせるように指導することが大切である。

③ 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域等〕 学習指導要領の領域等

「話」 話すこと・聞くこと 「書」 書くこと 「読」 読むこと

「伝」 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

〔評価の観点〕

「関」 国語への関心・意欲・態度

「話」 話す・聞く能力

「書」 書く能力

「読」 読む能力

「言」 言語についての知識・理解・技能

〔問題形式〕

「選」 選択式

「短」 短答式

「記」 記述式

■ : 全国を下回るもの

△ (良 好) : 全国との差 3.0 ポイント以上

▼ (課題あり) : 全国との差 3.0 ポイント以上

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨		領域等	学習学年	評価の観点	(参考)		問題形式	正答率(%)			無解答率(%)			
								「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国との差			
1	一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	図表やグラフなどを用いた目的を捉える	課題改善	書	5・6	書	○	○	選	69.8	-1.4		0.8	0.3		
											H28 B2二(1)	49.9	-1.5		7.7	1.0	
											H28 B2二(2)	63.1	-1.1		8.8	1.1	
	二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2)公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える		書	5・6	書	○	○	選	62.2	-1.2		7.6	1.7		
	三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の空欄に、「2調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く		書	5・6	関・書		○	記	28.0	-0.8		4.6	0.8		
	四(1)ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の傍線部アを漢字を使って書き直す(調査のたいしょう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	同一	伝	5・6	言	○	○	短	38.4	-3.5	▼	9.7	1.5		
				H29 A7(1)							41.0	-1.0		11.5	0.9		
	四(1)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の傍線部イを漢字を使って書き直す(友達にかぎらず)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う		伝	5・6	言	○	○	短	76.4	7.0	△	8.7	-3.4	△	

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域等	学習学年	評価の観点	(参考)		問題形式	正答率(%)			無解答率(%)	
							「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県(公立)	全国との差		千葉県(公立)	全国との差
1	四(1)ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の傍線部ウを漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	伝	5・6	言	○	○	短	37.1	1.5		5.4	0.5
	四(2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の囲み部分の中の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	伝	3・4	言	○	○	短	46.6	-1.2		13.0	1.7
2	一(1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の空欄アに入る、疑問に思ったことの①に対する答えとして適切なものを選択する	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む	読	5・6	読	○	○	選	80.3	-0.4		2.1	0.7
	一(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の空欄イに、疑問に思ったことの②に対する答えになるように考えて書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む	課題改善 読	5・6	関・読		○	記	75.0	-0.9		5.8	0.8
										50.6	-2.3		13.2	1.7
										50.8	-1.5		13.9	2.0
	二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から読むページとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む	読	5・6	読	○	○	選	86.7	-1.8		5.5	1.3
3	一	畳職人への【インタビューの様子】の空欄アに入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする	話	5・6	話	○	○	選	80.3	-1.0		4.2	0.8
	二	畳職人への【インタビューの様子】の囲み部分の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	目的に応じて、質問を工夫する	課題改善 話	5・6	話	○	○	選	65.3	-2.1		5.1	0.9
										50.6	-0.5		0.6	0.1
										49.1	-1.3		8.9	1.1
	三	【インタビューの様子】の空欄イに、畳職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	課題改善 話	5・6	関・話		○	記	64.1	-4.1	▼	16.6	2.4
										49.1	-1.3		8.9	1.1
										29.0	-4.8	▼	7.7	1.5
	四	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の空欄ウに入る適切なものを選択する(習うより慣れよ)	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる	伝	3・4	言	○	○	選	70.9	-2.1		8.9	1.0

小学校・国語【課題の見られた設問の例】

1 三	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の空欄に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	県	差
		28.0	-0.8

※「差」は、全国平均との差を示している。

【報告する文章】

1 公衆電話について
はじめに
（※紙面の都合で省略）
高橋 めぐみ

2 調査の内容と結果
（1）公衆電話はどのようなときに必要なのか
多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうか調べてみることにしました。
そこで、地いきの三十人調査の「たいしようとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが『資料2』です。
「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。
このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

（2）公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか
公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や持ちようがありました。
・警察署（110番）や消防署（119番）には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができ。
・停電のときでも、硬貨を使って通話することができ。
・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。
このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

（3）公衆電話はどのような場所にあるのか
「公衆電話を必要ならどこに使う」とがでるようにするために、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが『資料3』です。
この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

3 調査の結果をもとに考えたこと
調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかと思います。
今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に、いかにぎらず多くの友達に伝え、公衆電話についてかんしんをもってもらいたいと思います。

[illegible]

1 四 (1) ア	問題の概要・趣旨 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
		38.4	-3.5	9.7	+1.5

○本県児童の正答率は(ア)が三八・四%(全国四一・九%)、(イ)が七六・四%(全国六九・四%)、(ウ)が三七・一%(全国三五・六%)である。

(ア)で「対称」などと解答した児童の割合(類型3)は三〇・五%、「大正」、「大賞」など(類型99)は一六・五%である。また、(ウ)で「感心」と解答した児童の割合(類型2)は四五・〇%である。

「対象」を単独で書かせた平成二十九年A7の本県正答率は四一・〇%であったことから、文章中で使われている同音異義語を適切に書くことに課題があることが分かる。

○学習指導に当たっては、新出漢字の練習にとどまらず、文脈に沿った正しい使い方の習得につなげる必要がある。また、各学年の発達段階に応じた指導を工夫し、特に熟語などの語句の使用が増える高学年においては、漢字の持つ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるようにするなど、文脈に沿って正しい漢字を書くことができるように指導することが大切である。

四 高橋さんは、「報告する文章」を書き終え、読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高橋さんは、習っている漢字がひらがなになっているところがあることに気がつき、書き直すことにしました。「報告する文章」の――部アからウのひらがなを、漢字で正しい書きましょう。

そこで、地いきの人三十人を調査のたいしようとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に、かぎらず多くの友達に伝え、公衆電話について、かんしんをもってもらいたいと思います。

ウ
イ
(らず)
ア

※解答は、解答用紙に書きましょう。

1 四 (2)	問題の概要・趣旨 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
		46.6	-1.2	13.0	+1.7

○平成二十五年A3に同趣旨の出題があったほか、平成三十年度A5(主語と述語との照応)に課題が見られたように、文の構造に関する理解に課題がある。

○学習指導に当たっては、一文の長さが適切か、分かりやすく伝わるかを意識して書かせる必要がある。その際、文と文との意味のつながりに気を付けて内容を分けるようにすることや、接続語の役割を正しく捉え、適切に選んで使うようにすること、文末表現を整えて書くようにすることを指導する必要がある。

四 高橋さんは、「報告する文章」を書き終え、読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(2) 高橋さんは、読み手に伝わりやすくするために、「報告する文章」の「――」の文を二つの文に分けて書き直すことにしました。文と文をつなぐ言葉には「そこで」を使います。書き直した一文目の終りの五文字と、二文目の「そこで」に続く五文字を書きましょう。なお、読点(、)も字数にふくみます。

公衆電話を必要とときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。

そこで、――。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られました。そこで、本授業アディティ例では、調べ分かったことを整理したり、自分の考えの理由や事例として、さざいし内容を運んだりしながら、自分の考えを明確化して書くことについての指導事例を紹介します。なお、本授業アディティ例は、第5学年以上を対象としています。

– 19 –

(2) 中学校国語

① 調査区分ごとに見た傾向

平均正答率

平均正答率は、全国に比べ 0.8 ポイント低い。

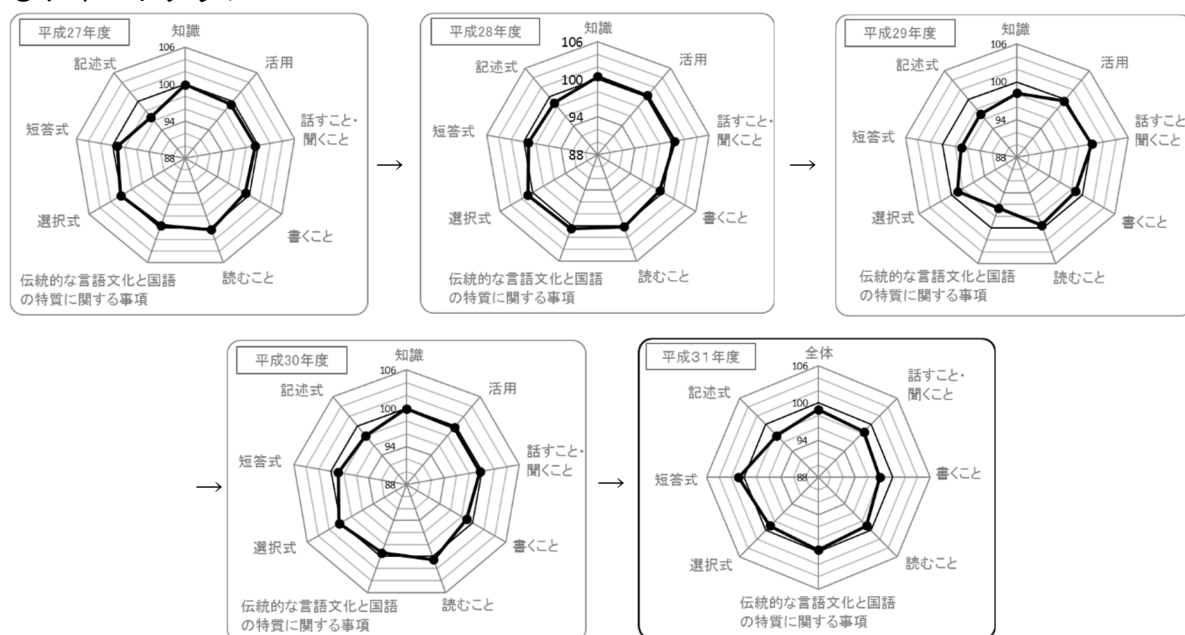
領域等

全国を 100 とした時の指数に比べ、「話すこと・聞くこと」は 1.6 ポイント低く、「書くこと」は 2.1 ポイント低く、「読むこと」は 1.0 ポイント低く、昨年度より 1.5 ポイント低下した。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は 0.3 ポイント低い。

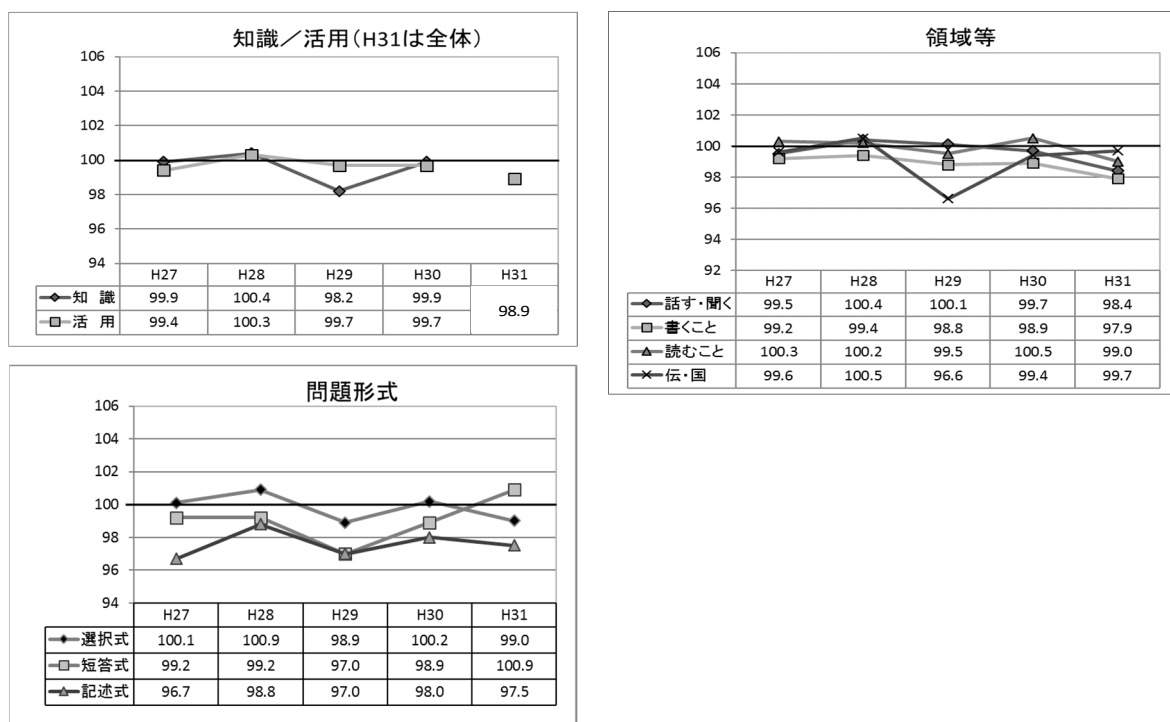
問題形式

指数では、「選択式」は 1.0 ポイント低く、「短答式」は 0.9 ポイント高く、「記述式」は 2.5 ポイント低い状況である。

○チャートグラフ



○経年変化グラフ



② 成果と課題

全体的な状況	成果	◇「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、2年続けて上昇した。
	課題	◆「書くこと」の領域が下降傾向にあり、各校の実態に応じた具体的対策を講じて改善を図るべき課題である。 ◆文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことに課題がある。 ◆生徒質問紙で「国語の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した生徒の割合が低く、中学校進学後に国語の学習に困難を感じている生徒の多いことがうかがえる。

話すこと 聞くこと	◇話し合いの話題や方向を捉えることは相当数の生徒が理解できている【2一】。 ◆相手に分かりやすく伝わる表現について理解すること【2二】、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと【2三】(平均正答率：千葉58.7%、全国60.4%/無解答率：千葉10.7%、全国8.9%)に課題がある。
書くこと	◇書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することは相当数の生徒が理解できている【3一】。 ◆伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことに課題がある【3二】。
読むこと	◇文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことについては、相当数の生徒ができています【1三】。書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになったりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を更に広げていくように指導することが重要である。 ◆文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことに課題がある【1一】。自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導する必要がある。 ◆文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある【1二】。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	◇語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解することは、できている【4】。 ◆封筒の書き方を理解して書くことに課題がある【1四】。文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くよう指導することは、社会生活に役立つ書写の能力を育てるために重要である。その際、手紙の形式に込められた相手への敬意についても考えさせることが大切である。
その他	◇生徒質問紙において、【43】「国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ」と肯定的に回答した生徒の割合(千葉85.4%、全国88.0%)は前回(平成29年度)より4.5ポイント上昇している。【44】「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとする態度(千葉69.8%、全国71.6%)に一層つながっていくことが望まれる。 ◆【42】「国語の授業の内容はよくわかる」と肯定的に回答した生徒の割合(千葉72.8%)は全国に比べ4.8ポイント低い。本県児童(【児39】千葉83.9%)に10ポイント以上の開きがあることから、中学進学後の学習のつまずきに留意して指導する必要がある。

③ 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域等〕 学習指導要領の領域等

「話」 話すこと・聞くこと 「書」 書くこと 「読」 読むこと

「伝」 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

〔評価の観点〕

「関」 国語への関心・意欲・態度 「話」 話す・聞く能力

「書」 書く能力 「読」 読む能力

「言」 言語についての知識・理解・技能

〔問題形式〕

「選」 選択式 「短」 短答式 「記」 記述式

■ : 全国を下回るもの
△ (良 好) : 全国との差3.0ポイント以上
▼ (課題あり) : 全国との差3.0ポイント以上

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域 等	学 習 学 年	評 価 の 観 点	(参考)		問 題 形 式	正答率			無解答率	
							「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県(公立)	全国との差		千葉県(公立)	全国との差
1	一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ		読	2	読	○	○	選	62.7	-1.2	0.2	0.1
	二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える		読	1	読	○	○	選	61.6	0.1	0.2	0.1
	三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ		読	1	関・読		○	記	90.1	-1.1	2.1	0.4
	四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	封筒の書き方を理解して書く	課題改善	伝	1	言	○	○	短	57.3	0.5	7.0	1.4
			H24 A7五								72.1	-1.6	2.8	0.1
2	一	話合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話合いの話題や方向を捉える		話	1	話	○	○	選	79.6	-0.8	0.2	0.0
	二	話合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	相手に分かりやすく伝わる表現について理解する		話	1	話	○	○	選	69.0	-0.7	0.3	0.0

※平成24年度は抽出調査の結果である。

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域 等	学 習 学 年	評 価 の 観 点	(参考)		問 題 形 式	正答率			無解答率	
							「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差
2	三	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	話	1	関・話		○	記	58.7	-1.7		10.7	1.8
3	一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する	書	2	書	○	○	選	86.9	-0.5		0.5	0.1
	二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	書	1	関・書		○	記	74.9	-2.9		9.6	1.7
										49.9	-1.5		7.7	1.0
										63.1	-1.1		8.8	1.1
4		語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する	伝	1	言	○	○	選	77.8	-0.9		1.4	0.2

中学校・国語【課題の見られた設問の例】

1 一	問題の概要・趣旨 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ	問題の概要・趣旨	
		正答率 (%)	
		県	差
		62.7	-1.2

※「差」は、全国平均との差を示している。

7 文化 2019年(平成31年)4月14日(日曜日) 全国中学生新聞

声の広場

今年こそ優勝!!
残念感動
残念な後悔

(中2・野球大好き)

雪が降りてきた。私はまだ寝ていて、暖かい布団の中。外の景色は白く、静かだ。

(中3・こねこ)

みんなの短歌

今回は、新年を迎えたフレッシュな心境を表現した作品が集まりました。

【讀者より】「ジリジリと鳴る前に」と「胸が高鳴る」という表現から、いつもは目覚まし時計の音で起きているのに、この日の朝は、胸がときどき目覚まし時計が鳴る前に起きている感じが想像できます。入学式の朝は、新しい生活に思いを巡らせて、落ち着かない気持ちになるものです。

新しいノート教科書取り出して音読伸ばして始まりを待つ
玄関の鏡の前でもう一度前髪整頓ボタン笑顔と
春風がいつもの道を駆け抜ける皆の足取り自然と軽く
中二 森川りか
中三 松田 花子

■投稿先
〒100-6543 東京都千代田区中央3
全国中学生新聞「声の広場」係
FAX 000-123-xxxx
メール zenkoku@xxxxxx

▼イラストははがき大。「みんなの短歌」は1通に2首まで。
▼氏名、学年、住所、電話番号を明記。イラストはペンネーム可。

全国中学生新聞 2019年(平成31年)4月14日(日曜日) 文化 6

海外に広がる弁当の魅力

(シリーズ)再発見! 日本の文化

カスクルト

アメリカのボックスマンやフランスのカスクルトなど、日本の弁当のようには海外に持ち出して食べることはできません。食事は、昔から各国にあり、それぞれの国で親しまれています。そのように、日本の弁当が海外の様々なメディアで取り上げられ、世界的な注目を集めています。国際的な交流の場でも、日本人の食文化を伝えるのに、弁当は特別な役割を果たしています。海外では、弁当が「カスクルト」や「ボックスマン」などと呼ばれ、それぞれに独自の文化があります。しかし、その根元には、日本人の食文化、つまり「弁当」があります。

で話になった。海外でも知られているものがある。弁当の一番の魅力は、小さな箱の中にいろいろな料理が詰め込まれていることです。主食、主菜、副菜、時にはデザートまでがきれいに収まっています。そのため、栄養バランスがよく、健康志向の高まりとともに、海外でも注目されるようになったのです。トマトの赤色や卵黄の黄色など、鮮やかな色合いが目を惹く。また、お弁当の箱は、丈夫で持ち運びに便利です。工場で大量生産された「曲げわっぱ」や、木目柄の「木目箱」など、様々なデザインがあります。海外でも、こうした「曲げわっぱ」や「木目箱」が人気です。また、海外でも「曲げわっぱ」や「木目箱」が人気です。

「曲げわっぱ」は、木目が美しく、丈夫で持ち運びに便利です。工場で大量生産された「曲げわっぱ」や、木目柄の「木目箱」など、様々なデザインがあります。海外でも、こうした「曲げわっぱ」や「木目箱」が人気です。

1 2 3 4 5 「弁当」

人とのつながりをもつことができる。最近では、日本だけでなく海外でも、インターネットを用いて、弁当の作り方やレシピについて交流する人が増えています。住んでいる場所も年齢も異なる人たちが、情報交換し、仲間を作り、楽しんでいくのです。このように、様々な魅力をもつ「弁当」は、世界に誇る一つなのではないでしょうか。

今回は、「曲げわっぱ」を取り上げます。

曲げわっぱの弁当

「(シリーズ)再発見! 日本の文化」にある、「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。…」
1 第一回は、「弁当です」という文章で、
2 1から4までの中から一つを選びなさい。

1 日本の文化の例を複数示すことで、読者が様々な国の文化と比較しながらこの紙面を読むことができるようにしている。
2 このシリーズで取り上げる内容を示すことで、読者が今後の掲載の見通しをもつことができるようにしている。
3 「海外に広がる弁当の魅力」の記事の要約を示すことで、読者が時間をかけずに新聞を読むことができるようにしている。
4 外国語の辞書に載っている言葉を示すことで、読者が海外と日本の言葉の意味の違いに気付くことができるようにしている。

○正答は2であるが、本県では1、4を選んだ生徒の割合(類型1、4)の合計が二八・六%であった。このように解答した生徒は、文章の構成や展開、表現の仕方を分析的に捉え、そのような表現をした書き手の意図や目的を考えたり、その効果について考えたりすることに課題がある。

「日本の文化の例」が「複数」示されていることや、外国語の辞書に載っている言葉」が示されていることを捉えることはできているが、それらの記述の効果について、「全国中学生新聞」の紙面構成に照らし合わせて検討することができていないと考えられる。

○なお、選択肢3について、一般的には、新聞記事の冒頭に要約を示す書き方もあることを学習しておくことは効果的である。

○学習指導に当たっては、文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる際に、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導することが必要である。さらに、それらを分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりするように指導することが大切である。

1 二	問題の概要・趣旨 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	正答率 (%)	
		県	差
		61.6	+0.1

全国中学校新聞 2010年(平成31年)4月14日(日曜日) 文化 6

海外に広がる弁当の魅力

② 主食、主菜、副菜などが収まっており、栄養バランスのよい食事をとることができる。

⑤ 様々なデザインのものを選ぶことができる。

③ インターネットを利用して、様々な国の弁当を取り寄せることができる。

④ ボックスランチやカスクルトなどとは異なり、戸外に持ち出し食べることができる。

① 様々なデザインのものを選ぶことができる。

「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを、次の1から5までのなかから、全て選びなさい。

- 1 インターネットを利用して、様々な国の弁当を取り寄せることができる。
- 2 主食、主菜、副菜などが収まっており、栄養バランスのよい食事をとることができる。
- 3 ボックスランチやカスクルトなどとは異なり、戸外に持ち出し食べることができる。
- 4 いろいろな料理が詰められているので、食べ物の風味を保つことができる。
- 5 様々なデザインの弁当箱があり、自分の好みのものを選ぶことができる。

（シリーズ）再発見！日本の文化

日本の文化の中には、海外でも知られているものがあります。例えば、「弁当」は「飯」を「当」で包むことから「弁当」と呼ばれます。これは、古くから日本人の食生活に欠かせないもので、海外でも人気があります。

「弁当」は、主食、主菜、副菜などが収まっており、栄養バランスのよい食事をとることができる。また、様々なデザインのものを選ぶことができる。さらに、インターネットを利用して、様々な国の弁当を取り寄せることができる。これは、海外に広がる弁当の魅力の一つである。

「弁当」は、古くから日本人の食生活に欠かせないもので、海外でも人気があります。これは、古くから日本人の食生活に欠かせないもので、海外でも人気があります。これは、古くから日本人の食生活に欠かせないもので、海外でも人気があります。

第1時

① 学習の見通しをもつ (P. 6のワークシートを配付)。

二つの問いを示すので、それぞれの答えを文章中から見付けましょう。

教師

② 一つめの問いを把握する。

【問いの例】動物の歯の化石を比較することでどのようなことが分かるか。
【答え】その動物の属する種やグループと、その生物の進化の過程や生息分布。

③ 問いの答えを見付けるための手掛かりになる箇所に印を付けながら、各自で文章を読む。

④ 見付けた答えを書くとともに、どのようにしてその答えにたどり着いたのかを書く。

⑤ ④で書いた内容について、グループで検討する。

第2時

⑥ 二つめの問いについて②から⑤に取り組む。

【問いの例】ネズミ類の歯の化石はどのようにして発掘するか。
【答え】土壌や河川にたまった砂や泥などの堆積物を採取し、ふるいにかけ、顕微鏡を使って残留物の中から歯の化石を拾い出す。

⑦ 学習を振り返る。

ワークシート

一文章を読み、必要な内容を答えよう。

問	答
①一つめの問い	
②一つめの問い	
③一つめの問い	
④一つめの問い	

（国立教育政策研究所 平成二十一年度全国学力・学習状況調査 中学校「国語B」に係る調査アイデア例「目的に応じて適切な文章を選択」より）

○正答は2、5と解答しているもの（類型1）であるが、本県では、一つまたは複数選択する中で2だけ正しく解答している生徒の割合（類型2）は二・四％である。このように解答した生徒は、選択肢2を選ぶことはできているが、5を見落としている。ここでは、「海外に広がる弁当の魅力」についての文章全体を読んだ上で、複数の弁当の魅力の的確に捉える必要がある。

○全国学力・学習状況調査では、必要となる複数の情報を取り出して整理する設問で正答率が下がる傾向が見られる。文章を読んで内容を捉える際には、文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したりしながら、目的や必要に応じて情報を過不足なく選択し整理することが必要である。このような趣旨の出題例として、平成二十七年B2二（文章の中心的部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える）、平成二十八年B2二（目的に応じて文章を要約する）などがあり、授業でも活用されたい。

○学習指導に当たっては、例えば、目的をもって文章を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことができているかという点に加え、どのようにすればその情報にたどり着くことができるのかについて検討するなどの学習活動が考えられる。左に示した平成三十年度授業アイデア例「目的に応じて適切な文章を読む」では、そのままコピーして使用できるワークシートも付いているので、参照・活用されたい。（総合教育センターウェブサイト→全国学力・学習状況調査→分析ツール→全国学力・学習状況調査に関わるWebページ紹介（国立教育政策研究所）→授業アイデア例よりダウンロード可能）

2三	問題の概要・趣旨	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		県	差	県	差
	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	58.7	-1.7	10.7	+1.8

場面②

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも歩きづらいたと感じたり、段差に気付かず驚いたりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしゃると思います。ですから、体育館へ向かう通路などに、「段差に気を付けてください」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

倉田さん 西野さん 山下さん

ネットにそのようなニュースが出ていますね。掲示物で注意を促すのはよいアイデアだと思います。そういえば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、掲示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使いかたとしては、ふさわしくないと思います。別の表現にしてはどうでしょうか。

そうですね。段差への注意を促す掲示物を作ることにしましょう。「土足禁止」をどのような表現に直すのかについては、話し合わないといけませんね。以前から、私も気になっていました。

場面③

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん 山下さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりだと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていないことがあります。

A

話し合いの一部

場面①

（議題）
地域とのつながりを大切にした文化祭にするために
一 生徒会が地域で行っていること
二 高齢者向けの施設での交流会の様子
・地域の清掃活動の様子
・展示や発表を見に来てくださる方への配慮

倉田さん 西野さん 山下さん

「生徒会が地域で行っていることについての展示」は、この二つにします。次は、「展示や発表を見に来てくださる方への配慮」について考えましょう。

2 第一中学校の生徒会役員の山下さんたちは、「地域とのつながりを大切にした文化祭にするために」という議題で話し合っています。次は、「話し合いの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（場面①から場面③は、連続した場面です。）

○話し合いをする際には、話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりが、常に自分の考えと比較し、考えをまとめていく必要がある。学習指導に当たっては、相手の理解の状況を踏まえ、分かりやすく伝えるように表現を工夫して話すことができるようにすることや、話し合いの中で目的や場面に応じて設問中の各選択肢に示されたような役割を果たす発言を意識するように促すことが大切である。

平成二十四年度の授業アイデア例「対談を読んだ考えたことを基に座談会を行う。」等も参照・活用されたい。

○正答の条件を満たして解答した生徒の割合は五八・七％で（全国六〇・四％）である。無解答率も一〇・七％と最も高い設問となっている。条件1を満たし、話し合いの流れを踏まえて「どうするか決まっていないこと」とは何かを指摘することはできているが、具体的な解決策を提示できていない生徒（類型3）は一〇・〇％である。ここでは、登場人物の発言を踏まえ、どのような課題があるのかを明確にした上で、それを解決する具体的な案を提示する必要がある。

（国立教育政策研究所「平成二十四年度国・公立学校調査」国公立に係る授業アイデア例対談を「読んで考えたことを基に座談会を行う。」より）

三 場面③のAで山下さんは、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを述べようとしています。あなたなら、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2に示した「実際に話すべきこと」を参考に、あなたの考えを述べなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二玉線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」とは何かを明確にして書くこと。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていないこと」を解決する具体的な案を考えて書くこと。

④ 第1時で記入したワークシートや第2時で実際に発言した内容を基に、「現代の日本語は乱れているか」というテーマでグループごとに座談会を行う。

6人グループで座談会を行います。最初に3名が5分間座談会を行ってください。残りの3名は聴衆役です。その後、役割を交替してください。

※ 相手の発言の内容を踏まえて自分の考えを述べる。
※ 直前の発言の内容に自然につながるように、言葉遣いや表現を考える。
※ 自分の考えが相手に伝わるように、詳しく説明したり、理由や根拠となる具体例などを示したりして述べる。

⑤ 終了後、それぞれの立場から意見を述べ合う。

自分たちの座談会を振り返り、「相手の発言を踏まえて自分の考えを述べていたか」、「理由や根拠となる具体例を示していたか」という二つの観点から意見を交流しましょう。

〔参考〕対談での発言の内容を受ける際の話し方の例

- 共感して、具体例を出す。
「……という意見については、私もそう思います。例えば～」
- 疑問点を出して、詳しく説明する。
「……という考えについて、私は疑問に思います。それは～」
- 反対の立場に立って、理由を述べる。
「今の……という考えに私は反対です。なぜかという～」
- 話題を転換・拡張して、具体例を出す。
「今の……ということ他にもこんなことがあります。それは～」
- これまでの話の内容を整理し、まとめる。
「今まで話してきたことをまとめると、～」



授業アイデア例

第2時

- ③ ②で記入したワークシートを用いて、文章の構成や展開、表現の仕方について考えたことをグループで交流する。



前の時間に記入したワークシートを用いて、それぞれが着目している段落や部分を具体的に示しながら、どのような工夫と効果があるのかを交流しましょう。

「海外に広がる弁当の魅力」について交流している場面の例】

紙面の右上の枠の部分には、海外に知られている日本の文化のことが簡潔な文章で示されています。この記事でどのような日本の文化を取り上げるのかがすぐ分かります。



Aさんが着目した枠の中
り上げ、五回にわたって、
の最後にある「次回は、
思います。」

「Bさん、よい点に
が推測できますか。」

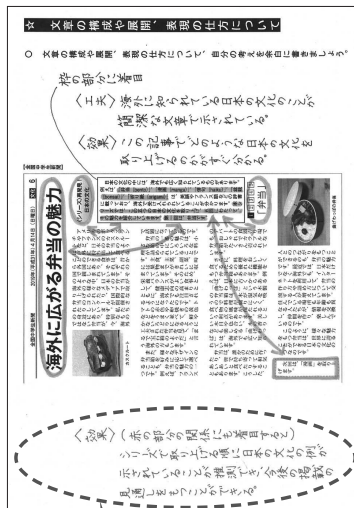
交流の仕方についての工夫の例

- プロジェクターや実物投影機などの ICT 機器を用いて移動黒板などに文庫全体を映し出したり、文庫全体を拡大して印刷した紙を移動黒板などに貼ったりして、その場で印を付けた言葉を書き込んだりしながら、交流することもある。



第3時

- ③で交流した内容を踏まえ、文章の構成や展開、表現の仕方についての考えを各自で見直し、必要に応じてワークシートに書く。



※ ③で交流した内容を踏まえ、Aさんが書き加えた部分。

活用ポイント！

- 本授業アイディア例示した教材の他にも、教科書に掲載されている説明的な文章や、学校図書館にある説明的な文章などを必要に応じて取り上げるとよい。
- 本授業アイディア例の学習の流れを参考にして、第1学年「読むこと」(1)について授業を展開することも考えられる。

参照▶「平成31年度（令和元年度）報告書 中学校 国語」P.20～P.34、「平成31年度 解説資料 中学校 国語」P.12～P.23

TYPE

「説明的な文章を読み、書き手の工夫を見付けて交流しよう」
～文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる～

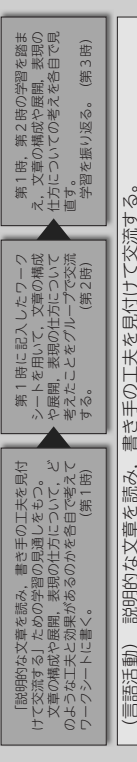
文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことに課題が見られました。そこで、本授業アイチ、A例では、説明的な文章を読み、文章の構成や展開、表現の仕方について、どのような工夫と効果があるのかを考えて、グループで交流する学習を提案しました。それぞれの考えをまとめる力量に付け合うことが交流する際に、文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをもつことを促すものとして用いようとしています。

課題の見られた問題の概要と結果

- 「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」にっ
ぽん 弁当？ 日本では、お弁当ってよく食べますよ。

授業アイディア例

習の流れ



受業前の教師の準備

①一についての生徒の解答の状況を「解答類型」(平成31年度(令和元年度) 報告書 中学校 国語)に照らして把握する。特に、以下の「解答類型」の生徒の解答の状況に着目する。

- 「解答類型1」，「解答類型4」の生徒
文章の内容の一部を捉えることはできているが、文章の構成や展開、表現の仕方を分析的に捉え、そのような表現を用いた書き手の目的や意図を考えた上、その効果について考えたりすることができていない。
- 「解答類型3」の生徒
文章の内容を的確に捉えたり、文章全体と部分との関係を考えたりすることができていない。

● 「海外に広がる并当の魅力」 (平成31年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語①)

- 新聞や雑誌の文章など

第1時

- 学習の見通しをもつ。



書き手は、目的や意図に応じて様々な工夫をしています。文章の構成や展開、表現の仕方に留意して文章を読み、どのような工夫と効果があるのかを考えましょう。効果について考える際は、着目している段落や部分と、文章全体や他の部分との関係性を踏まえることが大切です。

- 各自で文章を読み、どのような工夫と効果があるのかを各自で考えてワークシートに書く。
- ※ ワークシートは、着目している段落や部分に印を付けたり、自分の考えを書き込んだりすることができるように、文響全体を載せるなどの工夫をする。(P. 4 [A さんが記入したワークシートの例] 参照)

第1時終了後の教師の分析

第1時終了後に、ワークシートの記述内容を分析する。
授業前に把握した「解答類型1」、「解答類型3」や「解答類型4」に該当する生徒が、次の観点についてできているかどうかを見る。

- 文章の構成や展開、表現の仕方について、どのような工夫と効果があるのかを考えて書いていく。
- 効果について考える際に、着目している段落や部分、文章全体や他の部分との関係性を踏まえている。
- 第1時終了後に不十分だった生徒については、第2時の交流の様子を観察し、どの段落や部分に着目しているのかを明らかにさせたり、文章全体や他の部分との関係を踏まえてその効果を考えさせたりするなどの、必要に応じて指導する。

(3) 小学校算数

① 調査区分ごとに見た傾向

平均正答率

平均正答率は、全国に比べ1.6ポイント低い。

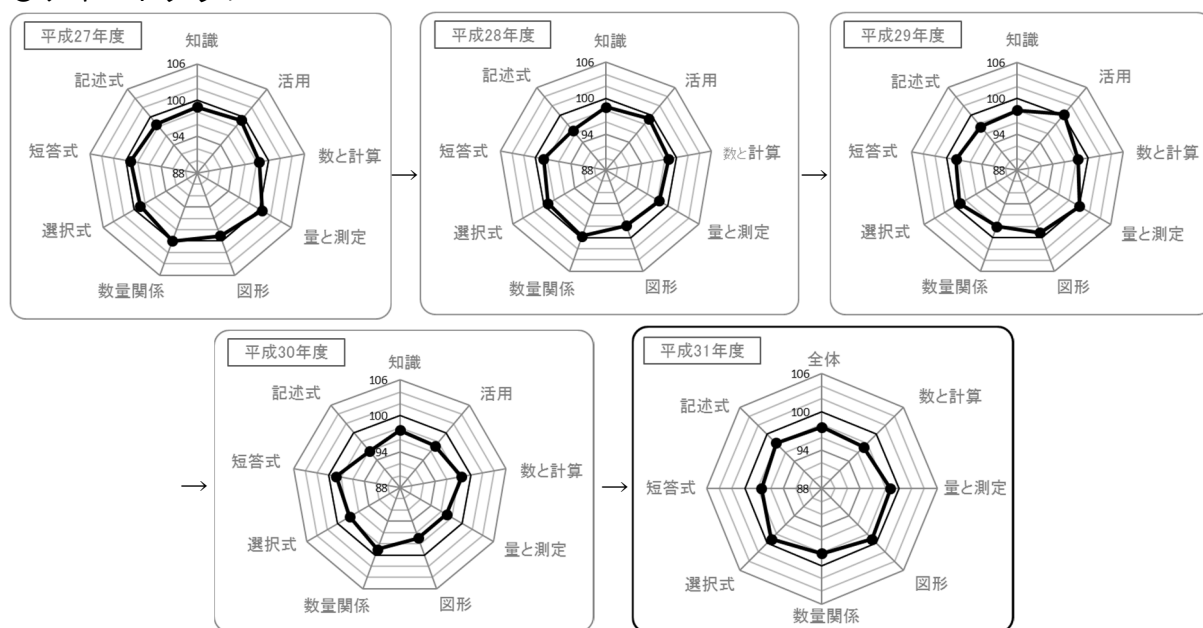
領域

全国を100とした時の指数に比べ、「数と計算」は2.8ポイント、「数量関係」は1.9ポイント低くなっている。「量と測定」は1.3ポイント低い、昨年度より1.7ポイント上昇し、「図形」は0.9ポイント低い、昨年度より2.1ポイント上昇した。

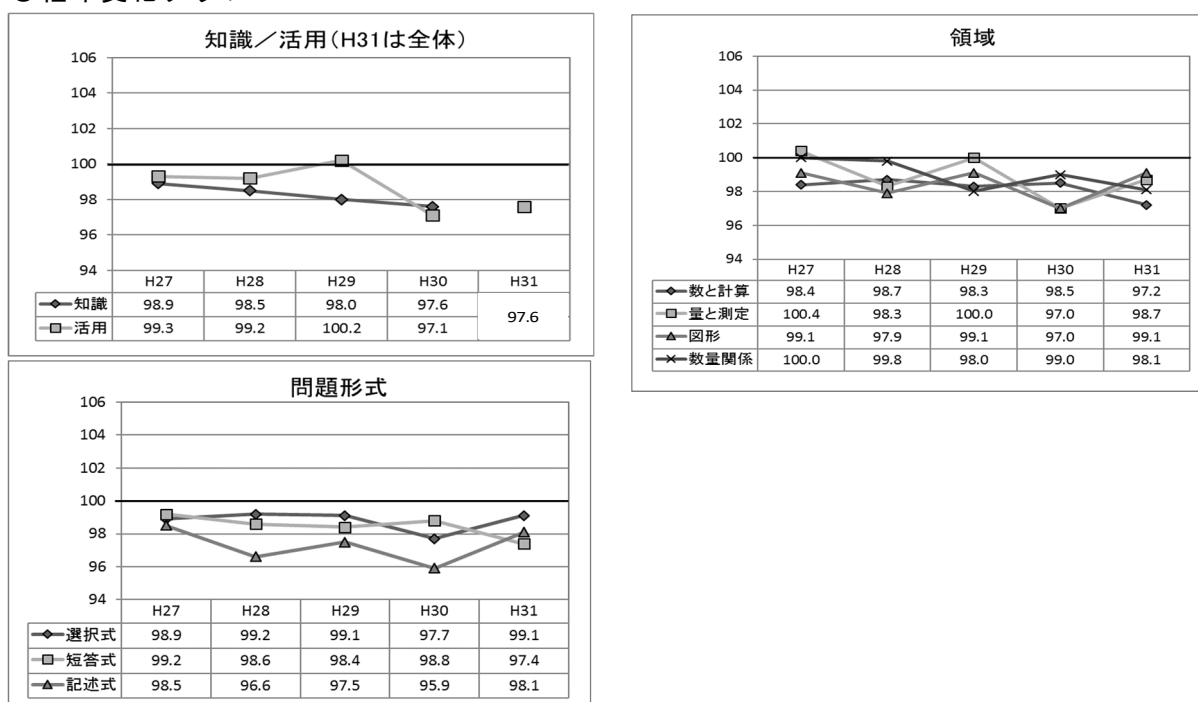
問題形式

指数では、全国に比べ「短答式」が2.6ポイント低い。「選択式」は0.9ポイント、「記述式」は1.9ポイント低い、昨年度よりそれぞれ1.4ポイント、2.2ポイント上昇した。

○チャートグラフ



○経年変化グラフ



② 成果と課題

全体的な状況	成果	◇ 領域別にみると「量と測定」は指数で昨年度より 1.7 ポイント、「図形」は昨年度より 2.1 ポイント上昇した。 ◇ 児童質問紙の「算数の勉強は大切だ」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」の両質問において、肯定的な回答は9割を超え、必要性を感じている。
	課題	◆ 事実を記述する問題では、示された計算の仕方を解釈し前述をもとに計算に関して成り立つ性質を見いだす設問の正答率が3割に満たず、表現することに課題がある。 ◆ 理由を記述する問題では、事柄が成り立つ理由や判断の理由を示すことに課題がある。

数と計算	◇ 計算の仕方を解釈して適用したり、発展的に考察したりできるかどうかをみる設問【3(1)】(千葉80.0%、全国81.8%)は相当数(80%以上)の児童ができています。 ◆ 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できるかどうかを見る設問【3(2)】(千葉29.4%、全国31.1%)は、正答率が低く、無解答率が千葉12.5%、全国10.8%である。計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにする指導の充実が重要である。 ◆ 示された除法の式の意味を理解しているかどうかを見る設問【3(4)】(千葉45.9%、全国47.0%)は正答率が低い状況である。数を多面的にみて、計算を能率的にするために工夫することができるように指導することが大切である。
量と測定	◆ 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる設問【1(3)】(千葉43.8%、全国43.9%)は、正答率が低く、課題として挙げられる。図形の構成についての見方を働かせ、示された図形の面積の求め方を解釈し、求め方を説明することができるようにする指導の充実が大切である。 ◆ 資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある【2(3)】。場面の状況に応じて、数理的にとらえ、数学的に表現、処理し、得られた結果から判断できるようにすることが必要である。
図形	◇ 図形の構成と筋道を立てた考察をする問題のうち、台形について理解しているかどうかをみる設問【1(1)】(千葉92.7%、全国93.1%)は、相当数の児童ができています。図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察・構成することができるように指導することが大切である。
数量関係	◇ 日常生活の問題の解決のために、資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したりすることができるかどうかをみる設問【2(1)】(千葉94.9%、全国95.2%)は、相当数の児童ができています。 ◇ 日常生活の問題の解決のために、場面から伴って変わる二つの数量を見だし、数学的に表現・処理して、判断することができるかどうかをみる設問【4(1)】(千葉82.2%、全国82.7%)も相当数の児童ができています。ある一つの数量を調べるとき、その数量を直接調べにくい場合、関係ある他の数量を使って調べることを考えて事象を観察し、伴って変わる二つの数量を見いだすことができるように指導することが大切である。 ◆ 計算の仕方を解釈して適用したり、発展的に考察したりすることをみるために、示された除法の式の意味を理解しているかどうかをみる設問【3(4)】(千葉45.9%、全国47.0%)は、正答率が低く、課題がある。計算の順序についてのきまりを確実に理解できるように指導を充実させることが必要である。

③ 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域〕 学習指導要領の領域

「数」 数と計算 「量」 量と測定 「図」 図形 「関」 数量関係

〔評価の観点〕

「考」 数学的な見方や考え方 「技」 数量や図形についての技能

「知」 数量や図形などについての知識・理解

〔問題形式〕

「選」 選択式 「短」 短答式 「記」 記述式

：全国を下回るもの
△（良好）：全国との差3.0ポイント以上
▼（課題あり）：全国との差3.0ポイント以上

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	学習学年	評価の観点	(参考)		問題形式	正答率			無解答率	
							「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差
1	(1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ	台形について理解している	図	4	知	○	○	選	92.7	-0.4		0.2	0.1
	(2)	二つの合同な台形をずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ	図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる	図	4・5	技	○	○	選	59.3	-1.0		0.9	0.3
	(3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる	量	5	考		○	記	43.8	-0.1		7.9	1.2
2	(1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる	関	3	技	○	○	選	94.9	-0.3		0.3	0.1
	(2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる	数・関	3・4	技	○	○	短	78.0	-0.6		1.3	0.3
	(3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる	量・関	3・5	考		○	記	52.0	-0.1		2.2	0.2
	(4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために $6+0.5 \times 2$ を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	同一	数・関	4	技	○	短	55.4	-4.7	▼	1.2	0.2
										69.2	0.3		1.1	0.0
										60.0	-6.6	▼	0.8	0.2

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	学習学年	評価の観点	(参考)		問題形式	正答率			無解答率		
							「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差	
3	(1)	350－97 について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる	数	3	考		○	短	80.0	-1.8		1.1	0.2	
	(2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	数	3・4	考		○	記	29.4	-1.7		12.5	1.7	
	(3)	被除数と除数にかけ数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる	数	4	考		○	短	72.8	-2.1		2.6	0.5	
	(4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している	数・関	3・5	知	○	○	選	45.9	-1.1		2.7	0.5	
4	(1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ	目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる	関	4	考		○	選	82.2	-0.5		1.9	0.2	
	(2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求め式を書く	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる	数	3	考		○	短	68.4	-0.2		4.9	0.5	
	(3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する	場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる	量・関	5	考		○	記	60.8	-1.8		3.6	0.1	

小学校・算数【課題の見られた設問の例】

1	(3)	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
			県	差
			43.8	-0.1

(3) ゆうたさんたちは、2つの合同な台形でつくられた図1の形の面積を求めようとしています。

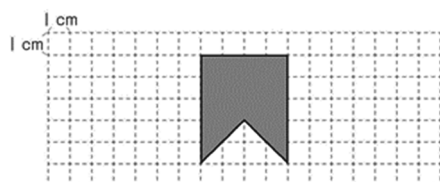


図1

ゆうたさんは、図1の形の面積を、次のように求めました。

【ゆうたさんの求め方】

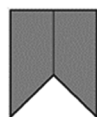
$$(3+5) \times 2 \div 2 = 8$$

$$8 \times 2 = 16$$

答え 16 cm²



図1の形を、下の図のように、合同な台形2つとみました。



まさるさんは、【ゆうたさんの求め方】の中の「 8×2 」が、どのようなことを表しているのかを、下のように説明しました。



8は、1つの台形の面積を表しています。

8×2 は、1つの台形の面積を2倍していることを表しています。

※「差」は、全国平均との差を示している。



私は、ほかの求め方を考えました。

【ちひろさんの求め方】

$$5 \times 4 = 20$$

$$4 \times 2 \div 2 = 4$$

$$20 - 4 = 16$$

答え 16 cm²

【ちひろさんの求め方】の中の「 $20 - 4$ 」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

○第5学年の指導内容である。正答は「①20が長方形の面積を表していること②4が三角形の面積を表していること③減法が、ある数量(図形)からある数量(図形)を取り去ることを表していること」の3点を書いているものである。

誤答については、①、②のみを書いてある解答類型が本県では16.0%である。見つけた2つの図形にどのような関連があるのかを演算の意味と結びつけることができなかったと考えられる。

○学習指導に当たっては、図形の構成についての見方を働かせること、図形の面積を既習の求積公式を活用して求め、求め方を説明できることが重要である。様々な学年で図を基に立式したり、式を解釈したりする活動を学習に取り入れることが考えられる。

2	(4)	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
			県	差
			55.4	-4.7

(4) さらに、かいとさんは、自分が家で水をどのくらい使っているのかが気になる。洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、下の式を考えました。

【かいとさんが考えた式】

$$6 + 0.5 \times 2 = \text{㊟}$$



【かいとさんが考えた式】の、㊟に入る数を書きましょう。

○第4学年の指導内容である。正答は「7」である。

誤答については、「13」と解答する解答類型が、本県では25.4%である。また、「13」「2.2または22」「130」「1.3」という解答類型は、加法と乗法の混合した計算であるにもかかわらず、乗法を先に計算せずに、「 $6+0.5$ 」から計算していると考えられる。本県では「 $6+0.5$ 」から計算していると考えられる解答タイプの合計が、33.9%である。

○計算の順序についてのきまりを具体的な場面と関連付けながら確実に理解することが重要である。学習指導に当たっては、正しく計算した場合だけでなく、誤って計算した場合でも式が示す場面を比較する活動が考えられる。計算の順序によって式の意味が異なることに気付かせることが大切である。

3	(2)	問題の概要・趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			県	差	県	差
			29.4	-1.7	12.5	+1.7

ゆいなさんは、くり下がりのあるひき算を計算したときにもとにした考えをふり返って、次のようにまとめました。

【ゆいなさんがまとめたこと】

ひき算では、
ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、
ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、
差は変わりません。
このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

ことねさんは、 $400 \div 25$ や $90 \div 18$ のようなわり算についても、計算しやすい式にすることができると思い、下のように考えました。

【ことねさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{ccc} 400 \div 25 = & \boxed{} & \\ \downarrow \times 4 & \downarrow \times 4 & \nearrow \text{変わらない} \\ 1600 \div 100 = & 16 & \end{array}$$

だから、 $400 \div 25$ の答えの $\boxed{}$ は、16 です。

$$\begin{array}{ccc} 90 \div 18 = & \boxed{} & \\ \downarrow \div 9 & \downarrow \div 9 & \nearrow \text{変わらない} \\ 10 \div 2 = & 5 & \end{array}$$

だから、 $90 \div 18$ の答えの $\boxed{}$ は、5 です。

(2) ひき算について書かれた【ゆいなさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。
下の $\boxed{}$ の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

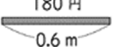
○第3学年、第4学年の指導内容である。正答は「①わられる数とわる数に同じ数をかけることを表す言葉②わられる数とわる数を同じ数で割ることを表す言葉③商が変わらないことを表す言葉」の3点を書いているものである。本県の正答率から、示された計算の解釈に課題があるといえる。誤答の例としては、「①、②については、具体的な数を用いて書き、③の商が変わらないことは記述できない、または、商を差と書く」解答類型が、本県では14.6%である。

○学習指導に当たっては、商が同じになるいくつかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見いだす活動が考えられる。また、算数の用語を用いて表現する活動を取り入れることも大切である。

3	(4)	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
			県	差
			45.9	-1.1

(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

問題

リボンを0.6 m買ったときの代金が180円でした。
このリボン1 m分の代金は、いくらですか。

1 m分の代金は $180 \div 0.6$ の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

$$\begin{array}{ccc} 180 \div 0.6 = & \boxed{} & \\ \downarrow \times 10 & \downarrow \times 10 & \nearrow \text{変わらない} \\ 1800 \div 6 = & 300 & \end{array}$$

だから、 $180 \div 0.6$ の答えの $\boxed{}$ は、300 です。

$1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえますか。

下の あ から え までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

あ 0.6 m 分の代金

い 1 m 分の代金

う 6 m 分の代金

え 10 m 分の代金

○第3学年、第5学年の指導内容である。正答は、「い 1 m 分の代金」である。誤答については、本県では、「 $180 \div 0.6$ 」の0.6に着目していると考えられる誤答が13.4%、「 $1800 \div 6$ 」の6に着目していると考えられる誤答が22.2%「被除数と除数を10倍したことに着目したと考えられる誤答が15.1%である。

○学習指導に当たっては、除法の式と具体的な場面とを関連付ける場を設定することが大切である。必要に応じて、式が何を表しているのかを振り返ることで、式の意味についての理解を深めることができるようにすることが重要である。

4(2)	問題の概要・趣旨 示された場面（何秒後にゴンドラに乗ることができるか）において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる	正答率(%)	
		県	差
		68.4	-0.2

はるとさんたちは、遊園地に来ています。

(2) 次に、はるとさんたちは、観覧車に乗るために列に並んでいます。

観覧車のゴンドラは36台で、ゴンドラ1台に1組ずつ乗ります。

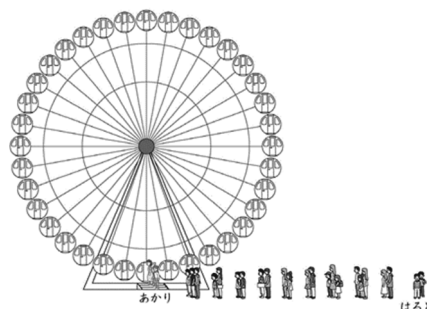
ゴンドラは1台乗るのに20秒かかります。

今の先頭はあかりさんたちです。はるとさんは、あかりさんたちの10組後ろにいます。

あかりさんたちがゴンドラに乗ってから、はるとさんが何秒後にゴンドラに乗ることができるかを考えます。

はるとさんがゴンドラに乗ることができるのは何秒後かを求める式を書きましょう。

ただし、計算の答えを書く必要はありません。



○第3学年の指導内容である。正答は「 20×10 」である。誤答について、「36を使った式」を書いている解答類型は、本県で13.8%である。このような解答は、複数の数量から必要な数量を選ぶことができていないと考えられる。
○指導に当たっては、日常生活の問題解決のために、多くの情報の中から必要な数量を見だし、数学的に表現できるようにすることが重要である。式について問い返すことで式の意味について説明させたり、問題解決に必要な数量について問いかけることで問題解決のための見通しをもたせたりする活動が大切である。

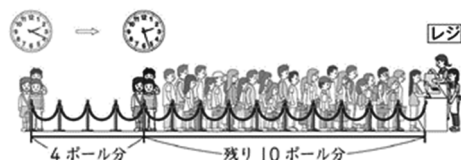
4(3)	問題の概要・趣旨 示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる	正答率(%)	
		県	差
		60.8	-1.8

(3) はるとさんたちは、限定商品を買いたいと思っています。

はるとさんたちが並んでから、4ポール分進むのに8分かかり、残り

10ポール分になりました。午後3時までは、残り33分間です。そこで、

33分間以内にレジに着くことができるかどうかを考えてみました。



はると

4ポール分進むのに8分かかったことから、残り10ポール分も同じ進みぐあいに進むとして考えます。

$8 \div 4 = 2$ で、1ポール分には2分間かかります。

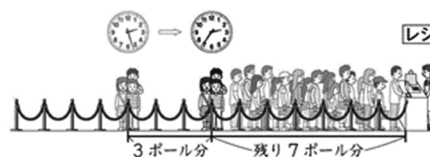
残り10ポール分なので、 $2 \times 10 = 20$ で、20分間かかります。

だから、33分間以内にレジに着くことができます。

ところが、レジにいる店員さんが減ってしまいました。それからは、

3ポール分進むのに9分かかり、残り7ポール分になりました。午後3時までは、残り24分間です。

そこで、はるとさんたちは、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、もう一度考えてみました。



あかり

3ポール分進むのに9分かかったことから、残り7ポール分も同じ進みぐあいに進むとして考えます。

3ポール分進むのに9分かかると進みぐあい進むとすると、残り7ポール分進むのにかかる時間は几分間ですか。

求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

さらに、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、下の

1と2から選んで、その番号を書きましょう。

1 着くことができる。

2 着くことができない。

○第5学年の指導内容である。正答は、「①1ポール分当たりにかかる時間を求める式や言葉②7ポール分進むのにかかる時間を求める式や言葉」の2点について書き、答えを「21」と書いて、番号を「1」と選んでいるものである。解答類型から見ると、①を記述できている児童は63.6%、②を記述できている児童は63.3%である。また、状況が変わったことを捉えられず、誤って1ポール分当たり2分間かかると捉えた児童は、3.9%と考えられる。
○学習指導に当たっては、日常生活において、場面の状況に応じて、物事を判断したり、解決過程や結果を振り返り、判断したことをより適したものに改善したりできるようにすることが重要である。児童が、様々な問いをもった後、必要な数量について考察し、数量を選択できるようにすることが大切である。数量の関係について図などを用いて考察し、見通しをもてるようにすること、状況の変化に伴って、判断し直せるようにすることも大切である。

(4) 中学校数学

①調査区分ごとに見た傾向

平均正答率

平均正答率は、全国に比べ 2.8 ポイント低い。

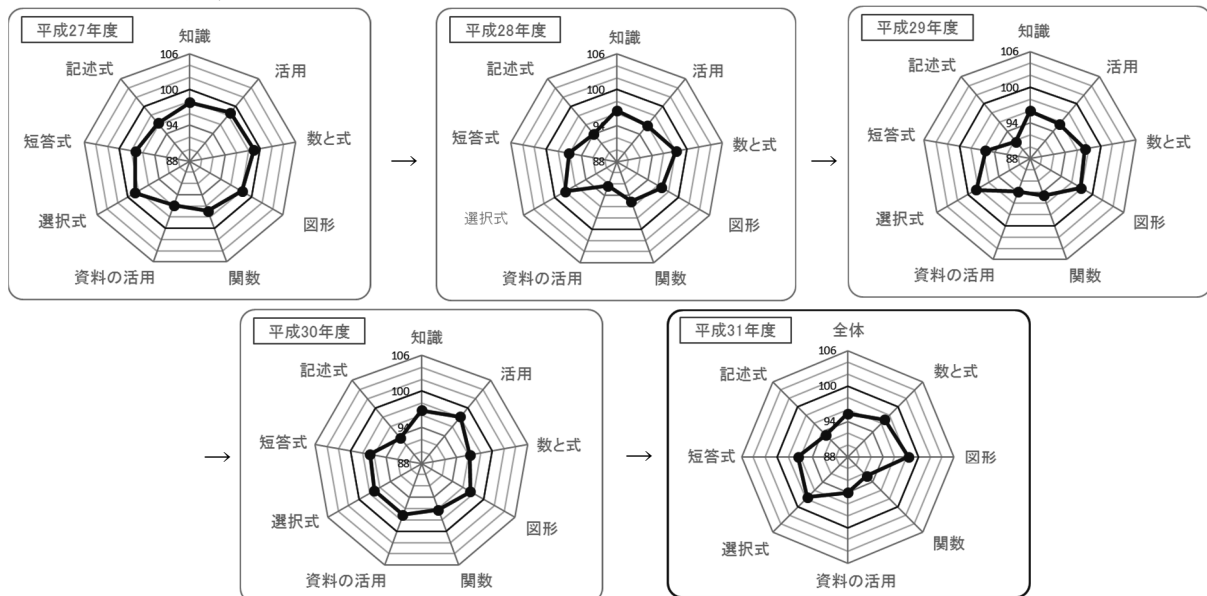
領域

全国を 100 とした時の指数に比べ、「関数」は 7.4 ポイント、「資料の活用」は 5.9 ポイント低い。「数と式」は、3.1 ポイント低い、昨年度と比較して 0.7 ポイント上昇し、「図形」は全国に比べ、1.7 ポイント低い、昨年度から 0.9 ポイント上昇した。

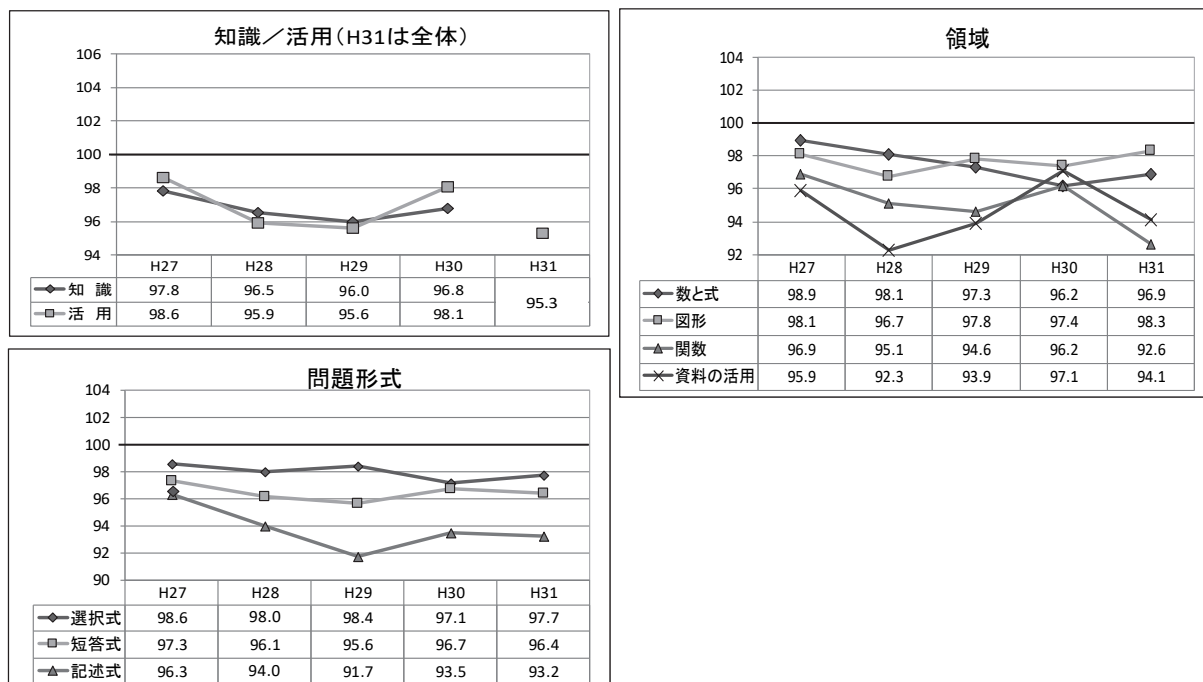
問題形式

指数では、「短答式」は 3.6 ポイント、「記述式」は 6.8 ポイント全国に比べて低い。「選択式」は、全国に比べ 2.3 ポイント低い、昨年度よりは 0.6 ポイント上昇した。

○チャートグラフ



○経年変化グラフ



② 成果と課題

全体的な状況	成果	◇ 領域別にみると「数と式」は指数で昨年度より0.7ポイント、「図形」は昨年度より0.9ポイント上昇した。 ◇ 生徒質問紙の「数学の勉強は大切だ」の質問において、肯定的な回答は8割を超え、必要性を感じているといえる。
	課題	◆ 事象の数学的な解釈と問題解決の方法に関する問題で、グラフの事象に即した解釈や事柄を調べる方法や手順を説明する設問において課題が見られ、正答率は4割に満たない。 ◆ 資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

数と式	◆数に関する性質を考察する場面で、見いだされた事柄について、事柄が成り立つ理由を説明することをみる設問【9(2)】(千葉57.0%、全国59.7%)は、無解答率は千葉21.4%、全国17.8%であり、課題として挙げられる。前の考察においての事柄と、条件を変えて考えている事柄をつなげるなど、統合的・発展的に考えることができるようにする指導が必要である。
図形	◇図形の性質を考察する場面において、図形の移動の特徴を的確に捉え、平行移動の意味を理解しているかをみる設問【3】は、相当数(正答率80%以上)の生徒ができています。 ◆図形の性質を考察する場面において、統合的・発展的に考察し新たに見いだした事柄を説明する設問【7(3)】(千葉51.9%、全国53.3%)は、無解答率は千葉20.6%、全国17.6%であり、課題として挙げられる。事柄を数学的に表現させるために、同じ結論が成り立つような前提を考察したり、問うたりして、論理的に考えを進めながら新たな知識を習得できるようにすることが大切である。
関数	◆関数を用いて事象を捉え考察する場面において、事象に即して解釈したことを数学的に表現し、反比例の表から、xとyの関係を式で表すことができるかどうかをみる設問【4】(千葉44.5%、全国48.9%)は、無解答率は千葉13.3%、全国10.4%であり、課題として挙げられる。 ◆日常生活や社会の事象を考察する場面で、与えられた情報を読み、数学的に表現したことを事象に即して解釈することができるかどうかをみる設問【6(1)】(千葉38.2%、全国38.8%)は、課題として挙げられる。 ◆事柄を調べる方法や手順を説明する設問【6(2)】(千葉30.9%、全国34.7%)は、無解答率が千葉14.2%、全国11.6%であり、課題として挙げられる。他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を自ら振り返ったりする上で、方法や手順を的確に記述したり、伝えあったりすることが大切である。
資料の活用	◆資料に基づいて不確定な事象を考察する場面において、表を活用して、数学的に処理することができるかどうかをみる設問【8(1)】(千葉54.8%、全国57.9%)は、無解答率は千葉12.9%、全国10.6%であり、課題として挙げられる。 ◆資料に基づいて不確定な事象を考察する場面において、数学的な結果に基づいて判断することができるかどうかをみる設問【8(2)】(千葉35.7%、全国40.8%)は、無解答率が千葉26.0%、全国21.3%であり、課題として挙げられる。ある事柄が成り立つ理由を数学的に説明する際、説明の対象となる成り立つ事柄を明確にした上で、その根拠を指摘させるような指導が大切である。

③ 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域〕 学習指導要領の領域

「数」 数と式 「図」 図形 「関」 関数 「資」 資料の活用

〔評価の観点〕

「考」 数学的な見方や考え方 「技」 数学的な技能

「知」 数量や図形などについての知識・理解

〔問題形式〕

「選」 選択式 「短」 短答式 「記」 記述式

△ (良好) : 全国との差 3.0 ポイント以上
▼ (課題あり) : 全国との差 3.0 ポイント以上

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	学習学年	評価の観点	(参考)		問題形式	正答率			無解答率	
							「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県(公立)	全国との差		千葉県(公立)	全国との差
1		a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	数	1	知	○	○	選	61.5	-0.7		0.2	0.0
2		連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	数	2	技	○	○	短	67.9	-2.2		5.9	0.8
3		$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める	平行移動の意味を理解している	図	1	知	○	○	短	82.1	-1.5		0.8	0.1
4		反比例の表から式を求める	反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる	関	1	技	○	○	短	44.5	-4.4	▼	13.3	2.9
			H21 A10(2)							37.8	-3.3	▼	23.1	1.9
5		2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる	資	2	技	○	○	短	70.9	-1.9		3.8	0.5
6	(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pの y 座標と点Qの y 座標の差が表すものを選ぶ	グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる	関	2	考		○	選	38.2	-0.6		0.3	0.0
	(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関	2	考		○	記	30.9	-3.8	▼	14.2	2.6

※平成21年度は抽出調査の結果である。

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域	学 習 学 年	評 価 の 観 点	(参考)		問 題 形 式	正答率			無解答率		
							「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差	
7	(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	図	2	知	○	○	短	74.4	-1.4		5.8	0.6	
	(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	反例の意味を理解している	図	2	知	○	○	選	76.5	-0.7		0.6	0.1	
	(3)	四角形A B C Dがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	図	2	考		○	記	51.9	-1.4		20.6	3.0	▼
8	(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる	資	1	知	○	○	短	54.8	-3.1	▼	12.9	2.3	
	(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	資	1	考		○	記	35.7	-5.1	▼	26.0	4.7	▼
	(3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ	問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる	資	1	考		○	選	50.5	-3.1	▼	1.3	0.3	
9	(1)	説明をよみ、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	数	2	考		○	短	54.7	-2.7		11.8	2.3	
	(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる	数	2	考		○	記	57.0	-2.7		21.4	3.6	▼
	(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選ぶ	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる	数	2	考		○	選	67.7	-1.9		2.4	0.5	

中学校・数学【課題の見られた設問の例】

4	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
	関数を用いて事象を捉え考察する場面において必要な「事象に即して解釈したことを数学的に表現すること」「反比例の表から、 x と y の関係を式で表すこと」ができる	県	差
		44.5	-4.4

※「差」は、全国平均との差を示している。

4 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。 y を x の式で表しなさい。

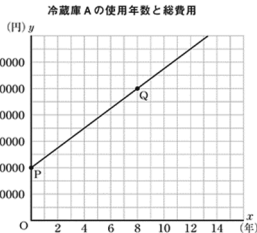
x	$\cdots$	-3	-2	-1	0	1	2	3	$\cdots$
y	$\cdots$	2	3	6		-6	-3	-2	$\cdots$

○第1学年の指導内容である。正答は「 $-6/x$ 」である。誤答としては、「 $-6x$ 」などとした割合は、本県では12.3%である。また、反比例の関係が「 $y=a/x$ 」の式で表されることを理解していない生徒が25.3%いると考えられる。

○学習指導に当たっては、表、式を関連付ける活動を取り入れ、反比例における比例定数や対応の特徴を捉えさせたり、その比例、反比例の関係を表、式、グラフを用いて表現させたりしながら指導することが大切である。

[6](1)	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
		県	差
		38.2	-0.6

(1) 冷蔵庫Aを購入して x 年間使用するときの総費用を y 円とします。この x と y の関係を、健太さんは次のような一次関数のグラフに表しました。



- ア 本体価格
イ 使用年数
ウ 1年間あたりの電気代
エ 購入してから8年間の電気代
オ 購入して8年間使用するときの総費用

○第2学年の指導内容である。正答は「エ」である。誤答としては、「オ」を選んだ生徒が本県では、45.0%いる。この誤答から、「点Pの y 座標と点Qの y 座標の差が、冷蔵庫Aを使用するときの総費用を表す」と誤って捉えた生徒がいると考えられる。

○学習指導に当たっては、問題解決において用いたグラフ上の2点の y 座標の差(増加量)を事象に即して解釈する活動を取り入れることで、グラフを事象に即して解釈できるようにすることが大切である。

6(2)	問題の概要・趣旨 事象（２つの総費用が等しくなる使用年数）を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
		30.9	-3.8	14.2	+2.6

(2) 健太さんが作った表で、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、冷蔵庫を購入して x 年間使用するときの総費用を y 年として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」

お姉さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」

健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおおよその使用年数を考えます。下のA、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。A、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

健太さんが作った表

	冷蔵庫 A	冷蔵庫 B	冷蔵庫 C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1 年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円

$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + \left(\frac{\text{1年間あたりの電気代}}{\text{使用年数}} \right) \times (\text{使用年数})$$

○第2学年の指導内容である。正答は「ア」を選択し「(a) 方程式を解いて、使用年数の値を求めること」について記述しているもの、または「イ」を選択し「(b) グラフの交点の座標から、使用年数の値を読み取ること」について記述しているものである。

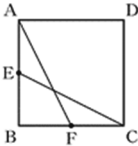
○学習指導に当たっては、「用いるもの」(表、式、グラフ)を明確にし、その「使い方」(交点の座標を読み取る、方程式を解いて値を求めるなど)を数学的な表現を用いて説明する活動を重ねることが大切である。

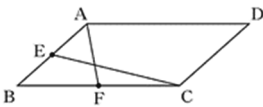
7(3)	問題の概要・趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
	結論（AF＝CE）が成り立つための前提（四角形ABCDがどのような四角形か）を考え、新たな事柄を見いだし、説明することができる	県	差	県	差
		51.9	-1.4	20.6	+3.0

(3) 真由さんは、これまでに調べたことを、次のようにまとめました。

まとめ

- ◎「正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、AF＝CEになる。」ということが成り立つ。


- ◎「平行四辺形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、AF＝CEになる。」ということが成り立たない。



まとめから、「四角形 ABCD が正方形ならば、AF＝CE になる。」ということが成り立つことと、「四角形 ABCD が平行四辺形ならば、AF＝CE になる。」ということが成り立たないということがわかります。

正方形でない四角形で、AF＝CE になる四角形 ABCD を考えます。四角形 ABCD がどんな四角形ならば、AF＝CE になりますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

- 第2学年の指導内容である。正答は、「○○ならば、◇◇になる」という形で、(a)、(c)または(b)、(c)の条件を満たし、成り立つ事柄を記述しているものである。
- (a) ○○が、「四角形ABCDがひし形」
- (b) ○○が、「四角形ABCDがAB＝BCの四角形」
- (c) ◇◇が、「AF＝CE」
- 学習指導に当たっては、一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件や過程を見直したり、共通する性質を見いだしたりして、様々な図形においても成り立つ事柄を確認する場面の設定が大切である。

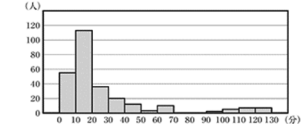
8(2)	問題の概要・趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
	資料の傾向を的確に捉え、判断（考えが適切ではない）の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	県	差	県	差
		35.7	-5.1	26.0	+4.7

(2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0

桃子さんが作ったヒストグラム



二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話合っています。

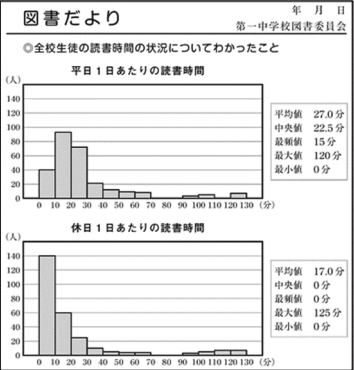
- 航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」
- 桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

- 第1学年の指導内容。正答例は、「1日当たりの読書時間である26分は、山の頂上にはない(度数の最大である階級に含まれていない)ので、1日に26分位読書をしている生徒が多いというのは適切ではない」である。
- 学習指導に当たっては、生徒が着目している点（ヒストグラムの形状、複数の階級の度数の大小関係など）や生徒の思考を把握することが大切である。

8(3)	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
	問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきか(わかったことの根拠となる値として適切なもの)を判断することができる	県	差
		50.5	-3.1

図書だよりの下書き



- 平日は、270人の半数以上の生徒の読書時間が20分以上です。
- 休日は、270人の半数以上の生徒の読書時間が0分です。

このことは、図書だよりの下書きにある平日1日あたりの読書時間と休日1日あたりの読書時間の、ある値に着目することでわかります。その値が、下のアからオまでの中にあります。それを1つ選びなさい。

- ア 平均値
- イ 中央値
- ウ 最頻値
- エ 最大値
- オ 最小値

- 第1学年の指導内容である。正答は「イ」である。解答類型から見る誤答の傾向は、中央値と、平均値や最頻値を混同して捉えていることであると考えられる。
- 学習指導に当たっては、代表値の意味を理解し、目的に応じて資料の特徴を表す代表値について検討し、どの代表値を用いるべきかを判断することが重要である。データの分析後、データの分布の傾向や代表値などの値を事象に即して解釈することが大切である。

9(1)	問題の概要・趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
		54.7	-2.7	11.8	+2.3

9 拓斗さんと若菜さんは、連続する3つの奇数の和がどんな数になるかを調べています。

1, 3, 5のとき $1 + 3 + 5 = 9 = 3 \times 3$
 5, 7, 9のとき $5 + 7 + 9 = 21 = 3 \times 7$
 13, 15, 17のとき $13 + 15 + 17 = 45 = 3 \times 15$

拓斗さんは、これらの結果から次のことを予想しました。

予想1

連続する3つの奇数の和は、中央の奇数の3倍になる。

上の予想1がいつでも成り立つことは、次のように説明できます。

説明1

n を整数とすると、連続する3つの奇数は、
 $2n+1$, $2n+3$, $2n+5$ と表される。
 それらの和は、
 $(2n+1) + (2n+3) + (2n+5)$
 $= 2n+1 + 2n+3 + 2n+5$
 $= 6n+9$
 $= 3(2n+3)$
 $2n+3$ は中央の奇数だから、 $3(2n+3)$ は中央の奇数の3倍である。
 したがって、連続する3つの奇数の和は、中央の奇数の3倍である。

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 説明1では、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ と変形しています。このように変形するのは、次のことを示すためです。①に当てはまる式と、②に当てはまる数を書きなさい。

連続する3つの奇数 $2n+1$, $2n+3$, $2n+5$ の和が、中央の奇数を表す式である①の②倍であること。

○第2学年の指導内容である。正答は、「① $2n+3$ 」「②3」と解答しているものである。解答類型からみた誤答の傾向は、式を変形する目的について「3倍である」ということは捉えられたが、「中央の奇数の3倍である」とことは捉えられなかったことであると考えられる。このように考えた生徒が本県では22.9%いた。

○学習指導に当たっては、予想が成り立つことを説明する際の式の変形は、説明すべき事柄に照らし合わせて行うことが重要である。生徒に変形の目的を捉えさせるために生徒が立てた予想を振り返って確認させることも大切である。

9(2)	問題の概要・趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
		57.0	-2.7	21.4	+3.6

(2) 二人は、連続する4つの奇数や5つの奇数の和について考えることにしました。若菜さんは、連続する5つの奇数には中央の奇数があることから、中央の奇数に着目して連続する5つの奇数の和について調べました。

1, 3, 5, 7, 9のとき $1 + 3 + 5 + 7 + 9 = 25 = 5 \times 5$
 3, 5, 7, 9, 11のとき $3 + 5 + 7 + 9 + 11 = 35 = 5 \times 7$

若菜さんは、これらの結果から次のことを予想しました。

予想2

連続する5つの奇数の和は、中央の奇数の5倍になる。

上の予想2がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

n を整数とすると、連続する5つの奇数は、
 $2n+1$, $2n+3$, $2n+5$, $2n+7$, $2n+9$ と表される。
 それらの和は、
 $(2n+1) + (2n+3) + (2n+5) + (2n+7) + (2n+9)$
 $=$

○第2学年の指導内容である。正答の条件は、以下の(a)、(b)または(c)、(d)、(e)について記述していることである。
 〈 $5(2n+5)$ と計算している場合〉
 (a) $2n+5$ は中央の奇数だから、
 (b) $5(2n+5)$ は中央の奇数の5倍である。
 〈 $10n+25$ と計算している場合〉
 (c) $10n+25$ が $2n+5$ の5倍になることを示している
 (d) $2n+5$ は中央の奇数だから、
 (e) $10n+25$ は中央の奇数の5倍である。

○事柄が一般的に成り立つ理由を文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明することに課題がある。学習指導に当たっては、生徒自身に成り立つ事柄を予想させ、それが一般的に成り立つことを、予想をもとに文字式の変形によって説明させる活動を充実させることが大切である。

○連続する3つの奇数の和について考察した後、生徒が自分で条件を変えるなどして、帰納的に考えることで成り立つ事柄について予想させる。予想した事柄について演繹的に考えることで予想した事柄が一般的に成り立つことを説明する場面を設けることが大切である。

○本問全体の学習指導に当たって、統合的・発展的に考察することができるようにする。

「読書時間の傾向を捉えて説明しよう」

～データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する～

日常生活や社会の問題を統計を使って解決する場面では、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することが大切です。しかし、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を客観的な表現を用いて説明することに課題がみられました。そこで、本授業アイデア例では、読書時間について傾向を捉え説明するために、その集積を統計的な表現や処理を用いて説明できるようにする指導事例を紹介します。

授業アイデア例

前の時間には、実施したアンケートを集計し、読書時間について表とヒストグラムに整理しました。作成した表とヒストグラムから、生徒の読書時間の傾向について説明しましょう。

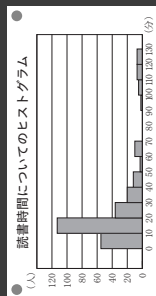
1. 1日あたりの読書時間に注目して、生徒の読書時間の傾向について考える。



1日あたりの読書時間について、どのような特徴があるといえそうですか。
調べたことを基に発表してみましょう。

1日あたりの読書時間について特徴を調べよう

読書時間についての表			
	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0

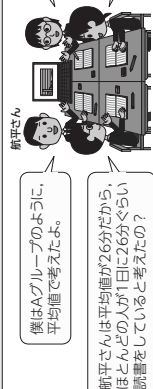


Bグループの発表

ヒストグラムを見ると、読書時間が20分未満の人が多いけれど、90分以上の人はいません。

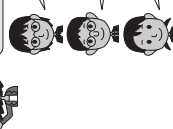


それでは2つのグループの発表した内容について検討してみましょう。



様子

平均値が26分だから、26分ぐらい読書をしている人が多いと判断してよいでしょうか。



ヒストグラムを見ると、10分以上20分未満の階級の度数が大きいから、26分ぐらい読書をしている人が多いとはいえないと思います。

僕もいえないと思います。なぜなら、ヒストグラムが左側に偏っているからです。

平均値である26分を含んだ階級の位置やその大きさを比較して説明しないといけないんじゃないかな。

課題の見られた問題の概要と結果

8 分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること (図書たより)

8 (2) 正答率 41.0 %
「1日に26分ぐら読書をしている生徒が多い」という考えが適切でない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。



そうですね。ヒストグラムの特徴を基に「1日に26分ぐら読書をしている人が多」といえない理由を、平均値である26分を含んだ階級の位置やその大きさを基に説明することではないでしょうか。



10分以上20分未満のところが、ヒストグラムの山の一番高いところから説明できそうです。



平均値の26分が含まれる階級よりも、10分以上20分未満の階級の方が度数が大きいことから説明できそうです。



それでは、「1日に26分ぐら読書をしている生徒が多い」といえない理由を、もう一度まとめてみましょう。

様子

1日あたりの読書時間である26分は山の頂上の位置ではないので、1日に26分ぐら読書をしている生徒が多いという考えは適切ではありません。

様子

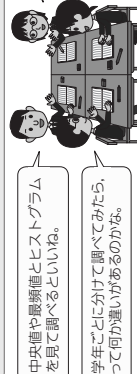
最初は平均値から26分ぐらが多いと想っていたが、ヒストグラムをみると1日あたりの読書時間である26分が含まれる階級は、度数が最大となる階級ではないので、1日に26分ぐら読書をしている生徒が多いという考えは適切ではないことがわかりました。



様子と航平さんがまとめたことから、データの分布の様子を読み取る際には、ヒストグラムの階級の位置やその大きさを着目して考えることが大切であることが伝わりますね。



1日あたりの読書時間の傾向について調べてきました。1日あたりの読書時間について、さらに調べてみたいことはありますか。



データを学年ごとに分けて調べてみたら、学年によって何か違いがあるのかな。

中央値や最頻値とヒストグラムを見て調べるといいね。

階級の幅を変えたら、データの分布の様子は変わるのかな。
データを平日と休日に分けて調べてみるのもいいね。

本授業アイデア例 活用のポイント!

- 集めたデータを整理して、それを基に分布の傾向を読み取り、事象について批判的に考察し判断する機会を設け、その理由について説明し合う場面を設定することが考えられる。その際、自分が判断した事柄とその根拠を、データの分布の特徴を捉えて説明したり、代表値を用いて説明したりできるようにすることが大切である。
- 統計的な解釈や判断を繰り返す場面を設定し、多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだそうとする態度を養うことが大切である。

参照 ▶ 「平成31年度 (令和元年度) 報告書 中学校 数学」P45 ～ P55, 「平成31年度 解説資料 中学校 数学」P40 ～ P49

(5) 中学校英語

① 調査区分ごとに見た傾向

平均正答率

平均正答率は、全国に比べ 1.0 ポイント低い。

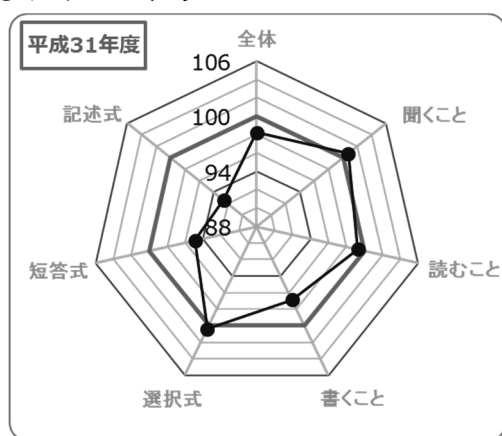
領域

全国を 100 とした時の指数に比べ、「聞くこと」が 0.7 ポイント高く、「読むこと」は 0.7 ポイント、「書くこと」は 3.1 ポイント低い。

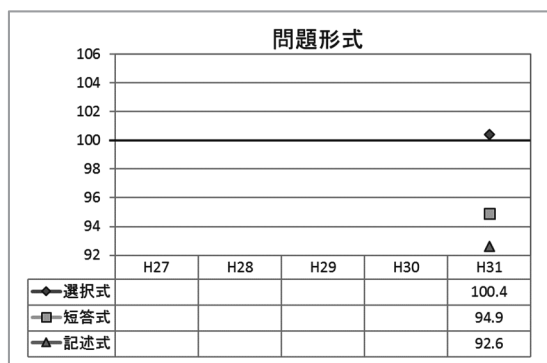
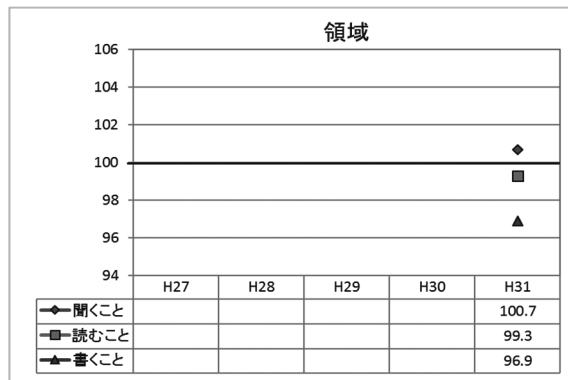
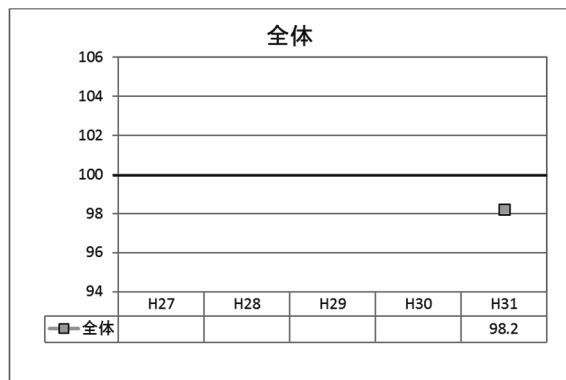
問題形式

指数では、「選択式」が 0.4 ポイント高く、「短答式」は 5.1 ポイント、「記述式」は 7.4 ポイント低い。

○チャートグラフ



○経年変化グラフ



② 成果と課題

全体的な状況	成果	◇ 情報を正確に聞き取ること、聞いて概要を理解することについて相当数の生徒ができています。 ◇ 生徒質問紙の「英語への関心等」への肯定的回答の割合は全国に比べ高い。
	課題	◆ 3人称単数現在形の文など、語や文法事項等を正しく用いて文を書くことや、与えられたテーマについて考えを整理して正しく内容を伝えることに課題がある。 ◆ 問題形式別にみると、全国に比べ、「短答式」、「記述式」が低く課題がある。また、「短答式」「記述式」のすべての設問において、無解答率が全国よりも高い。
聞くこと		◇ 情報を正確に聞き取る設問である【1(1)】(千葉91.3%、全国91.1%)及び【1(2)】(千葉88.4%、全国88.6%)、まとまりのある話の概要を理解できているか問う設問【3】(千葉82.4%、全国82.0%)は、相当数(正答率80%以上)の生徒ができています。 ◆ 聞いて把握した内容について英語で適切に応じる設問【4】(千葉7.7%、全国7.6%)は、全国を上回ったが、正答率は低い状況である。また、この設問の無解答率は千葉46.2%、全国42.3%で、本県では半数近くが無解答という状況である。聞いて理解するだけの活動ではなく、話し手の働きかけに対してどのような応答がふさわしいのか考えさせ、自分の考えや意見を表現させる活動を積み重ねることが大切である。
読むこと		◇ 日常的な話題について情報を正確に読み取る設問【5(1)】(千葉77.4%、全国79.4%)、【5(2)】(千葉73.7%、全国74.4%)、【5(3)】(千葉74.3%、全国73.1%)は、70%を超える生徒ができています。 ◆ まとまりのある文章を読んで書き手が最も伝えたい内容を選ぶ設問【7】(千葉34.3%、全国32.8%)及び資料を読んで文中に書かれた問いかけに対する自分の考えを書く設問【8】(千葉9.7%、全国10.9%)は、正答率が低い状況である。読む目的を理解させ、複数の情報の中から、書き手が最も伝えたいことは何かを考えさせる指導が大切である。また、英文の意味を理解するだけではなく、賛否や感想、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域間の統合的な言語活動に結び付けていくことが重要である。
書くこと		◇ 文の中で適切に接続詞ifを用いることができるか問う設問【9(1)①】(千葉78.5%、全国79.9%)及び一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができるか問う設問【9(2)①】(千葉73.1%、全国73.6%)は、70%を超える生徒ができています。 ◆ 与えられた情報に基づき3人称単数現在時制の肯定文・否定文を正確に書けるか問う設問【9(3)①】(千葉49.2%、全国53.5%)、【9(3)②】(千葉29.2%、全国32.9%)、【9(3)③】(千葉34.5%、全国37.4%)は、正答率が低く、課題がある。また、2つの案を比較してどちらがよいか理由とともに意見を書く設問【10】(千葉1.4%、全国1.8%)は正答率が2%未満で大きな課題がある。
話すこと		◆ 全国(国公立)において、すべての設問で正答率が50%未満となっている。特にやり取りを聞き、即興で質問をする設問【2】(全国10.5%)は、正答率が低く、無解答率も高くなっている。生徒同士が準備なしでやり取りをする機会を計画的・継続的に設定すること、教師が既習の文法事項を用いて生徒との即興的なやり取りを楽しむことが重要である。また、Teacher Talkなど大量の英語を与えることも必要である。

③ 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域〕 学習指導要領の領域

「聞」 聞くこと 「話」 話すこと

「書」 書くこと 「読」 読むこと

〔評価の観点〕

「関」 コミュニケーションへの関心・意欲・態度

「表」 外国語表現の能力 「理」 外国語理解の能力

「言」 言語や文化についての知識・理解

〔問題形式〕

「選」 選択式 「短」 短答式／口述式（話すこと）

「記」 記述式／口述式（話すこと）

：全国を下回るもの

△（良好）：全国との差3.0ポイント以上

▼（課題あり）：全国との差3.0ポイント以上

●聞くこと、読むこと、書くこと

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	評価の観点	(参考)		問題形式	正答率			無解答率	
						「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差
1	(1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	聞	言	○		選	91.3	0.2		0.1	-0.1
	(2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	聞	言	○		選	88.4	-0.2		0.1	0.0
	(3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	聞	言	○		選	74.0	1.7		0.1	-0.1
	(4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	聞	言	○		選	65.4	3.6	△	0.1	-0.1
2		イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	聞	理		○	選	69.3	-2.5		0.1	-0.1
3		天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	聞	理		○	選	82.4	0.4		0.1	-0.1
4		来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	聞	理		○	記	7.7	0.1		46.2	3.9 ▼

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域	評 価 の 観 点	(参考)		問 題 形 式	正答率			無解答率		
						「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差	
5	(1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	読	言	○		選	77.4	-2.0		0.1	-0.1	
	(2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	読	言	○		選	73.7	-0.7		0.2	0.0	
	(3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	読	言	○		選	74.3	1.2		0.4	0.0	
6		発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる	読	理		○	選	61.9	-1.0		0.5	0.1	
7		チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる	読	理		○	選	34.3	1.5		1.1	0.1	
8		食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる	読	理		○	記	9.7	-1.2		33.6	5.7	▼
9	(1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる	書	言	○		選	78.5	-1.4		0.3	0.0	
	(1) ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる	書	言	○		選	60.6	2.4		0.5	0.0	
	(2) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる	書	言	○		短	73.1	-0.5		5.1	0.7	
	(2) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる	書	言	○		短	28.6	-0.3		14.3	1.7	
	(3) ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	書	言	○		短	49.2	-4.3	▼	7.9	1.5	
	(3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	書	言	○		短	29.2	-3.7	▼	11.1	1.8	
	(3) ③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる	書	言	○		短	34.5	-2.9		12.2	1.7	

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域	評 価 の 観 点	(参考)		問 題 形 式	正答率			無解答率	
						「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差
10		学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる	書	表		○	記	1.4	-0.4		10.5	2.2

●話すこと

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域	評 価 の 観 点	(参考)		問 題 形 式	正答率		無解答率	
						「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		全 国 （※参考値）		全 国 （※参考値）	
1	(1)	カレンダーを見て、少女の誕生日を答える	月日に関する基本的な表現を理解して、応答することができる	話	言	○		短／口	27.3		8.6	
	(2)	テレビを見ている2人の子供の絵を見て、何をしているのか答える	基本的な文法（現在進行形）を理解して、応答することができる	話	言	○		短／口	44.7		6.6	
	(3)	バスで登校する少年の絵を見て、交通手段を答える	適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答することができる	話	言	○		短／口	25.7		7.0	
2		ユイコとアラン先生のやり取りを聞き、その内容を踏まえて会話が続いていくように、即興で質問をする	聞いて把握した内容について、やり取りすることができる	話	表		○	記／口	10.5		20.7	
3		海外のテレビ局の要望に応えて、自分の将来の夢、またはやってみたいこと等を話す	与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができる	話	表		○	記／口	45.8		4.6	

中学校・英語【課題の見られた設問の例】

4	問題の概要・趣旨 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる (聞くこと)	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
		7.7	+0.1	46.2	+3.9

※「差」は、全国平均との差を示している。

4 (放送問題)

英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

[スクリプト]

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

○正答は、You can try the judo club. など、部活動のアドバイスになっていて、理解できる英語で伝えたい内容が書かれているものである。本県では、Enjoy Japanese culture. など部活動についてのアドバイスになっていない解答が 28.3%、文法等に誤りがあり内容が理解できない解答が 14.7%となっている。英語を聞いて適切に応じる活動が日頃の授業であまり行われていないことが要因の1つと考えられる。

○学習指導に当たっては、「聞くこと」が目的をもって行う能動的な活動であることを念頭に置き、聞いて理解するだけの活動にしないことが大切である。話し手にどのような応答がふさわしいのか考えさせ、内容を踏まえて自分の考えや意見を表現させることが重要である。実際に聞いて応じる活動を積み重ね、体験的に身に付けさせていくことも必要である。

7	問題の概要・趣旨 まとまりのある文章を読んで説明文の大切な部分を理解することができる (読むこと)	正答率(%)	
		県	差
		34.3	+1.5

7 中学生の一郎は、スミス先生(Ms. Smith)と話しています。次の会話文の()内に入る最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

Ms. Smith: Ichiro, why don't you read this article? It's interesting.

Ichiro: Oh, thank you, but it's all in English. That's difficult for me.

Ms. Smith: This newspaper is for students. Try reading it!

Ichiro: OK.

[Ichiro reads the article.]

Chimpanzees are one of the smartest animals. They can do a lot of things. How smart are they? A team at a university in Japan found the answer. Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children in some ways.

Few animals can understand *janken*. In *janken*, none is the strongest among *rock*, *scissors*, and *paper*. Learning about the relation among the three is very difficult.

The team tried teaching *janken* to seven chimpanzees. They showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees. The chimpanzees got food when they pointed to the stronger one. Finally, five of the chimpanzees learned *janken*.

The team also tried teaching *janken* to some human children. They found that children could learn *janken* when they were about four years old. Through this study, they got the answer to the question: "How smart are chimpanzees?"

[A few minutes later]

Ms. Smith: What is the most important point in this article?

Ichiro: ().

Ms. Smith: Right. That is the main point.

(注) article: 記事 chimpanzee: チンパンジー four-year-old: 4歳の
few: ほとんどない none is ~: いずれも~ない among ~: ~の中で
rock, scissors, and paper: グー、チョキ、パー (じゃんけんの手の出し方)
relation: 関係 human: 人間の study: 研究

- 1 Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children
- 2 Few animals can understand *janken*
- 3 The team showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees
- 4 The team found that children could learn *janken* when they were about four years old

○正答は「1」である。誤答については、2が19.8%、3が25.4%、4が19.3%となっている。1~4は全て本文中に述べられている情報である。誤答の原因は、文章の内容が理解できていなかったり、How smart are they?という手掛かりを基に書き手が最も伝えたいことを判断できていなかったりしていることと考えられる。

○学習指導に当たっては、文章全体を漫然と読ませるのではなく、繰り返し用いられている語句や問いかけなどの手掛かりを基に、最も大切な語句や文を選ばせたり、各段落の働きを理解させたりすることが重要である。また、文章の最も大切な部分について意見交換をする活動も有効である。このような活動を行うには、日常的な話題にとどまらず、社会的な話題についての題材も扱うことが大切である。

8	問題の概要・趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
		9.7	-1.2	33.6	+5.7

8 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai*! We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

(注) the World Food Programme: 世界食糧計画 (国際連合の事業)
project: 事業 waste: ～を無駄にする rice ball: おにぎり
not only ～, but also …: ～だけでなく、…も

○正答は、「We don't waste the food in our school lunch.」など、具体的な解決策になっていて、理解できる英語で伝えたい内容が書かれているものである。We have to stop wasting food. など具体的な解決策になっていない解答が 36.9%となっている。このように解答している生徒は、内容を繰り返しているだけ、感想を述べているだけなど、解決策としての適切さに欠けており、資料の内容を十分にとらえられていないと考えられる。意見自体を持っていない解答をしている生徒は、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解することができていないと考えられる。また、語や文法に誤りがあり内容が理解できない解答が 17.9%となっている。

○学習指導に当たっては、読む目的に応じて要点を把握した上で、得られた複数の情報を総合的に判断し、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域間の統合的な言語活動を工夫することで、批判的な読み方を育てることが重要である。

9(3)	問題の概要・趣旨	正答率(%)		
			県	差
		①	49.2	-4.3
		②	29.2	-3.7
		③	34.5	-2.9

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Rome
③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

①

②

③



○正答は、3 人称単数現在時制の肯定文または否定文を正確に書いているものである。①では、問題の指示文を正しく理解できていない生徒や She from Australia. のように動詞の欠落などの語や文法事項等を理解していない生徒が 37.5%であった。②では動詞の活用形に誤りがある生徒が 16.6%、語や文法事項に誤りがある生徒が 21.5%、これらとは異なる誤りがある生徒が 21.1%であった。③では一般動詞の否定形や動詞の活用形に誤りがある生徒が 21.5%、語や文法事項に誤りがある生徒が 8.2%、これらとは異なる誤りがある生徒が 22.5%であった。3 人称単数現在時制の肯定文、否定文を正確に書くこと、基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことに課題がみられる。

○学習指導に当たっては、コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用させて文を書かせること、生徒の誤りについて生徒自身に考えさせるなどの指導を繰り返すことが大切である。具体的には、Show and Tell など、3 人称を扱った言語材料でやりとりすることを様々な場面で繰り返し行う活動、生徒同士で読み合い、誤りを修正するような活動に取り組んでいくことが重要である。

10	問題の概要・趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
		1.4	-0.4	10.5	+2.2

10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。



※ 短縮形（I'm や don't など）は1語と数え、符号（ , や ? など）は語数に含めません。
 (例) No. I'm not. 【3語】

○正答の条件は、①どちらの案がよいか1つ選んで意見を書いていること、②選んだ理由等について2つの案に触れながら書いていること、③25語以上の英語で書いていることである。誤答で多かったものは、条件③を満たさないで解答しているもの（29.5%）、条件を満たしているがコミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等に誤りがあるもの（29.3%）であった。この結果から、コミュニケーションに支障をきたすような誤りを修正することで改善が図られていくと考えられる。

○学習指導に当たっては、テーマについて自分の考えを持つことや、伝えたいことを読み手に正しく伝えるために語や文法事項等を正しく理解して書き表すことができるようにすることが必要である。さらに、文章構成や形式の指導も大切である。「話して書く」「読んで書く」等の領域を統合した指導、書くことを増やすための指導、I, You 以外の主語を用いて書く指導などを計画的・継続的に取り入れることが必要である。

「話すこと調査」

2	問題の概要・趣旨	正答率(%)	無解答率(%)
	聞いて把握した内容について、やり取りすることができる (話すこと)	全国（国公立）	
		10.5	20.7

ユイコ

あなた

アラン先生

大問2 あなたは、ユイコとアラン先生と話しています。まず、ユイコとアラン先生が、2人で話している場面から始まります。そのあと、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、会話が続いていくように英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは始めます。

A: Look at this picture of my family.

A: This is my favorite picture.
Y: Nice! Who is she?
A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.
Y: I see. What kind of work does your mother do?
A: She is a teacher.

A: Do you have any other questions about them?
(解答時間 20秒)

アラン先生が掲げている写真

アラン先生が掲げている写真

※「話すこと」調査結果は、英語（聞くこと、読むこと、書くこと）とは実施生徒数が異なるため「参考値」として集計しています。都道府県別、指定都市別の公表は行っていないので、ここで示している数値は、全国（国公立）のものとなります。

○正答は、「What does he cook?」など、正しく伝わる英語で、やり取りを踏まえた質問をしているものである。聞いた英語が十分に理解できなかったり、やり取りの英語をほとんど聞き取ることができなかったりした生徒が多かったと考えられる。誤答では、I'm hungry. Christmas chicken very good. など、やり取りを踏まえた内容を解答していないものが 33.5%であった。また、What your brother cook food?など、助動詞や動詞の欠落もみられた。

○学習指導に当たっては、準備時間を設けず、最初から即興性のあるやり取りや場面を設定することが重要である。日頃から継続的にやり取りをする機会を増やし、やり取りができる力を育てることが大切である。また、教師自身が生徒とやり取りをすることで、ストラテジー（会話を継続・発展させる方法）使用のモデルを示したり、既習の教科書を用いて、本文中の会話にどのようなストラテジーが使われているかを生徒に振り返らせたりすることも有効である。

— 51 —

英語

TYPE
L

話すこと②

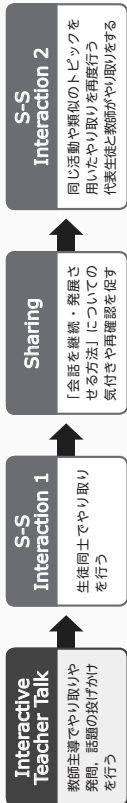
「即興で伝え合う力を高めよう」

～聞いて把握した内容について、やり取りをする～

情報や考えを即座にやり取りしたり、相手の発言の内容を踏まえてそれに関連した質問や意見を述べたりして、会話を継続させていくことに課題が見られました。そこで、本授業アイデア例では、①教師が会話を継続・発展させるためのモデルを見せるInteractive Teacher Talkの活動事例と、②教科書の対話文を基に「会話を継続・発展させる方法」について考える活動事例を紹介します。

授業アイデア例

【言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する学習の流れ】



※「中学校外国語：移行期間における指導資料」参照

①教師が会話を継続・発展させるためのモデルを見せる Interactive Teacher Talk の活動事例

いさぎよい質問をするのではなく、教師自身のことを語る

最初の成否を受けてやり取りを継続させる（一人一人の生徒の反応を大切に取上げる）

やり取りを中断しないように、生徒の意図をとらえて英語で応答する

英語が苦手な生徒には、一文が長くならないように切ったり、ポーズを十分に取ったりして伝える

やり取りを継続・発展させるが話の元に戻す
既習の三単現など、やり取りを妨げない程度に強調して発話する

① 他の生徒に質問を促す
（他の生徒がやり取りに耳を傾ける工夫の1つ）

② 最後の場面では、再度同じ生徒に最初の質問を振ることもできる

Yuma ... Sleeping?

... No ... cat, ... cat!

Keep ... 飼ってる? Oh, yes. I keep two ... ah ... no, three cats.

Ah... yes! My cat ... Leo, he is very young. He like ... tennis ball.

Yes, he likes ... a tennis ball. My sister can talk with Leo!

① Yuma, can Leo understand English?

② Ah, OK. I have ... three cats in my house. My cat Leo likes a tennis ball. I can ... I can play with Leo ... in my free time!

課題の見られた問題の概要と結果

話すこと② 即興でやり取りをする

正答率 10.5 %
（参考値）

学習指導要領における領域・内容

言語活動
イ 話すこと (9)

②教科書の対話文を基に「会話を継続・発展させる方法」について考える活動事例

対話文をクラスに提示し、気付かせたい表現に下線を引いたり、空欄にしたりして生徒が考える場面を設定する

My Favorite Picture
Alan 先生が、お気に入りの写真を Yuiko と Ken に紹介しています。

A: Look at this picture of my family.
Y: Nice! Who is she?
A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.
Y: I see. [1]
A: She is a teacher. Do you have any other questions about them?
K: [2]

※本課「話すこと」大問2の英文と教科書の対話文の代わりに使用

Yuikoは黙っていないで反応しているよ。相手からリアクションがあるといいね。更に質問しているから話が続いていくね。

Look at Blank 1. What is Yuiko saying? Look at Blank 2. What is Ken saying? Do you have any ideas?

「1」の後にAlan先生が「She is a teacher」と答えているから、職業を尋ねているのかな。
「2」は... any other... であるから... 「ほか」に... ということかな。じゃあ、それまでに聞いていないことを質問しないといけないから... What subject does your mother teach? などどう?

本授業アイデア例 活用のポイント!

- ① 教師が会話を継続・発展させるためのモデルを見せる Interactive Teacher Talk の活動事例
 - 教師が生徒とやり取りを繰り返す、意味のある言葉のやり取りを十分に聞かせることが重要である。生徒の成否をGoodやRightなどのコメントで終わらせず、関連した質問をしたり、質問を促したり、教師自身の意見や感想を伝えたりする。
 - 教師が会話を継続・発展させる方法を用いて、やり取りのモデルになる。文法や語彙への意識はもたせながら、やり取りの流れが失われないようにする。
 - 活動にリトライさせる。類似の活動に再挑戦できる場面を設定し、生徒が会話を継続・発展させる方法を意識して、即興的なやり取りに自信をもって取り組めるようにする。
- ② 教科書の対話文を基に「会話を継続・発展させる方法」について考える活動事例
 - 既習の教科書の対話文をうまく活用する。意味や内容、場面を理解した既習の英文を扱うことで、生徒が、会話を継続・発展させる働きや会話の流れに注目して活動に取り組むことができる。
 - 生徒がペアやグループで話し合う場面を設定する。教師が最初から説明せず、生徒同士で話し合い、会話の流れや既習表現の働きに関する理解を促す。

参照▶「平成31年度（令和元年度）報告書 中学校 英語 P76～P80」「平成31年度 解説資料 中学校 英語 P58～P60

※「中学校外国語：移行期間における指導資料（小中接続・常活動）」

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/07/23/1414464_2.pdf

右のQRコードからEPDFファイルへアクセス可能



Ⅱ 結果の詳細

Ⅱ 結果の詳細
2 質問紙調査

2 質問紙調査

全国学力・学習状況調査結果チャート（９、１０ページ参照）における各領域について、それぞれに該当する質問事項の中で顕著な特徴の見られるものを取り上げ分析した。さらに、「家庭学習の充実に向けて」「主体的・対話的で深い学びの充実に向けて」「指導改善サイクルの確立を目指して」等に関わる質問事項については、７４ページ以降に詳述した。主に平成３１年度調査結果を中心に、質問事項によって経年変化や回答結果と正答率の関連及び散布図を活用した。

※以下の「肯定的回答」とは、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」、「よく行った、どちらかといえば行った」など肯定的な選択肢を選択した割合の合計である。

※表中の、「全国との差」欄の、は全国を下回ることを示しており、△は全国との差が５.０ポイント以上あり良好であるもの、▼は全国との差５.０ポイント以上あり課題があるものであることを示している。

※「散布図」は、各都道府県の肯定的回答の割合について、児童・小学校を横軸に、生徒・中学校を縦軸に対応させ、○印で示したものである。（■は千葉県、▲は全国平均を示している。）

２ 質問紙調査

（１）児童生徒質問紙調査

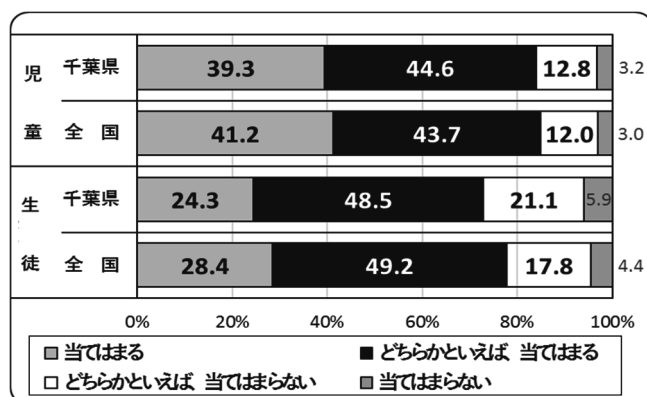
① 学習に対する関心・意欲・態度

ア 国語への関心等

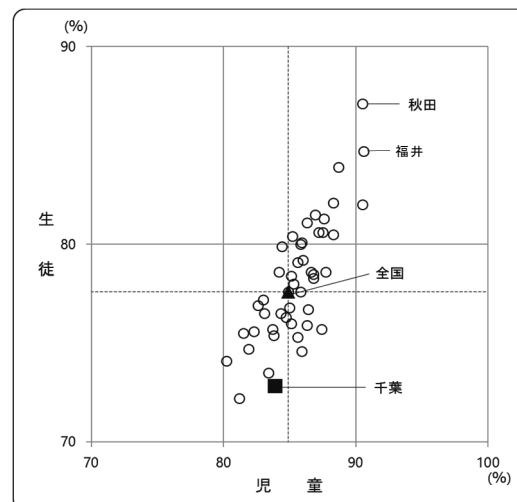
質問番号		質 問 事 項	児童(肯定的回答)		生徒(肯定的回答)	
児童	生徒		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
37	40	国語の勉強は好きですか	64.8	0.6	58.2	-3.5
38	41	国語の勉強は大切だと思いますか	92.0	-1.0	89.5	-1.5
39	42	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.9	-1.0	72.8	-4.8
40	43	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.5	-0.7	85.4	-2.6
41	44	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	76.3	-0.6	69.8	-1.8
42	45	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	75.7	-2.4	73.7	-3.7
43	46	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由（根拠）を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	66.4	-2.1	60.8	-3.6
44	47	国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	68.2	-3.2	65.8	-2.6
45	48	国語の問題のうち、解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか	78.0	-2.4	76.1	-3.7

児 39
生 42 国語の授業の内容はよく分かりますか

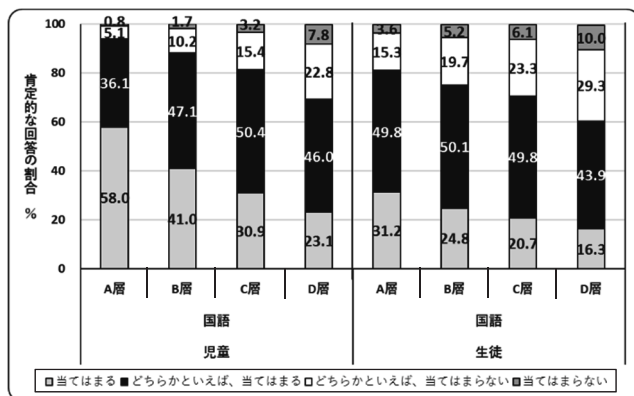
【平成３１年度調査結果】



【散布図】



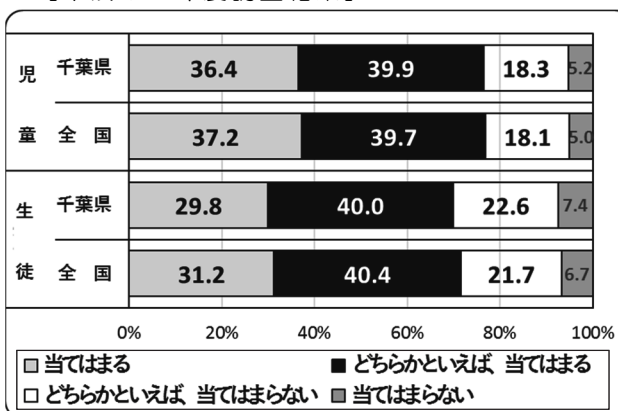
【児童生徒の回答と四分位の関連】



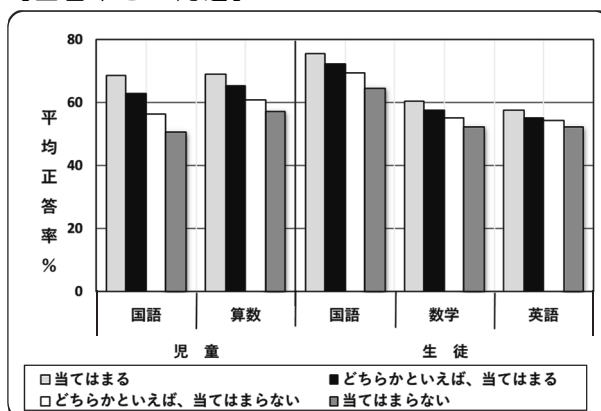
肯定的回答の割合からは、中学進学後の国語の学習に困難を感じている生徒が全国に比べ多いことが分かる。四分位との関連をみると、正答数の多かったA、B層においても、授業がよく分かるという実感を伴っていない生徒が一定数いることがうかがえる。中学1年次から、具体的な学習方法の指導や、授業のねらいを明確に示すことなど、生徒の学習を軌道に乗せていく支援が必要である。

児 41 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり
生 44 読んだりするときに活用しようとしていますか

【平成31年度調査結果】



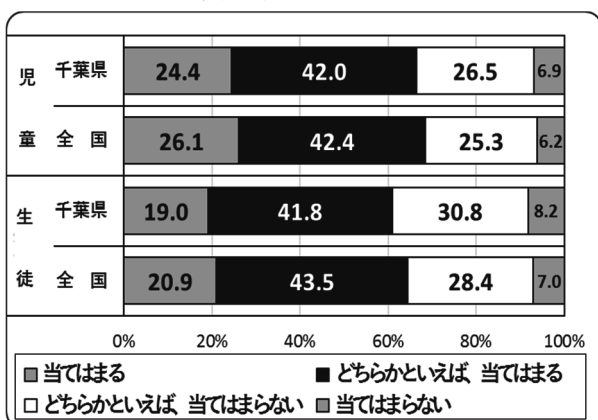
【正答率との関連】



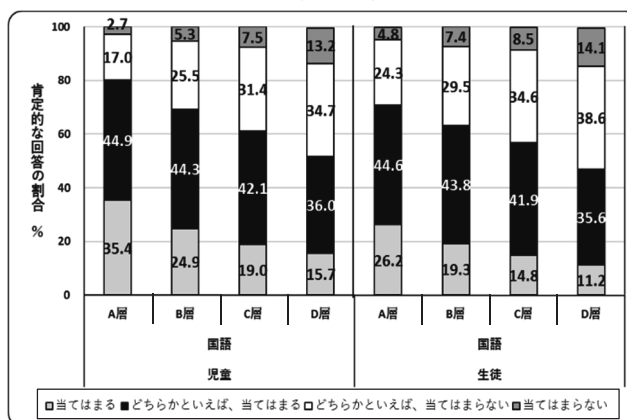
【小2二】(疑問に思ったことを調べる)や【中1四】(封筒の宛名を書く)などの設問で求められていたような、単なる知識としてではない、実生活の場面で生きて使える力を児童生徒に身に付けさせることが必要である。「授業アイディア例」等を活用しながら児童生徒が必要を感じて取り組める場面を設定し指導することが効果的である。

児 43 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由
生 46 〔根拠〕を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか

【平成31年度調査結果】



【児童生徒の回答と四分位の関連】



児童生徒ともに肯定的回答の割合が全国に比べて低い。全国調査では、調べて分かったことを根拠を明確にして書くこと【小1三】や、文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えを持つこと【中1一】が課題となっている。

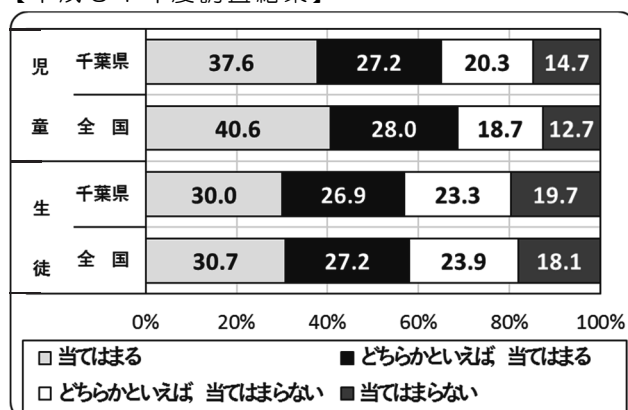
四分位との関連を見ると、A層やB層でも話したり書いたりする際の文章の構成に習熟していない様子がうかがえることから、低学年次から系統的に指導する必要がある。

イ 算数・数学への関心等

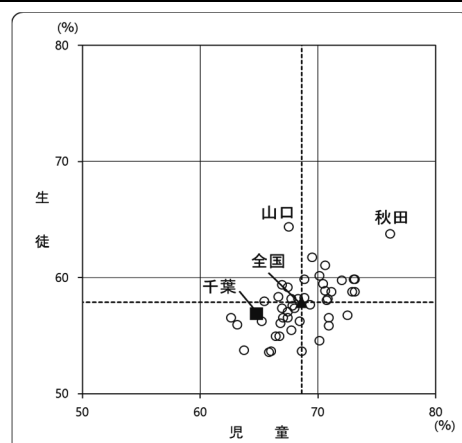
質問番号	児童 生徒	質 問 事 項	児童(肯定的回答)			生徒(肯定的回答)		
			千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
46	49	算数(数学)の勉強は好きですか	64.8	-3.8		56.9	-1.0	
47	50	算数(数学)の勉強は大切だと思いますか	92.2	-1.5		82.2	-2.0	
48	51	算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか	80.4	-3.1		70.6	-3.3	
49	52	算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.4	-1.1		73.7	-2.5	
50		算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	75.5	-1.0				
51		算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	76.7	-2.4				
52		算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	79.6	-2.4				
53		算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	80.9	-1.2				
54		算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	82.9	-1.1				
55		算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	85.1	-1.9				
56	53	算数・数学の問題のうち、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、どのように解答しましたか	78.1	-2.6		56.1	-4.7	

児 46 生 49 算数・数学の勉強は好きですか

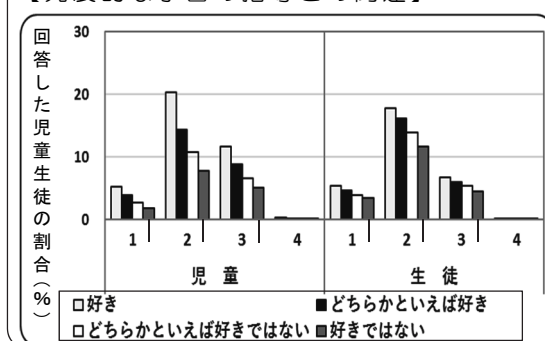
【平成31年度調査結果】



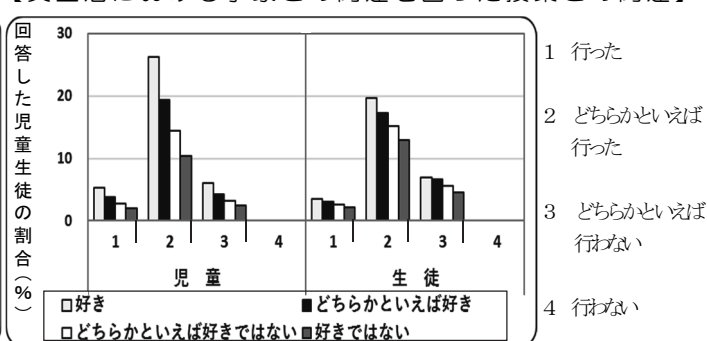
【散布図】



【発展的な学習の指導との関連】



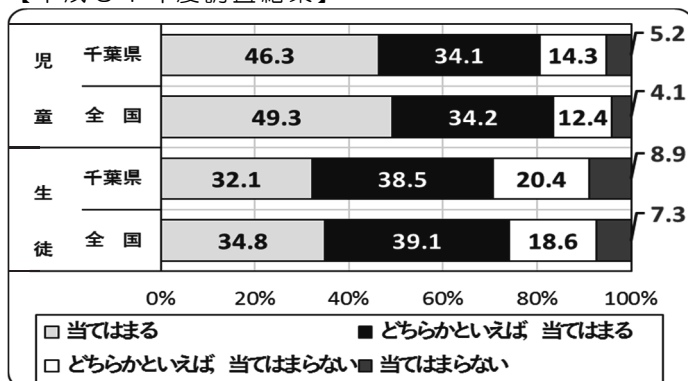
【実生活における事象との関連を図った授業との関連】



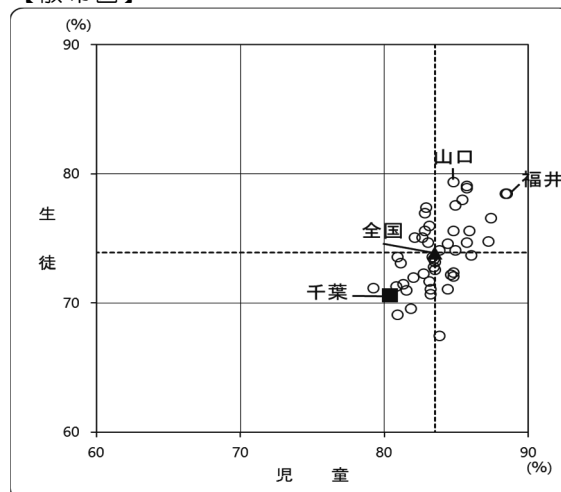
肯定的回答の割合は、児童は全国と比べて3.8%低く、生徒は1.0%低い。算数・数学を好きな児童の割合は、発展的な授業や実生活における事象との関連を図った授業を行うほど高くなっている。授業に取り入れる教材としては、児童生徒の実生活に即した素材の方が関心を高められると言える。また、児童の方が、実生活に即したものを取り入れる効果が表れやすいといえる。

児 48 生 51	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか
--------------	----------------------

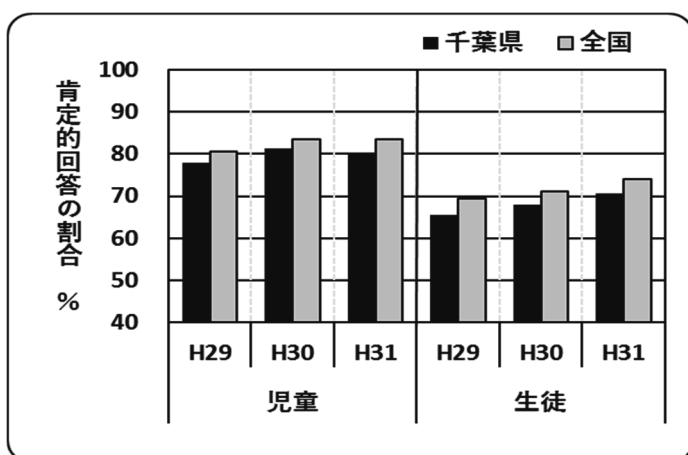
【平成 31 年度調査結果】



【散布図】



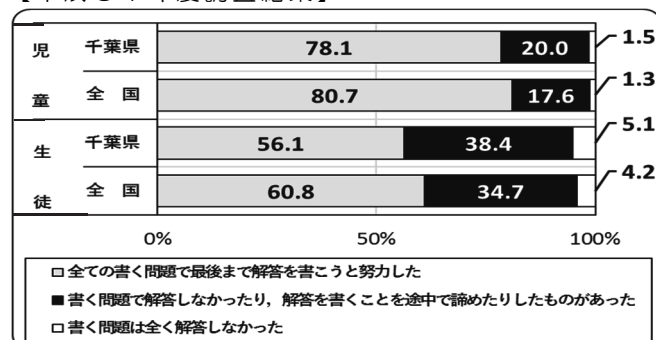
【経年変化】



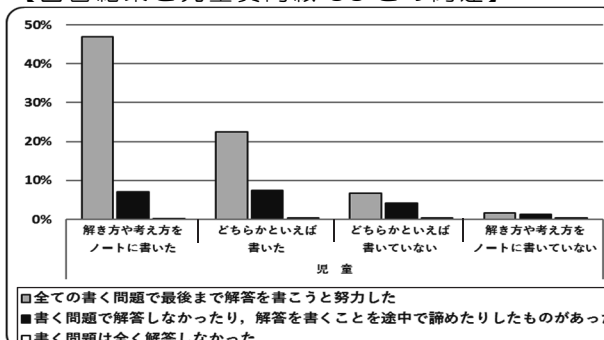
肯定的回答の割合について、児童は 80%、生徒は 70%を超えているが、全国の中ではどちらも下位に位置している。昨年度に比べ本県の肯定的回答の割合は、児童は 0.9%低く、生徒は 2.6%高く、全国的には肯定的回答の割合は、昨年度より増加傾向（児童 0.1%、生徒 2.9%）がみられる。授業改善や教材の工夫が求められる。

児 56	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、どのように解答しましたか
生 53	解答を言葉や数、式を使って説明する問題について、どのように解答しましたか

【平成 31 年度調査結果】



【回答結果と児童質問紙 55 との関連】



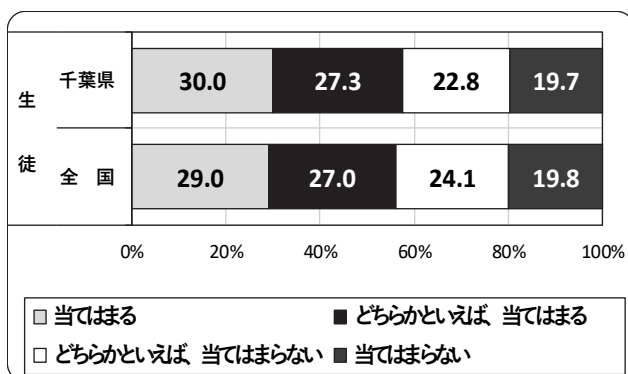
肯定的回答の割合について、全国と比べて児童は 2.6%、生徒は 4.7%低い。最後まで解答を書こうとする児童生徒は、増加傾向にある。肯定的回答をしている児童生徒ほど、正答率が高い傾向がある。また、児童質問紙 55「問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている」の肯定的回答は 85.1%あり、関連を見ると、ノートに記述している児童ほど書く問題を最後まで諦めずに書こうとしている傾向がある。考えを記述する時間を保障することで思考を深め、表出する経験を重ねるとともに、表出された考えをもとに補足的な指導につなげることができる。と考える。

ウ 英語への関心等

質問番号	児童 生徒	質 問 事 項	生徒(肯定的回答)		
			千葉(%)	全国との差	
54		英語の勉強は好きですか	57.3	1.3	
55		英語の勉強は大切だと思いますか	86.2	0.8	
56		英語の授業はよく分かりますか	65.4	-0.6	
57		英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	86.5	1.1	
58		あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にありましたか	34.7	0.9	
59		あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたたり職業に就いたりしたいと思いますか	45.8	4.5	
60		受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	75.7	-3.5	
61		受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	78.1	-3.1	
62		受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	57.2	-5.7	▼
63		受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	71.8	-5.4	▼
64		受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	74.7	-5.4	▼
65		受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか	72.9	-4.5	
66		受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	68.9	-5.7	▼

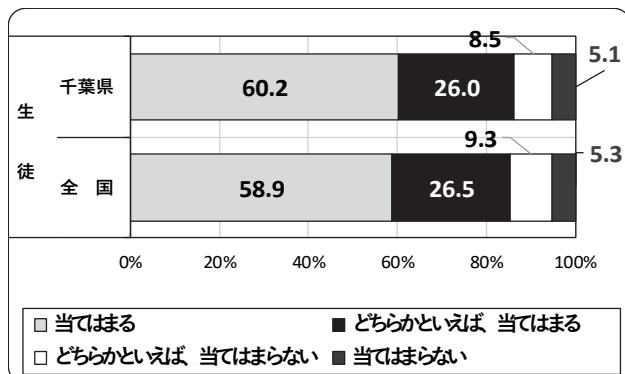
生 54	英語の勉強は好きですか
------	-------------

【平成31年度調査結果】

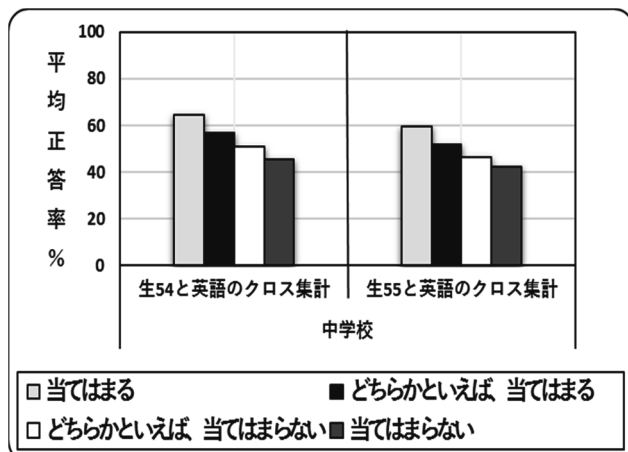


生 55	英語の勉強は大切だと思いますか
------	-----------------

【平成31年度調査結果】



【回答結果と英語の平均正答率の関連】

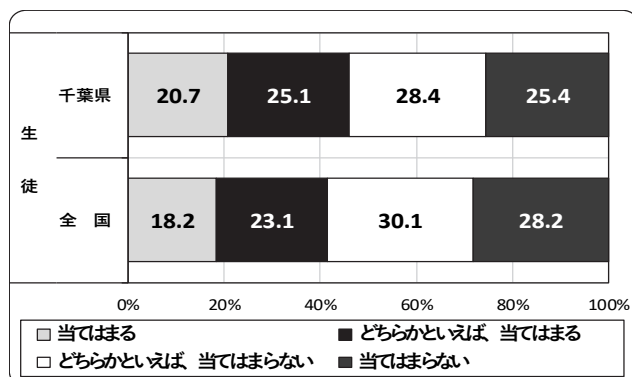


「英語の勉強は好きですか」に対する肯定的回答の割合は 57.3%で、全国に比べ 1.3 ポイント高かった。また、「英語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的回答の割合は、全国に比べ 0.8 ポイント高かった。どちらの質問も肯定的な回答をしている生徒ほど英語の平均正答率が高い傾向が見られる。

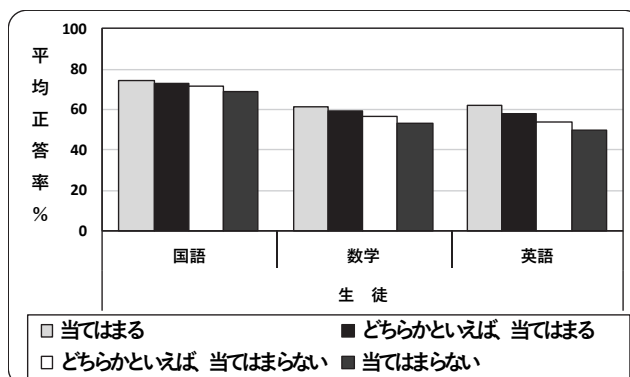
英語への興味関心と学力の間に相関関係が見られることから、英語の授業のみならず、学校の内外で生徒が英語に触れる機会を多くつくることが大切である。

生 59	あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか
------	---

【平成31年度調査結果】



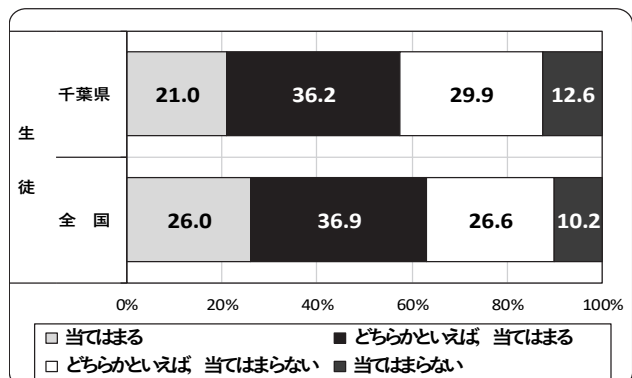
【回答結果と正答率の関連】



肯定的回答の割合は全国と比べて 4.5 ポイント高く、肯定的回答をしている生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。将来、積極的に英語を使用したいという生徒が半数近くおり、領域間の統合的な活動や即興性のある活動を工夫し、コミュニケーション能力を身に付けさせていくことが大切である。

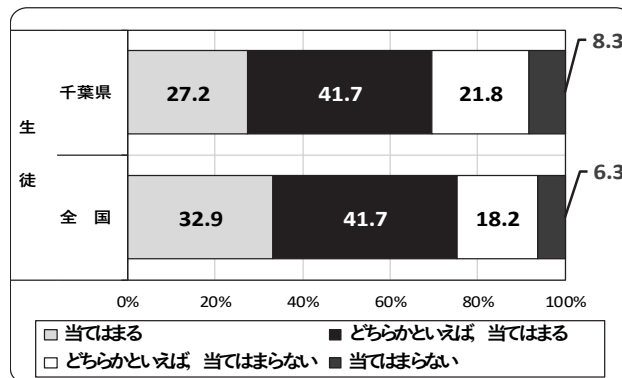
生 62	1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか
------	---

【平成31年度調査結果】



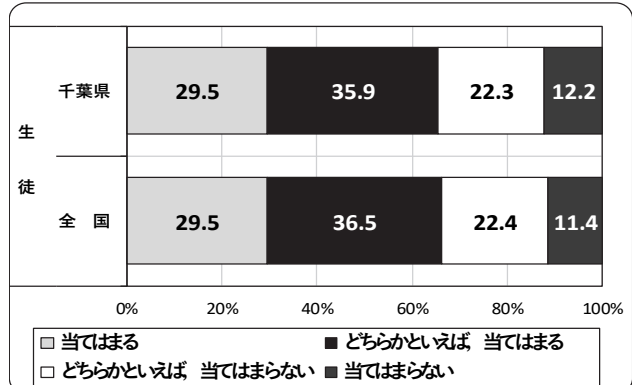
生 66	1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか
------	--

【平成31年度調査結果】



生 56	英語の授業はよく分かりますか
------	----------------

【平成31年度調査結果】



「英語の授業はよく分かりますか」に対する肯定的回答の割合は 65.4%で、全国と比べて 0.6 ポイント低い。また、3 割以上の生徒が否定的回答をしている。

英語の授業で行われている活動の状況に関する質問では、全ての質問で肯定的回答の割合が、全国に比べて低い結果となっている。5 ポイント以上低い質問もあり、本県の課題である。

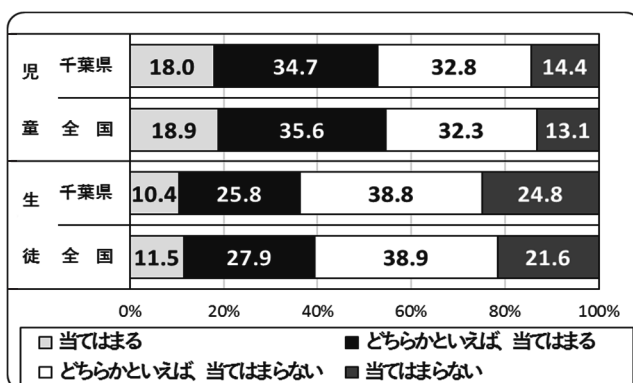
生徒質問紙調査及び学校質問紙調査で取り上げられている活動は、新学習指導要領の内容を学習するために必要な活動であると考えられる。授業の中で、計画的・継続的に取り組んでいくことが大切である。

エ 地域・社会への関心等

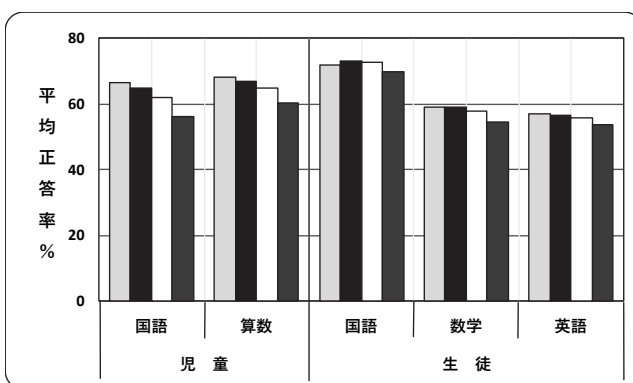
質問番号	質問事項		児童(肯定的回答)		生徒(肯定的回答)	
			千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
23	23	今住んでいる地域の行事に参加していますか	62.1	-5.9 ▼	43.8	-6.8 ▼
24	24	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	52.7	-1.8	36.2	-3.2
25	25	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	68.8	0.2	61.9	-0.5
26	26	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	75.4	-0.7	56.3	-3.0

24 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

【平成31年度調査結果】



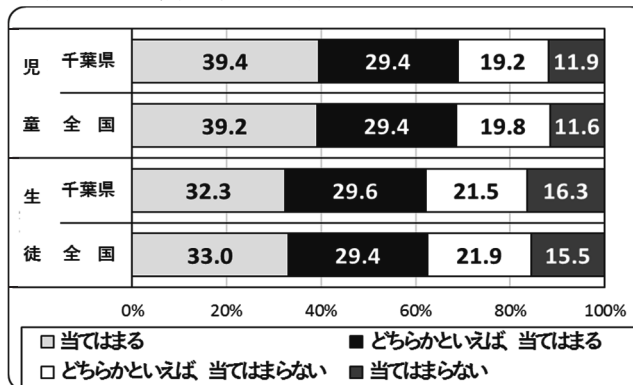
【回答結果と正答率の関連】



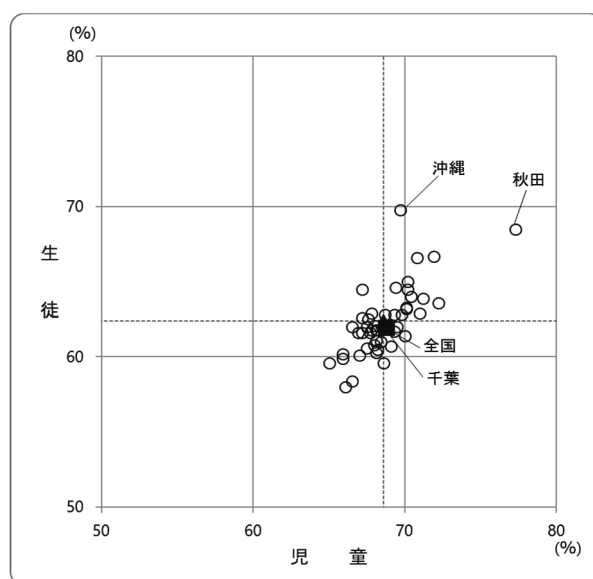
肯定的回答の割合は、児童は全国に比べ 1.8 ポイント低く、生徒は全国に比べ 3.2 ポイント低い。肯定的回答をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

25 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか

【平成31年度調査結果】



【散布図】



肯定的回答の割合は、児童は全国に比べ 0.2 ポイント高く、生徒は全国に比べ 0.5 ポイント低い。肯定的回答をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

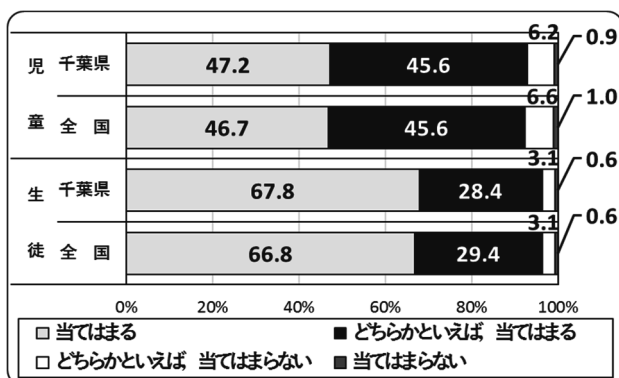
② 規範意識・自己有用感

ア 規範意識

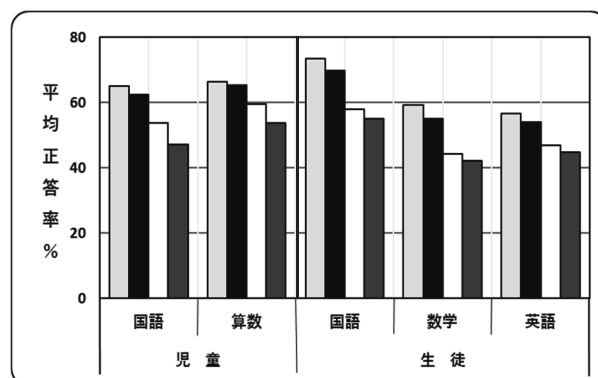
質問番号	質問事項		児童(肯定的回答)		生徒(肯定的回答)	
			千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
13	13	学校のきまり(規則)を守っていますか	92.8	0.5	96.2	0.0
14	14	人が困っているときは、進んで助けていますか	87.7	-0.2	86.4	0.5
15	15	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.6	-0.5	94.6	-0.5
16	16	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.8	-0.4	94.0	-0.3

13 学校のきまり(規則)を守っていますか

【平成31年度調査結果】



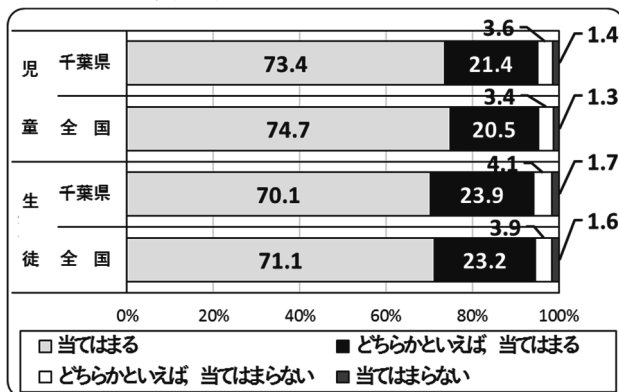
【回答結果と正答率の関連】



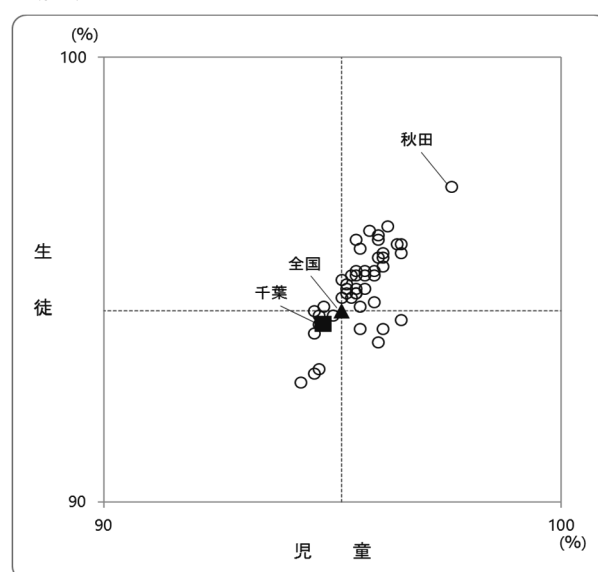
肯定的回答の割合は、児童生徒ともに90%を超えており、児童は全国に比べ0.5ポイント高く、生徒は全国と同等である。きまり(規則)を守っていると回答した児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

16 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

【平成31年度調査結果】



【散布図】



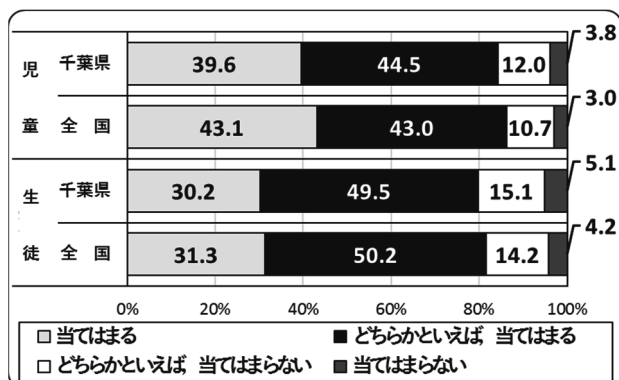
肯定的回答の割合は、児童生徒ともに90%を超えており、児童は全国に比べ0.4ポイント低く、生徒は全国に比べ0.3ポイント低い。人の役に立つ人間になりたいと回答した児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

イ 挑戦心、達成感、自己有用感

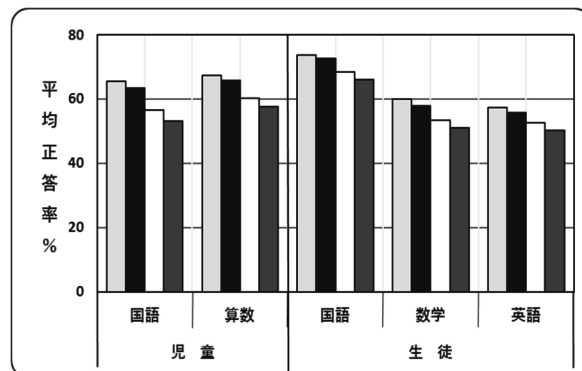
質問番号			児童(肯定的回答)			生徒(肯定的回答)		
			千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
5	5	自分には、よいところがあると思いますか	80.1	-1.1		71.9	-2.2	
6	6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	84.1	-2.0		79.7	-1.8	
7	7	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	90.6	-1.1		80.4	-4.2	
8	8	将来の夢や目標を持っていますか	84.5	0.7		70.2	-0.3	
9	9	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	94.8	-0.4		93.3	-0.6	
10	10	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	78.2	-0.8		70.3	0.0	
11	11	学級みんなで話し合っ決めてことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか	81.6	-2.5		80.9	-1.9	
12	12	学校に行くのは楽しいと思いますか	85.4	-0.4		80.7	-1.2	

6 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

【平成31年度調査結果】



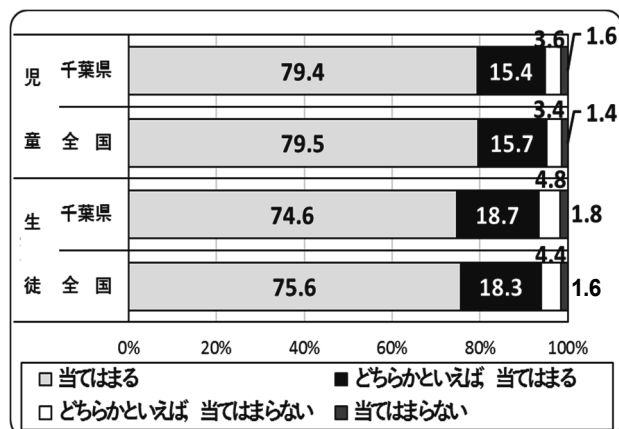
【回答結果と正答率の関連】



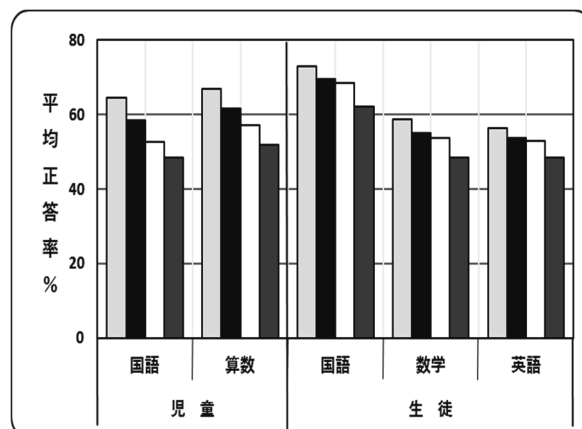
肯定的回答の割合は、児童は全国に比べ2.0ポイント低く、生徒は全国に比べ1.8ポイント低い。また、肯定的回答をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

9 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

【平成31年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



肯定的回答の割合は、児童は全国に比べ0.4ポイント低く、生徒は全国に比べ0.6ポイント低い。また、肯定的回答をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

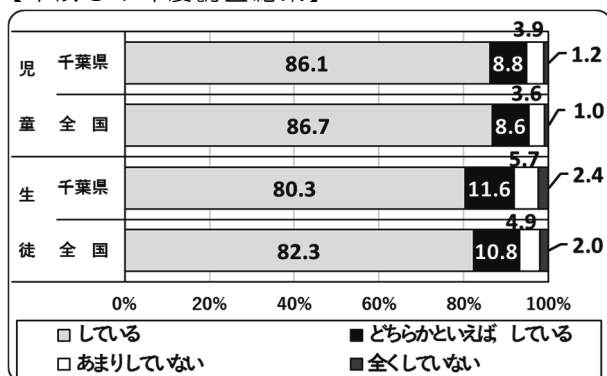
③ 学習の基盤となる活動・習慣

ア 生活習慣

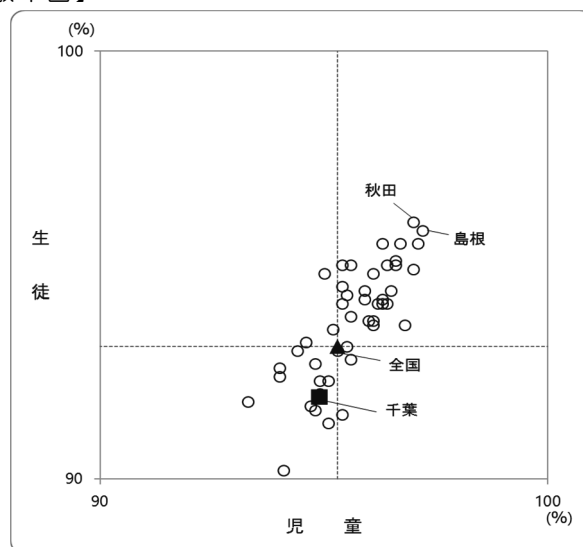
質問番号 児童 生徒		質 問 事 項	児童(肯定的回答) 千葉(%) 全国との差		生徒(肯定的回答) 千葉(%) 全国との差	
			千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
1	1	朝食を毎日食べていますか	94.9	-0.4	91.9	-1.2
2	2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	80.3	-1.1	76.2	-1.8
3	3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.2	-0.4	92.4	-0.4
4	4	家の人（兄弟姉妹は含まない）と学校での出来事について話をしますか	77.6	0.2	75.6	-0.8

1 朝食を毎日食べていますか

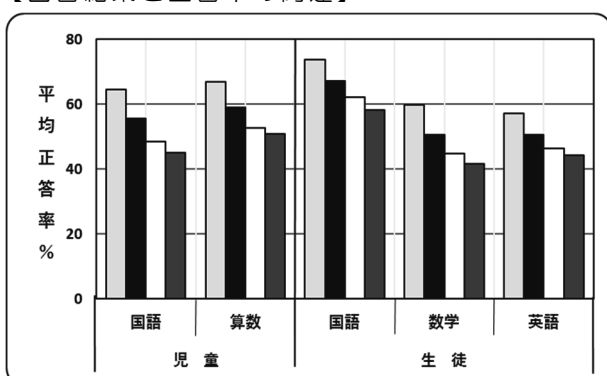
【平成31年度調査結果】



【散布図】



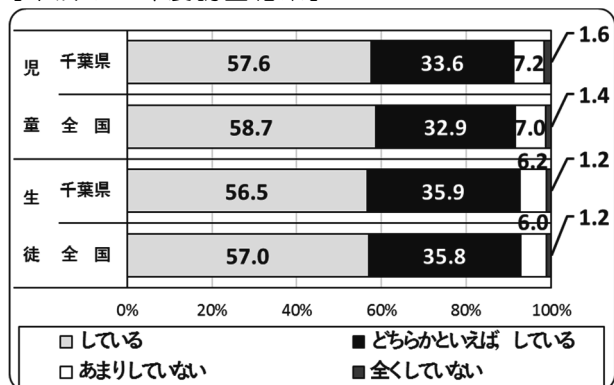
【回答結果と正答率の関連】



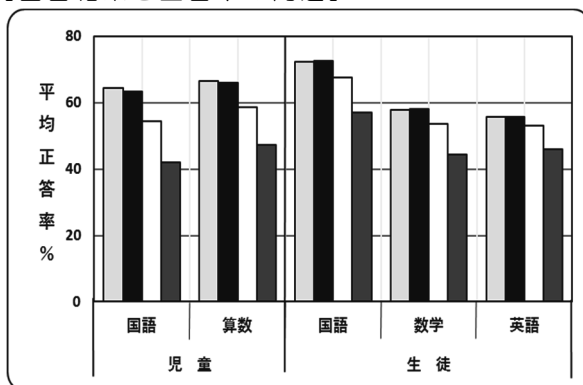
肯定的回答をした割合は、児童生徒とも90%を超えているものの、児童は全国に比べ0.4ポイント低く、生徒は全国に比べ1.2ポイント低い。肯定的回答をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

【平成31年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



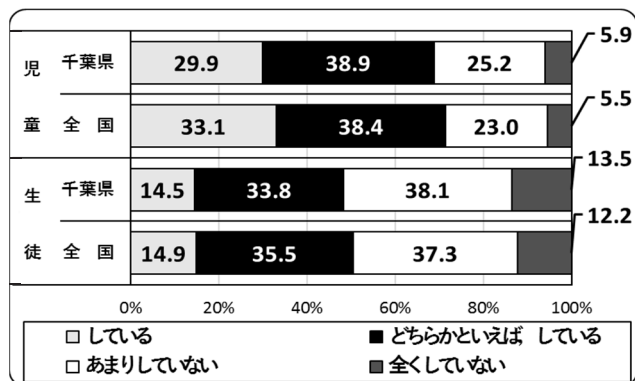
肯定的回答の割合は、児童生徒ともに、全国に比べ0.4ポイント低い。肯定的回答をした児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

イ 学習習慣

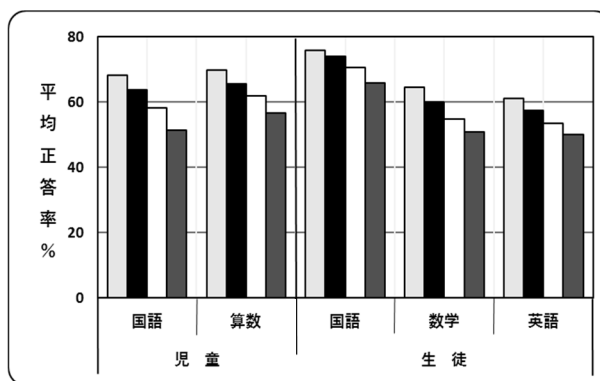
質問番号	質問事項		児童(肯定的回答)			生徒(肯定的回答)		
			千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
17	17	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	68.8	-2.7		48.3	-2.1	
18	18	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	63.0	-3.1		69.4	-0.4	
19	19	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	41.5	1.7		27.5	0.5	
20	20	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか	37.4	-3.1		16.8	-3.6	
21	21	読書は好きですか	76.1	1.1		71.1	3.1	
22	22	新聞を読んでいますか	18.0	-1.0		11.4	-1.3	

17 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

【平成31年度調査結果】



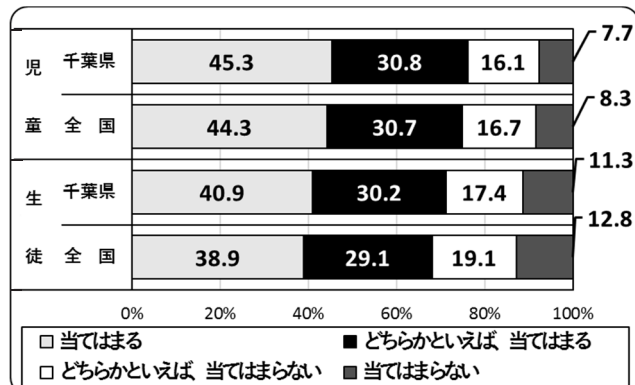
【回答結果と正答率の関連】



肯定的回答の割合は、児童は全国に比べ 2.7 ポイント低く、生徒は全国に比べ 2.1 ポイント低い。計画的に勉強をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

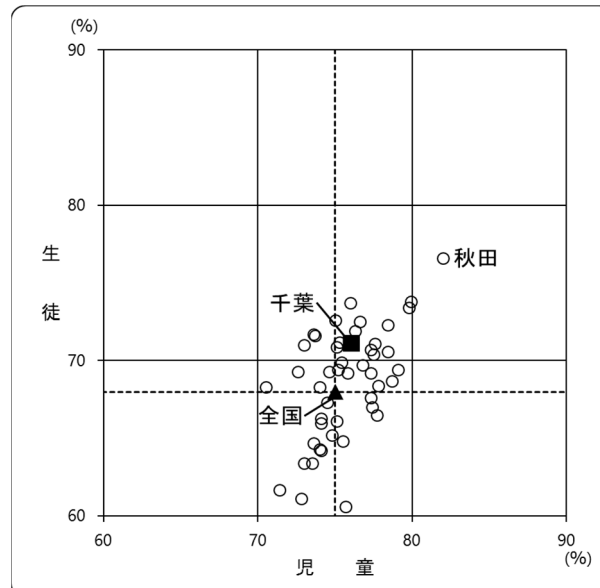
21 読書は好きですか

【平成31年度調査結果】



肯定的回答の割合は、児童は全国に比べ 1.1 ポイント高く、生徒は全国に比べ 3.1 ポイント高い。肯定的回答をしている児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

【散布図】



(2) 学校質問紙調査

① 教科指導

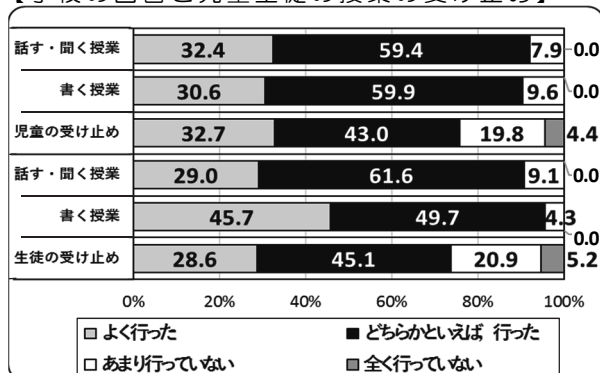
ア 国語科の指導方法

質問番号		質 問 事 項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
小	中		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
39	40	調査対象学年の児童・生徒に対する国語の授業において、前年度までに、 補充的な学習の指導を行いましたか	87.4	-1.6	89.9	1.0
40	41	調査対象学年の児童・生徒に対する国語の授業において、前年度までに、 発展的な学習の指導を行いましたか	60.9	-1.5	74.7	0.1
41	42	調査対象学年の児童・生徒に対する国語の授業において、前年度までに、 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	91.8	-2.3	90.6	1.6
42	43	調査対象学年の児童・生徒に対する国語の授業において、前年度までに、 書く習慣を付ける授業を行いましたか	90.5	-2.3	95.4	0.1
43	44	調査対象学年の児童・生徒に対する国語の授業において、前年度までに、 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	88.3	0.1	91.8	1.9
44	45	調査対象学年の児童・生徒に対する国語の授業において、前年度までに、 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	98.2	-0.1	99.1	0.8

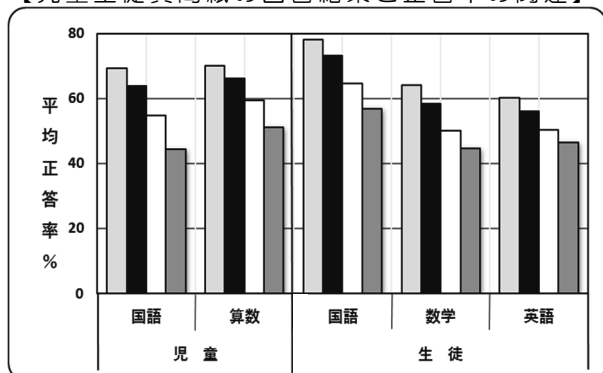
小 41 中 42	国語の授業において、前年度までに、目的や相手に応じて話したり 聞いたりする授業をどの程度行 いましたか	小 42 中 43	国語の授業において、前年度ま でに、書く習慣を付ける授業をどの 程度行いましたか
--------------	---	--------------	--

《参考》児 42/生 45 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたり
していますか

【学校の回答と児童生徒の授業の受け止め】



【児童生徒質問紙の回答結果と正答率の関連】



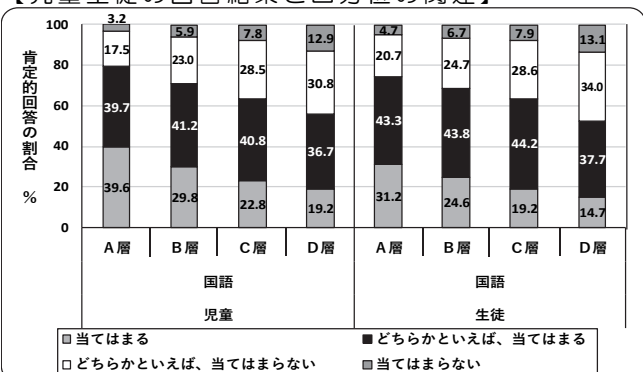
国語の授業における「話したり聞いたりする」「書く習慣を付ける」取組について、
児童・生徒質問紙(児 42/生 45)「国語の授業で、目的に応じて自分の考えを話したり
書いたりしているか」の結果と比較すると、学校の回答に比べ児童生徒の方が肯定的
回答が少なく、授業の受け止めに開きが見られる。

児童生徒の回答と正答率では各教科とも強い相関性を示していることから、授業の
ねらいや言語活動の達成目標を明確にし、どのような力が身に付いたか児童生徒が実
感でき、他教科の学習や実生活でも生かせるように指導することが大切である。

小 43 中 44	調査対象学年の児童・生徒に対する国語の授業において、前年度までに、様々 な文章を読む習慣を付ける授業をどの程度行いましたか
--------------	--

《参考》児 44/生 47「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や
文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか

【児童生徒の回答結果と四分位の関連】



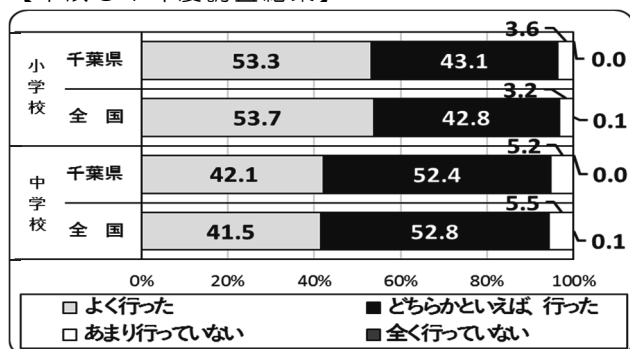
学校質問紙(小 43/中 44)の肯定的
回答と正答率との間に相関は見ら
れなかった。児童生徒質問紙(児 44/
生 47)を見ると、文章を読むポイント
を意識している児童生徒ほど正答率
の低いことが分かるが、四分位のA、
B層でもあまり意識しないで読んで
いる児童生徒のいることが分かる。文
章を読むときに着目すべき点、すなわ
ち読み方のポイントを具体的に示し
て指導することがより効果的である。

イ 算数・数学科の指導方法

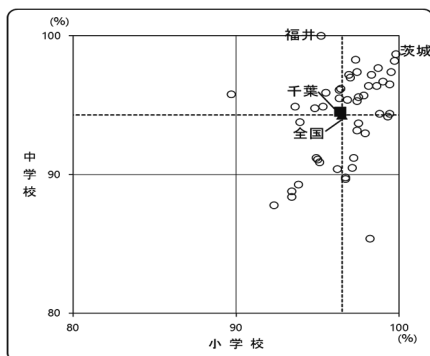
質問番号	小	中	質 問 事 項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
				千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
45	46		調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	96.4	-0.1	94.5	0.2
46	47		調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	66.2	-6.6 ▼	75.9	-0.6
47	48		調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	84.3	1.9	78.3	0.2
48	49		調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	98.4	0.7	97.3	0.7

小 45 中 46	算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか
--------------	-------------------------------------

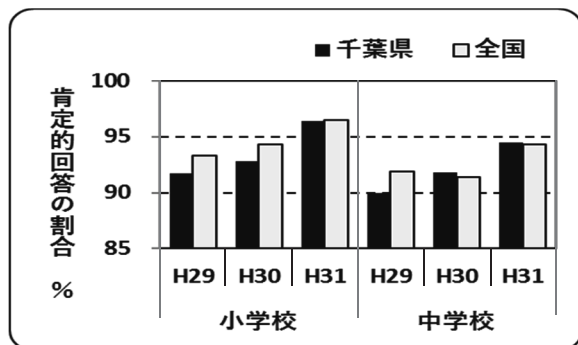
【平成31年度調査結果】



【散布図】

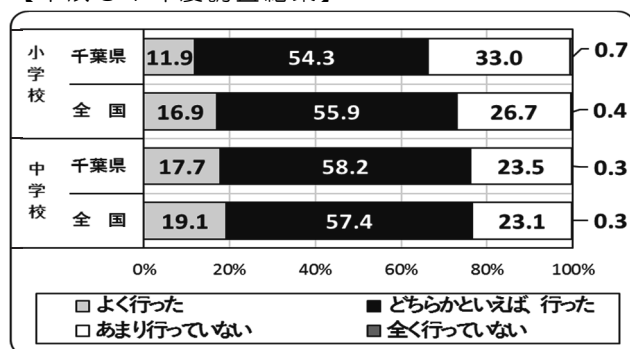


【経年変化】

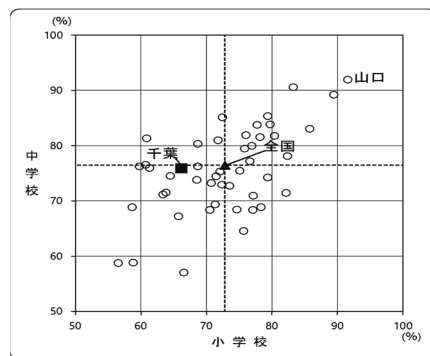


小 46 中 47	算数・数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか
--------------	-------------------------------------

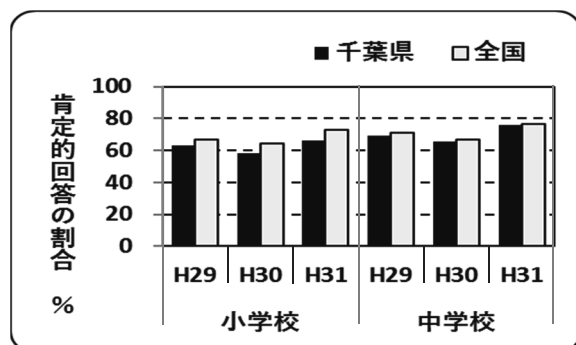
【平成31年度調査結果】



【散布図】



【経年変化】



補充的な学習の指導を行ったと回答している学校の割合は、全国に比べて小学校は0.1%低く、中学校は0.2%高い。発展的な学習の指導を行ったと回答している学校の割合は、全国に比べて小学校は6.6%、中学校は0.6%低い。経年変化を見ると小学校、中学校ともに上昇していることから、指導改善に取り組んでいる様子がうかがえる。補充的な学習の指導の充実のために、子どものつまづきを予想し、スモールステップを設けたり、単元の目標の実現に向け、同じ内容を別の場面や方法で実践を重ねたり、体験を通して理解を深め、考えを表現したりする学習を取り入れることが有効である。

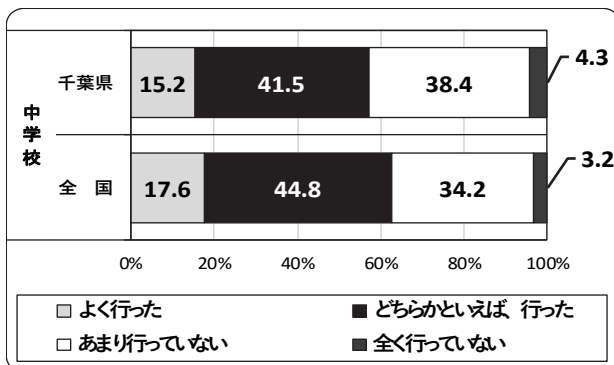
ウ 英語科の指導方法

質問番号 小 中	質 問 事 項	中学校(肯定的回答)		
		千葉(%)	全国との差	
50	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	88.7	-2.8	
51	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	72.8	-2.6	
52	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか	89.0	1.8	
53	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか	92.1	1.2	
54	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか	60.7	-4.4	
55	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか	82.6	1.8	
56	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか	83.0	-4.6	
57	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか	56.7	-5.7	▼
58	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか	55.5	-8.0	▼
59	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点から、どの程度、授業を英語で行いましたか	85.3	-0.7	
60	前年度までに、英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか	41.5	-6.8	▼
61	年間の授業のうち、どのくらいの頻度でA L T（外国語指導助手）を活用した授業を行いましたか	92.8	11.8	△
62	英語担当教師とA L T（外国語指導助手）との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか	94.5	1.1	

※[61]の「肯定的回答の割合」とは、「ほぼ毎日」、「週に数回以上」「週に1回程度」と回答した割合の合計である。

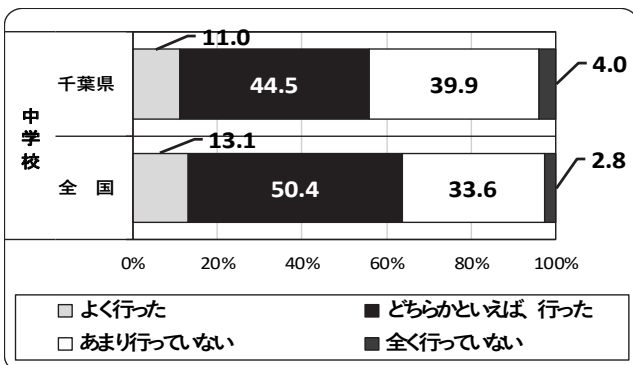
中 57	英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動をどの程度行いましたか
------	--

【平成31年度調査結果】



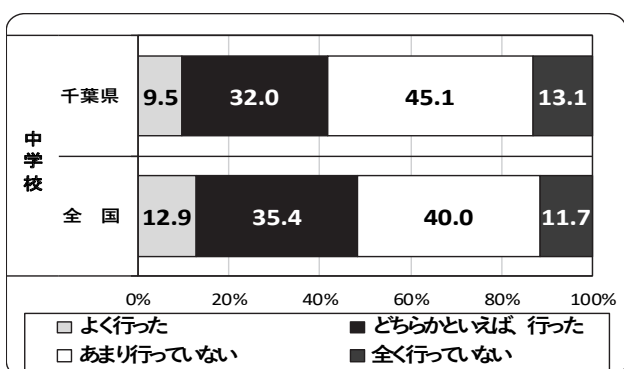
中 58	英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動をどの程度行いましたか
------	---

【平成31年度調査結果】



中 60	前年度までに、英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか
------	---

【平成31年度調査結果】



質問 57、質問 58 とも全国より 5 ポイント以上低い。これらの質問にあるような領域間の統合的な言語活動は、新学習指導要領において求められている英語で育成すべき資質・能力を身に付けるために必要な活動である。計画的・継続的に取り入れていくことが大切である。

また、質問 60 に対する肯定的回答の割合は 41.5%で、全国に比べて 6.8 ポイント低く、小中の連携に課題がある。中学校では小学校でどのような学習を行っているのかを確認し、小中の連続を意識した授業を行っていくことが大切である。

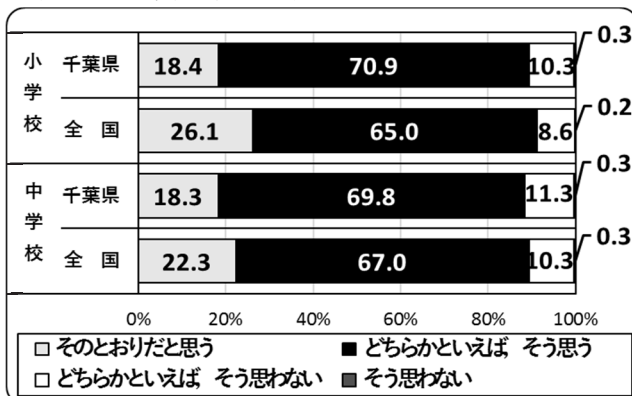
② 学力向上に向けた取組・指導方法

ア 児童生徒の状況

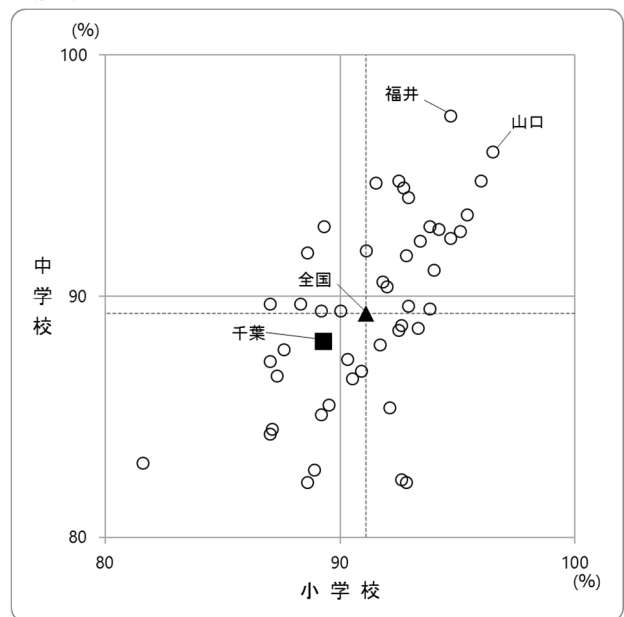
質問番号 小 中		質 問 事 項	小学校(肯定的回答)			中学校(肯定的回答)		
			千業(%)	全国との差		千業(%)	全国との差	
8	8	調査対象学年の児童・生徒は、熱意をもって勉強していますか	89.3	-1.8		88.1	-1.2	
9	9	調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていますか	84.6	-3.1		97.2	3.1	
10	10	調査対象学年の児童・生徒は、礼儀正しいですか	84.7	-3.1		94.8	1.3	

8 児童（生徒）は、熱意をもって勉強していますか

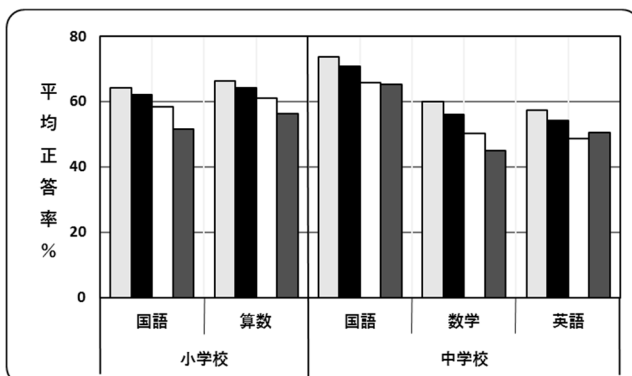
【平成31年度調査結果】



【散布図】



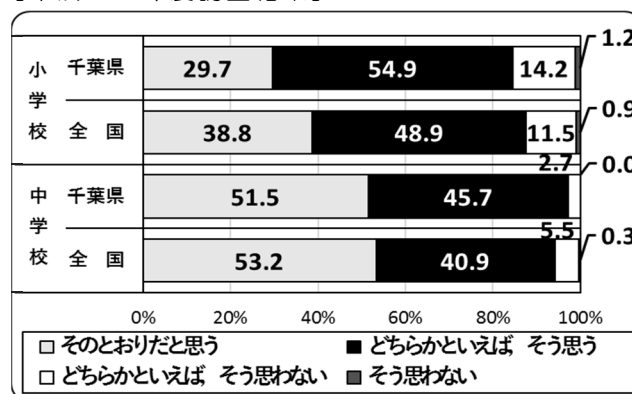
【回答結果と正答率の関連】



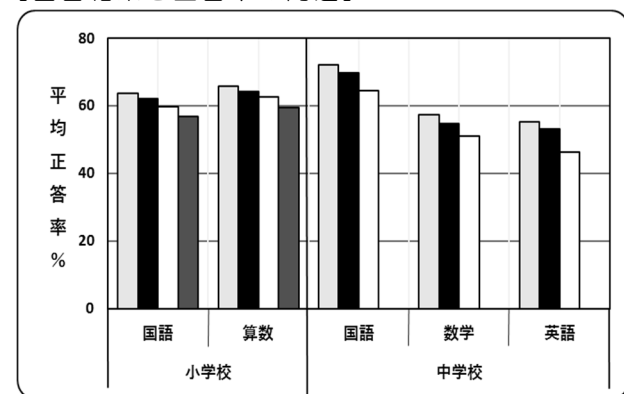
肯定的回答の割合は、小学校は全国に比べ1.8ポイント低く、中学校は全国に比べ1.2ポイント低い。肯定的な回答をした学校の児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

9 児童（生徒）は授業中の私語が少なく、落ち着いていますか

【平成31年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



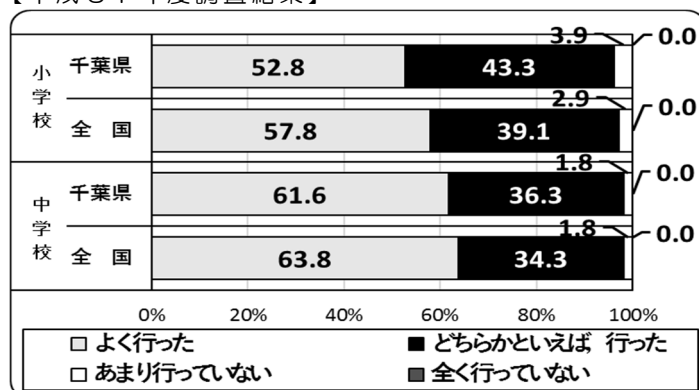
肯定的回答の割合は、小学校は全国に比べ3.1ポイント低く、中学校は全国に比べ3.1ポイント高い。肯定的な回答をした学校の児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

イ 学習指導・生徒指導の状況

質問番号		質 問 事 項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
小	中		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
11	11	調査対象学年の児童・生徒に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	80.5	-2.7	96.9	-1.7
12	12	調査対象学年の児童・生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	96.0	-0.6	94.5	-0.7
13	13	調査対象学年の児童・生徒に対して、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか	96.1	-0.8	97.9	-0.2
14	14	調査対象学年の児童・生徒に対して、学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行いましたか	98.3	-0.5	97.9	-0.7
50	64	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童・生徒に対する授業の中で、児童・生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行いましたか	94.5	-0.6	93.6	1.0

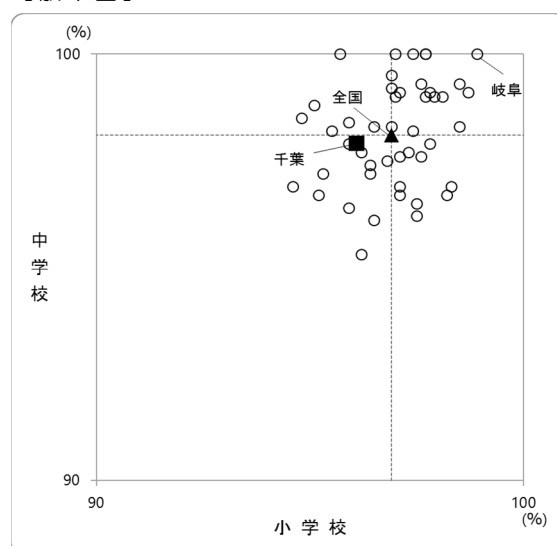
小 13 中 13	前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか
--------------	--

【平成31年度調査結果】



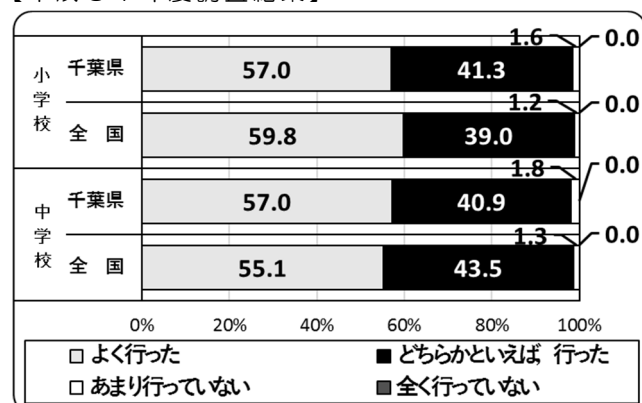
肯定的回答の割合は、小学校は全国に比べ0.8ポイント低く、中学校は全国に比べ0.2ポイント低い。肯定的回答をした学校の児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

【散布図】



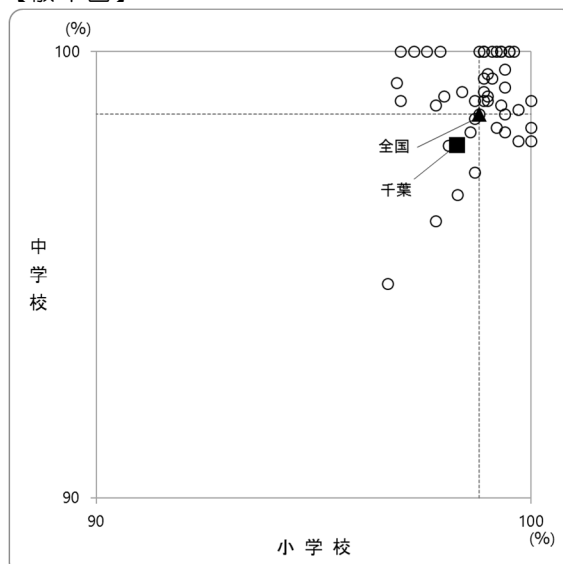
小 14 中 14	学校生活の中で、一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行いましたか
--------------	--

【平成31年度調査結果】



肯定的回答の割合は、小中学校ともに90%を超えているものの、小学校は全国に比べ0.5ポイント低く、中学校は全国に比べ0.7ポイントより低い。

【散布図】

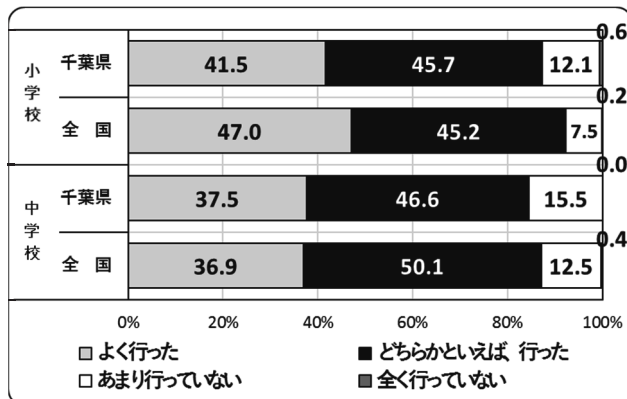


ウ 家庭学習

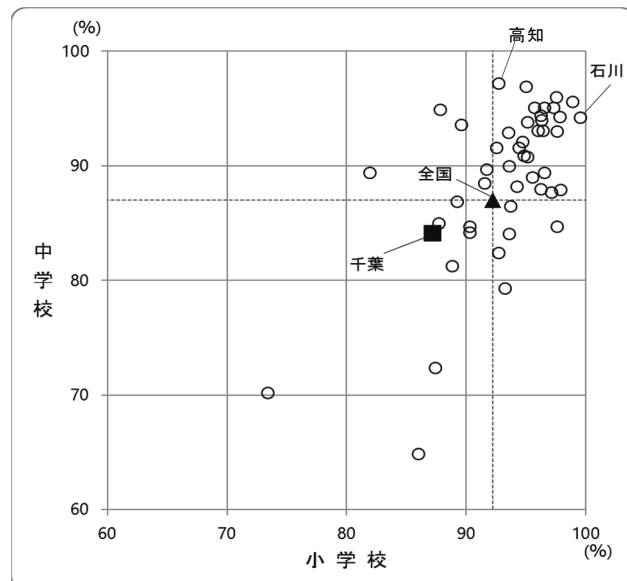
質問番号		質 問 事 項	小学校(肯定的回答)			中学校(肯定的回答)		
小	中		千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
59	73	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(教科共通)	87.2	-5.0	▼	84.1	-2.9	
60	74	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童・生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えようにはしましたか(教科共通)	92.0	-3.5		90.0	-2.3	
61	75	国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	99.2	-0.1		81.7	-8.0	▼
62	76	国語の指導として、前年度までに、児童・生徒が行った家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導を行いましたか	96.7	0.0		91.8	-1.2	
	77	英語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか				88.4	-6.1	▼
	78	英語の指導として、前年度までに、生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)についての評価・指導を行いましたか				92.4	-2.3	

小 59 中 73	前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(教科共通)
--------------	---

【平成31年度調査結果】



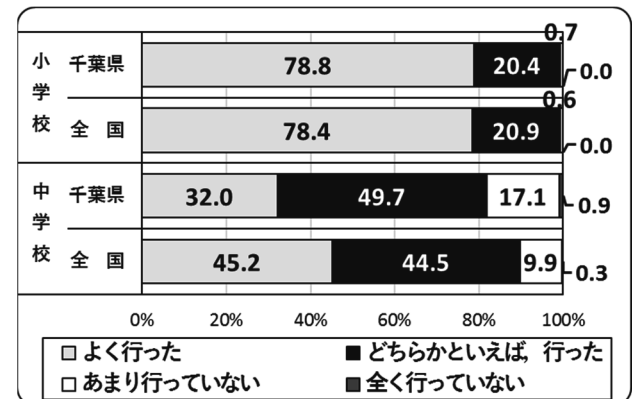
【散布図】



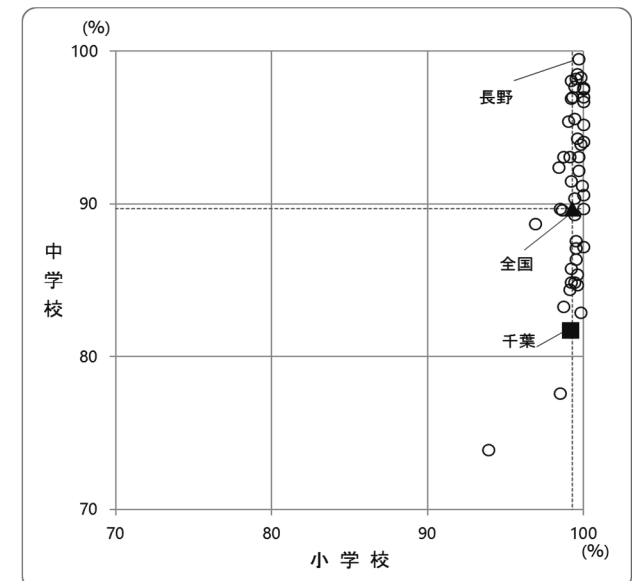
肯定的回答をした学校の割合は、小学校は全国に比べ 5.0 ポイント低く、中学校は全国に比べ 2.9 ポイント低い状況である。

小 61 中 75	国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか
--------------	------------------------------------

【平成31年度調査結果】



【散布図】



肯定的回答をした学校の割合は、小学校は全国に比べ 0.1 ポイント低く、中学校は全国に比べ 8.0 ポイント低い状況である。

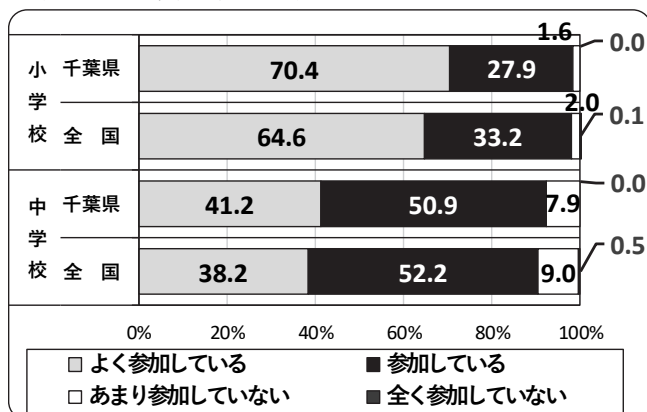
③ 学校経営

ア 地域や家庭との連携

質問番号	小	中	質 問 事 項	小学校(肯定的回答)			中学校(肯定的回答)		
				千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
54	68		職場見学や職場体験活動を行っていますか	76.0	18.7	△	98.2	-0.8	
55	69		教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	94.4	4.8		90.2	3.8	
56	70		保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	98.3	0.5		92.1	1.7	
57	71		地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(56)〔70〕の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	77.7	-1.5		62.2	-5.3	▼
58	72		(56)〔70〕の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	96.8	1.2		92.4	0.9	

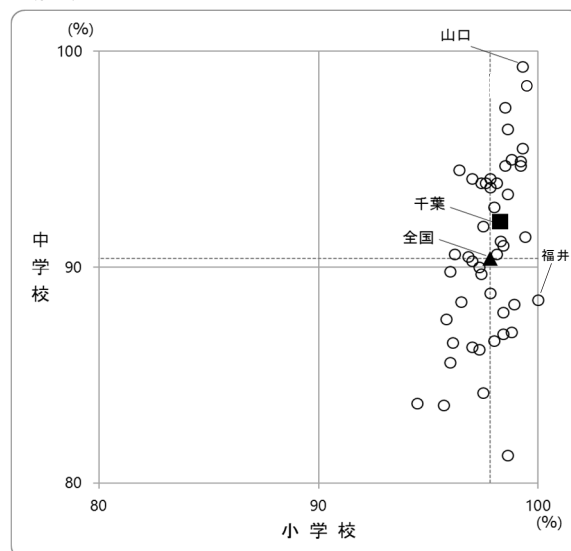
小 56	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか
中 70	

【平成31年度調査結果】



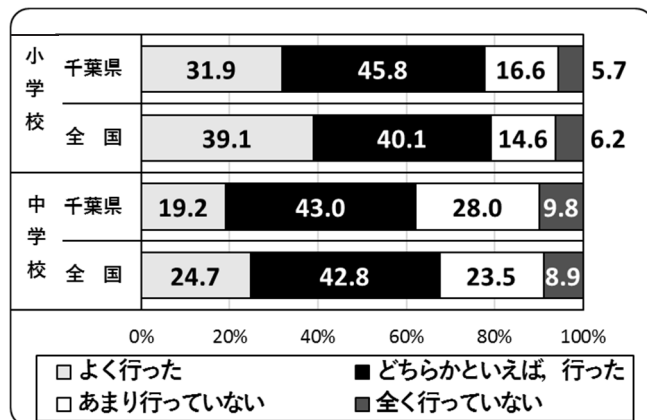
肯定的回答の割合は、小学校は全国に比べ 0.5 ポイント高く、中学校は全国に比べ 1.7 ポイント高い。

【散布図】



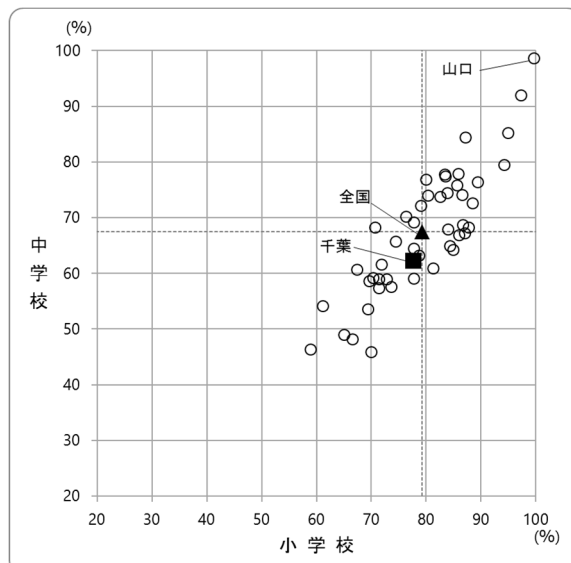
小 57	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(56)〔70〕の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか
中 71	

【平成31年度調査結果】



肯定的回答の割合は、小学校では全国に比べ 1.5 ポイント低く、中学校は全国に比べ 5.3 ポイント低い。

【散布図】

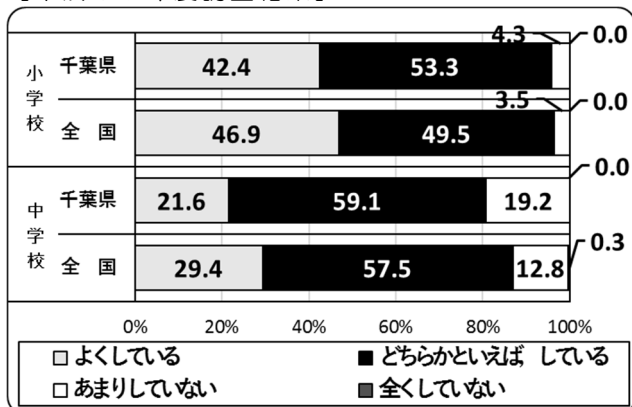


イ カリキュラム・マネジメント等

質問番号	小	中	質 問 事 項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
				千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
15	15		指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	95.6	0.5	92.4	1.1
16	16		教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	94.3	0.6	90.0	1.9
17	17		児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	95.1	-0.3	92.7	-0.7
18	18		指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	95.7	-0.7	80.7	-6.2 ▼
19			言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか	97.9	0.7		
	19		言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか			94.5	-0.6
20	20		全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	94.5	-0.8	89.0	-4.7
21	21		学校として業務改善に取り組んでいますか	97.6	-0.9	98.2	0.4
22	22		部活動のあり方について、保護者や地域と連携して見直しを進めていますか			94.8	3.3

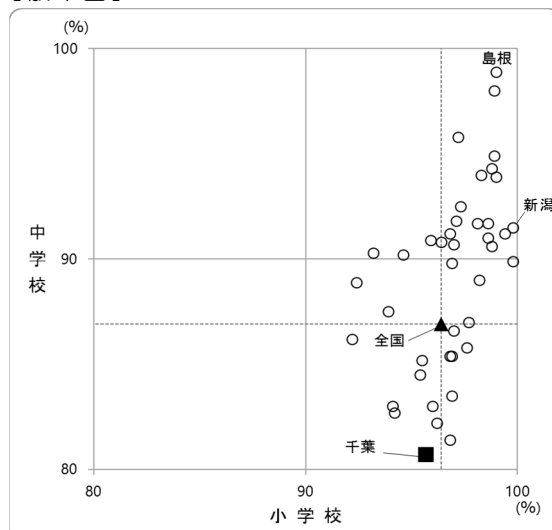
小18	指導計画の作成にあたっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、
中18	地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

【平成31年度調査結果】



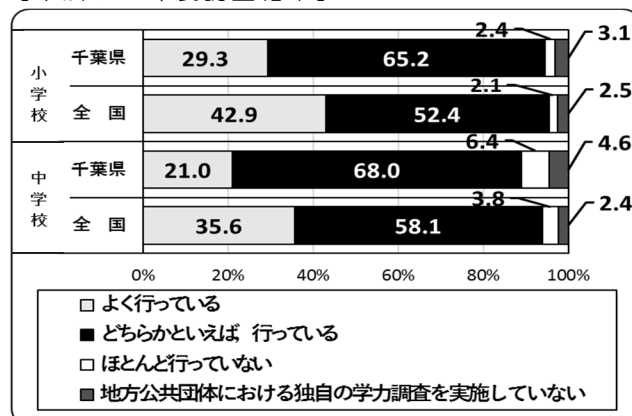
肯定的回答の割合は、小学校は全国に比べ0.7ポイント低く、中学校は全国に比べ6.2ポイント低い状況である。

【散布図】



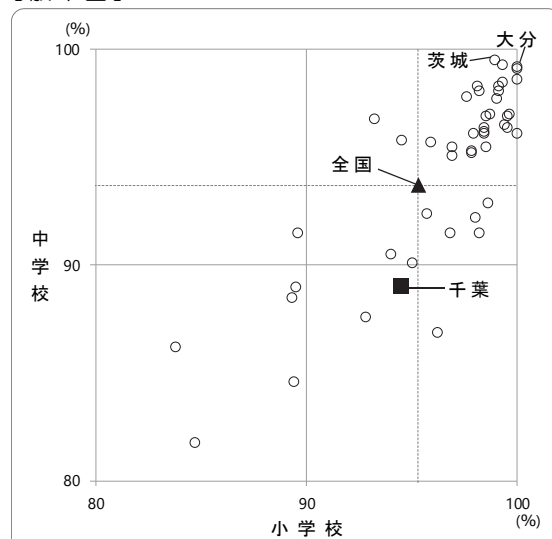
小20	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果
中20	と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている

【平成31年度調査結果】



肯定的回答の割合は、小学校は全国に比べ0.8ポイント低く、中学校は全国に比べ4.7ポイント低い状況である。

【散布図】



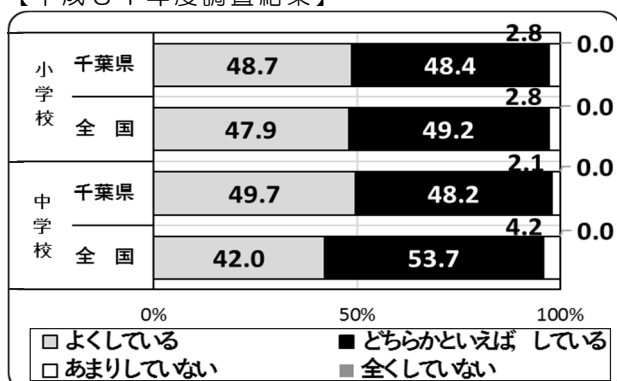
ウ 教職員の資質・能力の向上

質問番号 小 中	質 問 事 項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
22	23 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	99.7	0.4	98.8	0.2
23	24 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	99.6	4.7	96.3	4.9
24	25 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	99.4	0.1	96.3	-0.1
25	26 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	96.0	-1.0	93.3	-1.6
26	27 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	90.3	2.1		
27	28 教員は、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか			82.9	-1.6
27	28 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	93.9	-0.5	92.0	2.1
28	29 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	97.1	0.0	97.9	2.2
29	30 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか	90.4	-1.7	79.3	-5.1 ▼
30	31 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか	98.1	-0.2	95.1	-1.8
31	32 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	97.7	2.4	92.4	7.5 △

※31[32]の「肯定的回答の割合」とは、「ほぼ毎日」、「週に2～3日程度」と回答した割合の合計である。

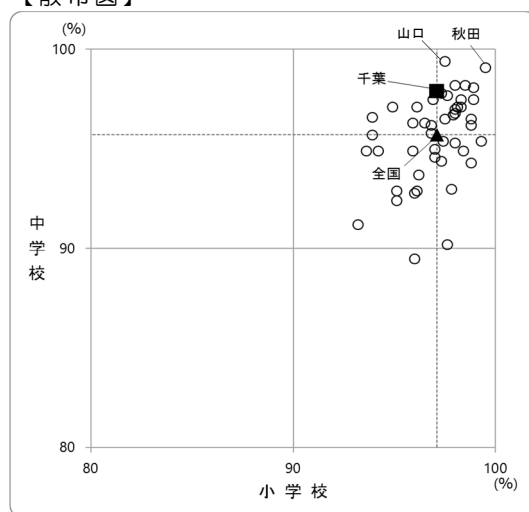
小 28	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか
中 29	ますか

【平成31年度調査結果】



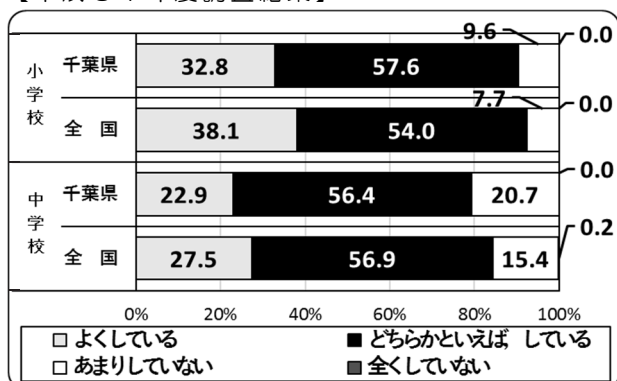
肯定的回答の割合は、小学校は全国と同等で、中学校は全国に比べ、2.2ポイント高い状況である。

【散布図】



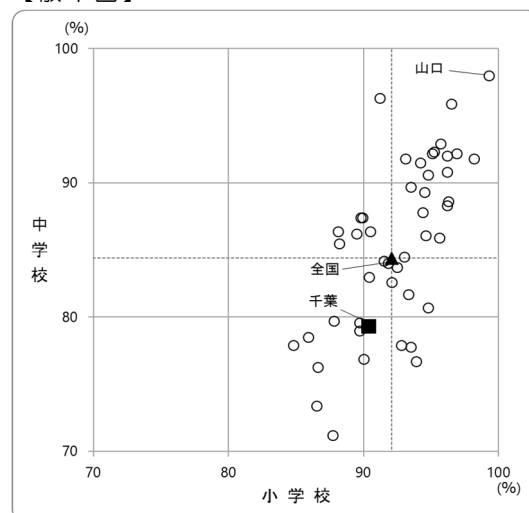
小 29	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか
中 30	

【平成31年度調査結果】



肯定的回答の割合は、小学校は全国に比べ1.7ポイント低く、中学校は全国より5.1ポイント低い状況である。

【散布図】



(3) トピックス

家庭学習の充実に向けて

読書に関する質問については、肯定的回答の割合が全国に比べ高い状況である。各学校が、読書県「ちば」の推進に計画的、継続的に取り組んでいる成果であると考えている。

しかし、その他の児童生徒質問紙及び学校質問紙における家庭学習に関する質問については、肯定的回答の割合が全国に比べ低い状況である。学習習慣の確立や家庭学習を充実させるための取組について、改善を図っていく必要がある。

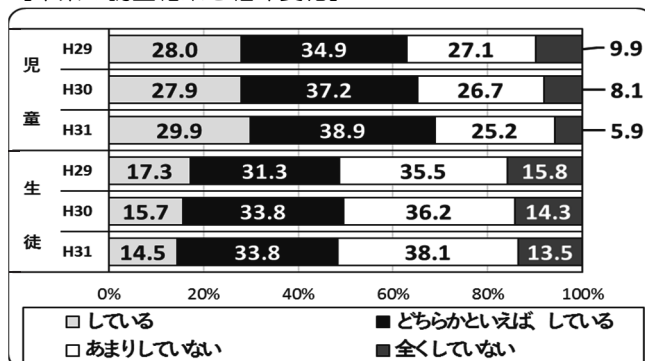
① 児童生徒質問紙調査から

読書に関する質問への肯定的回答の割合が全国に比べ高い状況である。各学校が積極的に読書活動に取り組んだ成果である。今後も継続的に読書活動に取り組み、読書好きな児童生徒の育成に尽力していただきたい。

また、家庭学習については、児童生徒とも全国に比べ低い状況が続いており、家庭学習の定着が課題となっている。「学習の方法をわかりやすく指導する」、「興味関心を高める課題を与える」など、各学校の実態に応じて、児童生徒が計画的に学習に取り組み、自主的・主体的に学習へ向かう姿勢を育成することが求められる。

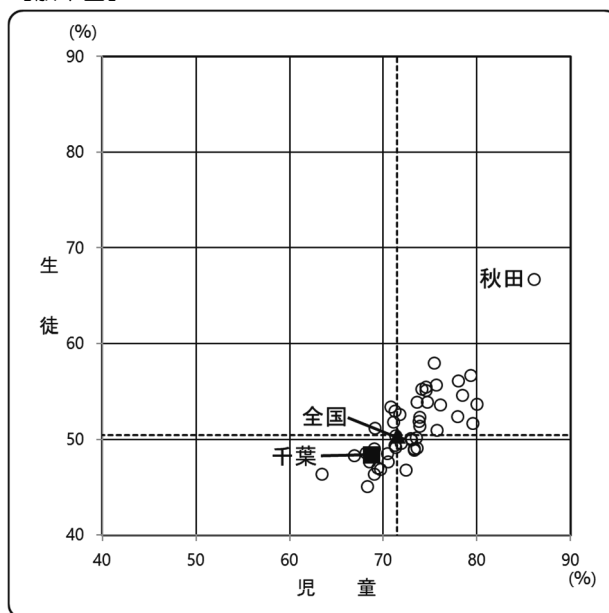
17 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

【本県の調査結果と経年変化】



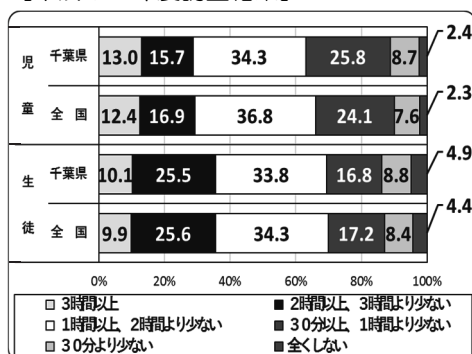
児童は肯定的回答の割合の増加傾向が継続しているが、生徒は昨年度に比べ 1.2 ポイント低くなり、半数以上が学習にあまり計画的に取り組んでいない状況である。また、肯定的回答の割合は、全国に比べ児童は 2.7 ポイント、生徒は 2.1 ポイント低い状況である。

【散布図】

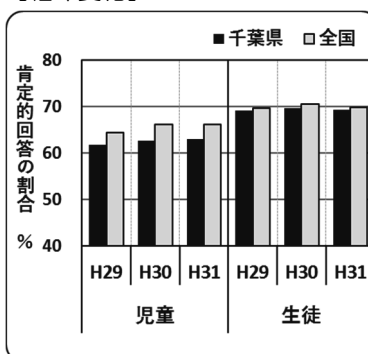


18 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

【平成31年度調査結果】



【経年変化】

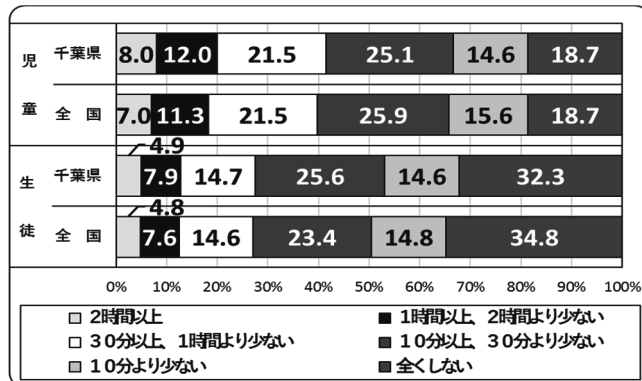


本県の児童生徒は3割以上が普段の学習時間が1時間未満である。

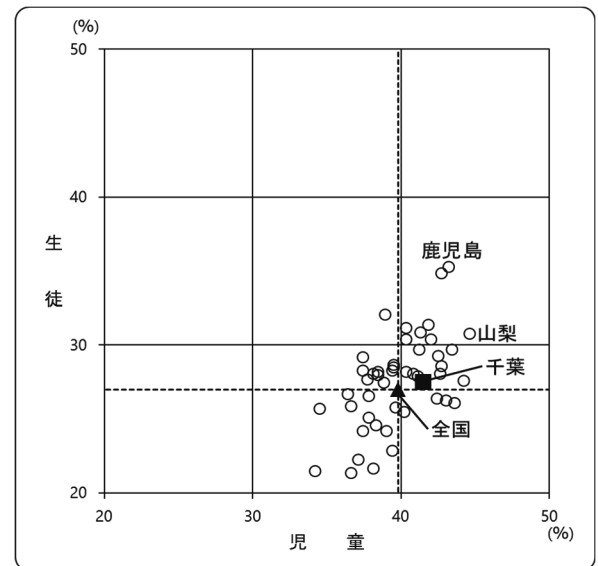
また、普段1時間以上勉強している児童生徒の割合は、全国に比べ、児童が3.1ポイント、生徒が0.4ポイント低い状況である。学習時間が長いほど平均正答率が高い傾向が見られる。

19 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

【平成31年度調査結果】

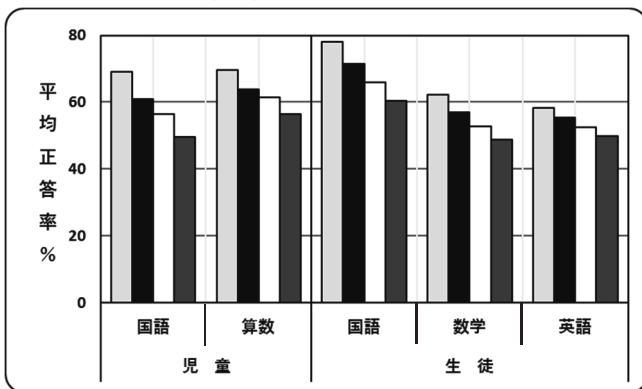


【散布図】



21 読書は好きですか

【回答結果と正答率の関連】



1日30分以上読書をしている本県の児童生徒の割合は、全国に比べ児童が1.7ポイント、生徒が0.5ポイント高い状況である。

また、「読書は好きですか」の肯定的回答も全国に比べ高く（p64参照）、肯定的回答をしている児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られる。

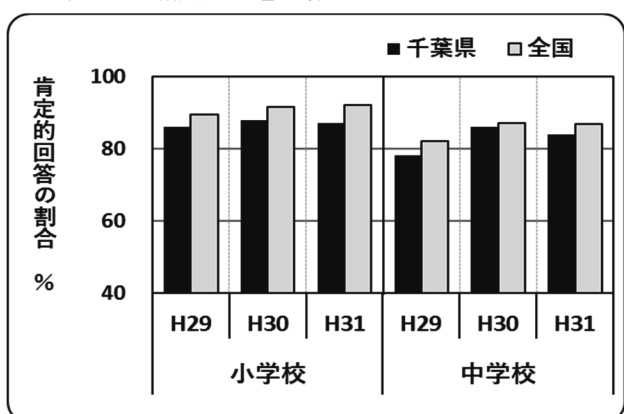
② 学校質問紙調査から

◆家庭学習に関わる学校の取組について

家庭学習への学校の取組については、小中学校とも、肯定的回答の割合が全国に比べ低い状況が続いている。各学校では、家庭学習における、家庭や地域の実態に即した具体的な取り組み方等について、教職員が共通理解を図り、校内体制を整えて取り組むことが必要である。

小 59 【教科共通】前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で
中 73 共通理解を図りましたか

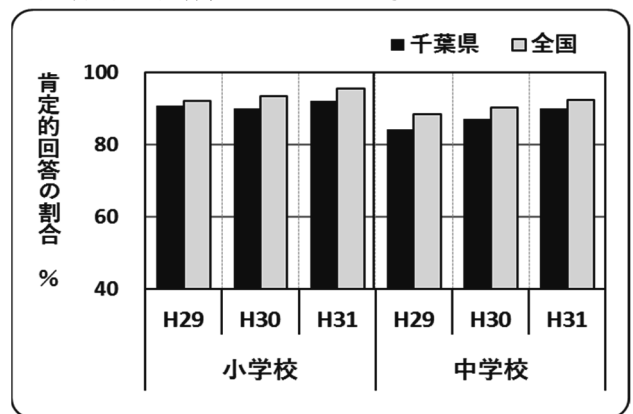
【経年変化】職員の共通理解



肯定的回答の割合は、小中学校とも昨年度に比べ低下した。全国に比べても低い状況が続いている。

小 60 【教科共通】前年度までに、家庭学習の
中 74 取組として、学校では、児童〔生徒〕に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか

【経年変化】具体例を提示した指導



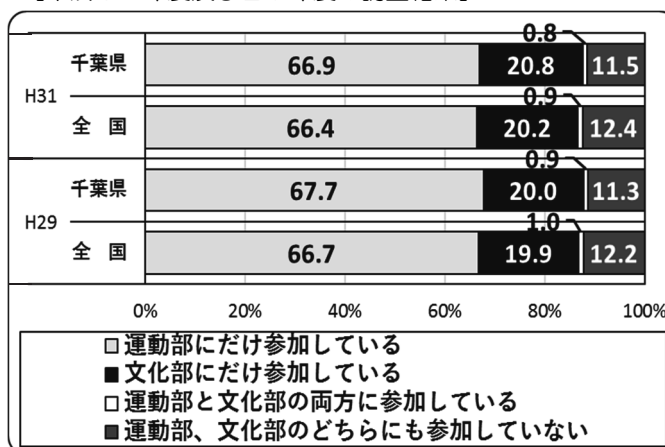
小中学校とも、肯定的回答の割合は90%を超えており、改善が図られてきている。

部活動（中学校）の状況について

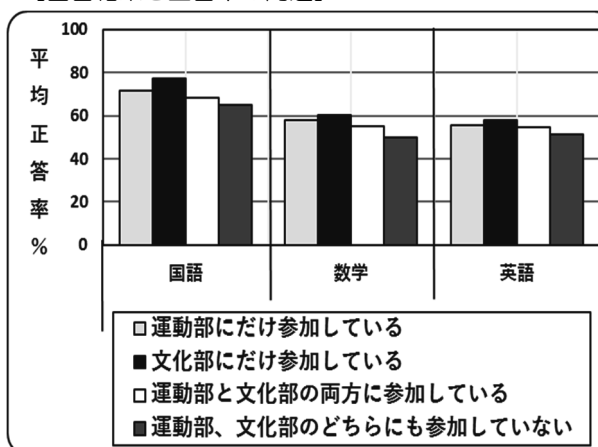
中学校部活動の状況に関する質問が実施されたのは、平成29年度に続き2回目である。平成31年度の部活動に参加している生徒の割合は、本県、全国とも、平成29年度とほぼ同じで、変化は見られなかった。回答結果と正答率の関連についても、平成29年度同様、部活動に参加している生徒は、参加していない生徒に比べ正答率が高い傾向が見られる。活動時間別に正答率を比較すると、すべての教科において、1日当たり2時間以上3時間より少ない時間活動している生徒の平均正答率が最も高い。これも平成29年度と同じ傾向である。

生 27 学校の部活動に参加していますか

【平成31年度及び29年度の調査結果】



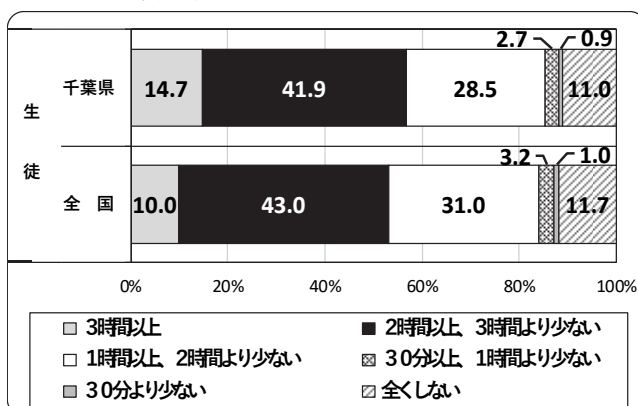
【回答結果と正答率の関連】



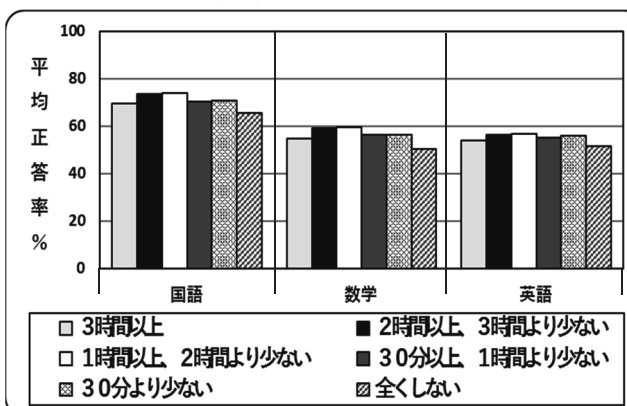
平成31年度の部活動に参加している生徒の割合は、本県が約89%、全国が約88%で、平成29年度とほぼ同じ割合である。また、部活動に参加している生徒の方が、参加していない生徒よりも平均正答率が高い傾向が見られる。

生 28 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしめますか

【平成31年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



普段、3時間以上部活動をしている生徒の割合は、神奈川県、奈良県について全国で3番目であった。

また、回答結果と正答率の関連を見ると、2時間以上3時間より少ない時間活動している生徒の平均正答率が最も高い。3時間以上部活動をしている生徒は、部活動をしていない生徒よりも平均正答率が高いが、活動時間が3時間未満の生徒よりも低い傾向が見られる。

外国に関する興味・関心等について

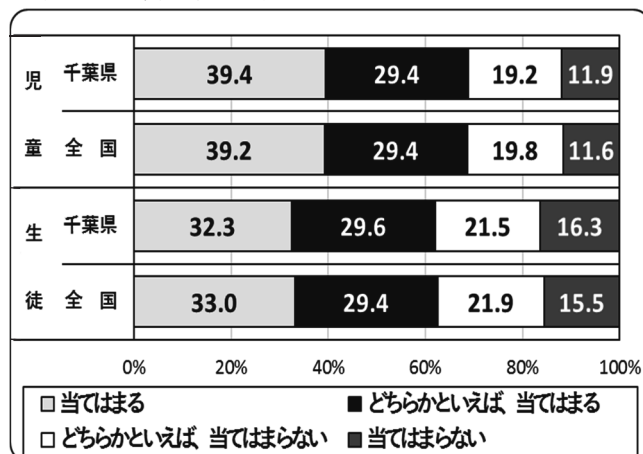
外国への興味・関心に関する質問（質問番号 25）について、児童の約 7 割、生徒の約 6 割が肯定的回答をしている。また、今回新設された質問「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、もっと外国の人に知ってもらいたい」（質問番号 26）には、児童の 75.4%、生徒の 56.3%が肯定的回答をしている。

本県では、「教育立県ちばプラン」の中で「異文化を理解し、国際的コミュニケーション力のある真の国際人を育てる」ことを掲げ、グローバル人材の育成を期している。児童生徒の外国への興味・関心を高めながら、海外留学や国際貢献、国際的な職業などグローバルな視点を持った児童生徒を育成することが大切である。また、社会科や英語科など教科の学習意欲の向上へとつながるように指導することも重要である。

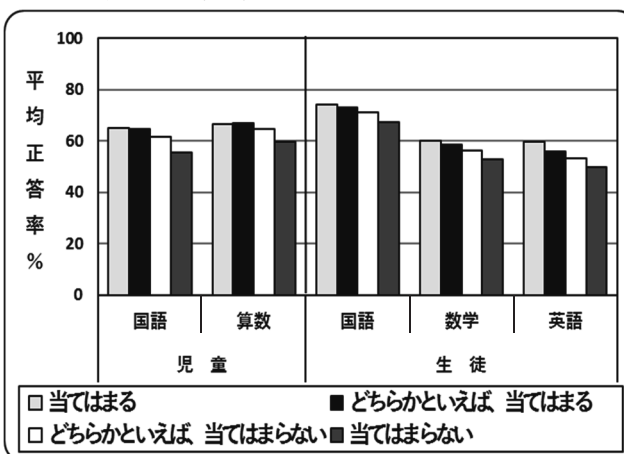
児童生徒質問紙調査から

児 25 生 25	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか
--------------	--

【平成 31 年度調査結果】



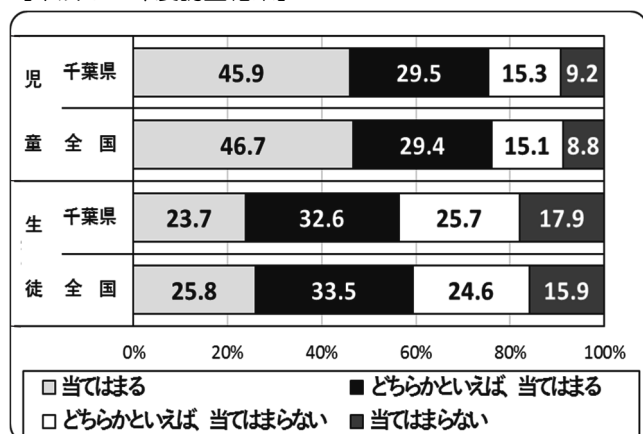
【回答結果と正答率の関連】



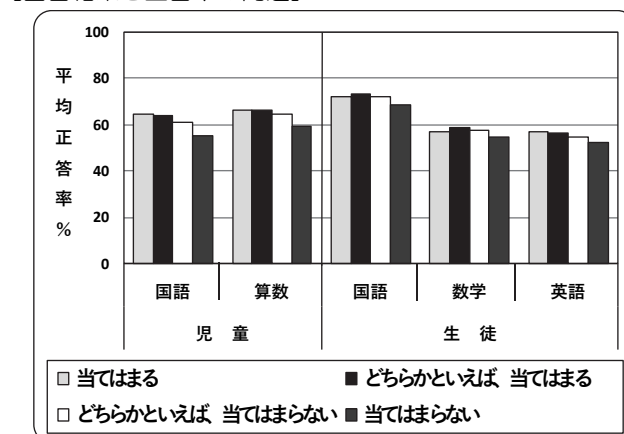
肯定的回答をしている児童生徒の割合は、全国に比べ児童が 0.2 ポイント高く、生徒が 0.5 ポイント低い。肯定的回答をしている児童生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。

児 26 生 26	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか
--------------	--

【平成 31 年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



肯定的回答をしている児童生徒の割合は、全国に比べ児童が 0.7 ポイント、生徒が 3.0 ポイント低い。肯定的回答をしている生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。

主体的・対話的で深い学びの充実に向けて

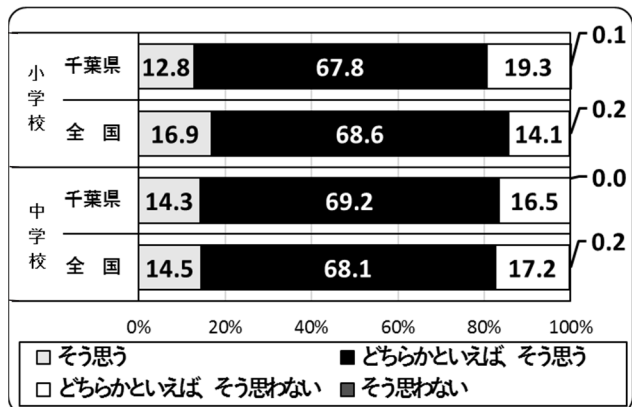
学校質問紙の回答結果を見ると、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する各質問について、本県の学校の約9割が肯定的な回答をしている。

主体的・対話的で深い学びを充実させるために、学校として、「児童生徒が自分で考え、自分から取り組めるような課題を意図的・計画的に設定し、授業の中で、自ら課題に取り組み、自ら解決できる場面を作っていくこと」や「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を進め、授業の質の向上を図ること」が大切である。また、児童生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために、「自分の言葉で学習のまとめを書く」活動を、各教科等で取り入れていくことが必要である。

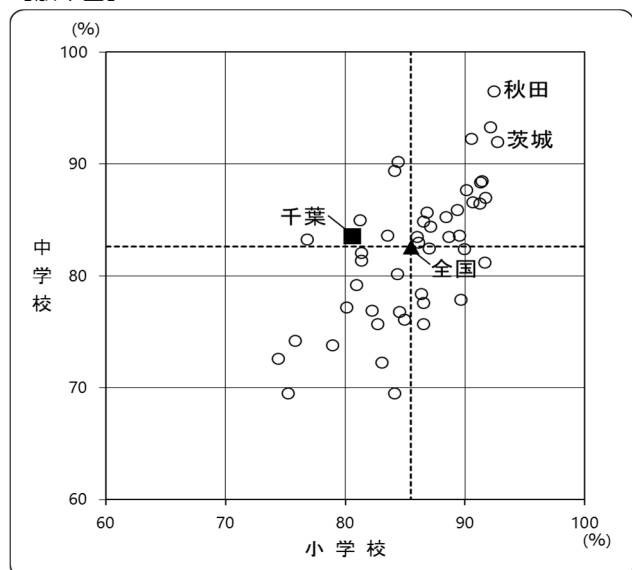
学校質問紙調査から

小 32 中 33	児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか
--------------	---

【平成31年度調査結果】



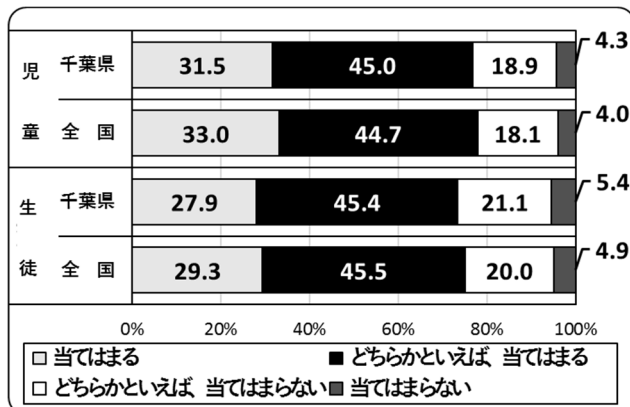
【散布図】



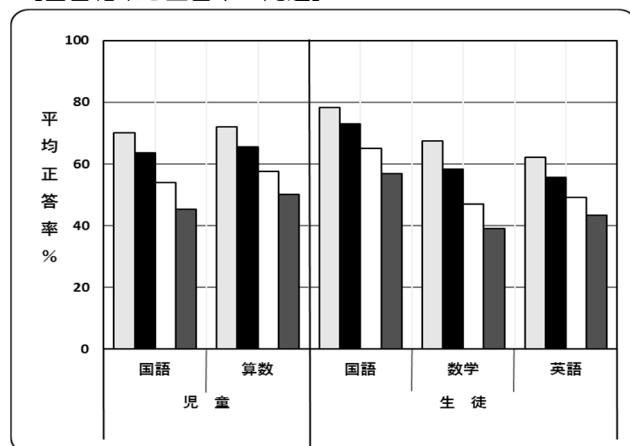
児童生徒質問紙調査から

児 35 生 37	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
--------------	---

【平成31年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



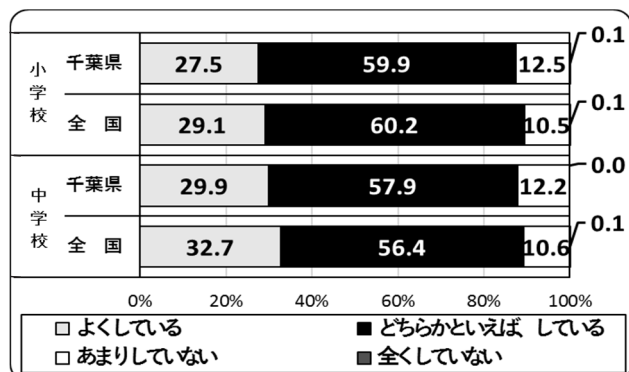
中学校の肯定的回答の割合は、全国に比べ0.9ポイント高い。小学校は全国に比べ4.9ポイント低く、児童は1.2ポイント、生徒は1.5ポイント低い状況である。

肯定的回答をしている学校・児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

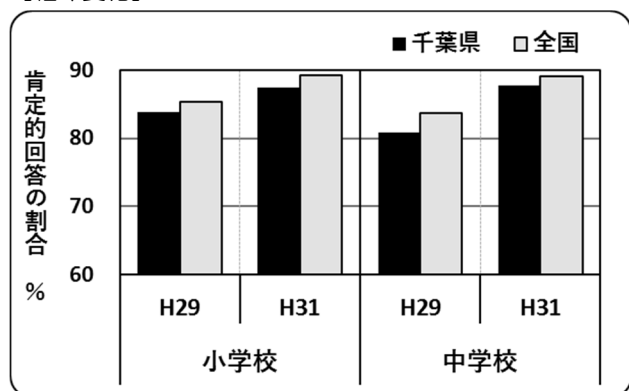
学校質問紙調査から

小 33 中 34	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか
--------------	---

【平成31年度調査結果】



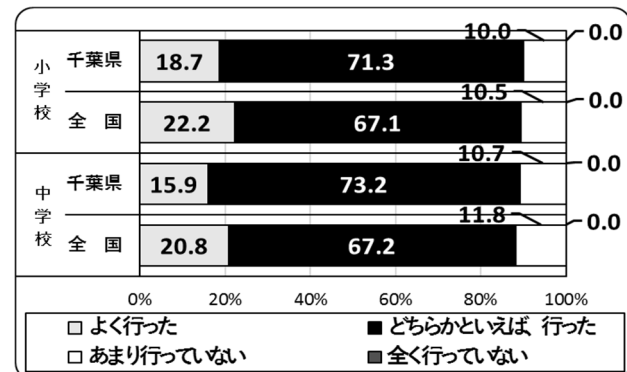
【経年変化】



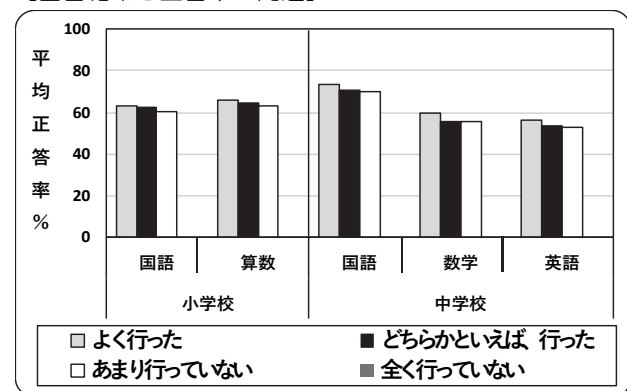
肯定的回答をした学校の割合は、平成29年度より上昇しているが、全国に比べ低い状況である。また、肯定的回答をしている学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

小 37 中 37	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか
--------------	--------------------------------------

【平成31年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】

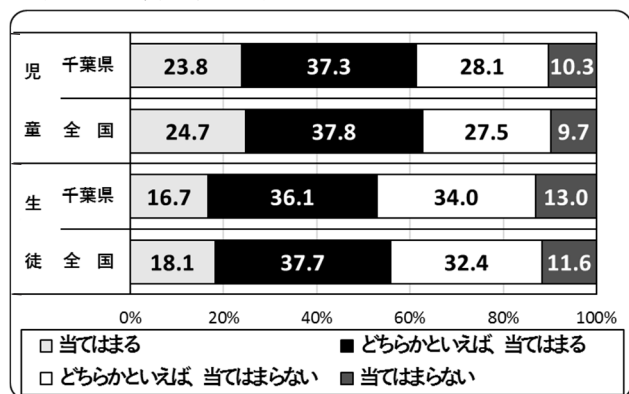


肯定的回答をした学校の割合は、全国に比べ小学校が0.7ポイント、中学校が1.1ポイント高い。また、肯定的回答をしている学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

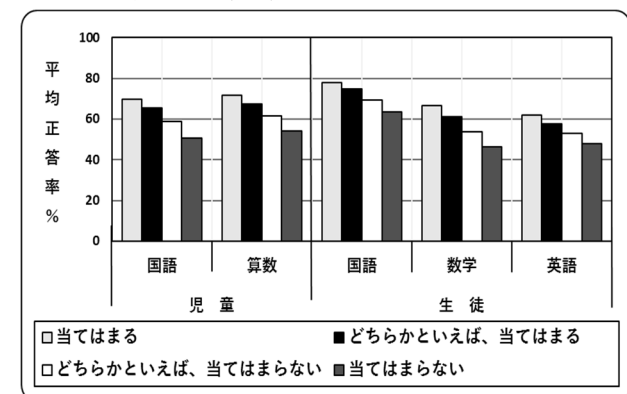
児童生徒質問紙調査から

児 36 生 38	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか
--------------	---

【平成31年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



肯定的回答をした児童生徒の割合は、児童が全国に比べ1.4ポイント、生徒が3.0ポイント低い。また、肯定的回答をしている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

自己有用感・挑戦心に関する状況について

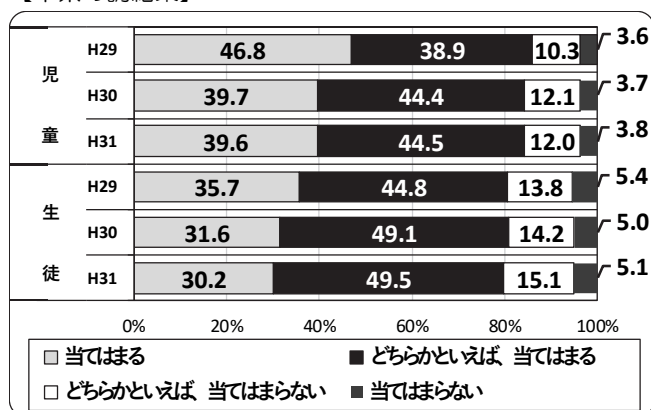
「社会に開かれた教育課程」の実現には、子供たちが自信をもって成長し、より良い社会の担い手になるよう、子供たち一人一人の自己有用感を育む取組を進めていくことが大切である。

文部科学省の分析によると、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、授業で学んだことをほかの学習に生かそうとしたり、学習に主体的な姿勢をとったりする傾向があるとのことである。学校は、児童生徒の挑戦心を大切に、一人一人を認めていくことで、自己有用感を高めていく取組を行っていくことが重要である。

児童生徒質問紙調査から

児 6 生 6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
------------	------------------------------

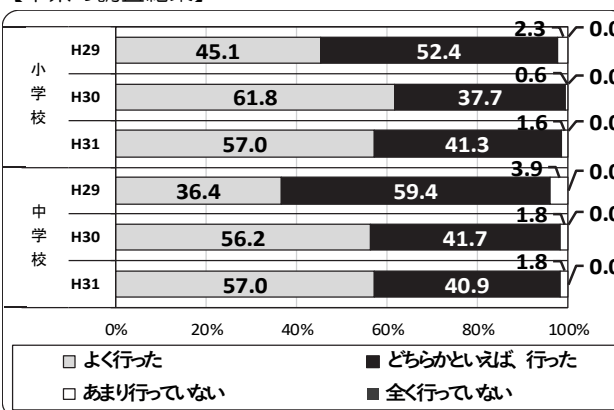
【本県の調査結果】



学校質問紙調査から

小 14 中 14	学校生活の中で、児童〔生徒〕一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか
--------------	--

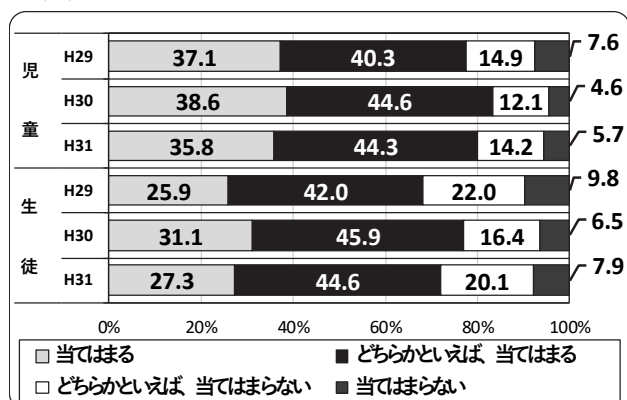
【本県の調査結果】



「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は年々低下している。また、「学校生活の中で、児童〔生徒〕一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか」に肯定的な回答をしている学校の割合は約98%で、児童生徒の受け止め(肯定的回答 児童84.1% 生徒79.7%)との間に差が感じられる。時と場面を考慮し、適切に評価することが大切である。

児 5 生 5	自分には、よいところがあると思いますか
------------	---------------------

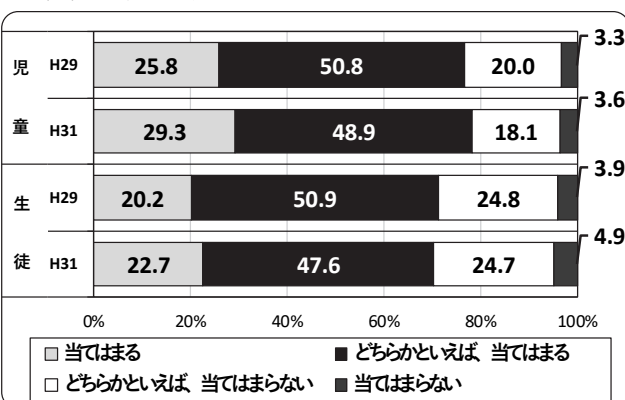
【本県の調査結果】



肯定的回答の割合は、児童の約8割、生徒の約7割であるが、児童生徒とも昨年度より低下している。日々の教育活動の中で、児童生徒の自己肯定感を育むことが大切である。

児 10 生 10	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか
--------------	-------------------------

【本県の調査結果】



肯定的回答の割合は、平成29年度に比べ、児童は上昇し、生徒は低下した。国の分析では、本質問に肯定的な回答をしている児童生徒ほど、学習に主体的な姿勢をとる傾向があるとのことである。

指導改善サイクルの確立を目指して

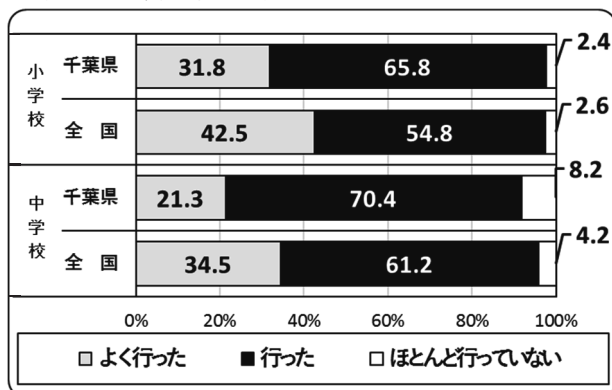
全国学力・学習状況調査の結果の活用に関しては、肯定的回答の割合は、小学校では全国に比べ高いが、中学校では全国に比べ4.0ポイント低く、全国との差が開いてしまった。「ほとんど行っていない」と回答した学校については、今一度、全国学力・学習状況調査の目的や問題作成の趣旨などについて確認をすることが大切である。各学校には、調査結果を児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが求められている。家庭や地域と協力し、全教職員で取り組むことが重要である。

全国学力・学習状況調査等の活用

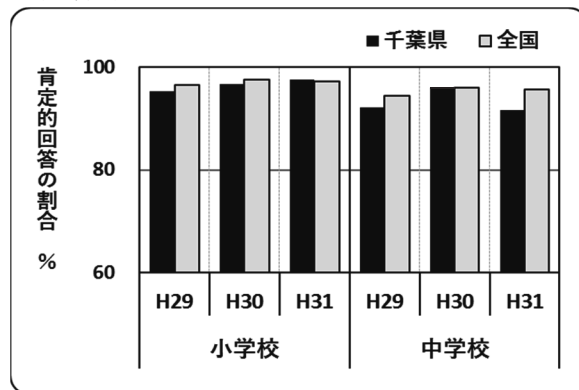
質問番号	質問事項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
63	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	97.6	0.3	91.7	-4.0
64	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	79.4	-11.8 ▼	78.7	-8.8 ▼

小 63 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか
中 79

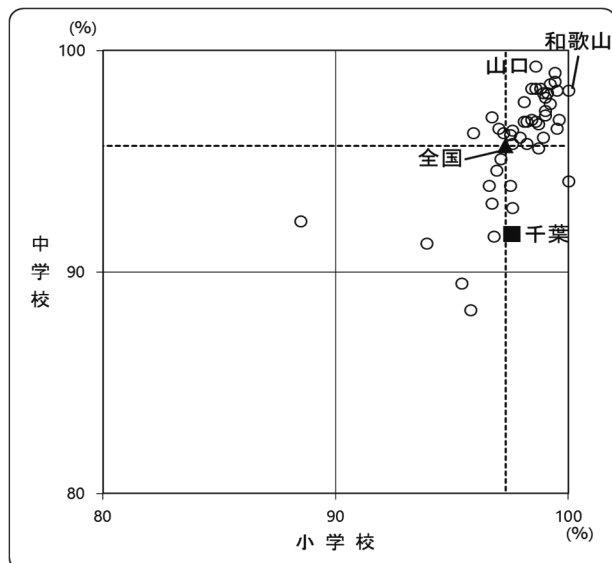
【平成31年度調査結果】



【経年変化】



【散布図】



肯定的な回答の割合は、小学校が約98%、中学校が約92%である。中学校については、全国的に見ると「活用をほとんど行っていない学校」が5番目に多い状況である。

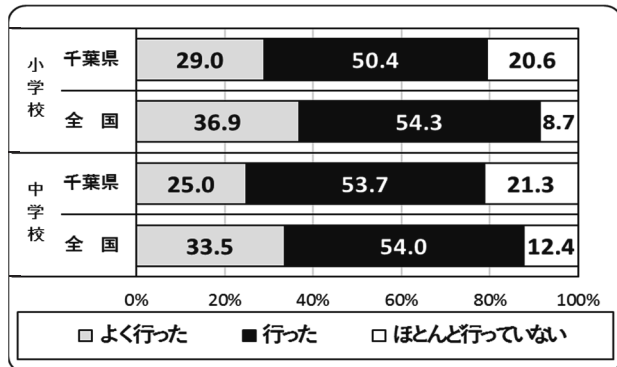
また、「よく行った」と回答した学校の割合を見てみると、小学校は全国に比べ10.7ポイント、中学校は13.2ポイントも低い状況である。

肯定的回答の経年変化を見てみると、小学校は上昇傾向にあるが、中学校は昨年度より4.4ポイント低下した。

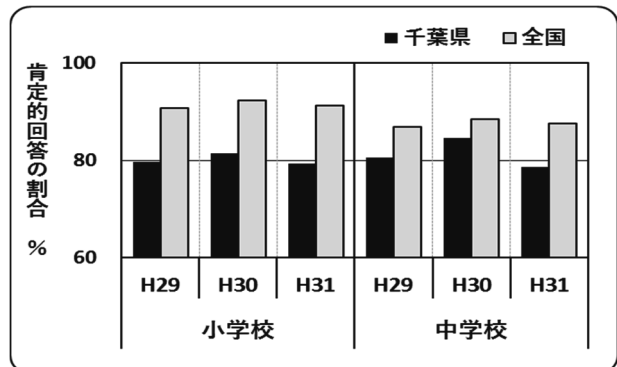
これは、全国学力・学習状況調査の目的を理解していなかったり、データの見方や活用の方法がわからなかったりすることが原因の一端であると考えられる。今一度、目標を確認し、各学校の実態に応じて活用を図っていただきたい。

小 64 中 80	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含みます）
--------------	---

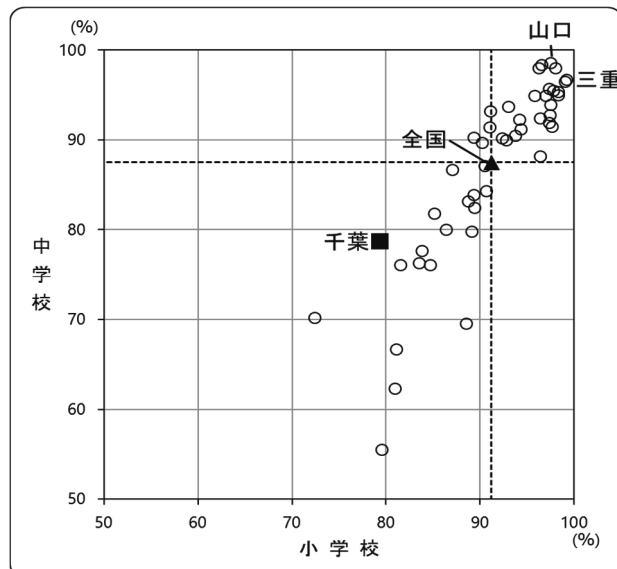
【平成31年度調査結果】



【経年変化】



【散布図】

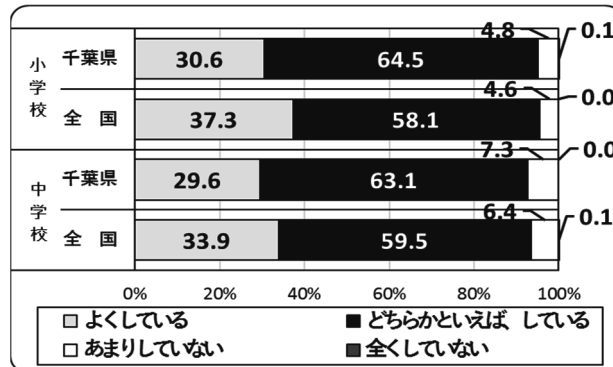


肯定的回答の割合は、全国に比べ小学校は11.8ポイント、中学校は8.8ポイント低く、全国でも下位に位置している。

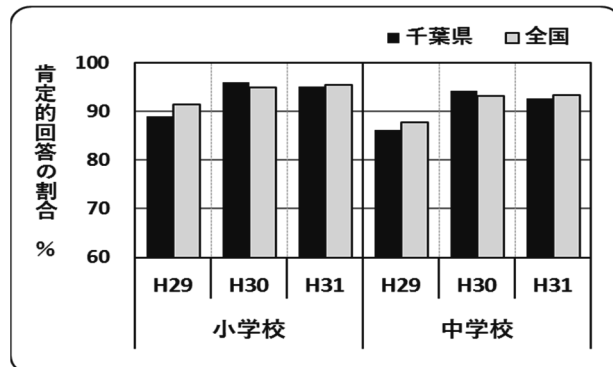
「学校を核とした地域づくり」を推進するためにも、家庭や地域に情報を公開し、積極的に連携を図っていくことが大切である。

小 17 中 17	児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか
--------------	--

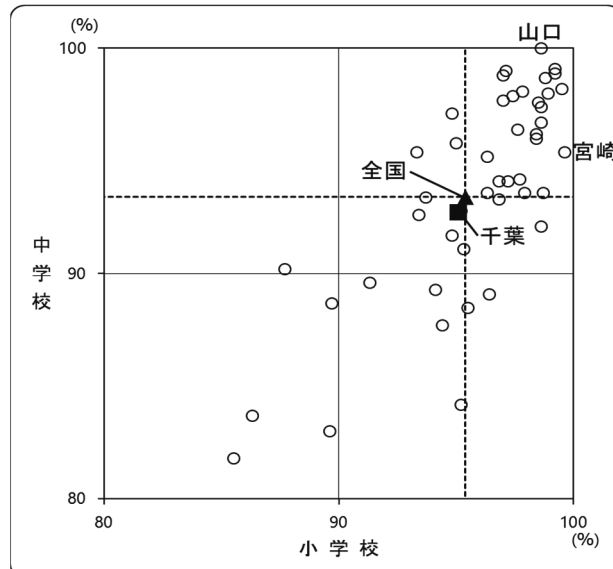
【平成31年度調査結果】



【経年変化】



【散布図】



肯定的回答の割合は、小学校が約95%、中学校が約93%で、全国に比べ小学校は0.3ポイント、中学校は0.7ポイント低い状況である。

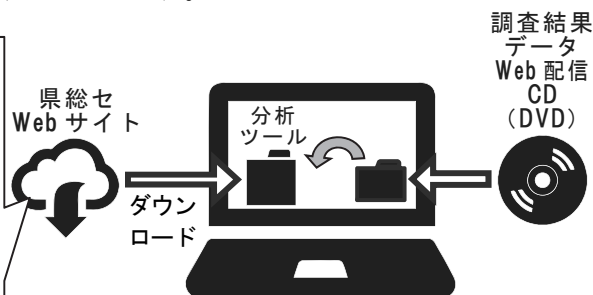
全国学力・学習状況調査のデータを含め、学校の実態に応じたPDCAサイクルを確立することが重要である。

分析ツールを活用した指導改善

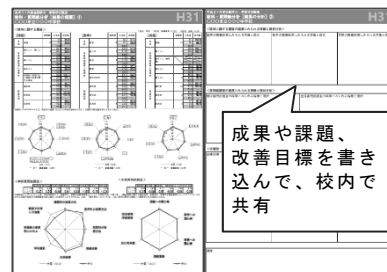
各教育事務所、市町村教育委員会及び学校による全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく成果と課題の実態把握や指導改善サイクルの確立を支援するため、千葉県総合教育センターでは、分析ツールを提供しています。

《分析ツールとは》

文部科学省から提供される調査結果データを簡単な操作で可視化、自校の課題発見を支援する自動計算ツールです。



①教科・質問紙シート



《分析結果は4つのシートに表示印刷して共有・活用》

○教科・質問紙分析ツール（①②の作成）

教科（国語、算数・数学、英語〈中学校〉）や質問紙（学校質問紙、児童生徒質問紙）の結果がチャート図に示されるので、多角形の形状や面積に着目して、課題がみられる項目や成果を確認することができます。さらに過去の調査結果を同時に読み込ませることにより、経年変化の分析や、指導改善の成果を確認することができます。

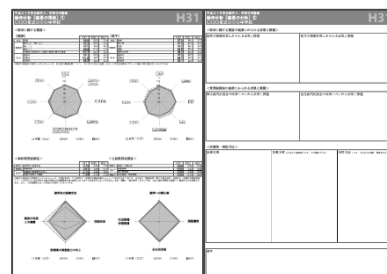
○誤答分析ツール（③の作成）

教科（国語、算数・数学、英語〈中学校〉）に関する調査で、課題が見られた項目や設問について、解答類型ごとの反応率を分析することができます。

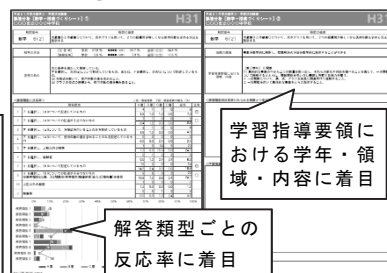
【誤答分析シート】を活用した指導改善

- ・誤答率の高い解答類型に着目〔どうつまずいたか〕
- ・学習指導要領における学習学年に着目〔いつつまずいたか〕
→学習学年と情報を共有してつまずきを未然に防止
- ・「報告書」（国立教育政策研究所）の「学習指導に当たって」を参照し、つまずきの原因〔なぜつまずいたか〕と授業実践を通じて改善する方法〔どのような手立てを打つか〕を探る

②経年分析シート



③誤答分析シート



④クロス集計シート



○クロス集計ツール（④の作成）

児童生徒質問紙調査で課題がみられた項目や質問について、教科に関する調査結果との相関を分析することができます。児童生徒の生活習慣や学習習慣と学力との相関関係を確認することができます。

分析ツールの入手方法（千葉県総合教育センターのWebサイト）



※ダウンロードに必要なパスワードは、県学習指導課 学力向上室長発の文書（令和元年8月5日付 事務連絡）をご覧ください。

全国学力
学習状況
調査

「分析ツール」ダウンロードのほか、授業改善のヒントとなるリンクページを紹介しています。
◆県教育委員会「ちばっ子チャレンジ100」「『ちばのやる気』学習ガイド（※改訂中）」ほか
◆国立教育政策研究所「学習指導の改善・充実に向けた説明会資料」「授業アイディア例」ほか印刷して活用できる素材や授業アイデアなどの情報収集に役立ちます

□全国学力・学習状況調査を活用した指導改善サイクルのチェックシート例

全国学力・学習状況調査を活用した指導改善サイクルの運営状況を確認するためのチェックシートを例示します。各学校の実態に合わせて活用してください。

☑	チェック項目	実施日 等
調査実施前		
☐	年間指導計画の作成に当たり、前年度までの調査内容や分析結果を参考にした	
☐	指導改善サイクルを策定し、年間行事予定に組み込み、役割分担を確認した	
調査実施後		
☐	全職員で調査内容を把握した	
☐	調査関連資料をまとめて管理し、職員がいつでも閲覧できるようにした	
☐	関係職員が 問題 を研究し、指導改善について協議した	
☐	関係職員が「 解説資料 」を研究し、指導改善について協議した	
☐	問題 及び「 解説資料 」の研究に基づいた指導改善のための校内研修を行った	
結果公表後の分析		
☐	「 報告書 」を研究し、課題や指導改善のポイントを把握した	
☐	結果分析を行い、成果と課題を明らかにした	
☐	教科区分ごとの平均正答率を全国並びに県平均と比較した	※
☐	学習指導要領の領域及び問題形式ごとの平均正答率を分析した	※
☐	設問ごとの解答類型と反応率を分析した	※
☐	平均正答率の経年変化を分析した	※
☐	児童生徒質問紙及び学校質問紙の回答状況を全国及び県平均と比較した	※
☐	質問項目ごとの回答状況について分析した	※
☐	質問紙の回答状況の経年変化を分析した	※
☐	教科と質問紙の相関について分析した	※
☐	分析結果を共有した	
☐	学年で共有した	
☐	教科部会で共有した	
☐	学校全体で共有した	
指導改善		
☐	「 授業アイディア例 」の研究を行った	
☐	分析ツール を活用し、指導改善の具体策を立てた (結果の概要シート、結果の推移シート、誤答分析シート、教科・質問紙クロス集計シート)	※
☐	分析結果に基づき指導改善策を策定し、共有した	
☐	学年で共有した	
☐	教科部会で共有した	
☐	学校全体で共有した	
☐	授業研究を伴う校内研修の充実を図った	
☐	指導改善による成果の評価を行った	
☐	成果と課題、指導改善策について、家庭・地域に情報提供を行った	

※ 分析ツール（８３ページ参照）で検討資料の作成ができます。

Ⅲ 結果の活用に向けて

Ⅲ 結果の活用
に 向 け て

1 地域別の傾向

1 地域別の傾向

(1) 葛南地区

教科についての傾向と課題

* 例示した設問や出題の趣旨等は、以下のうち、特徴的なものである。

○正答率が全国と比べて低いもの

○正答率そのものが低いもの

* [] 内の学年は、学習学年を示している。

小学校・国語

「自分の考えをまとめること」に今年度も課題が見られる。領域では「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が引き続き低下している。

- ・国語¹四 (1) 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」 [5、6年]
- ・国語²二 「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」 [5、6年]
- ・国語³三 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」 [5、6年]
- ・国語³四 「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」 [3、4年]

中学校・国語

「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと」に今年度も課題が見られる。領域では、昨年度と比較し、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事柄」に改善傾向が見られる。

- ・国語¹四 「封筒の書き方を理解して書く」 [1年]
- ・国語²二 「相手にわかりやすく伝わる表現について理解する」 [1年]
- ・国語²三 「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」 [1年]
- ・国語³二 「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」 [1年]

小学校・算数

「量と測定」領域は改善傾向が見られる。問題形式では、今年度も記述式に課題が見られる。

- ・算数¹ (3) 「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できる」 [5年]
- ・算数² (3) 「二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述できる」 [3、5年]
- ・算数³ (2) 「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できる」 [3、4年]
- ・算数³ (4) 「示された除法の式の意味を理解している」 [3、5年]

中学校・数学

「数学的な表現を用いて説明すること」に課題が見られる。また、領域では、「関数」及び「資料の活用」に課題が見られる。

- ・数学⁴ 「関数を用いて事象を捉え考察する場面において、事象に即して解釈したことを数学的に表現したり、反比例の表から、 x と y の関係を式で表したりすることができる」 [1年]
- ・数学⁶ (1) 「グラフの点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる」 [2年]
- ・数学⁶ (2) 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」 [2年]
- ・数学⁸ (2) 「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」 [1年]

中学校・英語

理解した内容を踏まえ、目的・場面・状況に応じて、話し手や書き手の伝えたいことは何かを理解するなど、概要や要点をとらえることに課題が見られる。

- ・英語⁴ 「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる」 [聞くこと]
- ・英語⁸ 「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる」 [読むこと]
- ・英語⁹ (2) ② 「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる」 [書くこと]
- ・英語¹⁰ 「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文書を書くことができる」 [書くこと]

課題が見られた設問の例

小学校 国語 [5・6年] 【3三】

話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかの設問に対して、無解答率が高かった。意図を捉えながら自らの考えと比較し、まとめる学習の積み重ねが必要である。

特
に
、
●

③ 三 岸さんは、インタビュアの最後に、大谷さんの仕事への思いや考えに着目して、特に心に残ったことを伝えようとしています。『インタビュアの様子』の

イ に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

《条件》

- 『インタビュの様子』の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと。
- インタビュアとしてふさわしい言葉づかいにすること。
- 書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

中学校 国語 [1年] 【2三】

引き続き、話し合いの話題や方向性を捉えて自分の考えを持つ設問に対しての無解答率が高い。条件に沿って、根拠を明確にしながら自分の考えを持つことができるようになる力を育むことが重要である。

② 三 場面③のAで山下さんは、「どうするか決まっていな
いこと」について自分の考えを述べようとしています。あなたな
ら、どのような考えを述べますか。次の条件1・条件2にしたが
って、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、一本線で消したり行
間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていな
いこと」とは何かを明確にして書くこと。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていないうこと」を
解決する具体的な案を考えて書くこと。

小学校 算数 [3・4年] 【3 (2)】

③ (2) ひき算について書かれた【ゆいさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。

下の「 」の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って、書きましょう。

わり算では、

※解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

※解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

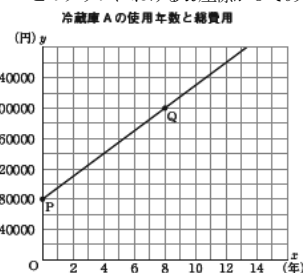
このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

「商は変わらない」と記述すべきところを「差は変わらない」としている児童が多かった。計算に関して成り立つ性質を見だし、算数の用語を用いて、最後まで適切に表現することができるように指導することが重要である。また、商が同じになる性質をつかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見いだす活動など実感的に理解させる指導も大切である。

中学校 数学 [2年] 【6 (1)】

6 (1) 冷蔵庫Aを購入して x 年間使用するときの総費用を y 円とします。この x と y の関係を、健太さんは次のような一次関数のグラフにしました。

このグラフにおける x 座標が 0 である点を P、 x 座標が 8 である点を Q とします。点 P の y 座標と点 Q の y 座標の差は、冷蔵庫 A についての何を表していますか。下の A から Z までのの中から正しいものを 1 つ選びなさい。



ア 本体価格
イ 使用年数
ウ 1年間あたりの電気代
エ 購入してから8年間の電気代
オ 購入して8年間使用するときの
総費用

オを選んだ生徒が多かった。数学的に表現したことを事象に即して解釈することができるように指導することが大切である。具体的に、表で与えられた情報を基に、関係をグラフに表し、グラフを事象に即して解釈する活動を取り入れることが考えられる。

中学校 英語 [聞くこと] 【4】

4 (放送問題)

英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞
くところです。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバ
イスを英語で簡潔に答えなさい。

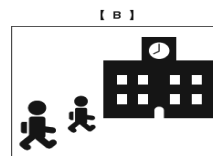
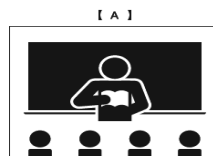
(スクリプト)

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

内容は聞き取れていても、求められている答えを適切に表現できない。即興性のある対話や、聞く活動を話す活動や書く活動につなげる統合的な活動を取り入れ、表現力を身に付けさせていくことが必要である。

中学校 英語 [書くこと] 【10】

10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どもらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。



※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (、や ? など) は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

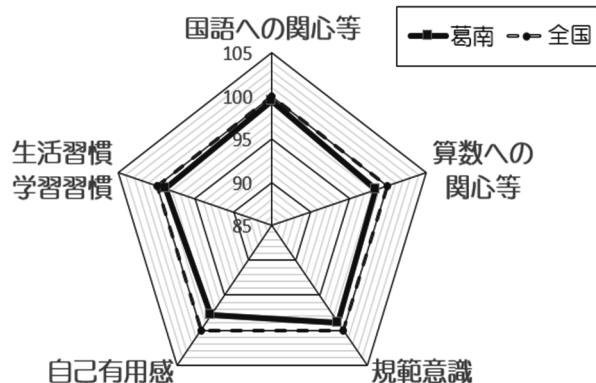
問題の指示や条件を満たしていても、語や文法事項等の知識が身に付いていないため正しく書けていない。書く活動や技能統合的な活動を行い、書く機会を増やし、表現力を豊かにすることが大切である。

生活習慣や学習環境等について

*チャート図は、全国平均を100としたときの指数で示している。

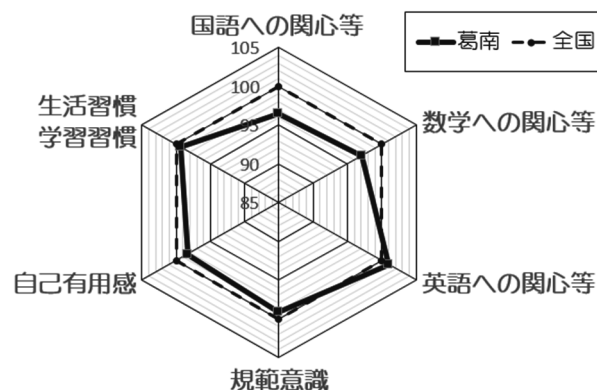
児童質問紙から

平成31年度



生徒質問紙から

平成31年度

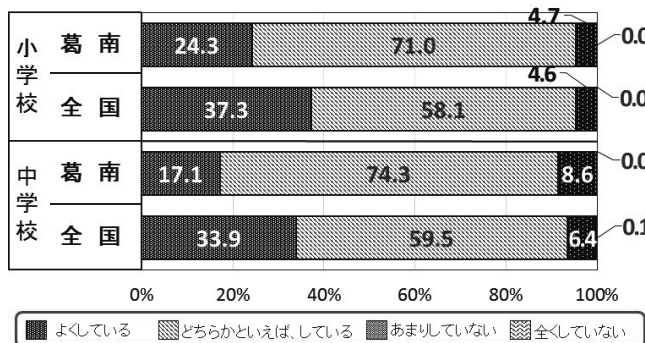


「自己有用感」については、児童生徒とも全国と比べて低い傾向にある。児童生徒の良い点や可能性、進歩の状況について積極的に評価する必要がある。また、児童質問紙に比べて生徒質問紙では各教科への関心が低い傾向にある。生徒の意欲を喚起できるような授業改善が求められる。

学校質問紙から 『指導改善サイクルの確立を目指して』

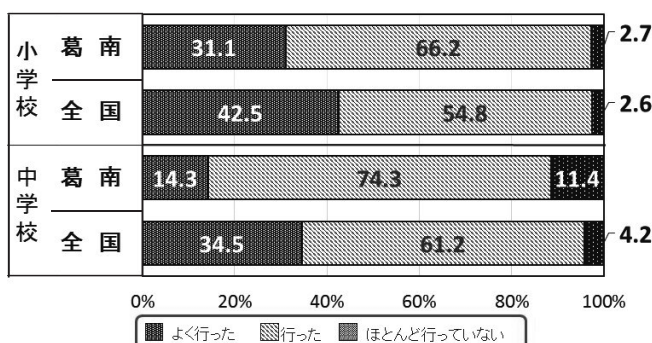
小17
中17

児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



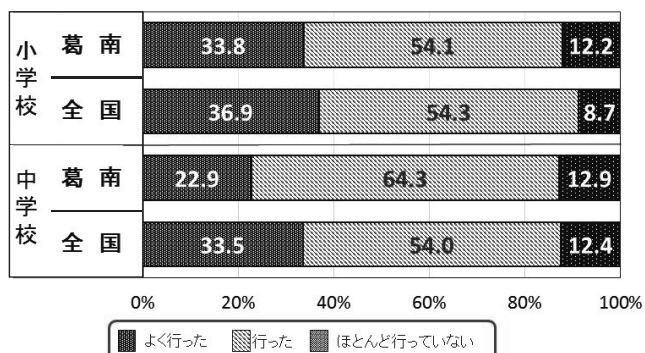
小63
中79

平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



小64
中80

平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)



- ・【小17中17】では、全国に比べ小・中学校ともに「よくしている」と回答した割合が低い。
- ・【小63中79】では、小学校では肯定的な回答の割合は全国平均並みだが、中学校では、全国平均を下回っている。また、「よく行った」と回答している学校が全国平均の半分にも達していない。
- ・【小64中80】では、「よく行った」と回答した割合が、小・中学校共に全国平均より低く、その差は中学校の方が大きい。

(2) 東葛飾地区

教科についての傾向と課題

* 例示した設問や出題の趣旨等は、以下のうち、特徴的なものである。

○正答率が全国と比べて低いもの

○正答率そのものが低いもの

* [] 内の学年は、学習学年を示している。

小学校・国語

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題が見られる。

- ・国語¹一 「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」 [5、6年]
- ・国語¹三 「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」 [5、6年]
- ・国語¹四 (1) ア「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」 [5、6年]
- ・国語³二 「目的に応じて、質問を工夫する」 [5、6年]
- ・国語³三 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」 [5、6年]
- ・国語³四 「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」 [3、4年]

中学校・国語

「読むこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。

- ・国語¹一 「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」 [2年]
- ・国語¹四 「封筒の書き方を理解して書く」 [1年]
- ・国語²三 「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」 [1年]

小学校・算数

第3学年、第4学年の「数と計算」領域や第4学年の「数量関係」領域に課題が見られる。

- ・算数¹ (1) 「台形について理解している」 [4年]
- ・算数² (4) 「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」 [4年]
- ・算数³ (1) 「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる」 [3年]
- ・算数³ (2) 「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」 [3、4年]
- ・算数³ (3) 「示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる」 [4年]
- ・算数⁴ (3) 「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる」 [5年]

中学校・数学

「図形」領域に改善傾向が見られるが、「関数」領域は引き続き課題が見られる。

- ・数学⁶ (1) 「グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる」 [2年]
- ・数学⁶ (2) 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」 [2年]
- ・数学⁷ (1) 「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」 [2年]
- ・数学⁸ (2) 「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」 [1年]
- ・数学⁸ (3) 「問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる」 [1年]
- ・数学⁹ (1) 「与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる」 [2年]

中学校・英語

聞き取ったり、読み取ったりすることは概ねできているが、把握した内容を踏まえ、目的・場面・状況に応じて、話し手や書き手の伝えたいことは何かを理解するなど、概要や要点を捉えることに課題がある。

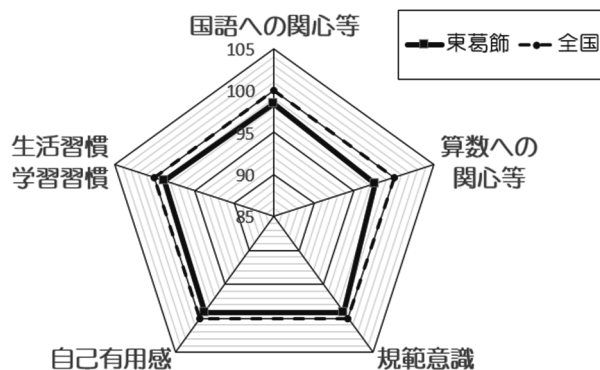
- ・英語⁴ 「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる」 [聞くこと]
- ・英語⁸ 「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる」 [読むこと]
- ・英語⁹ (3) ②「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」 [書くこと]
- ・英語¹⁰ 「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文書を書くことができる」 [書くこと]

生活習慣や学習環境等について

*チャート図は、全国平均を100としたときの指数で示している。

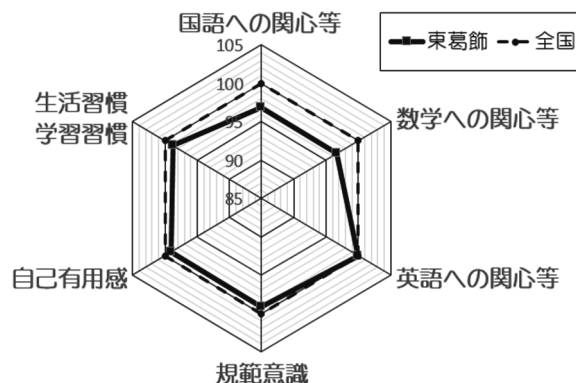
児童質問紙から

平成31年度



生徒質問紙から

平成31年度

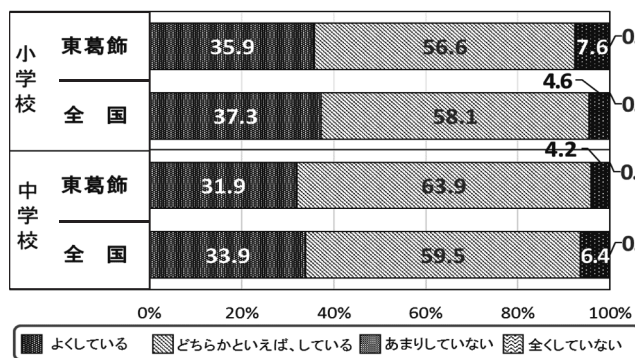


児童質問紙、生徒質問紙ともに、一部を除き全国と比べて全体的に低い傾向にある。小学校では国語への関心と算数への関心が低い。中学校では英語への関心は高いが、小学校同様、国語への関心と数学への関心が低い。児童・生徒の興味・関心を高める指導の工夫が求められる。

学校質問紙から 『指導改善サイクルの確立を目指して』

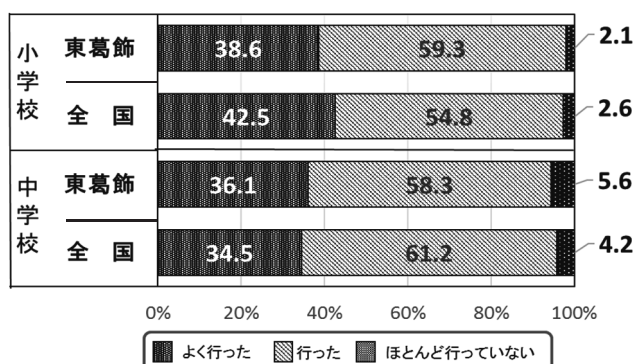
小17
中17

児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



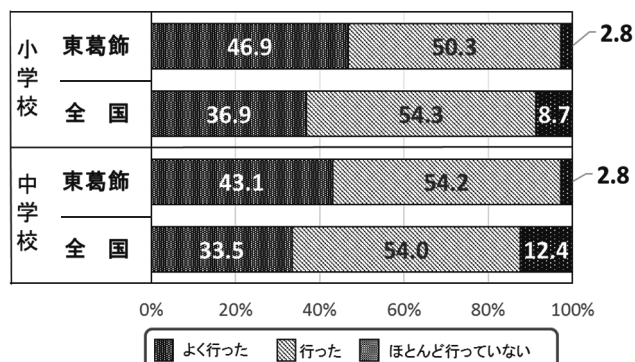
小63
中79

平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



小64
中80

平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)



- ・【小64・中80】から全国平均に比べ、各学校が、調査の自校の結果について、保護者や地域に対して積極的に公表や説明を行っていることが分かる。
- ・しかし、【小17・中17】と【小63】では、「よくしている」と「よく行った」の回答が全国の平均に比べて低い。今後は、調査の結果を学校全体で検証して共有し、教育課程の編成や教育活動を改善するために活用することが課題となっている。

(3) 北 総 地 区

* 例示した設問や出題の趣旨等は、以下のうち、特徴的なものである。

○正答率が全国と比べて低いもの

○正答率そのものが低いもの

* [] 内の学年は、学習学年を示している。

教科についての傾向と課題

小学校・国語

「言語についての知識・理解・技能」については全国と比べても遜色ないものの、「話す・聞く能力」に課題がある。必要な情報を得る際には、情報をどのように活用するのか、必要とする情報は何か、そのためには誰に何を聞けばよいのか十分に検討し、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えと比較・関係付けることができるよう指導する必要がある。

- ・国語¹二 「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」 [5、6年]
- ・国語¹四 (1) ア 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」 [5、6年]
- ・国語³二 「目的に応じて、質問を工夫する」 [5、6年]
- ・国語³三 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」 [5、6年]

中学校・国語

「話す・聞く能力」に次いで「書く能力」に課題がみられる。特に記述式の問題を苦手とする傾向がある。目的や意図に応じて相手に分かりやすい文章を書く力を身に付けるために、相手意識を明確にすることや根拠を明確にすること、効果的な文章の構成や展開、表現等、言葉による見方・考え方を働かせて書くことを指導する必要がある。

- ・国語¹一 「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」 [2年]
- ・国語²二 「相手に分かりやすく伝わる表現について理解する」 [1年]
- ・国語²三 「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」 [1年]
- ・国語³二 「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」 [1年]

小学校・算数

「数と計算」と「量と測定」の領域に課題がみられる。特に記述式の問題を苦手としているが、基礎的な内容にも課題がある。適用問題に繰り返し取り組むことで、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図る。また、解き方を説明する活動等を多く取り入れることで、思考し、表現する力を育む必要がある。

- ・算数²(4) 「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」 [4年]
- ・算数³(2) 「示された計算の仕方を解釈し、減法を基に、除法で成り立つ性質を記述できる」 [3、4年]
- ・算数³(4) 「示された除法の式の意味を理解している」 [3、5年]
- ・算数⁴(3) 「状況から、単位量当たりの大きさを基に求め方と答えを記述し、結果を基に判断できる」 [5年]

中学校・数学

全領域で前年度より低下し、特に「関数」領域に課題がみられる。また、短答式、記述式の問題を苦手とする傾向がある。知識及び技能を問う問題で差が大きいため、適用問題等を通して基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ると共に、問題解決場面で活用し、思考・表現する中で、生きて働くものとなるようにする必要がある。また、解決方法や理由等を数学的に説明する場面を適切に設ける必要がある。

- ・数学⁴ 「反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる」 [1年]
- ・数学⁶(2) 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」 [2年]
- ・数学⁸(1) 「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」 [1年]
- ・数学⁸(2) 「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」 [1年]

中学校・英語

「書くこと」の領域に課題がみられる。伝えたい内容を正確に書くことができるように、コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にした言語活動を通して文法事項の定着を図る必要がある。

- ・英語⁵(2) 「日常的な話題について、簡単な文で書かれたものを正確に読み取ることができる」 [読むこと]
- ・英語⁹(2) ② 「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる」 [書くこと]
- ・英語⁹(3) ①② 「与えられた情報から、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」 [書くこと]
- ・英語⁹(3) ③ 「与えられた情報から、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる」 [書くこと]

課題が見られた設問の例

小学校 国語 [5年・6年] 【3】(三)

③ 岸さんは、町の広報誌に取り上げられていた量職人の大谷さんを、学級の友達に紹介するために、大谷さんにインタビューをすることにしました。次は、「広報誌の記事」を直接聞いてみたいこと、「インタビュウの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

〔広報誌の記事〕
〔直接聞いてみたいこと〕 (問題用紙参照)
〔インタビュウの様子〕

三 岸さんは、インタビュウの最後に、大谷さんの仕事への思いや考えに着目して、特に心に残ったことを伝えようとしています。〔インタビュウの様子〕の「イ」に入る内容を、次の条件に合わせ書きましょう。

○ (インタビュウの様子) の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと。
○ インタビュウとして、ふさわしい言葉づかいにすること。
○ 書き出しの言葉に続けて、三十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

無解答の児童が多い。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめるために、インタビュウの成果を生かす場の設定をし、インタビュウの目的や自分に必要な情報は何かを確認した上で、必然性を感じながら対話することが大切である。

中学校 国語 [1年] 【2】(三)

② 第一中学校の生徒会役員の山下さんたちは、「地域とつながりを大切にした文化祭をするために」という議題で話し合っています。次は、「話し合いの一部」です。これを読んだ場面です。

〔話し合いの一部〕 (問題用紙参照)

三 場面③の「A」で山下さんは、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを述べようとしています。あんなら、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」とは何かを明確にして書くこと。
条件2 条件1で示した「どうするか決まっていないうこと」を解決する具体的な案を考えて書くこと。

話し合いの目的や方向を適切に捉えることができていない解答が多い。このことを解消して、自分の考えをもつことができるようにするため、司会の進め方や発言の仕方など確認した上で、話し合いを行う。そして、話し合いの過程を文字化する等可視化し、振り返る活動を行うことが大切である。

小学校 算数 [3・4年] 【2】(4)・【3】(2)

- ㉔ (4) $6 + 0.5 \times 2 = \text{㉔}$
- ㉔に入る数を書きましよう。
- ㉔ (2) ひき算について【ゆいなさんがまとめたこと】(問題用紙参照)と同様に、わり算についても【ことねさんの計算の仕方】(問題用紙参照)をもとにまとめると、どのようになりますか。「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましよう。

計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにする。そのため、具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるようにすること、また、四則を混合させたり()を用いたりして一つの式に表すことができるようにすることが大切である。

示された計算の仕方を解釈し、減法を基に統合的・発展的に考え、除法に関して成り立つ性質を、算数用語で表現することができるようにする。そのため、商が同じになる幾つかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見だし、一般的に表現する活動を取り入れること、また、小数や分数の除法でも活用されていることが大切である。

中学校 数学 [1年] 【4】・【8】(1)

- ㉔ 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。 y を x の式で表しなさい。
- | | | | | | | | | | |
|-----|-----|----|----|----|---|----|----|----|-----|
| x | ... | -3 | -2 | -1 | 0 | 1 | 2 | 3 | ... |
| y | ... | 2 | 3 | 6 | × | -6 | -3 | -2 | ... |
- ㉔ (1) 図書委員会で実施したアンケートをもとに、最近1か月間に読んだ本の冊数について、下のような表にまとめました。読んだ本の冊数の最頻値を求めなさい。

冊数(冊)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
人数(人)	13	114	74	30	11	7	4	4	3	4	6	270

反比例の表から変化や対応の特徴を捉え、関係を式で表すことができるようにする。そのため、表、式、グラフを関連付ける活動や具体的な事象について関数の視点から考察する場面を設定し、関係を数学的に表すことが大切である。

代表値の必要性和意味を理解し、代表値を求めることができるようにする。そのため、目的に応じてデータを収集して整理し、資料の傾向を読み取る活動や、説明する場面を設定し、数学的な結果に基づき判断したり批判的に考察したりすることが大切である。

中学校 英語 [書くこと] 【9】(3)

- ㉔ (3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Rome
③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×

誤答の多くは、問題の指示文を正しく理解できていないか、動詞の欠落や3人称単数現在形など基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことができていないと考えられるものである。

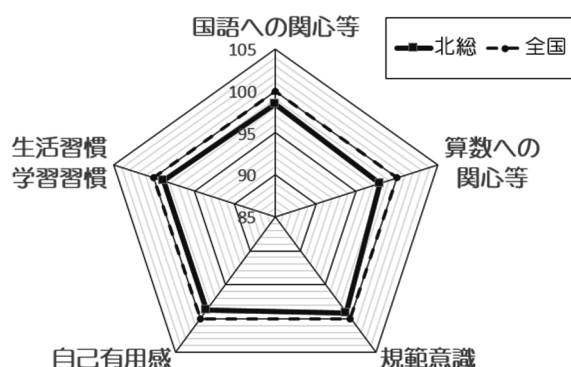
与えられた情報に基づいて3人称単数現在の文を正確に書くことができるようにするため、様々な場面で3人称を扱った言語材料を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして繰り返し活動することが大切である。

生活習慣や学習環境等について

*チャート図は、全国平均を100としたときの指数で示している。

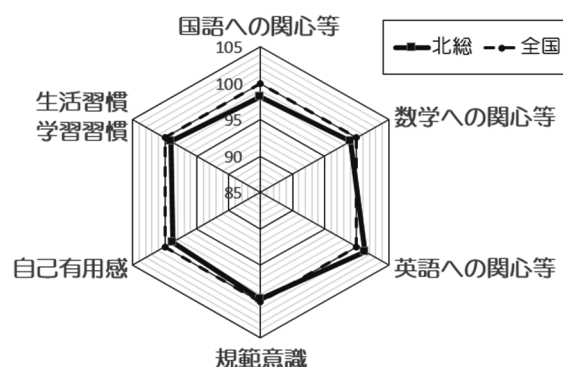
児童質問紙から

平成31年度



生徒質問紙から

平成31年度

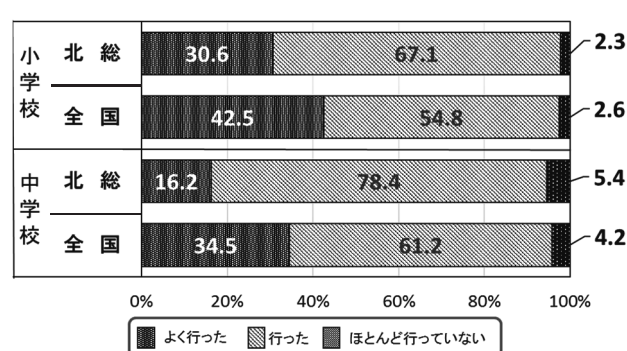
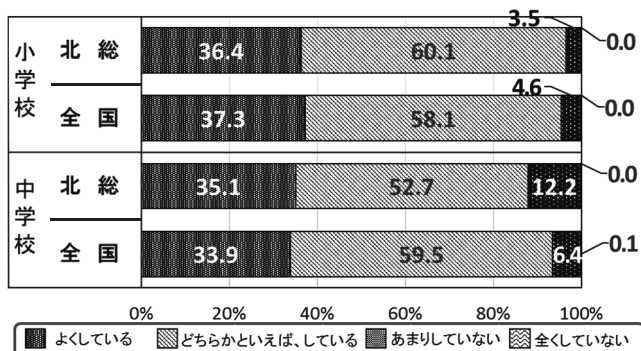


「英語への関心等」については、全国と比べてやや高い傾向にあるが、「国語への関心等」「算数・数学への関心等」については、児童生徒とも全国と比べてやや低い傾向にある。また、児童生徒ともに、昨年度から多少の改善は見られるが、「自己有用感」「学習習慣・生活習慣」が全国と比べてやや低い傾向にある。問いを工夫し、実生活と関連させながら、生徒指導の機能を生かしたわかる授業を展開することで、授業への関心や自己有用感を高めていくことが必要である。

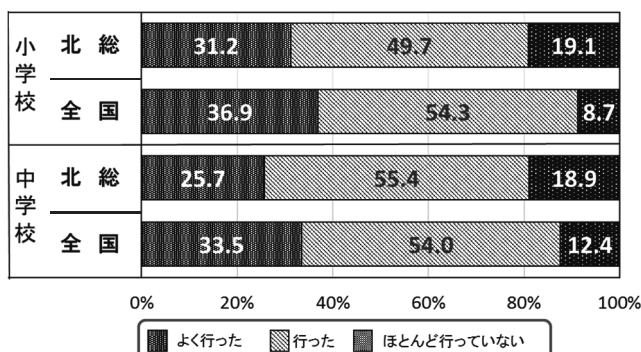
学校質問紙から 『指導改善サイクルの確立を目指して』

小17 中17	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか
------------	---

小63 中79	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか
------------	--



小64 中80	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)
------------	---



- ・【小17・中17】では、中学校ではPDCAサイクルの確立を「あまりしていない」割合が全国に比べて高い。生徒の実態分析をもとにした実践・評価・改善を全職員で行い、共通理解を図りながらPDCAサイクルの視点で授業実践する必要がある。
- ・【小63・中79】では、教育活動の改善のための活用を「よく行った」という割合が小中学校とも全国に比べて低い。校内に学力検証委員会を設置する等して、結果を分析し、課題に取り組む校内体制の構築を図る必要がある。
- ・【小64・中80】では、結果について公表や説明を「ほとんど行っていない」割合が全国に比べて高い。管理職のリーダーシップのもと、結果の公表や説明を保護者や地域の人たちに積極的に行い、地域とともに学ぶ学校体制の構築を図る必要がある。

(4) 東上総地区

* 例示した設問や出題の趣旨等は、以下のうち、特徴的なものである。

○正答率が全国と比べて低いもの

○正答率そのものが低いもの

* [] 内の学年は、学習学年を示している。

教科についての傾向と課題

小学校・国語

昨年度に引き続き、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域ともに、目的や意図に応じて表現の工夫を捉えたり、効果的に表現したりすることに課題が見られる。

- ・国語¹_二 「文章の書き方の工夫として適切なものを選択する」 [5、6年]
- ・国語¹_三 「条件に合わせて、自分の考えの理由を明確にして記述する」 [5、6年]
- ・国語¹_四(1) ア「漢字を書く(調査のたいしょう)」 [5・6年 「象」は4年の配当漢字]
- ・国語³_二 「インタビューにおける、質問の工夫として適切なものを選択する」 [5、6年]

中学校・国語

昨年度に引き続き、文章の内容や書き手・話し手の意図を捉えたり、目的や意図に応じて根拠を明確にして、自分の考えを表現したりすることに課題が見られる。

- ・国語¹_一 「文章の構成や展開、表現等とその効果について説明したものとして適切なものを選択する」 [2年]
- ・国語¹_二 「文章で述べられている弁当の魅力として適切なものを選択する」 [1年]
- ・国語²_一 「話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する」 [1年]
- ・国語²_三 「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」 [1年]
- ・国語³_二 「グラフの情報をを用いて、意見文の下書きに具体例を書き加える」 [1年]

小学校・算数

「図形」領域が前年度よりも上昇している。「数と計算」、「数量関係」の領域では、四則の混合した整数と小数の計算の内容に課題が見られる。

- ・算数²₍₃₎ 「二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く」 [3、5年]
- ・算数²₍₄₎ 「洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する」 [4年]
- ・算数³₍₁₎ 「 $350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く」 [3年]
- ・算数³₍₂₎ 「減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなのかを書く」 [3、4年]

中学校・数学

全ての領域、観点、問題形式で、全国に比べ低い状況である。とくに「関数」の領域に課題が見られる。昨年度に引き続き「記述式」の問題形式にも課題が見られる。

- ・数学⁴ 「反比例の表から x と y の関係を式で表す」 [1年]
- ・数学⁶₍₁₎ 「冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフ上の点Pの y 座標と、点Qの y 座標の差が表すものを選ぶ」 [2年]
- ・数学⁶₍₂₎ 「冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる、およその使用年数を求める方法を説明する」 [2年]
- ・数学⁸₍₂₎ 「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切でない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する」 [1年]

中学校・英語

全ての領域、観点、問題形式で、全国に比べ低く、とくに「記述式」の問題形式に課題が見られる。

- ・英語⁷ 「チンパンジーに関する説明文を読み、スミス先生との会話文中の空欄に入る文を選ぶ」 [読むこと]
- ・英語⁹_{(3)②} 「与えられた情報(住んでいる都市)に基づいて、ある女性を説明する英文を書く」 [書くこと]
- ・英語⁹_{(3)③} 「与えられた情報(ペットの有無)に基づいて、ある女性を説明する英文を書く」 [書くこと]
- ・英語¹⁰ 「学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに25語以上の英語で意見を書く」 [書くこと]

課題が見られた設問の例

小学校 国語 [5・6年] 【3】二

③二 「インタビューの様子」の「……」で、岸さんは、——部のようにくふうして質問をしています。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 相手の思いをさらに引き出すために、相手がくり返し発言した言葉を用いながら質問をしている。
- 相手に質問をする理由を理解してもらえらるよう、インタビューの目的を伝えてから質問をしている。
- 相手が答えやすいように、自分が知りたいことについて言葉をかえても一度質問があつたため、その相手の話の中に分らない言葉があつたため、その言葉の意味を確かめる質問をしている。
- 1または2を選んだ児童が多く、相手の状況を捉えることができていなかったことが考えられる。インタビューの際、話の内容や話し手の意図を踏まえて聞き取るとともに、話の展開に沿って、目的に応じた質問をするように指導することが大切である。

中学校 国語 [1年] 【2】三

②三 場面③のAで山下さんは、「どうするか決まっていけないこと」について自分の考えを述べようとしています。あなたなら、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがつて、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていけないこと」とは何かを明確にして書くこと。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていけないこと」を解決する具体的な案を考えて書くこと。

課題の解決に向けた自分なりの考えを持つことに課題がある。話し合いをする際には、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加するように指導すること。その際、必要に応じて話し合いの話題について確認したり、話し合いの経過を捉えたりすることができるよう指導することが大切である。

小学校 算数 [4年] 【2】(4)

② かいとさんたちは、水を大切に使用しているかどうかを知りたいと思い、まず、自分たちの住んでいる市では、水をどのくらい使っているのかを調べています。

(4) かいとさんは、自分が家で水をどのくらい使っているのが気になる、洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、下の式を考えました。

【かいとさんが考えた式】

$$6 + 0.5 \times 2 = \text{㊦}$$



【かいとさんが考えた式】の㊦に入る数を書きましよう。

四則の混合した式の計算に課題がある。計算の決まりを単に暗記するだけではなく、具体的な場面と関連付けて、左から計算した場合と計算の順序についての決まりを基に正しく計算した場合とを比較することで、計算の順序によって式の意味が異なることに気付けるように指導することが大切である。

中学校 数学 [2年] 【6】(2)

⑥ 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円



$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + (1 \text{ 年間あたりの電気代}) \times (\text{使用年数})$$

(2) 下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

ア、イを選択しているが、説明の無解答の割合が高い。問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることができるよう指導することが大切である。

中学校 英語 [読むこと] 【7】

⑦ 中学生の一郎は、スミス先生 (Mr. Smith) と話しています。次の会話文中の () 内に入る最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

一部省略

The team tried teaching *janken* to seven chimpanzees. They showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees. The chimpanzees got food when they pointed to the stronger one. Finally, five of the chimpanzees learned *janken*.

The team also tried teaching *janken* to some human children. They found that children could learn *janken* when they were about four years old. Through this study, they got the answer to the question: "How smart are chimpanzees?"

[A few minutes later]

Ms. Smith: What is the most important point in this article?

Ichiro: ()

Ms. Smith: Right. That is the main point.

前後の対話を理解できていなかったり、手がかりとなる文がわからなかったりしている生徒が多い。日常的な話題や社会的な話題に関する説明などを読んで、最も大切な部分を読みとることができるよう指導することが大切である。

中学校 英語 [書くこと] 【10】

⑩ 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム (案内用図記号) のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。



※ 図記号 [A] (「in」や「don't」など) は1語と数え、符号 (「,」や「?」など) は数に含めません。

(例) No, I'm not. [3語]

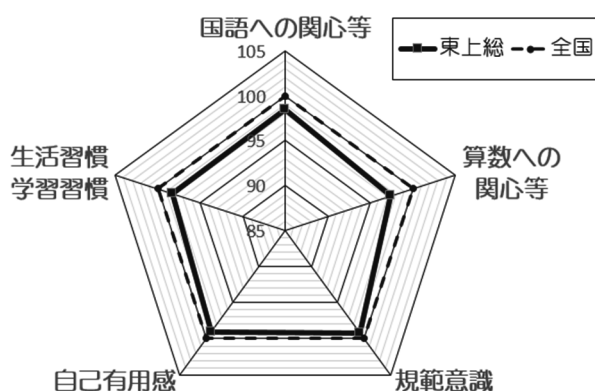
動詞の欠落などの誤りや25語以上書けていない解答が多い。与えられたテーマについて、まとまりのある文章を書くために、考えを整理し相手に正しく伝えるために、語や文法知識を正しく理解・活用して書き表すことができるよう指導することが大切である。

生活習慣や学習環境等について

*チャート図は、全国平均を100としたときの指数で示している。

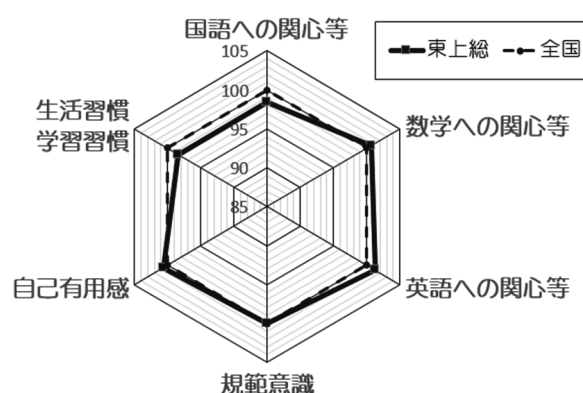
児童質問紙から

平成31年度



生徒質問紙から

平成31年度

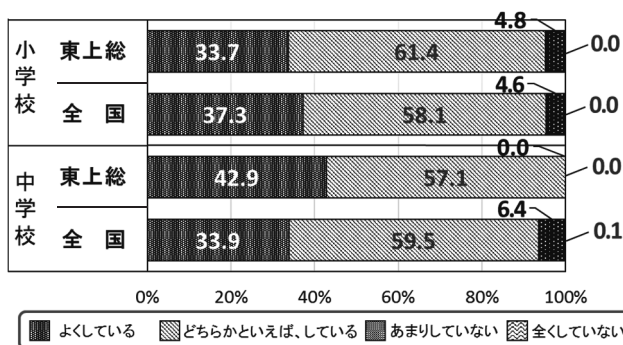


中学校での「数学への関心等」が全国に比べやや上回っている。「数学の授業内容はよく分かる」と回答した生徒は全国を上回っているが、解答を言葉や数、式を使って説明する問題について「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒が大きく下回っている。正答率とも併せて考えると、数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動の充実が求められる。

学校質問紙から 『指導改善サイクルの確立を目指して』

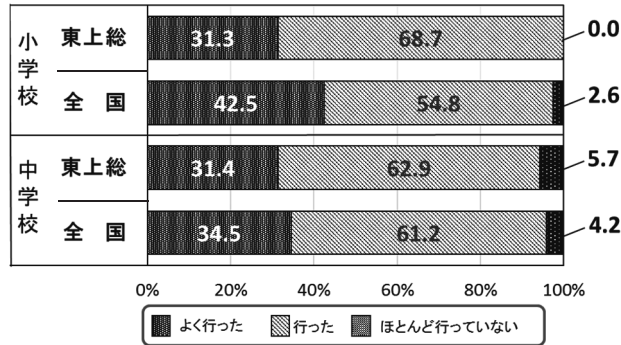
小17
中17

児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



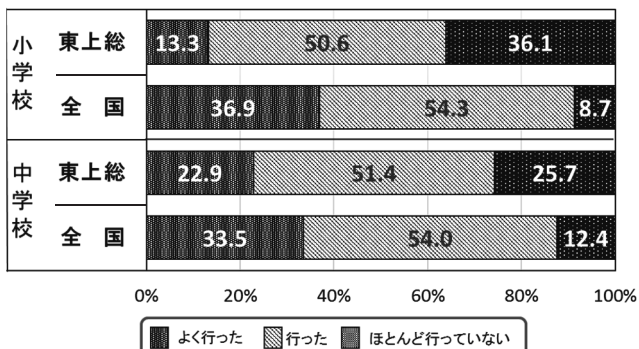
小63
中79

平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



小64
中80

平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)



- ・【小17・中17】の項目では、小・中学校ともに昨年度より肯定的な回答の割合が増えている。PDCAサイクルが意識され、学校評価アンケートや学校関係者評価等が活用されていると思われる。
- ・【小64・中80】の項目では、中学校で肯定的な回答が増えたが、全国と比べると小・中学校ともに、やや低い傾向にある。今後は、各教育委員会や中学校区単位等で、公表や説明における具体的な方向性を話し合う場を設けることで、促進が図られると思われる。

(5) 南房総地区

教科についての傾向と課題

* 例示した設問や出題の趣旨等は、以下のうち、特徴的なものである。
 ○正答率が全国と比べて低いもの
 ○正答率そのものが低いもの
 * [] 内の学年は、学習学年を示している。

小学校・国語

「話すこと・聞くこと」領域での「相手の意図を捉える」「自分の意見をもつ」などに課題がある。図表やグラフ、複数の文章を関連付けて理解する問題の正答率が、全国や県に比べ、低い状況である。

- ・国語¹一 「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く」 [5、6年]
- ・国語¹四(1)ア 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」 [5、6年]
- ・国語³二 「目的に応じて、質問を工夫する」 [5、6年]
- ・国語³三 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」 [5、6年]

中学校・国語

「話すこと・聞くこと」領域での「自分の考えをもち」状況に合わせて「相手に伝わるように話す」ことに課題がある。複数の情報を整理して内容を捉える問題の正答率が、全国や県に比べ、低い状況である。

- ・国語¹一 「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」 [2年]
- ・国語¹二 「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」 [1年]
- ・国語²二 「相手に分かりやすく伝わる表現について理解する」 [1年]
- ・国語²三 「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」 [1年]

小学校・算数

「数量関係」領域での異なる情報を分類整理して特徴や傾向を読み取ることに課題がある。資料を活用し、分かりやすく表したり、読み取ったりする問題の正答率が、全国や県に比べ、低い状況である。

- ・算数²(3) 「資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる」 [3、5年]
- ・算数²(4) 「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする」 [4年]
- ・算数⁴(2) 「示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する」 [3年]
- ・算数⁴(3) 「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる」 [5年]

中学校・数学

「関数」領域や「資料の活用」での表などから式を求めることに課題がある。具体的な事象から数量の関係を見出し、式に表したり、式の意味を読み取ったりするなどの問題の正答率が、全国や県に比べ、低い状況である。

- ・数学⁴ 「比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解する」 [1年]
- ・数学⁸(1) 「資料を整理した表から最頻値を読み取る」 [1年]
- ・数学⁹(1) 「与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉える」 [2年]
- ・数学⁹(2) 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」 [2年]

中学校・英語

「書くこと」領域での語や用法についての正しい理解が不十分である。語と語のつながりなどに注意して正しく文を書く問題の正答率が、全国や県に比べ、低い状況である。

- ・英語⁹(1)② 「文の中で適切に接続詞を用いる」 [書くこと]
- ・英語⁹(2)② 「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書く」 [書くこと]
- ・英語⁹(3)② 「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く」 [書くこと]
- ・英語⁹(3)③ 「与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書く」 [書くこと]

課題が見られた設問の例

小学校 国語 [5・6年] 【3】二

相手の状況を捉えることができなかった児童が多い。『自分が知りたいこと』について、相手が答えられる言葉に変えてもう一度たずねる』のような、質問の工夫ができるように指導することが大切である。

思いや考えですか。
なかなか難しい質問
ですね。



大谷さん

③ 二「インタビュの様子」の「」で、岸さんは、―― 師のようにくふうして質問をしています。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 相手の思いをさらに引き出すために、相手がくり返し答えた言葉を言いながら質問をしている
- 2 相手に質問をする理由を理解してもらえらるよう、インタビュの目的を伝えるから質問をしている
- 3 相手が答えやすいように、自分が知りたいことについて言葉をかえてもう一度質問をしている
- 4 相手の話の中に分からない言葉があったため、その言葉の意味を確認する質問をしている

中学校 国語 [1年] 【2】三

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりでありますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていらないことがあります。

A

全国に比べ無解答が多い。また、話し合いの話題や方向を適切に捉えることに課題がある。必要に応じて話し合いの話題について確認したり、話し合いの経過を捉えたりすることができるよう指導することが重要である。

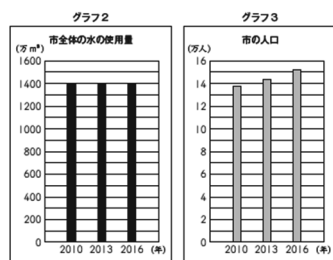
② 三 場面③の「A」で山下さんは、「どうするか決まっていらないこと」について自分の考えを述べようとしています。あたかも、どのような考えを述べようか、次の条件1と条件2と条件3とに基づいて、質問を返すように指示されています。なお、読み進めて文章を直したときは、一本線まで消した行間を必ず書き入れ、もう一度書き直してください。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていらないこと」とは具体的に何を指しているか。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていらないこと」を解決するための具体的な案をもう一つ考えてください。

小学校 算数 [3年] 【2】(3)

(3) 次に、がいとさんたちは、市全体の水の使用量には、人口が関係しているのではないかと考え、グラフ2とグラフ3を見つ、2つのグラフをもとに考えます。



- がいと 僕たちは、水を大切に使用しているといえるのでしょうか。
- ゆうか 市全体の水の使用量はわかりませんが、1人で水をどのくらい使っているかはわかりません。
- あやの グラフ2とグラフ3を見ることで、1人あたりの水の使用量についてもわかります。

2つの棒グラフを関連付けることができていない児童が見られる。2つのデータを比較し共通することや違いを自分で見つける場を大切にしておくことで、複数の資料を関連付けて判断できるような指導を行うことが重要である。

中学校 数学 [2年] 【9】(2)

(2) 二人は、連続する4つの奇数や5つの奇数の和について考えていることにしました。若菜さんは、連続する5つの奇数には中央の奇数があることから、中央の奇数に着目して連続する5つの奇数の和について調べました。

$$1, 3, 5, 7, 9 \text{ のとき } 1+3+5+7+9=25=5 \times 5$$

$$3, 5, 7, 9, 11 \text{ のとき } 3+5+7+9+11=35=5 \times 7$$

若菜さんは、これらの結果から次のことを予想しました。

予想2

連続する5つの奇数の和は、中央の奇数の5倍になる。

上の予想2がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成させなさい。

説明2

n を整数とすると、連続する5つの奇数は、 $2n+1, 2n+3, 2n+5, 2n+7, 2n+9$ と表される。それらの和は、

$$(2n+1) + (2n+3) + (2n+5) + (2n+7) + (2n+9)$$

$$=$$

無解答の生徒が多い。事柄が一般的に成り立つ理由を文字式や言葉を用いて、根拠を明らかにして説明できるように指導することが必要である。この設問の場合、結果の見通しをもたせることが大切である。

中学校 英語 [書くこと] 【9】(3)②③

⑨(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Rome
③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×

動詞の活用形に誤りがある、問題の指示文を正しく理解できていないなど、基本的な語や文法事項等を理解していない生徒が多い。

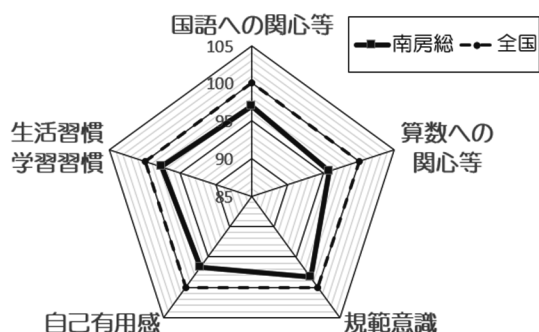
英語を聞かせたり読ませたりする量の確保に加えて設定した状況に合うやりとりを行うなど、「英語の運用を通じて言葉を習得させる」などの授業改善が求められる。

生活習慣や学習環境等について

*チャート図は、全国平均を100としたときの指数で示している。

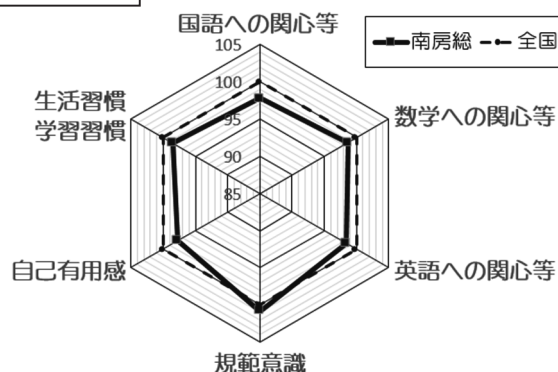
児童質問紙から

令和元年度



生徒質問紙から

令和元年度

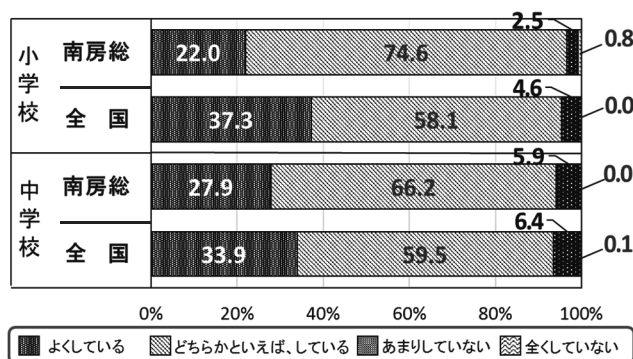


生徒の教科への関心や規範意識には改善の傾向が見られるものの、児童の教科への関心や自己有用感が全国に比べてやや低い傾向にある。学習に対する関心を高めるための工夫・改善が必要である。授業改善のために「児童生徒の実態把握」「実践モデルプログラムを生かした指導改善サイクルの確立」「優れた授業実践の相互参観」などの推進が必要である。

学校質問紙から『指導改善サイクルの確立を目指して』

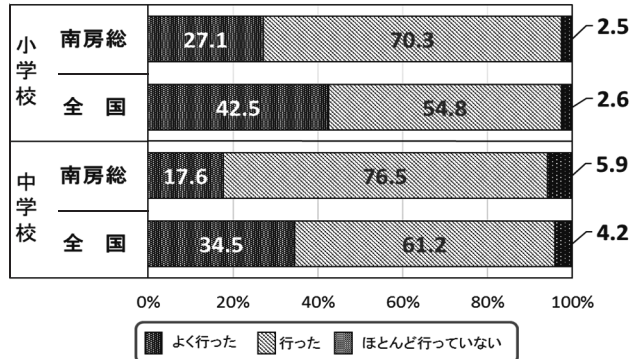
小17
中17

児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



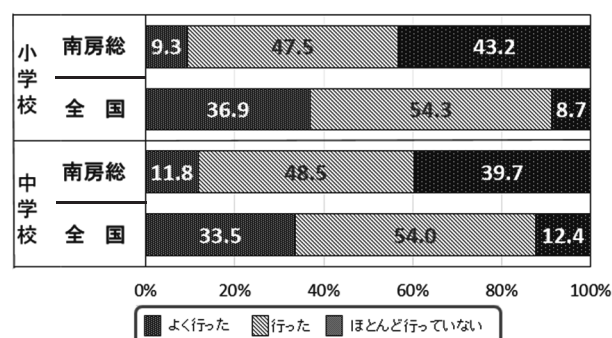
小63
中79

平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



小64
中80

平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)



【小17中17】では各種データに基づき、指導改善サイクルを確立していることが読み取れるが【小63中79】では、全国と比較して状況調査の活用が十分でないことがわかる。その結果【小64中80】にもあるように、保護者や地域の人に対する公表や説明もすすまないという状況につながっている。

本調査が新学習指導要領で目指す指導改善につながるメッセージであることを踏まえて「何を学ばせるか」「どのように学ばせるか」を考える一助となることを啓発していく。保護者や地域の人から理解を得て、児童生徒の生活習慣や学習習慣、また自己有用感の向上につなげたい。

Ⅲ 結果の活用に向けて

- 2 新しい「思考し、表現する力」を
高める実践モデルプログラム
- 3 「学力・学習状況」検証事業
- 4 学力向上に役立つ情報

Ⅲ 結果の活用
に向けて

新しい

「思考し、表現する力」を高める 実践モデルプログラム

を活用しよう

めざせ！

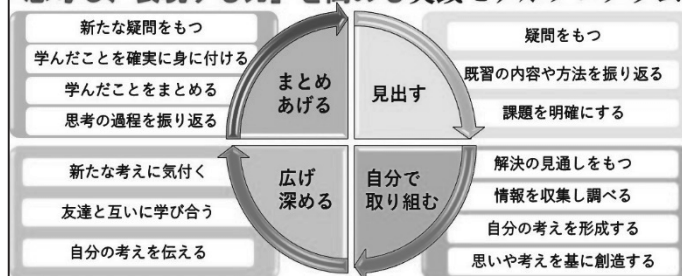
授業改善！



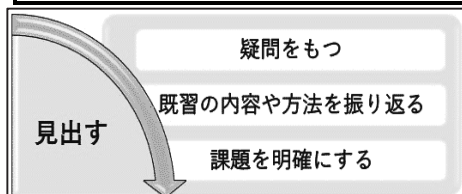
『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』を基に、各学習過程の発問例の一部を作成しました。

新学習指導要領がめざす、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、校内研修の場等で活用し、自校の実態にあった発問を考えてみましょう。

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



「見出す」…子供から引き出した疑問を、教師が整理し焦点化することで、課題が明確になります。



【こんな発問を考えてみましょう】

- 児童生徒の素直な疑問を引き出す。
 - 既習事項の共通点と相違点を明確にさせる。
 - 課題を明確にし、課題解決に向けた意欲をもたせる。
- など

「具体的な発問例」

学習していくことは何ですか。

どんな方法で考えましたか。

昨日はどんなことを発見しましたか。



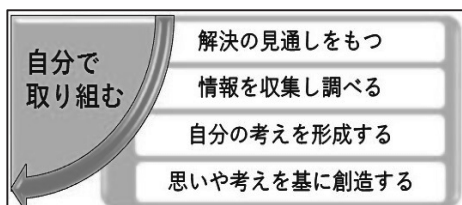
以前学習したことと、違いはどこですか。

不思議に思ったことや、
疑問に思ったことは何ですか。

みんなの疑問を整理しましょう。

○考えた発問を書いてみましょう

「自分で行き組む」…「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組むことができるよう、課題解決の視点や方法を指導しましょう。



【こんな発問を考えてみましょう】

- 既習事項の何が使えるか、解決策を検討させる。
 - わかることと、わからないことを明確にさせる。
 - 机間指導を通して、児童生徒の学習状況に基づいた支援を行う。
- など

「具体的な発問例」

何について考えたらよさそうですか。

図や表、絵などは使えそうですか。

集めた情報について順序付けや
仲間分けをしてみましょう。



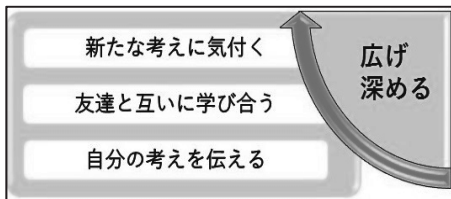
そのように考えた根拠は何ですか。

友達にもわかるように
自分の考えを書いてみましょう。

どこ（何）がわからないか、
できるところまで表してみましょう。

○考えた発問を書いてみましょう

「広げ深める」…「伝える」ことだけに主眼を置くのではなく、「聞く」ことの指導も行い、形式的な学び合いから実質的な学び合いを目指しましょう。



【こんな発問を考えてみましょう】

- 教師が「学び合い」の進行役になり、児童生徒の考えを広げる。
- 多様な考えを引き出し、友達の考えと自分の考えの違いに気付かせる。

など

「具体的な発問例」

友達の考えを説明してみましょう。

友達の考えを聞いて初めて
知ったことはありますか。

もしも〇〇だったらどうなるでしょうか。



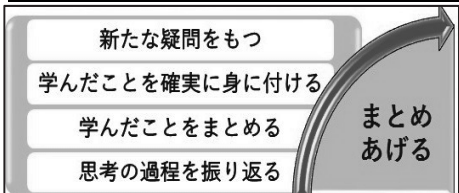
わからない友達にどんな
アドバイスができそうですか。

自分の考えと比べながら聞きましょう。

不思議に思ったことを
友達に聞いてみましょう。

○考えた発問を書いてみましょう

「まとめあげる」…子供の言葉でまとめの言葉を予想して準備したり、子供が自分の思考を振り返り、学習したことを自覚できるようにさせたりしましょう。



【こんな発問を考えてみましょう】

- 個々の考えから学級全体の考えにしていく。
- 学習したことを振り返り、自分の言葉でまとめさせる。
- 次時の学習とのつながりを意識させる。

など

「具体的な発問例」

難しかったことは何ですか。

前回の学習とどこが違いますか。

似たような問題にも使えますか。



今日の学習を通じてどんなことが
わかりましたか。

今日の学習はどのように解決しましたか。

次の時間はどんな学習になりそうですか。

○考えた発問を書いてみましょう

重要

「実践モデルプログラム」は、毎時間その全てを行うことを推奨するものではありません。毎時間全てを行うと、かえって形式的な授業となってしまう可能性があります。1 単位時間で行う場合もあれば、複数時間で行う場合もあり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した上で行います。

大切なことは、単元計画や授業計画に意図的・計画的に「見出す」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」を位置付けることです。

「学力・学習状況」検証事業

○「学力・学習状況」検証事業について

本事業は、児童生徒の学力向上を目的として、協力校が自校の学力・学習状況調査結果の把握及び分析を行い、継続的な検証改善サイクル（PDCAサイクル）を確立するとともに、成果の普及を行うものです。

令和元年度から新たに県内 15 校を検証協力校に指定し、授業改善を主とした取組を実践しています。本ページでは、検証校の取組の一部を紹介します。

【小学校(7校)】

八千代市立南高津小学校、流山市立流山北小学校、香取市立栗源小学校、旭市立干潟小学校、大網白里市立瑞穂小学校、鴨川市立西条小学校、木更津市立真舟小学校

【中学校(8校)】

八千代市立八千代台西中学校、八千代市立村上東中学校、柏市立西原中学校、我孫子市立白山中学校、八街市立八街中央中学校、茂原市立茂原中学校、いすみ市立岬中学校、市原市立千種中学校

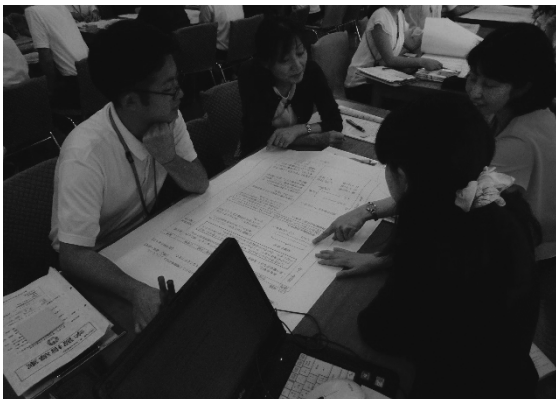
～検証協力校の取組事例～

取組事例①【流山市立流山北小学校】

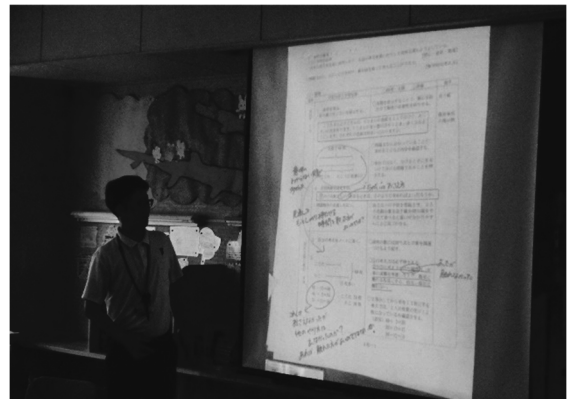
「授業づくり」と「校内研究の実施方法」を改善しています

【参考にしたい取組】

- 指導案作成にあたり、これまでの全国学力・学習状況調査問題を活用し、千葉県や全国の解答状況に対する児童の強みや弱みを把握している。
- 全職員が研究協議に参加できるように、指導案検討会等の協議方法を工夫している。
- 協議会に ICT を活用し、先生方一人一人の考えを共有できるように工夫している。



協議会を小グループで行い、全職員が意見を言えるようにしています。また、グループ編成を学年ごとにするすることで、本時の学習と自学年との関連や指導方法を検討することができます。



ICT を使用することで、協議結果を全体で共有することが可能になります。ICT は、日頃の授業に限らず研修会等様々な場面で有効に活用できます。

校長のリーダーシップの下、授業改善を進めています

【参考にしたい取組】

- 調査実施日に、生徒の解答状況を記録し自校採点を行っている。また、調査実施後、表計算ソフトを使い生徒の学力状況をグラフ化し、学校全体の傾向を把握している。年度初めから生徒の実態に即した授業改善策を立案し、実行している。
- 校長が教科部会(数学科)に入り、全国学力・学習状況調査の結果の採点や分析などに取り組んでいる。また、校長が教科部会の中心になり、若手教員に対して指導・助言を行うなど、授業力向上を目指している。

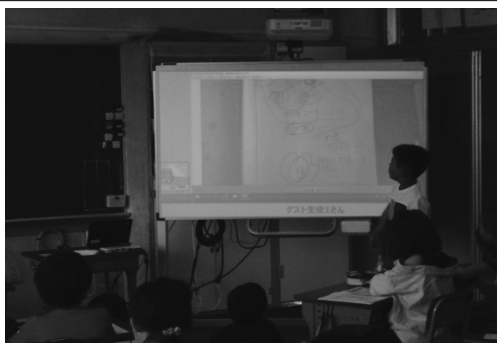


校長が教科部会の進行役になり、授業改善の方針や日頃の指導法に対する指導助言を積極的に行っています。

近隣校の先生方と研究の成果を共有しながら、研究を進めています

【参考にしたい取組】

- 児童の興味・関心を引き出すために ICT を有効に活用した授業づくりを実践している。
- 自校の取組を近隣の学校に広めるため学校公開日に授業研究を行うこととした。また近隣校の先生方にも協議会に参加していただき、その意見を参考にしながら自校の研究を進めている。



ICT を活用することで、発表者の説明を補助することができますとともに、聞き手の意識を注目させることができます。



近隣校職員の客観的な意見を取り入れることで、自校の研究を見直すことができます。また、成果や課題を地域で共有するという点でも有効です。

授業改善を積極的に取り入れる学校の姿

- 管理職・教務主任・研究主任の強いリーダーシップがある。
- 教職員の指導力向上に対する意欲が高い。また、授業改善を自校の喫緊の課題として捉えている。
- 全国学力・学習状況調査の結果を、調査対象学年だけで捉えるのではなく、学校全体の結果として捉えている。
- 課題設問ごとに分析を行い、児童生徒の学習状況を詳細に分析している。特に無解答率に重点を置き、分析をすすめている。

継続的な検証改善サイクル（PDCA サイクル）を確立するためのヒント

- 「P」の段階…結果分析→課題→原因→原因解消のための具体策→計画決定
- 「D」の段階…学校全体で具体策を共有し、教職員が連携を図り、継続的に行う。
- 「C」の段階…様々な調査・資料を活用し、検証する。
 - * 全国学力・学習状況調査
 - * 児童・生徒アンケートや保護者アンケート
- 「A」の段階…「C」の結果によっては、具体策の検討、修正を行う。
- 4つの段階が形骸化しないように注意する。
 - * 年間で行う PDCA サイクルの他、プロジェクトの内容によっては、短期で実践可能なものもある。
 - * 「C」の段階で、具体的にを行う。

学力向上に向けての指導改善サイクル

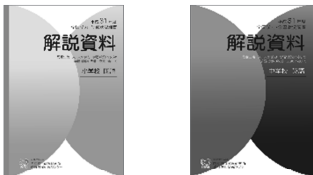
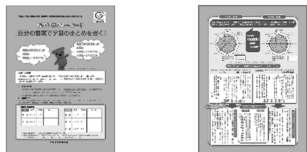
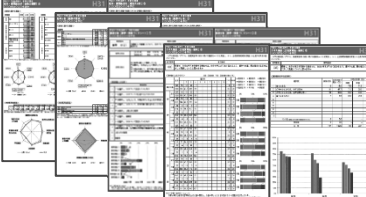
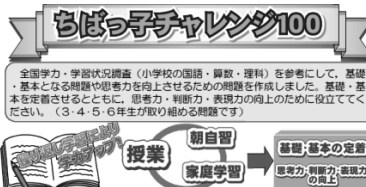


千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」

全国学力・学習状況調査の目的は、「児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」ことです。全国学力・学習状況調査を通して、先生方の指導力向上、ひいては、ちばっ子の学力向上を目指して組織的に取り組んでいきましょう。

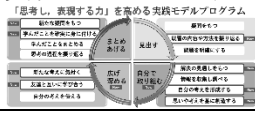
4 学力向上に役立つ情報

(1) 千葉県総合教育センターWebサイト からアクセスできる情報

千葉県総合教育センター →調査・研究 →全国学力・学習状況調査 →平成31年度 全国学力・学習状況調査 に関わるWebページ紹介 【国立教育政策研究所】へのリンク	平成31年度全国学力・学習状況調査 解説資料 	調査実施後、教育委員会や学校が速やかに設問の概要や解答類型からみられる課題等を把握し、指導の改善・充実に取り組むための資料。 ▶5月に教育委員会及び学校に配付。 ▶小学校国語、算数、中学校国語、数学、英語
千葉県総合教育センター →調査・研究 →全国学力・学習状況調査 →平成31年度 【分析ツール】 【速報版リーフレット】	平成31年度全国学力・学習状況調査の結果について (速報版リーフレット) 	千葉県の児童生徒の調査結果をまとめ、10月に速報版としてリーフレットを学校に配付。 ▶11月を中心に県内8会場で実施される「学力向上交流会」でも配布。 (さらに詳細に分析したのが本報告書)
千葉県総合教育センター →調査・研究 →全国学力・学習状況調査 →平成31年度 全国学力・学習状況調査 に関わるWebページ紹介 【千葉県教育委員会】へのリンク	授業アイディア例 	調査結果を踏まえ、学校が授業の改善・充実を図る上で参考となる授業展開の一例。 ▶教育委員会及び学校に配付。 ▶小学校(国語・算数)、中学校(国語・数学・英語)
千葉県総合教育センター →調査・研究 →全国学力・学習状況調査 →平成31年度 全国学力・学習状況調査 に関わるWebページ紹介 【千葉県教育委員会】へのリンク	分析ツール 	市町村教育委員会及び学校による全国学力・学習状況調査の結果分析を支援するためのデータ処理ソフト。「結果の概要」「結果の推移」「誤答分析」「教科・質問紙クロス集計」の各種シートを作成できる。(83ページ参照)
千葉県総合教育センター →調査・研究 →全国学力・学習状況調査 →平成31年度 全国学力・学習状況調査 に関わるWebページ紹介 【千葉県教育委員会】へのリンク	学びの突破口ガイド 	小学校の国語、算数、理科について、児童がつまづきやすい内容を中心に、効果的な指導方法等をまとめた指導用冊子。ワークシートとして活用できる児童用の冊子(高学年版・中学年版・低学年版)とともに配付。活用事例も紹介されている。
	ちばっ子チャレンジ100 (児童) 	全国学力・学習状況調査(小学校の国語・算数・理科)を参考にして作成した、基礎・基本となる問題や思考力を高める問題。授業、朝自習、家庭学習資料として幅広く活用できる。 ▶小学校1～6年

	「ちばのやる気」学習ガイド (生徒) 	学習内容への見通しを持たせ、学習意欲を高めさせる教材。習熟の程度に応じて取り組むことができる。 ▶中学校各学年版を学校に配付。 ▶改訂版（国語・数学・英語）を令和2年度にWebサイトにて配信予定。
千葉県総合教育センター →カリキュラムサポート室 →ガイドブック等ダウンロード	授業づくりガイドブック(改訂版) 	「授業企画」「授業展開力」「実態把握力」「授業改善力」の4つの力を伸ばす方策を、具体的にわかりやすく示している。これらの力を総合的に向上させることで児童生徒の確かな学力の定着を図る。

(2) 千葉県教育委員会Webサイト からアクセスできる情報

千葉県教育委員会 →学校教育 →学力向上 →「思考し、表現する力」 を高める実践モデル プログラムの活用促進	「思考し、表現する力」を高める 実践モデルプログラム 	児童生徒が意欲的に取り組み、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりのために開発されたモデルプログラム。指導事例（小・中学校の各教科・領域）も掲載。
→学校教育 →学力向上 →「学力・学習状況」 検証事業	「学力・学習状況」検証事業 	児童・生徒の学力向上を目的として、全国学力・学習状況調査の結果等をもとに、協力校が自校の学力・学習状況調査の把握及び分析を行い、課題解決に向けた取組を行う。
→学校教育 →学力向上 →Act.3子どもいきいき 「授業力アップ」プラン →・ちば「授業練磨の公開日」 ・学力向上交流会	「ちばっ子の学び変革」推進事業 	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。また、関係機関の協力を得ながら研究指定校の授業実践研究を進めるとともに、教員の授業力向上を図る。
	ちば「授業練磨の公開日」 	県内全ての公立学校で授業公開を実施することで、教員が異校種を含めた他校の優れた授業を見合う機会とし、授業力向上を図る。 ▶11月の「学力向上月間」を中心に実施。
	学力向上交流会 	ちばっ子「学力向上」総合プランをテーマに意見交換会を行ったり、「魅力ある授業づくりの達人」などの優れた授業実践や研究推進校における成果などを伝えたり、協議したりする場。 ▶11月を中心に実施。
→学校教育 →学力向上 →Act.2「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン →・千葉県学習サポーター派遣事業の充実事業 ・「家庭学習のすすめ」サイトの活用促進	学習サポーター派遣事業 	児童生徒の基礎学力や学習意欲の向上を図るため小・中学校に退職教員等を派遣し、放課後の補習等による学習支援、少人数指導や習熟度別指導などの授業支援等を行う。 ▶県下で190名の学習サポーターを派遣。
	「家庭学習のすすめ」サイト 	学習習慣の定着や家庭学習への理解の促進を図るために、保護者向けリーフレットや、児童生徒向け学習プリント、手引きモデル例を配信。 ▶児童、保護者及び小中学校教員向け。
→学校教育 →学力向上 →Act.1興味ワクワク「読書体験学習」チャレンジプラン →・確かな学びの早道「読書」事業の推進	確かな学びの早道「読書」事業 	学校図書館の活用による児童生徒の学習意欲の向上を目指し、実践協力校による学校図書館を有効に活用した学習事例を「実践記録集」としてまとめ、県内各校に提供するなど、読書活動の一層の推進を図っている。

IV 回答結果集計データ

児童生徒質問紙調査
学 校 質 問 紙 調 査

IV 回答結果
集計データ

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
千葉県（指定都市を除く）－児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	43,134	670	39,389	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢										その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
(1) 小	朝食を毎日食べていますか	小学校	千葉県 全国	86.1 86.7	8.8 8.6	3.9 3.6	1.2 1.0							0.0 0.0	0.0 0.0	94.9 95.3	-0.4	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(1) 中		中学校	千葉県 全国	80.3 82.3	11.6 10.8	5.7 4.9	2.4 2.0							0.0 0.0	0.0 0.0	91.9 93.1	-1.2	
(2) 小	毎日、同じくらいの時刻に寝て いますか	小学校	千葉県 全国	38.2 38.9	42.1 42.5	16.3 15.5	3.4 3.1							0.0 0.0	0.0 0.0	80.3 81.4	-1.1	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(2) 中		中学校	千葉県 全国	32.5 33.6	43.7 44.4	19.1 17.8	4.7 4.2							0.0 0.0	0.1 0.1	76.2 78.0	-1.8	
(3) 小	毎日、同じくらいの時刻に起き ていますか	小学校	千葉県 全国	57.6 58.7	33.6 32.9	7.2 7.0	1.6 1.4							0.0 0.0	0.0 0.0	91.2 91.6	-0.4	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(3) 中		中学校	千葉県 全国	56.5 57.0	35.9 35.8	6.2 6.0	1.2 1.2							0.0 0.0	0.1 0.1	92.4 92.8	-0.4	
(4) 小	家の人（兄弟姉妹は含まない）と 学校での出来事について話をしま すか	小学校	千葉県 全国	50.6 50.1	27.0 27.3	16.1 16.8	6.2 5.8							0.0 0.0	0.1 0.0	77.6 77.4	0.2	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(4) 中		中学校	千葉県 全国	45.8 46.4	29.8 30.0	18.0 17.5	6.2 5.9							0.0 0.0	0.2 0.1	75.6 76.4	-0.8	
(5) 小	自分には、よいところがあると思 いますか	小学校	千葉県 全国	35.8 38.8	44.3 42.4	14.2 13.4	5.7 5.3							0.0 0.0	0.1 0.0	80.1 81.2	-1.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまら ない 4. 当てはまらない
(5) 中		中学校	千葉県 全国	27.3 29.0	44.6 45.1	20.1 18.6	7.9 7.3							0.0 0.0	0.1 0.1	71.9 74.1	-2.2	
(6) 小	先生は、あなたのよいところを認 めてくれていると思いますか	小学校	千葉県 全国	39.6 43.1	44.5 43.0	12.0 10.7	3.8 3.0							0.0 0.0	0.1 0.1	84.1 86.1	-2.0	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまら ない 4. 当てはまらない
(6) 中		中学校	千葉県 全国	30.2 31.3	49.5 50.2	15.1 14.2	5.1 4.2							0.0 0.0	0.1 0.1	79.7 81.5	-1.8	
(7) 小	先生は、授業やテストで間違えた ところや、理解していないところ について、分かるまで教えてくれ ていると思いますか	小学校	千葉県 全国	58.4 59.5	32.2 32.2	7.3 6.5	2.0 1.7							0.0 0.0	0.1 0.0	90.6 91.7	-1.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまら ない 4. 当てはまらない
(7) 中		中学校	千葉県 全国	32.0 37.3	48.4 47.3	15.6 12.4	3.8 2.8							0.0 0.0	0.1 0.1	80.4 84.6	-4.2	
(8) 小	将来の夢や目標を持っていますか	小学校	千葉県 全国	66.5 65.9	18.0 17.9	8.7 9.3	6.6 6.9							0.0 0.0	0.1 0.0	84.5 83.8	0.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまら ない 4. 当てはまらない
(8) 中		中学校	千葉県 全国	43.8 44.9	26.4 25.6	17.9 17.9	11.7 11.5							0.0 0.0	0.1 0.1	70.2 70.5	-0.3	
(9) 小	ものごとを最後までやり遂げて、 うれしかったことがありますか	小学校	千葉県 全国	79.4 79.5	15.4 15.7	3.6 3.4	1.6 1.4							0.0 0.0	0.1 0.0	94.8 95.2	-0.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまら ない 4. 当てはまらない
(9) 中		中学校	千葉県 全国	74.6 75.6	18.7 18.3	4.8 4.4	1.8 1.6							0.0 0.0	0.1 0.1	93.3 93.9	-0.6	
(10) 小	難しいことでも、失敗を恐れな い で挑戦していますか	小学校	千葉県 全国	29.3 30.1	48.9 48.9	18.1 17.6	3.6 3.3							0.0 0.0	0.1 0.0	78.2 79.0	-0.8	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまら ない 4. 当てはまらない
(10) 中		中学校	千葉県 全国	22.7 22.5	47.6 47.8	24.7 25.0	4.9 4.6							0.0 0.0	0.1 0.1	70.3 70.3	0.0	

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
千葉県（指定都市を除く）一児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	43,134	670	39,389	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	選 択 肢										その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例	
			千葉県 全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9						10
(11) 小	学級みんなで話し合っ て決めたことなどに協 力して取り組み、うれ しかったことがありますか	小学校	千葉県 全国	41.9 45.8	39.7 38.3	14.1 12.4	4.2 3.4							0.0 0.0	0.1 0.0	81.6 84.1	-2.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはま らない 4. 当てはまらない
(11) 中		中学校	千葉県 全国	42.8 45.4	38.1 37.4	14.2 12.9	4.7 4.2							0.0 0.0	0.1 0.1	80.9 82.8	-1.9	
(12) 小	学校に行くのは楽しいと思 いますか	小学校	千葉県 全国	53.7 53.9	31.7 31.9	9.7 9.6	4.8 4.5							0.0 0.0	0.1 0.0	85.4 85.8	-0.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはま らない 4. 当てはまらない
(12) 中		中学校	千葉県 全国	44.1 45.7	36.6 36.2	12.6 12.0	6.7 6.0							0.0 0.0	0.1 0.1	80.7 81.9	-1.2	
(13) 小	学校のきまり（規則）を守っ ていますか	小学校	千葉県 全国	47.2 46.7	45.6 45.6	6.2 6.6	0.9 1.0							0.0 0.0	0.1 0.0	92.8 92.3	0.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはま らない 4. 当てはまらない
(13) 中		中学校	千葉県 全国	67.8 66.8	28.4 29.4	3.1 3.1	0.6 0.6							0.0 0.0	0.1 0.1	96.2 96.2	0.0	
(14) 小	人が困っているときは、進んで 助けていますか	小学校	千葉県 全国	40.3 40.4	47.4 47.5	10.7 10.5	1.6 1.5							0.0 0.0	0.1 0.0	87.7 87.9	-0.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはま らない 4. 当てはまらない
(14) 中		中学校	千葉県 全国	35.3 34.6	51.1 51.3	11.7 12.3	1.8 1.7							0.0 0.0	0.1 0.1	86.4 85.9	0.5	
(15) 小	いじめは、どんな理由があっ てもいけないことだと思 いますか	小学校	千葉県 全国	83.4 85.0	13.2 12.1	2.2 2.0	1.0 0.8							0.0 0.0	0.1 0.0	96.6 97.1	-0.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはま らない 4. 当てはまらない
(15) 中		中学校	千葉県 全国	75.7 78.3	18.9 16.8	3.8 3.6	1.5 1.3							0.0 0.0	0.1 0.1	94.6 95.1	-0.5	
(16) 小	人の役に立つ人間になりたいと思 いますか	小学校	千葉県 全国	73.4 74.7	21.4 20.5	3.6 3.4	1.4 1.3							0.0 0.0	0.1 0.1	94.8 95.2	-0.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはま らない 4. 当てはまらない
(16) 中		中学校	千葉県 全国	70.1 71.1	23.9 23.2	4.1 3.9	1.7 1.6							0.0 0.0	0.2 0.1	94.0 94.3	-0.3	
(17) 小	家で自分で計画を立てて勉強を していますか	小学校	千葉県 全国	29.9 33.1	38.9 38.4	25.2 23.0	5.9 5.5							0.0 0.0	0.1 0.0	68.8 71.5	-2.7	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(17) 中		中学校	千葉県 全国	14.5 14.9	33.8 35.5	38.1 37.3	13.5 12.2							0.0 0.0	0.1 0.0	48.3 50.4	-2.1	
(18) 小	学校の授業時間以外に、普段（月 曜日から金曜日）、1日当たりど れくらいの時間、勉強をしますか （学習塾で勉強している時間や家 庭教師に教わっている時間も含 む）	小学校	千葉県 全国	13.0 12.4	15.7 16.9	34.3 36.8	25.8 24.1	8.7 7.6	2.4 2.3					0.0 0.0	0.1 0.0	63.0 66.1	-3.1	1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない 4. 30分以上、1時間より少ない 5. 30分より少ない 6. 全くしない
(18) 中		中学校	千葉県 全国	10.1 9.9	25.5 25.6	33.8 34.3	16.8 17.2	8.8 8.4	4.9 4.4					0.1 0.0	0.1 0.1	69.4 69.8	-0.4	
(19) 小	学校の授業時間以外に、普段（月 曜日から金曜日）、1日当たりど れくらいの時間、読書、漫画や雑 誌は読みますか（教科書や参考書 、漫画や雑誌は除く）	小学校	千葉県 全国	8.0 7.0	12.0 11.3	21.5 21.5	25.1 25.9	14.6 15.6	18.7 18.7					0.0 0.0	0.1 0.0	41.5 39.8	1.7	1. 2時間以上 2. 1時間以上、2時間より少ない 3. 30分以上、1時間より少ない 4. 10分以上、30分より少ない 5. 10分より少ない 6. 全くしない
(19) 中		中学校	千葉県 全国	4.9 4.8	7.9 7.6	14.7 14.6	25.6 23.4	14.6 14.8	32.3 34.8					0.0 0.0	0.1 0.1	27.5 27.0	0.5	
(20) 小	休みや放課後、学校が休みの日 に、本（教科書や参考書、漫画 や雑誌は除く）を読んだり、借 りたりするために、学校図書 館・学校図書室や地域の図書 館にどれくらい行きますか	小学校	千葉県 全国	2.5 3.5	11.6 13.7	23.3 23.3	30.3 29.4	31.9 29.9						0.2 0.2	0.1 0.0	37.4 40.5	-3.1	1. だいたい週に4回以上行く 2. 週に1～3回程度行く 3. 月に1～3回程度行く 4. 年に数回程度行く 5. ほとんど、または、全く行か ない
(20) 中		中学校	千葉県 全国	1.7 2.1	4.6 6.2	10.5 12.1	23.7 24.1	59.3 55.3						0.1 0.1	0.1 0.1	16.8 20.4	-3.6	

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
千葉県（指定都市を除く）－児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	43,134	670	39,389	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢										その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
(21) 小	読書は好きですか	小学校	千葉 全国	45.3 44.3	30.8 30.7	16.1 16.7	7.7 8.3							0.1 0.1	0.1 0.0	76.1 75.0	1.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(21) 中			千葉 全国	40.9 38.9	30.2 29.1	17.4 19.1	11.3 12.8							0.0 0.0	0.1 0.1	71.1 68.0	3.1	
(22) 小	新聞を読んでいますか	小学校	千葉 全国	6.2 7.0	11.8 12.0	18.6 19.5	63.2 61.4							0.1 0.1	0.1 0.0	18.0 19.0	-1.0	1. ほぼ毎日読んでいる 2. 週に1～3回程度読んでいる 3. 月に1～3回程度読んでいる 4. ほとんど、または、全く読まない
(22) 中			千葉 全国	3.4 4.4	8.0 8.3	15.4 15.8	72.9 71.3							0.0 0.0	0.3 0.2	11.4 12.7	-1.3	
(23) 小	今住んでいる地域の行事に参加していますか	小学校	千葉 全国	28.9 37.2	33.2 30.8	21.6 18.6	16.2 13.4							0.0 0.0	0.1 0.0	62.1 68.0	-5.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(23) 中			千葉 全国	15.8 21.0	28.0 29.6	28.1 26.1	28.0 23.2							0.0 0.0	0.1 0.1	43.8 50.6	-6.8	
(24) 小	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	小学校	千葉 全国	18.0 18.9	34.7 35.6	32.8 32.3	14.4 13.1							0.0 0.0	0.1 0.0	52.7 54.5	-1.8	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(24) 中			千葉 全国	10.4 11.5	25.8 27.9	38.8 38.9	24.8 21.6							0.0 0.0	0.1 0.1	36.2 39.4	-3.2	
(25) 小	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思ったりしてみたいと思いますか	小学校	千葉 全国	39.4 39.2	29.4 29.4	19.2 19.8	11.9 11.6							0.0 0.0	0.1 0.0	68.8 68.6	0.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(25) 中			千葉 全国	32.3 33.0	29.6 29.4	21.5 21.9	16.3 15.5							0.0 0.0	0.2 0.1	61.9 62.4	-0.5	
(26) 小	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	小学校	千葉 全国	45.9 46.7	29.5 29.4	15.3 15.1	9.2 8.8							0.0 0.0	0.1 0.1	75.4 76.1	-0.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(26) 中			千葉 全国	23.7 25.8	32.6 33.5	25.7 24.6	17.9 15.9							0.0 0.0	0.1 0.1	56.3 59.3	-3.0	
(27) 中	学校の部活動に参加していますか	小学校	千葉 全国															1. 運動部にだけ参加している 2. 文化部にだけ参加している 3. 運動部と文化部の両方に参加している 4. 運動部、文化部のどちらにも参加していない
		中学校	千葉 全国	66.9 66.4	20.8 20.2	0.8 0.9	11.5 12.4							0.0 0.0	0.1 0.1			
(28) 中	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしめますか	小学校	千葉 全国															1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない 4. 30分以上、1時間より少ない 5. 30分より少ない 6. 全くしない
		中学校	千葉 全国	14.7 10.0	41.9 43.0	28.5 31.0	2.7 3.2	0.9 1.0	11.0 11.7					0.0 0.0	0.1 0.1			
(29) 中	学校の部活動に参加する主な理由は、何ですか	小学校	千葉 全国															1. 体力・技術を向上させたいから 2. 大会・コンクール等で良い成績を取りたいから 3. 仲間を増やしたいから 4. 楽しいから 5. 時間があるから 6. 周囲の人が参加しているから 7. 部活動には参加していない
		中学校	千葉 全国	29.5 28.9	17.4 15.1	2.7 2.8	24.2 26.3	2.7 2.9	7.8 7.9	11.4 12.3				4.1 3.5	0.3 0.3			
(27) 小	5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか	小学校	千葉 全国	6.9 10.4	21.5 20.2	44.4 38.4	27.0 30.9							0.0 0.0	0.2 0.1	28.4 30.6	-2.2	1. ほぼ毎日 2. 週1回以上 3. 月1回以上 4. 月1回未満
(30) 中			千葉 全国	5.1 7.0	16.1 23.6	28.6 33.1	50.0 36.1							0.0 0.0	0.2 0.2	21.2 30.6	-9.4	

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
千葉県（指定都市を除く）一児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	43,134	670	39,389	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	選 択 肢										その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
(28) 小	授業でもっとコンピュータなどの I C Tを活用したいと思いますか	小学校	千葉県 63.1	24.7	8.1	3.9							0.0	0.1	87.8	1.3	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国 60.8	25.7	8.8	4.6							0.0	0.1	86.5		
(31) 中		中学校	千葉県 45.9	30.9	13.4	9.5							0.0	0.3	76.8	-1.5	
			全国 48.0	30.3	12.8	8.6							0.0	0.3	78.3		
(29) 小	学級の友達と（生徒）の間で話し 合う活動を通じて、自分の考えを 深めたり、広げたりすることがで きていると思いますか	小学校	千葉県 28.6	44.1	21.2	6.0							0.0	0.1	72.7	-1.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国 30.3	43.8	20.5	5.4							0.0	0.0	74.1		
(32) 中		中学校	千葉県 25.5	44.4	22.3	7.7							0.0	0.1	69.9	-2.9	
			全国 28.3	44.5	20.4	6.7							0.0	0.1	72.8		
(30) 小	授業で学んだことを、ほかの学習 に生かしていますか	小学校	千葉県 38.0	44.3	14.7	3.0							0.0	0.1	82.3	-0.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国 38.9	43.9	14.3	2.8							0.0	0.0	82.8		
(33) 中		中学校	千葉県 25.5	47.9	21.7	4.9							0.0	0.1	73.4	-1.5	
			全国 26.9	48.0	20.6	4.4							0.0	0.1	74.9		
(31) 小	総合的な学習の時間では、自分で 課題を立てて情報を集め整理し て、調べたことを発表するなどの 学習活動に取り組んでいたと思 いますか	小学校	千葉県 24.9	41.2	26.5	7.3							0.0	0.1	66.1	0.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国 25.1	40.6	26.7	7.3							0.1	0.1	65.7		
(34) 中		中学校	千葉県 16.2	39.6	33.2	10.9							0.0	0.1	55.8	-5.7	
			全国 20.3	41.2	28.9	9.4							0.0	0.2	61.5		
(32) 小	あなたの学級では、学級生活をより よくするために学級会（学級活 動）で話し合い、互いの意見のよ さを生かして解決方法を決めてい ると思いますか	小学校	千葉県 28.3	44.1	21.3	6.1							0.0	0.1	72.4	-1.6	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国 30.1	43.9	20.3	5.6							0.0	0.0	74.0		
(35) 中		中学校	千葉県 25.2	44.4	22.2	8.1							0.0	0.1	69.6	-2.0	
			全国 25.3	46.3	21.3	7.0							0.0	0.1	71.6		
(33) 小	学級活動における学級での話し合 いを生かして、今、自分が努力す べきことを決めて取り組んでいる と思いますか	小学校	千葉県 26.9	44.9	22.4	5.6							0.1	0.1	71.8	-1.6	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国 28.8	44.6	21.3	5.2							0.0	0.0	73.4		
(36) 中		中学校	千葉県 20.7	44.5	26.3	8.4							0.0	0.1	65.2	-0.4	
			全国 21.0	44.6	26.1	8.1							0.0	0.1	65.6		
(34) 小	道徳の授業では、自分の考えを深 めたり、学級やグループで話し 合ったりする活動に取り組んでい ると思いますか	小学校	千葉県 40.5	39.8	15.3	4.3							0.0	0.1	80.3	-0.6	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国 42.1	38.8	14.9	4.0							0.1	0.2	80.9		
(35) 小		小学校	千葉県 31.5	45.0	18.9	4.3							0.0	0.3	76.5	-1.2	
			全国 33.0	44.7	18.1	4.0							0.0	0.2	77.7		
(37) 中		中学校	千葉県 27.9	45.4	21.1	5.4							0.0	0.2	73.3	-1.5	
			全国 29.3	45.5	20.0	4.9							0.0	0.1	74.8		
(36) 小	5年生まで（1、2年生のとき） に受けた授業で、自分の考えを 発表する機会では、自分の考えが うまく伝わるよう、資料や文章、話 の組立てなどを工夫して発表して いたと思いますか	小学校	千葉県 23.8	37.3	28.1	10.3							0.0	0.4	61.1	-1.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国 24.7	37.8	27.5	9.7							0.0	0.3	62.5		
(38) 中		中学校	千葉県 16.7	36.1	34.0	13.0							0.0	0.2	52.8	-3.0	
			全国 18.1	37.7	32.4	11.6							0.0	0.2	55.8		
(39) 中	1、2年生のときに受けた道徳の 授業では、自分の考えを深めたり 、学級やグループで話し合ったり する活動に取り組んでいたと思 いますか	小学校	千葉県 31.8	43.7	18.2	5.8							0.0	0.4	75.5	-1.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
				全国 34.0	42.6	17.3	5.7							0.0	0.5		
		中学校	千葉県 31.8	43.7	18.2	5.8							0.0	0.4	75.5	-1.1	
			全国 34.0	42.6	17.3	5.7							0.0	0.5	76.6		

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
千葉県（指定都市を除く）－児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	43,134	670	39,389	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢										その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
(37) 小	国語の勉強は好きですか	小学校	千葉県	26.6	38.2	23.7	11.4							0.0	0.1	64.8	0.6	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	26.5	37.7	24.3	11.5							0.0	0.0	64.2		
(40) 中		中学校	千葉県	22.2	36.0	27.8	13.9							0.0	0.1	58.2	-3.5	
			全国	24.6	37.1	26.4	11.9							0.0	0.1	61.7		
(38) 小	国語の勉強は大切だと思いますか	小学校	千葉県	66.3	25.7	5.8	2.1							0.0	0.1	92.0	-1.0	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	68.6	24.4	5.1	1.9							0.0	0.0	93.0		
(41) 中		中学校	千葉県	55.6	33.9	7.4	3.0							0.0	0.1	89.5	-1.5	
			全国	59.0	32.0	6.5	2.4							0.0	0.1	91.0		
(39) 小	国語の授業の内容はよく分かりますか	小学校	千葉県	39.3	44.6	12.8	3.2							0.0	0.1	83.9	-1.0	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	41.2	43.7	12.0	3.0							0.0	0.0	84.9		
(42) 中		中学校	千葉県	24.3	48.5	21.1	5.9							0.0	0.2	72.8	-4.8	
			全国	28.4	49.2	17.8	4.4							0.0	0.1	77.6		
(40) 小	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小学校	千葉県	63.1	27.4	6.9	2.4							0.0	0.1	90.5	-0.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	64.2	27.0	6.5	2.2							0.0	0.0	91.2		
(43) 中		中学校	千葉県	49.3	36.1	10.6	3.8							0.0	0.1	85.4	-2.6	
			全国	53.7	34.3	8.8	3.1							0.0	0.1	88.0		
(41) 小	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	小学校	千葉県	36.4	39.9	18.3	5.2							0.0	0.1	76.3	-0.6	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	37.2	39.7	18.1	5.0							0.0	0.0	76.9		
(44) 中		中学校	千葉県	29.8	40.0	22.6	7.4							0.0	0.2	69.8	-1.8	
			全国	31.2	40.4	21.7	6.7							0.0	0.1	71.6		
(42) 小	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	小学校	千葉県	32.7	43.0	19.8	4.4							0.0	0.1	75.7	-2.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	36.2	41.9	18.0	3.8							0.0	0.0	78.1		
(45) 中		中学校	千葉県	28.6	45.1	20.9	5.2							0.0	0.1	73.7	-3.7	
			全国	32.5	44.9	18.1	4.4							0.0	0.1	77.4		
(43) 小	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように理由（根拠）を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	小学校	千葉県	24.4	42.0	26.5	6.9							0.0	0.1	66.4	-2.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	26.1	42.4	25.3	6.2							0.0	0.0	68.5		
(46) 中		中学校	千葉県	19.0	41.8	30.8	8.2							0.0	0.2	60.8	-3.6	
			全国	20.9	43.5	28.4	7.0							0.0	0.1	64.4		
(44) 小	国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたら、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	小学校	千葉県	28.6	39.6	24.4	7.2							0.0	0.1	68.2	-3.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	30.3	41.1	22.4	6.2							0.0	0.0	71.4		
(47) 中		中学校	千葉県	23.5	42.3	26.3	7.7							0.0	0.2	65.8	-2.6	
			全国	25.2	43.2	24.6	6.8							0.0	0.2	68.4		
(45) 小	国語の問題のうち、解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか	小学校	千葉県	78.0	19.6	1.9								0.3	0.2	78.0	-2.4	1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった 3. 書く問題は全く解答しなかった
			全国	80.4	17.4	1.7								0.3	0.2	80.4		
(48) 中		中学校	千葉県	76.1	20.3	3.3								0.0	0.4	76.1	-3.7	
			全国	79.8	17.2	2.7								0.0	0.3	79.8		
(46) 小	算数（数学）の勉強は好きですか	小学校	千葉県	37.6	27.2	20.3	14.7							0.0	0.1	64.8	-3.8	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	40.6	28.0	18.7	12.7							0.0	0.0	68.6		
(49) 中		中学校	千葉県	30.0	26.9	23.3	19.7							0.0	0.1	56.9	-1.0	
			全国	30.7	27.2	23.9	18.1							0.0	0.1	57.9		

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
千葉県（指定都市を除く）一児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	43,134	670	39,389	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	選 択 肢										その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例	
			全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9						10
(47) 小	算数（数学）の勉強は大切だと思いますか	小学校	千葉	72.8	19.4	5.2	2.5							0.0	0.1	92.2	-1.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	75.6	18.1	4.3	1.9							0.0	0.0	93.7		
(50) 中		中学校	千葉	46.8	35.4	12.2	5.3							0.0	0.1	82.2	-2.0	
			全国	49.8	34.4	11.2	4.5							0.0	0.1	84.2		
(48) 小	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	小学校	千葉	46.3	34.1	14.3	5.2							0.0	0.1	80.4	-3.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	49.3	34.2	12.4	4.1							0.0	0.0	83.5		
(51) 中		中学校	千葉	32.1	38.5	20.4	8.9							0.0	0.2	70.6	-3.3	
			全国	34.8	39.1	18.6	7.3							0.0	0.1	73.9		
(49) 小	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小学校	千葉	70.0	21.4	5.9	2.6							0.0	0.1	91.4	-1.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	72.3	20.2	5.4	2.0							0.0	0.0	92.5		
(52) 中		中学校	千葉	37.5	36.2	17.9	8.2							0.0	0.2	73.7	-2.5	
			全国	40.3	35.9	16.5	7.1							0.0	0.1	76.2		
(50) 小	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	小学校	千葉	40.3	35.2	17.6	6.8							0.0	0.1	75.5	-1.0	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	41.4	35.1	17.3	6.2							0.0	0.0	76.5		
(51) 小	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	小学校	千葉	49.6	27.1	15.3	7.9							0.0	0.1	76.7	-2.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	51.7	27.4	14.2	6.7							0.0	0.0	79.1		
(52) 小	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	小学校	千葉	44.0	35.6	15.5	4.9							0.0	0.1	79.6	-2.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	46.3	35.7	14.0	3.9							0.0	0.0	82.0		
(53) 小	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	小学校	千葉	46.6	34.3	14.5	4.5							0.0	0.1	80.9	-1.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	47.7	34.4	13.9	4.0							0.0	0.1	82.1		
(54) 小	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	小学校	千葉	47.4	35.5	13.2	3.8							0.0	0.1	82.9	-1.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	48.4	35.6	12.7	3.2							0.0	0.1	84.0		
(55) 小	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	小学校	千葉	54.5	30.6	11.4	3.4							0.0	0.1	85.1	-1.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	57.5	29.5	10.1	2.8							0.0	0.1	87.0		
(56) 小	算数の問題のうち、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、どのように解答しましたか	小学校	千葉	78.1	20.0	1.5								0.3	0.2	78.1	-2.6	1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった 3. 書く問題は全く解答しなかった
			全国	80.7	17.6	1.3								0.2	0.2	80.7		
(53) 中	数学の問題のうち、解答を言葉や数、式を使って説明する問題について、どのように解答しましたか	中学校	千葉	56.1	38.4	5.1								0.0	0.4	56.1	-4.7	
			全国	60.8	34.7	4.2								0.0	0.3	60.8		
(54) 中	英語の勉強は好きですか	中学校	千葉	30.0	27.3	22.8	19.7							0.0	0.1	57.3	1.3	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	29.0	27.0	24.1	19.8							0.0	0.1	56.0		
(55) 中	英語の勉強は大切だと思いますか	中学校	千葉	60.2	26.0	8.5	5.1							0.0	0.1	86.2	0.8	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	58.9	26.5	9.3	5.3							0.0	0.1	85.4		
(56) 中	英語の授業はよく分かりますか	中学校	千葉	29.5	35.9	22.3	12.2							0.0	0.2	65.4	-0.6	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
			全国	29.5	36.5	22.4	11.4							0.0	0.1	66.0		

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
千葉県（指定都市を除く）一児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	43,134	670	39,389	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	選 択 肢										その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
(57) 中	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	千葉県 全国	62.7 60.7	23.8 24.7	8.3 9.2	5.0 5.2							0.0 0.0	0.2 0.2	86.5 85.4	1.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
		千葉県 全国	15.9 15.4	18.8 18.4	25.6 26.2	39.5 39.8							0.0 0.0	0.2 0.2	34.7 33.8	0.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(58) 中	あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にありましたか	千葉県 全国	15.9 15.4	18.8 18.4	25.6 26.2	39.5 39.8							0.0 0.0	0.2 0.2	34.7 33.8	0.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
		千葉県 全国	20.7 18.2	25.1 23.1	28.4 30.1	25.4 28.2							0.0 0.0	0.4 0.4	45.8 41.3	4.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(59) 中	あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたたり職業に就いたりしたいと思いますか	千葉県 全国	20.7 18.2	25.1 23.1	28.4 30.1	25.4 28.2							0.0 0.0	0.4 0.4	45.8 41.3	4.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
		千葉県 全国	29.7 33.6	46.0 45.6	18.3 15.7	5.7 4.9							0.0 0.0	0.3 0.2	75.7 79.2	-3.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(60) 中	受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	千葉県 全国	29.7 33.6	46.0 45.6	18.3 15.7	5.7 4.9							0.0 0.0	0.3 0.2	75.7 79.2	-3.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
		千葉県 全国	31.6 35.7	46.5 45.5	16.4 14.2	5.3 4.4							0.0 0.0	0.3 0.2	78.1 81.2	-3.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(61) 中	受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	千葉県 全国	31.6 35.7	46.5 45.5	16.4 14.2	5.3 4.4							0.0 0.0	0.3 0.2	78.1 81.2	-3.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
		千葉県 全国	21.0 26.0	36.2 36.9	29.9 26.6	12.6 10.2							0.0 0.0	0.3 0.2	57.2 62.9	-5.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(62) 中	受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	千葉県 全国	21.0 26.0	36.2 36.9	29.9 26.6	12.6 10.2							0.0 0.0	0.3 0.2	57.2 62.9	-5.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
		千葉県 全国	35.3 41.9	36.5 35.3	19.7 16.0	8.3 6.6							0.0 0.0	0.3 0.2	71.8 77.2	-5.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(63) 中	受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	千葉県 全国	35.3 41.9	36.5 35.3	19.7 16.0	8.3 6.6							0.0 0.0	0.3 0.2	71.8 77.2	-5.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
		千葉県 全国	34.2 41.0	40.5 39.1	18.3 14.5	6.6 5.0							0.0 0.0	0.3 0.2	74.7 80.1	-5.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(64) 中	受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	千葉県 全国	34.2 41.0	40.5 39.1	18.3 14.5	6.6 5.0							0.0 0.0	0.3 0.2	74.7 80.1	-5.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
		千葉県 全国	33.8 39.1	39.1 38.3	19.2 16.3	7.6 6.0							0.0 0.0	0.3 0.3	72.9 77.4	-4.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(65) 中	受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか	千葉県 全国	33.8 39.1	39.1 38.3	19.2 16.3	7.6 6.0							0.0 0.0	0.3 0.3	72.9 77.4	-4.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
		千葉県 全国	27.2 32.9	41.7 41.7	21.8 18.2	8.3 6.3							0.0 0.0	1.0 0.9	68.9 74.6	-5.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(66) 中	受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	千葉県 全国	27.2 32.9	41.7 41.7	21.8 18.2	8.3 6.3							0.0 0.0	1.0 0.9	68.9 74.6	-5.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
		千葉県 全国	38.6 40.2	33.6 34.0	22.3 21.1	3.6 3.2							0.0 0.0	1.9 1.5	72.2 74.2	-2.0	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった
(57) 小	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語）	千葉県 全国	38.6 40.2	33.6 34.0	22.3 21.1	3.6 3.2							0.0 0.0	1.9 1.5	72.2 74.2	-2.0	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった
		千葉県 全国	52.6 53.9	36.9 36.4	8.8 8.1	1.4 1.4							0.0 0.0	0.3 0.2	89.5 90.3	-0.8	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった
(67) 中	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数・数学）	千葉県 全国	52.6 53.9	36.9 36.4	8.8 8.1	1.4 1.4							0.0 0.0	0.3 0.2	89.5 90.3	-0.8	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった
		千葉県 全国	57.4 56.3	26.7 27.7	11.7 12.4	2.1 2.1							0.0 0.0	1.9 1.5	84.1 84.0	0.1	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった
(58) 小	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数・数学）	千葉県 全国	57.4 56.3	26.7 27.7	11.7 12.4	2.1 2.1							0.0 0.0	1.9 1.5	84.1 84.0	0.1	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった
		千葉県 全国	49.3 50.4	35.0 34.3	13.2 13.0	2.1 2.1							0.0 0.0	0.3 0.2	84.3 84.7	-0.4	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった
(68) 中	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数・数学）	千葉県 全国	49.3 50.4	35.0 34.3	13.2 13.0	2.1 2.1							0.0 0.0	0.3 0.2	84.3 84.7	-0.4	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった
		千葉県 全国	31.8 29.1	33.8 33.9	28.5 30.6	5.5 6.2							0.0 0.0	0.4 0.3	65.6 63.0	2.6	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった
(69) 中	調査問題の解答時間は十分でしたか（英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）	千葉県 全国	31.8 29.1	33.8 33.9	28.5 30.6	5.5 6.2							0.0 0.0	0.4 0.3	65.6 63.0	2.6	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった
		千葉県 全国	31.8 29.1	33.8 33.9	28.5 30.6	5.5 6.2							0.0 0.0	0.4 0.3	65.6 63.0	2.6	1. 時間が余った 2. ちょうどよかった 3. やや足りなかった 4. 全く足りなかった

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	670	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
(1) 小	調査対象日現在の学校の全学年の 児童数、生徒数	小学校	千葉 全国	4.0 11.7	9.4 11.1	25.5 22.6	27.8 30.8	26.0 19.1	7.3 4.7				0.0 0.0			1. 49人以下 2. 50人以上、99人以下 3. 100人以上、249人以下 4. 250人以上、499人以下 5. 500人以上、799人以下 6. 800人以上
(1) 中		中学校	千葉 全国	5.2 12.4	5.2 8.7	22.6 22.8	36.3 35.7	25.3 17.5	5.2 2.5				0.3 0.3			
(2) 小	調査対象日現在の第6学年の児童 数、第3学年の生徒数 （特別支援学級の児童数、生徒数 を除く）	小学校	千葉 全国	6.3 14.4	11.8 12.0	8.1 9.5	9.9 8.7	30.0 30.1	21.3 17.6	9.6 6.3	2.7 1.2	0.4 0.2	0.0 0.0			1. 10人以下 2. 11人以上、20人以下 3. 21人以上、30人以下 4. 31人以上、40人以下 5. 41人以上、80人以下 6. 81人以上、120人以下 7. 121人以上、160人以下 8. 161人以上、200人以下 9. 201人以上
(2) 中		中学校	千葉 全国	3.7 8.6	3.0 6.1	3.7 5.1	5.2 5.3	16.5 18.3	21.6 18.6	14.6 15.9	12.8 11.3	18.9 10.5	0.0 0.1			
(3) 小	調査対象日現在の学校の全学年の 学級数（特別支援学級は除く）	小学校	千葉 全国	3.1 10.0	39.4 38.1	27.0 29.0	20.1 14.8	7.5 4.8	2.8 3.2				0.0 0.2			学級数を入力
(3) 中		中学校	千葉 全国	0.6 2.3	14.3 23.2	17.7 18.5	22.6 19.2	14.3 15.9	12.5 10.2	8.5 5.7	5.2 2.9	4.0 1.9	0.3 0.2			
(4) 小	調査対象日現在の第6学年、第3 学年の学級数（特別支援学級を除く）	小学校	千葉 全国	31.8 39.0	30.3 29.6	21.8 18.2	11.3 7.5	3.9 1.7	0.3 0.3	0.1 0.1	0.0 0.1	0.4 3.4	0.0 0.2			学級数を入力
(4) 中		中学校	千葉 全国	10.7 22.1	18.6 18.2	20.4 18.1	16.8 16.7	11.6 11.8	10.1 6.7	6.1 3.6	5.8 2.3	0.0 0.2	0.0 0.3			
(5) 小	調査対象日現在の学校の全教員数 （副校長・教頭・主幹教諭・指導 教諭・教諭・養護教諭・栄養教 諭・常勤講師等）	小学校	千葉 全国	0.0 0.8	3.6 11.2	25.8 23.5	16.0 14.6	17.9 17.1	14.6 13.2	8.5 9.2	5.8 4.9	7.8 5.3	0.0 0.2			教員数を入力
(5) 中		中学校	千葉 全国	0.0 0.2	1.8 6.5	8.8 16.4	16.5 15.5	17.7 16.9	20.7 16.7	13.4 11.4	8.8 7.2	12.2 9.1	0.0 0.0			
(6) 小	調査対象学年の児童・生徒のうち 就学援助を受けている児童・生徒 の割合	小学校	千葉 全国	10.3 12.0	26.4 13.1	34.6 21.2	18.5 18.9	6.1 12.5	1.6 8.5	0.9 5.4	0.9 6.1	0.6 2.2	0.0 0.1			1. 在籍していない 2. 5%未満 3. 5%以上、10%未満 4. 10%以上、15%未満 5. 15%以上、20%未満 6. 20%以上、25%未満 7. 25%以上、30%未満 8. 30%以上、50%未満 9. 50%以上
(6) 中		中学校	千葉 全国	4.6 6.5	19.8 9.0	37.2 19.7	23.2 22.0	8.8 15.6	3.7 10.4	1.2 6.7	0.6 7.7	0.3 2.1	0.6 0.3			
(7) 小	調査対象学年の児童・生徒のうち 日本語指導が必要な児童・生徒の 人数	小学校	千葉 全国	77.5 85.2	12.4 7.4	3.9 2.6	1.8 1.4	1.3 0.8	1.9 1.0	1.2 1.5			0.0 0.1			児童数、生徒数を入力 （該当がない場合には「0」を 入力）
(7) 中		中学校	千葉 全国	70.4 82.2	18.0 9.6	6.1 3.2	2.4 1.6	1.2 0.6	1.2 1.5	0.6 1.5			0.0 0.1			
(8) 小	調査対象学年の児童・生徒は、熱 意をもって勉強していますか	小学校	千葉 全国	18.4 26.1	70.9 65.0	10.3 8.6	0.3 0.2						0.1 0.1	89.3 91.1	-1.8	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わ ない 4. そう思わない
(8) 中		中学校	千葉 全国	18.3 22.3	69.8 67.0	11.3 10.3	0.3 0.3						0.3 0.1	88.1 89.3	-1.2	
(9) 小	調査対象学年の児童・生徒は、授 業中の私語が少なく、落ち着いて いますか	小学校	千葉 全国	29.7 38.8	54.9 48.9	14.2 11.5	1.2 0.9						0.0 0.1	84.6 87.7	-3.1	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わ ない 4. そう思わない
(9) 中		中学校	千葉 全国	51.5 53.2	45.7 40.9	2.7 5.5	0.0 0.3						0.0 0.0	97.2 94.1	3.1	

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	670	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問 番号	質問事項	校種	選 択 肢										その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
			千 葉 県 全 国	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
(10) 小	調査対象学年の児童・生徒は、礼儀正しいですか	小学校	千葉 23.7 全国 28.9	61.0	14.5	0.7							0.0	84.7	-3.1	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない
(10) 中		中学校	千葉 39.6 全国 40.6	55.2	5.2	0.0							0.0	94.8	1.3	
(11) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	小学校	千葉 19.3 全国 20.8	61.2	18.7	0.9							0.0	80.5	-2.7	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(11) 中		中学校	千葉 45.1 全国 49.5	51.8	2.7	0.0							0.3	96.9	-1.7	
(12) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	小学校	千葉 47.5 全国 50.4	48.5	4.0	0.0							0.0	96.0	-0.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(12) 中		中学校	千葉 49.4 全国 45.9	45.1	5.2	0.0							0.3	94.5	-0.7	
(13) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか	小学校	千葉 52.8 全国 57.8	43.3	3.9	0.0							0.0	96.1	-0.8	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(13) 中		中学校	千葉 61.6 全国 63.8	36.3	1.8	0.0							0.3	97.9	-0.2	
(14) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して 学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	小学校	千葉 57.0 全国 59.8	41.3	1.6	0.0							0.0	98.3	-0.5	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(14) 中		中学校	千葉 57.0 全国 55.1	40.9	1.8	0.0							0.3	97.9	-0.7	
(15) 小	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	小学校	千葉 35.2 全国 34.6	60.4	4.3	0.0							0.0	95.6	0.5	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(15) 中		中学校	千葉 34.5 全国 29.1	57.9	7.6	0.0							0.0	92.4	1.1	
(16) 小	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	小学校	千葉 37.6 全国 37.1	56.7	5.4	0.1							0.1	94.3	0.6	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(16) 中		中学校	千葉 35.4 全国 31.2	54.6	10.1	0.0							0.0	90.0	1.9	
(17) 小	児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	小学校	千葉 30.6 全国 37.3	64.5	4.8	0.1							0.0	95.1	-0.3	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(17) 中		中学校	千葉 29.6 全国 33.9	63.1	7.3	0.0							0.0	92.7	-0.7	
(18) 小	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	小学校	千葉 42.4 全国 46.9	53.3	4.3	0.0							0.0	95.7	-0.7	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(18) 中		中学校	千葉 21.6 全国 29.4	59.1	19.2	0.0							0.0	80.7	-6.2	

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	670	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問番号	質問事項	校種	千葉県 全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
(19) 小	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいますか	小学校	千葉 全国	47.0 46.8	50.9 50.4	1.9 2.7	0.0 0.0						0.1 0.1	97.9 97.2	0.7	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(19) 中	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいますか	中学校	千葉 全国	39.9 42.4	54.6 52.7	5.5 4.7	0.0 0.0						0.0 0.1	94.5 95.1	-0.6	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(20) 小	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	小学校	千葉 全国	29.3 42.9	65.2 52.4	2.4 2.1	3.1 2.5						0.0 0.0	94.5 95.3	-0.8	1.よく行っている 2.どちらかといえば、行っている 3.ほとんど行っていない 4.地方公共団体における独自の学力調査を実施していない
(20) 中		中学校	千葉 全国	21.0 35.6	68.0 58.1	6.4 3.8	4.6 2.4						0.0 0.1	89.0 93.7	-4.7	1.よく行っている 2.どちらかといえば、行っている 3.ほとんど行っていない 4.地方公共団体における独自の学力調査を実施していない
(21) 小	学校として業務改善に取り組んでいますか	小学校	千葉 全国	51.3 48.3	46.3 50.2	2.2 1.5	0.1 0.0						0.0 0.1	97.6 98.5	-0.9	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(21) 中		中学校	千葉 全国	48.5 47.4	49.7 50.4	1.8 2.0	0.0 0.1						0.0 0.1	98.2 97.8	0.4	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(22) 中	部活動のあり方について、保護者や地域と連携して見直しを進めていますか	小学校	千葉 全国													1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
		中学校	千葉 全国	45.4 43.4	49.4 48.1	4.6 7.5	0.6 1.0						0.0 0.1	94.8 91.5	3.3	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(22) 小	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	小学校	千葉 全国	76.1 70.1	23.6 29.2	0.3 0.7	0.0 0.0						0.0 0.1	99.7 99.3	0.4	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(23) 中		中学校	千葉 全国	64.3 63.2	34.5 35.4	1.2 1.4	0.0 0.0						0.0 0.1	98.8 98.6	0.2	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(23) 小	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	小学校	千葉 全国	83.0 63.5	16.6 31.4	0.4 4.8	0.0 0.2						0.0 0.1	99.6 94.9	4.7	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(24) 中		中学校	千葉 全国	57.0 50.1	39.3 41.3	3.4 8.1	0.3 0.4						0.0 0.0	96.3 91.4	4.9	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(24) 小	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	小学校	千葉 全国	77.0 75.2	22.4 24.1	0.3 0.5	0.0 0.0						0.3 0.1	99.4 99.3	0.1	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(25) 中		中学校	千葉 全国	51.2 56.0	45.1 40.4	3.7 3.5	0.0 0.0						0.0 0.1	96.3 96.4	-0.1	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(25) 小	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	小学校	千葉 全国	50.6 54.3	45.4 42.7	4.0 2.9	0.0 0.0						0.0 0.1	96.0 97.0	-1.0	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(26) 中		中学校	千葉 全国	36.9 47.2	56.4 47.7	6.4 5.0	0.0 0.1						0.3 0.1	93.3 94.9	-1.6	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(26) 小	個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	小学校	千葉 全国	39.0 33.5	51.3 54.7	9.6 11.7	0.0 0.1						0.1 0.1	90.3 88.2	2.1	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(27) 中		中学校	千葉 全国	29.9 29.9	53.0 54.6	17.1 15.3	0.0 0.1						0.0 0.1	82.9 84.5	-1.6	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	670	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（％） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
				1	2	3	4	5	6	7	8	9				
(27) 小	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	小学校	千葉 35.4 全国 33.2	58.5	61.2	6.1	5.5	0.0					0.0	93.9	-0.5	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(28) 中		中学校	千葉 27.7 全国 26.1	64.3	63.8	7.9	10.0	0.0					0.0	92.0	2.1	
(28) 小	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	小学校	千葉 48.7 全国 47.9	48.4	49.2	2.8	2.8	0.0					0.1	97.1	0.0	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(29) 中		中学校	千葉 49.7 全国 42.0	48.2	53.7	2.1	4.2	0.0					0.0	97.9	2.2	
(29) 小	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか	小学校	千葉 32.8 全国 38.1	57.6	54.0	9.6	7.7	0.0					0.0	90.4	-1.7	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(30) 中		中学校	千葉 22.9 全国 27.5	56.4	56.9	20.7	15.4	0.0	0.2				0.0	79.3	-5.1	
(30) 小	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか	小学校	千葉 59.4 全国 59.2	38.7	39.1	1.8	1.6	0.0					0.1	98.1	-0.2	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(31) 中		中学校	千葉 48.5 全国 51.4	46.6	45.5	4.9	3.0	0.0					0.0	95.1	-1.8	
(31) 小	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	小学校	千葉 80.1 全国 71.8	17.6	23.5	2.2	4.5	0.0	0.1				0.0	97.7	2.4	1.ほぼ毎日 2.週に2～3日程度 3.月に数日程度 4.ほとんど行っていない
(32) 中		中学校	千葉 62.8 全国 48.8	29.6	36.1	7.0	14.6	0.6	0.5				0.0	92.4	7.5	
(32) 小	課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組むことができますか	小学校	千葉 12.8 全国 16.9	67.8	68.6	19.3	14.1	0.1	0.2				0.0	80.6	-4.9	1.そう思う 2.どちらかといえば、そう思う 3.どちらかといえば、そう思わない 4.そう思わない
(33) 中		中学校	千葉 14.3 全国 14.5	69.2	68.1	16.5	17.2	0.0	0.2				0.0	83.5	0.9	
(33) 小	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	小学校	千葉 27.5 全国 29.1	59.9	60.2	12.5	10.5	0.1	0.1				0.0	87.4	-1.9	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(34) 中		中学校	千葉 29.9 全国 32.7	57.9	56.4	12.2	10.6	0.0	0.1				0.0	87.8	-1.3	
(34) 小	学級生活をよりよくするために、学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか	小学校	千葉 37.5 全国 40.2	56.7	54.3	5.8	5.3	0.0	0.1				0.0	94.2	-0.3	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(35) 中		中学校	千葉 35.1 全国 36.8	62.8	56.4	2.1	6.6	0.0	0.1				0.0	97.9	4.7	
(35) 小	学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童・生徒が意思決定できるような指導を行っていますか	小学校	千葉 34.9 全国 34.9	59.4	58.2	5.5	6.7	0.0	0.0				0.1	94.3	1.2	1.よくしている 2.どちらかといえば、している 3.あまりしていない 4.全くしていない
(36) 中		中学校	千葉 32.6 全国 31.1	63.1	60.3	4.0	8.4	0.3	0.1				0.0	95.7	4.3	

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	670	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
(36) 小	特別の教科 道徳において、児童 自らが自分自身の問題として捉 え、考え、話し合うような指導の 工夫をしていますか	小学校	千葉 全国	40.6 40.2	55.2 56.5	4.2 3.0	0.0 0.0						0.0 0.2	95.8 96.7	-0.9	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
		中学校	千葉 全国													
(37) 小	習得・活用及び探究の学習過程を 見通した指導方法の改善及び工夫 をしましたか	小学校	千葉 全国	18.7 22.2	71.3 67.1	10.0 10.5	0.0 0.0						0.0 0.1	90.0 89.3	0.7	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(37) 中		中学校	千葉 全国	15.9 20.8	73.2 67.2	10.7 11.8	0.0 0.0						0.3 0.1	89.1 88.0	1.1	
(38) 小	各教科等で身に付けたことを様々 な課題の解決に生かすことができ るような機会を設けましたか	小学校	千葉 全国	16.4 18.1	68.8 66.6	14.6 15.2	0.1 0.1						0.0 0.1	85.2 84.7	0.5	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(38) 中		中学校	千葉 全国	13.1 14.5	63.4 63.4	22.9 22.0	0.3 0.1						0.3 0.1	76.5 77.9	-1.4	
(39) 中	道徳の時間において、生徒自らが 自分自身の問題として捉え、考 え、話し合うような指導の工夫を しましたか	小学校	千葉 全国													1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		中学校	千葉 全国	40.2 38.6	55.5 54.0	3.7 7.1	0.3 0.0						0.3 0.2	95.7 92.6	3.1	
(39) 小	調査対象学年の児童・生徒に対す る国語の授業において、前年度ま でに、補的な学習の指導を行いま したか	小学校	千葉 全国	28.4 31.9	59.0 57.1	12.5 10.6	0.0 0.3						0.1 0.1	87.4 89.0	-1.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(40) 中		中学校	千葉 全国	31.7 27.8	58.2 61.1	9.8 10.7	0.0 0.3						0.3 0.1	89.9 88.9	1.0	
(40) 小	調査対象学年の児童・生徒に対す る国語の授業において、前年度ま でに、発展的な学習の指導を行いま したか	小学校	千葉 全国	9.6 9.2	51.3 53.2	38.4 36.9	0.7 0.6						0.0 0.1	60.9 62.4	-1.5	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(41) 中		中学校	千葉 全国	17.7 15.1	57.0 59.5	25.0 25.0	0.0 0.3						0.3 0.1	74.7 74.6	0.1	
(41) 小	調査対象学年の児童・生徒に対す る国語の授業において、前年度ま でに、目的や相手に応じて話したり 聞いたりする授業を行いましたか	小学校	千葉 全国	32.4 34.0	59.4 60.1	7.9 5.7	0.0 0.0						0.3 0.1	91.8 94.1	-2.3	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(42) 中		中学校	千葉 全国	29.0 29.3	61.6 59.7	9.1 10.7	0.0 0.1						0.3 0.1	90.6 89.0	1.6	
(42) 小	調査対象学年の児童・生徒に対す る国語の授業において、前年度ま でに、書く習慣を付ける授業を行 いましたか	小学校	千葉 全国	30.6 36.3	59.9 56.5	9.6 7.0	0.0 0.0						0.0 0.1	90.5 92.8	-2.3	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(43) 中		中学校	千葉 全国	45.7 44.1	49.7 51.2	4.3 4.5	0.0 0.0						0.3 0.1	95.4 95.3	0.1	
(43) 小	調査対象学年の児童・生徒に対す る国語の授業において、前年度ま でに、様々な文章を読む習慣を付 ける授業を行いましたか	小学校	千葉 全国	26.7 25.7	61.6 62.5	11.6 11.7	0.0 0.0						0.0 0.1	88.3 88.2	0.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(44) 中		中学校	千葉 全国	36.6 31.5	55.2 58.4	7.9 9.9	0.0 0.1						0.3 0.1	91.8 89.9	1.9	

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	670	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問番号	質問事項	校種	千葉県 全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
(44) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する国語の授業において、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	小学校	千葉	53.4	44.8	1.8	0.0						0.0	98.2	-0.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	54.3	44.0	1.6	0.0						0.1	98.3		
(45) 中		中学校	千葉	63.7	35.4	0.6	0.0						0.3	99.1	0.8	
			全国	61.2	37.1	1.6	0.0						0.1	98.3		
(45) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	小学校	千葉	53.3	43.1	3.6	0.0						0.0	96.4	-0.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	53.7	42.8	3.2	0.1						0.1	96.5		
(46) 中		中学校	千葉	42.1	52.4	5.2	0.0						0.3	94.5	0.2	
			全国	41.5	52.8	5.5	0.1						0.1	94.3		
(46) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	小学校	千葉	11.9	54.3	33.0	0.7						0.0	66.2	-6.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	16.9	55.9	26.7	0.4						0.1	72.8		
(47) 中		中学校	千葉	17.7	58.2	23.5	0.3						0.3	75.9	-0.6	
			全国	19.1	57.4	23.1	0.3						0.1	76.5		
(47) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	小学校	千葉	13.1	71.2	15.7	0.0						0.0	84.3	1.9	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	16.5	65.9	17.4	0.1						0.2	82.4		
(48) 中		中学校	千葉	13.7	64.6	21.3	0.0						0.3	78.3	0.2	
			全国	15.2	62.9	21.6	0.1						0.1	78.1		
(48) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	小学校	千葉	65.4	33.0	1.6	0.0						0.0	98.4	0.7	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	60.6	37.1	2.2	0.0						0.1	97.7		
(49) 中		中学校	千葉	61.9	35.4	2.4	0.0						0.3	97.3	0.7	
			全国	57.3	39.3	3.2	0.0						0.1	96.6		
(50) 中	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	中学校	千葉	31.4	57.3	10.7	0.3						0.3	88.7	-2.8	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	33.4	58.1	8.2	0.2						0.1	91.5		
(51) 中	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	中学校	千葉	20.1	52.7	26.2	0.3						0.6	72.8	-2.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	18.2	57.2	23.9	0.6						0.1	75.4		
(52) 中	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか	中学校	千葉	33.8	55.2	10.7	0.0						0.3	89.0	1.8	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	30.2	57.0	12.3	0.3						0.2	87.2		
(53) 中	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか	中学校	千葉	38.4	53.7	7.3	0.3						0.3	92.1	1.2	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	32.9	58.0	8.9	0.1						0.1	90.9		
(54) 中	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか	中学校	千葉	15.9	44.8	36.6	2.4						0.3	60.7	-4.4	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	18.1	47.0	32.9	1.8						0.2	65.1		
(55) 中	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか	中学校	千葉	26.2	56.4	16.5	0.6						0.3	82.6	1.8	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	27.6	53.2	18.2	0.9						0.2	80.8		

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	670	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
				1	2	3	4	5	6	7	8	9				
(56) 中	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか	中学校	千葉県	28.7	54.3	16.5	0.3						0.3	83.0	-4.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		中学校	全国	28.7	58.9	12.0	0.2						0.1	87.6		
(57) 中	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか	中学校	千葉県	15.2	41.5	38.4	4.3						0.6	56.7	-5.7	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		中学校	全国	17.6	44.8	34.2	3.2						0.1	62.4		
(58) 中	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか	中学校	千葉県	11.0	44.5	39.9	4.0						0.6	55.5	-8.0	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		中学校	全国	13.1	50.4	33.6	2.8						0.1	63.5		
(59) 中	調査対象の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点から、どの程度、授業を英語で行いましたか	中学校	千葉県	27.4	57.9	14.0	0.3						0.3	85.3	-0.7	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		中学校	全国	26.5	59.5	13.7	0.2						0.1	86.0		
(60) 中	前年度までに、英語教育に関してお互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校と行いましたか	中学校	千葉県	9.5	32.0	45.1	13.1						0.3	41.5	-6.8	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		中学校	全国	12.9	35.4	40.0	11.7						0.1	48.3		
(61) 中	年間の授業のうち、どのくらいの頻度でＡＬＴ（外国語指導助手）を活用した授業を行いましたか	中学校	千葉県	10.1	35.7	47.0	5.8	0.9	0.3				0.3	92.8	11.8	1. ほぼ毎日 2. 週に数回以上 3. 週に1回程度 4. 月に1回程度 5. 年に数回程度 6. ＡＬＴが参加した授業はない
		中学校	全国	8.5	29.8	42.7	14.9	2.6	1.4				0.1	81.0		
(62) 中	英語担当教師とＡＬＴ（外国語指導助手）との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていますか	中学校	千葉県	49.4	45.1	5.2	0.0						0.3	94.5	1.1	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない
		中学校	全国	50.6	42.8	5.2	1.0						0.3	93.4		
(49) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのＩＣＴを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	小学校	千葉県	24.5	52.4	18.2	4.9						0.0	76.9	-3.9	1. ほぼ毎日 2. 週1回以上 3. 月1回以上 4. 月1回未満
		小学校	全国	37.1	43.7	14.6	4.4						0.1	80.8		
(63) 中		中学校	千葉県	39.3	39.6	14.6	6.1						0.3	78.9	-1.9	
		中学校	全国	43.3	37.5	12.9	6.2						0.1	80.8		
(50) 小	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童・生徒に対する授業の中で、児童・生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか	小学校	千葉県	37.2	57.3	5.5	0.0						0.0	94.5	-0.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		小学校	全国	40.1	55.0	4.7	0.2						0.1	95.1		
(64) 中		中学校	千葉県	38.7	54.9	5.2	0.6						0.6	93.6	1.0	
		中学校	全国	38.8	53.8	6.8	0.4						0.2	92.6		
(51) 小	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	小学校	千葉県	16.9	43.7	32.2	7.0						0.1	60.6	-4.4	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		小学校	全国	22.8	42.2	29.6	5.4						0.1	65.0		
(65) 中		中学校	千葉県	18.6	43.6	32.0	5.8						0.0	62.2	-5.8	
		中学校	全国	26.1	41.9	26.4	5.5						0.1	68.0		
(52) 小	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	小学校	千葉県	19.6	41.2	26.1	13.1						0.0	60.8	-9.8	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		小学校	全国	28.8	41.8	22.5	6.9						0.1	70.6		
(66) 中		中学校	千葉県	23.5	40.9	28.4	7.3						0.0	64.4	-11.8	
		中学校	全国	34.3	41.9	18.1	5.8						0.1	76.2		

平成31年度全国学力・学習状況調査
回答結果集計 [学校質問紙]
千葉県（指定都市を除く）一学校（公立）

小学校・中学校調査

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	670	328

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（％） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
			全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
(53) 小	平成３０年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか	小学校	千葉	11.9	39.6	36.9	11.6						0.0	51.5	-9.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	19.6	41.0	31.1	8.2						0.1	60.6		
(67) 中		中学校	千葉	8.2	35.7	46.0	9.8						0.3	43.9	-16.1	
			全国	20.7	39.3	30.9	9.1						0.1	60.0		
(54) 小	職場見学や職場体験活動を行っていますか	小学校	千葉	76.0	24.0								0.0	76.0	18.7	1. 行っている 2. 行っていない
			全国	57.3	42.6								0.1	57.3		
(68) 中		中学校	千葉	98.2	1.8								0.0	98.2	-0.8	
			全国	99.0	0.9								0.1	99.0		
(55) 小	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	小学校	千葉	31.0	63.4	5.5	0.0						0.0	94.4	4.8	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
			全国	28.1	61.5	10.1	0.2						0.1	89.6		
(69) 中		中学校	千葉	27.7	62.5	9.8	0.0						0.0	90.2	3.8	
			全国	25.3	61.1	13.2	0.3						0.1	86.4		
(56) 小	保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	小学校	千葉	70.4	27.9	1.6	0.0						0.0	98.3	0.5	1. よく参加している 2. 参加している 3. あまり参加していない 4. 全く参加していない
			全国	64.6	33.2	2.0	0.1						0.1	97.8		
(70) 中		中学校	千葉	41.2	50.9	7.9	0.0						0.0	92.1	1.7	
			全国	38.2	52.2	9.0	0.5						0.1	90.4		
(57) 小	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、（56）〔70〕の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	小学校	千葉	31.9	45.8	16.6	5.7						0.0	77.7	-1.5	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	39.1	40.1	14.6	6.2						0.1	79.2		
(71) 中		中学校	千葉	19.2	43.0	28.0	9.8						0.0	62.2	-5.3	
			全国	24.7	42.8	23.5	8.9						0.1	67.5		
(58) 小	（56）〔70〕の質問にあるような保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	小学校	千葉	44.9	51.9	1.9	0.0	1.2					0.0	96.8	1.2	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない 5. 取組を行っていない
			全国	48.0	47.6	2.3	0.2	1.7					0.1	95.6		
(72) 中		中学校	千葉	31.7	60.7	3.7	0.3	3.7					0.0	92.4	0.9	
			全国	34.1	57.4	4.3	0.4	3.7					0.1	91.5		
(59) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（教科共通）	小学校	千葉	41.5	45.7	12.1	0.6						0.1	87.2	-5.0	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	47.0	45.2	7.5	0.2						0.1	92.2		
(73) 中		中学校	千葉	37.5	46.6	15.5	0.0						0.3	84.1	-2.9	
			全国	36.9	50.1	12.5	0.4						0.1	87.0		
(60) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童・生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（教科共通）	小学校	千葉	43.9	48.1	8.1	0.0						0.0	92.0	-3.5	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	49.9	45.6	4.4	0.0						0.1	95.5		
(74) 中		中学校	千葉	35.7	54.3	9.5	0.3						0.3	90.0	-2.3	
			全国	38.9	53.4	7.5	0.1						0.1	92.3		
(61) 小	国語の指導として、前年度までに家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	小学校	千葉	78.8	20.4	0.7	0.0						0.0	99.2	-0.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	78.4	20.9	0.6	0.0						0.1	99.3		
(75) 中		中学校	千葉	32.0	49.7	17.1	0.9						0.3	81.7	-8.0	
			全国	45.2	44.5	9.9	0.3						0.1	89.7		

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	670	328

【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（％） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例		
				1	2	3	4	5	6	7	8	9						
(62) 小	国語の指導として、前年度までに 児童・生徒が行った家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導を行いましたか	小学校	千葉	59.7	37.0	3.1	0.1						0.0	96.7	0.0	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない		
			全国	60.2	36.5	3.2	0.1						0.1	96.7				
(76) 中		中学校	千葉	43.9	47.9	7.0	0.9						0.3	91.8	-1.2			
			全国	49.7	43.3	6.5	0.4						0.1	93.0				
(77) 中	英語の指導として、前年度までに 家庭学習の課題（宿題）を与え ましたか	中学校	千葉	46.0	42.4	11.0	0.3						0.3	88.4	-6.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない		
			全国	55.9	38.6	5.3	0.1						0.1	94.5				
(78) 中	英語の指導として、前年度までに 生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について の評価・指導を行いましたか	中学校	千葉	47.9	44.5	7.0	0.3						0.3	92.4	-2.3	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない		
			全国	53.0	41.7	5.1	0.2						0.1	94.7				
(63) 小	平成30年度全国学力・学習状況 調査の自校の分析結果について、 調査対象学年・教科だけではなく、 学校全体で教育活動を改善する ために活用しましたか	小学校	千葉	31.8	65.8	2.4							0.0	97.6	0.3	1. よく行った 2. 行った 3. ほとんど行っていない		
			全国	42.5	54.8	2.6							0.1	97.3				
(79) 中		中学校	千葉	21.3	70.4	8.2						0.0	91.7	-4.0				
			全国	34.5	61.2	4.2						0.1	95.7					
(64) 小	平成30年度全国学力・学習状況 調査の自校の結果について、保護 者や地域の人たちに対して公表や 説明を行いましたか（学校のホーム ページや学校だより等への掲載、 保護者会等での説明を含む）	小学校	千葉	29.0	50.4	20.6							0.0	79.4	-11.8	1. よく行った 2. 行った 3. ほとんど行っていない		
			全国	36.9	54.3	8.7							0.1	91.2				
(80) 中		中学校	千葉	25.0	53.7	21.3						0.0	78.7	-8.8				
			全国	33.5	54.0	12.4							0.1				87.5	

研究報告

第 4 3 8 号

令和元年 1 1 月 2 2 日

編集発行者 千葉県総合教育センター所長

秋元 大輔

発行所 千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉 2 丁目 1 3 番

TEL 0 4 3 (2 7 6) 1 1 6 6

FAX 0 4 3 (2 7 2) 5 1 2 8
